

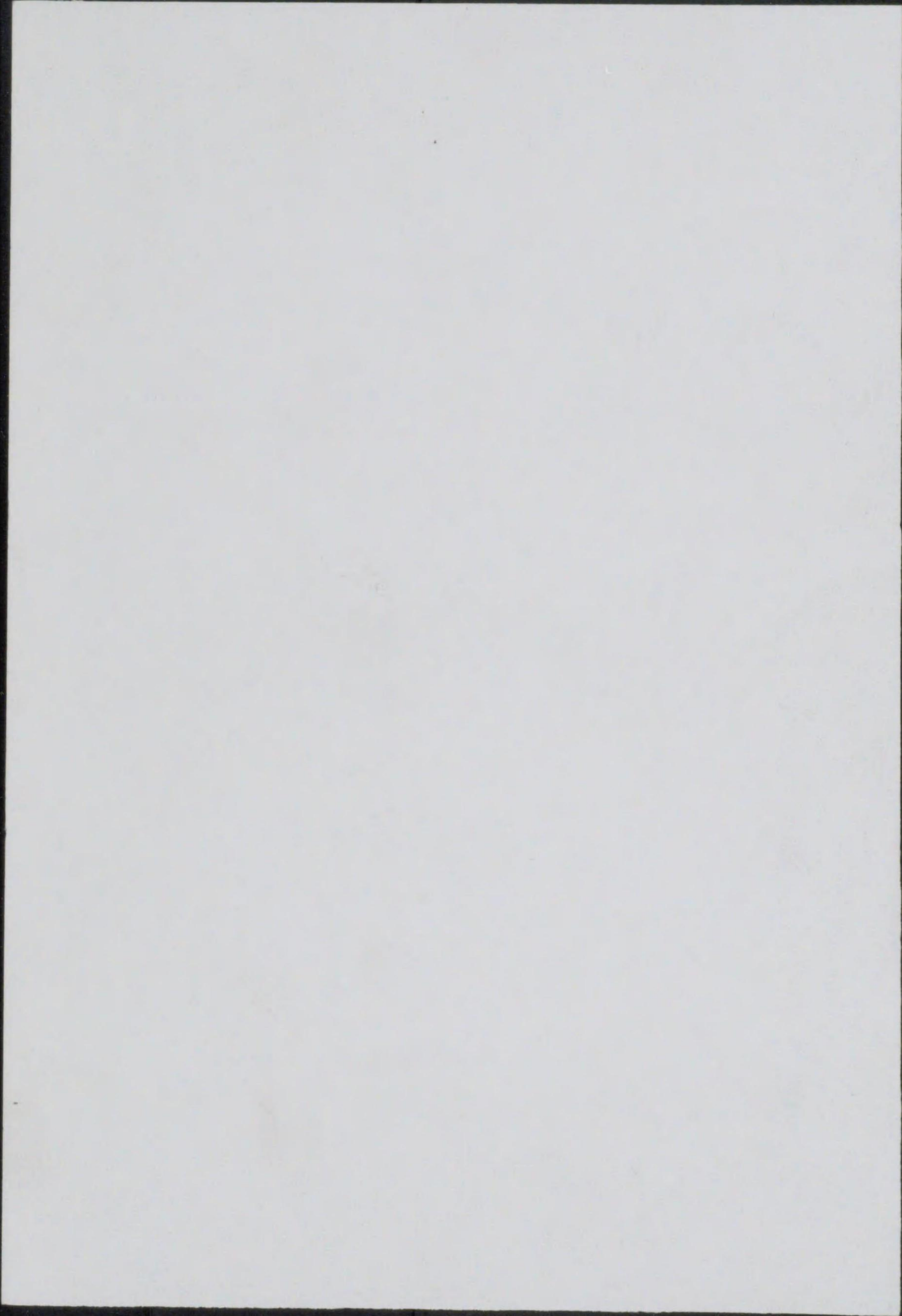
578-131

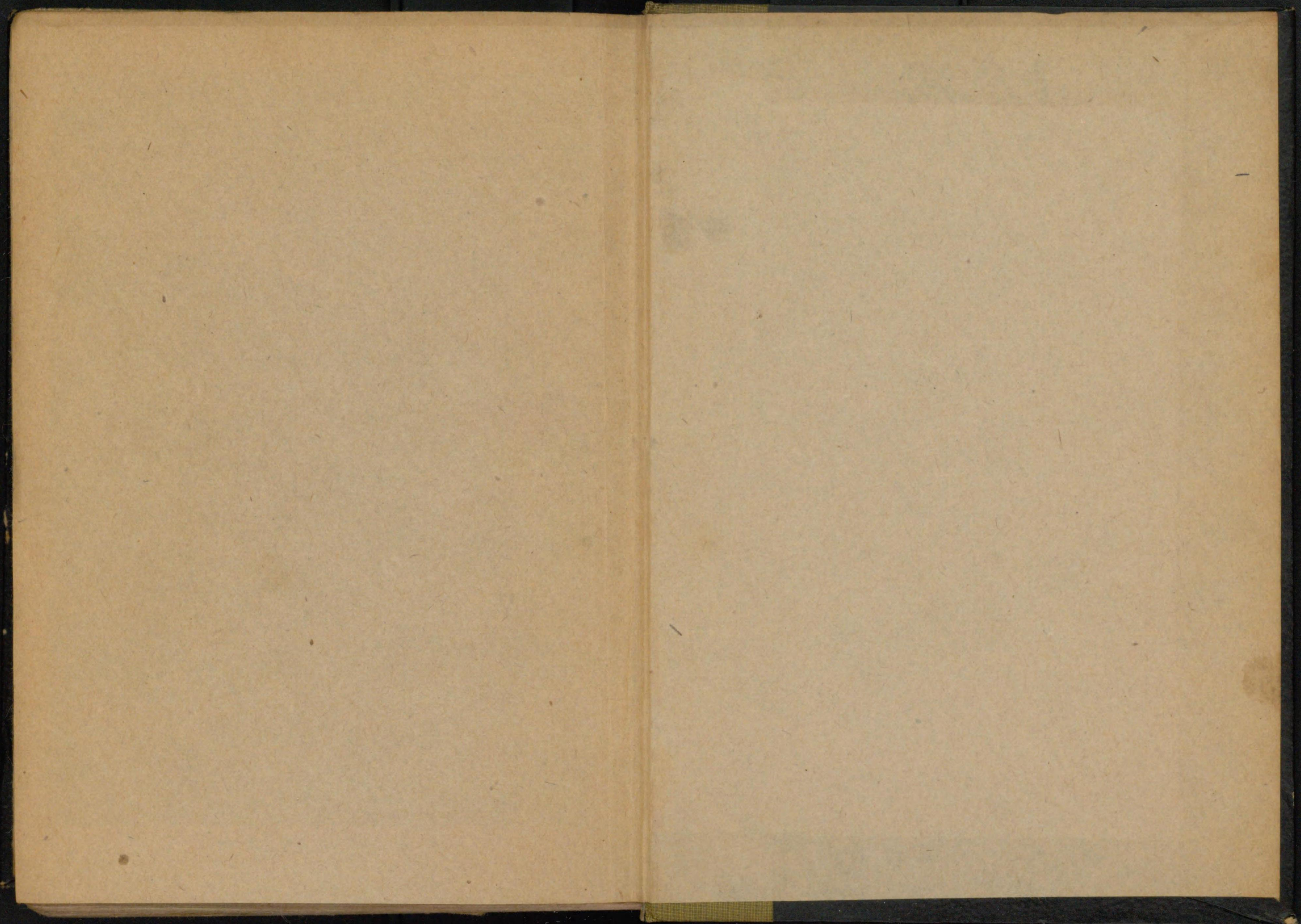


1200501520621

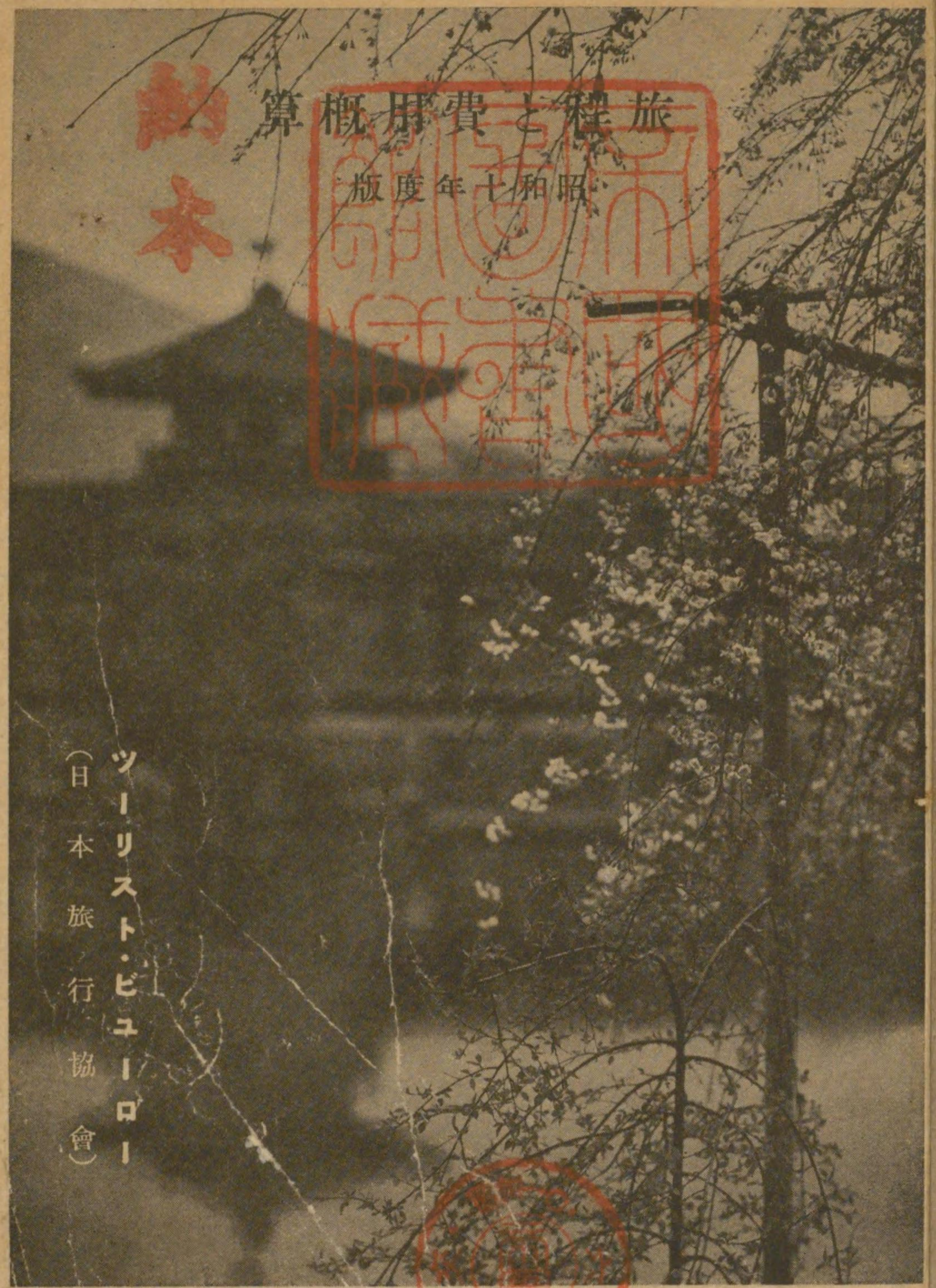
578
31

口
複
写





189



納本

旅程と費用概算

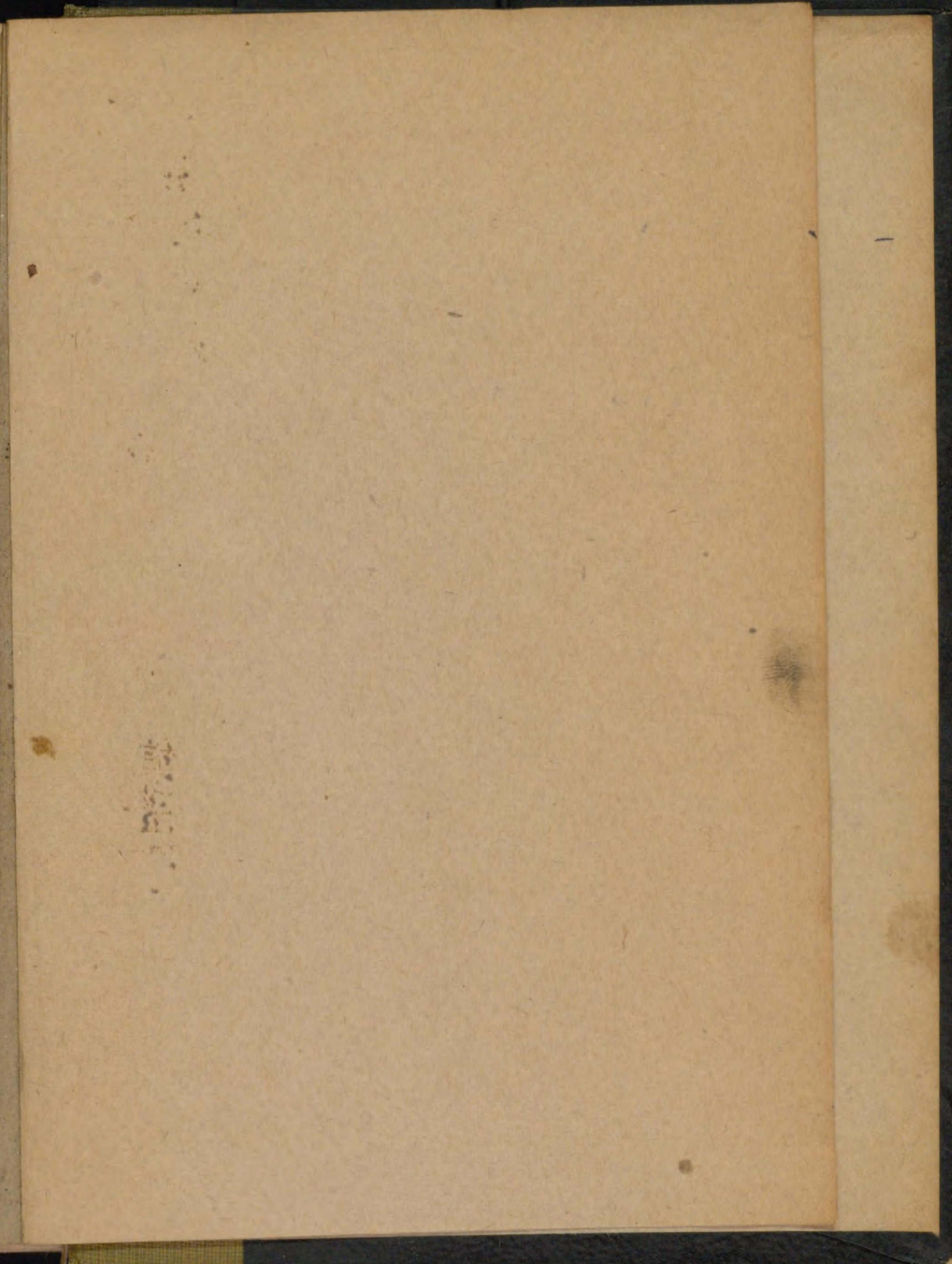
昭和十年年度版



ツuris ト・ビュロー
(日本旅行協会)



東京博文館發行



例言

一、本書は改版毎に新らしい遊覽地を加へ、内容にも新味を増し且掲載事項は飽迄正鵠を期するやう努力致して居ります。本年版もむろん細心の注意と最善の努力の下に編纂致し遺漏なきを信じて居りますが、若し本書中誤謬其他御氣付の個所がありましたら何卒御注意下さるやう御願ひいたします。

一、本旅程掲載の汽車汽船發着時間、賃金等は昭和十年四月現在に依り、また自動車賃並旅館調べ其他費用等は昭和九年末乃至昭和十年四月現在の調査に基きましたが、交通機關一殊に定期乗合自動車の如きは、常に變動があり、日々便利に發展し行くのが其の本質でありますから、本書編纂後すでに改變せられた個所もある事と信じます。それ等の異動は再版の際に修補いたします。

一、案内記事中各地旅館の項に㊦印を附してありますのは、日本旅行協會(ツーリスト・ビュロー)の各地案内所にて發賣致して居りますクーボン式旅館券又はJTB旅館券の指定に依る一泊二食附の料金を示すのであります。(ビュロー指定の旅館は毎月新規加入・契約解除・料金變更等がありますが、本書は十年四月末日現在になつて居ります)

一、檢索の便を圖り目次の次に五十音別索引を附しました。

昭和十年五月

旅程と費用概算 目次

東京及其の附近

東京見物(日程案五種).....一頁
東京市概説(三) 主なる交通機關(五)
觀光案内所(五) 主なる旅館(六) ホテル(七)
舊市内の名勝.....三二一頁
宮城及離宮(一三)
宮城・二重橋 櫻田御門 赤坂離宮 青山御所 新宿御苑
高輪御所
社(二四)
明治神宮(内苑・外苑・寶物館・聖徳記念繪畫館) 乃木神社 靖國神社 日枝神社 神田明神 湯島天神 水天宮 白山神社 根津權現 淺草神社 富岡八幡宮
佛
關(二六)
清正公堂 西本願寺別院 泉岳寺 青松寺 増上寺 傳通院 護國寺 吉祥寺 寛永寺 淺草寺 傳法院 回向院
公
園(二八)
上野恩賜公園 日比谷 淺草 芝 愛宕 愛宕山 舊芝離宮恩賜庭園 清水谷 後樂園 故大隈侯邸園 舊安田邸園 清澄庭園 隅田公園 品川臺場・新月島 有栖川宮記念 風致區
動物園・植物園・博物館(三三)
上野恩賜動物園 小石川植物園 帝室博物館 遊就館 國防館 東京科學博物館 大倉集古館 逓信博物館 演劇博物館 鐵道博

名所(三五)
物館 赤十字博物館 東京市復興記念館 電氣博物館 飛行館 模型館
東京驛 上野驛 帝國議事堂 水滸原點 日本銀行 丸ノ内ビル デイキング 東京株式取引所 東京米穀商品取引所 ニコライ聖堂 東京帝國大學 國技館 被服廠跡 中央卸賣市場 隅田川十二大橋 日本橋 高輪大木戸跡
繁華街(二七)
銀座 淺草 新宿
特殊街(二八)
官廳街 オフィス街 書店街
娛樂(二九)
主なる劇場(二九) 注なる映畫館(二九) 主なる寄席(二九) スポーツ(二九) アイススケート(二九) ゴルフ場(三〇) ダンスホール(三〇)
官公署・學校、其他(三一)
官公署(三一) 會館(三一) 官立大學(三一) 私立大學(三一) 高等專門學校(三一) 圖書館(三一) 病院(三一) 墓地・葬儀場(三五) 新聞通信社(三五) 東京一番ぐし(三五) 年中行事(三五)
新市域及近郊の遊覽案内.....三七一頁
京濱方面(三七)
森ヶ崎鐵泉 羽田 川崎大師 總持寺 花月園
日本航空輸送會社遊覽飛行(三八)
目蒲・池上電車東横電車沿線(三九)
本門寺 洗足池
目黒不動 矢口渡 新田神社 原村の梅 九品餅 冬戀川園 編

578-131

目次

180

目次

島嶼泉
玉電・小田急・南部鐵道沿線 (三九)

松陰神社 豪徳寺 身延山關東別院 玉川遊園地 玉川スポーツランド 久地の梅

中央線・京王電車沿線 (四〇)

井の頭恩賜公園 百草園 十二社権現 深大寺 東京天文臺 大國魂神社 武蔵國分寺址 小金井の櫻 多摩河原園 多磨公園墓

西武・武蔵野電車沿線 (四一)

妙法寺 哲學堂 新井藥師 善福寺池 三寶寺 三寶寺池 村山貯水池 山口貯水池 所澤飛行場 豐島園 天寶山 トーノス山 名栗鑛泉 富岡温泉 聖天院 高麗神社 子の権現 高山不動 稻荷山公園

東北沿線 (四二)

飛鳥山 荒川堤の櫻 あら川遊園 鬼子母神 とげぬき地蔵 大宮鐵道工場

東武鐵道沿線 (四五)

堀切菖蒲園 西新井の大師 粕壁牛島の藤 館林ツ、ジが岡 茂林寺 太田の金山 吞龍上人 藪塚鑛泉 喜多院 新月ヶ瀬 黒山鑛泉 吉見の百穴 武蔵嵐山

總武方面 (四八)

柴又帝釋天 龜戸天神 國府臺 中山法華經寺

多摩御陵とその附近

多摩御陵 (四九) 高雄山 (四九) 五〇

房総方面

外房めぐり (遊覽日程案) 六三

房総 六五

概説 (六五) 千葉市 (六五) 木更津 青堀鑛泉 鹿野山 (六六) 新舞子海水浴場 鋸山 (六六) 保田 高崎鑛泉 那古寺 崖觀音 館山北條町 (六七) 洲の崎 (六八) 安房神社 南房州海岸 千倉鑛泉 仁右衛門島 鴨川町 (六八) 天津 清澄山 (六九) 小湊 (六九) 誕生寺 鯛の浦 興津 勝浦

成田山詣で (日程案) 七〇

香取・鹿島めぐり (遊覽日程案) 七一

銚子・香取・鹿島めぐり (遊覽日程案) 七三

水郷と九十九里濱 七四

概説 水郷 (七四) 霞ヶ浦・北浦 (七四)

成田 (七五) 新勝寺不動尊 宗吾堂 三里塚 佐原 (七五) 香取神宮 (七六) 潮來町 (七六) 鹿島神宮 (七六) 息栖神社 銚子 (七七) 大吠岬 一の宮 玉前神社 大東岬 成東鑛泉

常磐線方面

目次

相模川下り (日程案) 七九

奥多摩・大嵯峨 八〇

武州御嶽登山 (日程案) 八二

御嶽・大嶽山・鋸山・御前山 八三

奥多摩ハイキング日歸りコース 八四

奥多摩溪谷 (八五) 八五

概説 羽村堰 青梅町 吉野梅林 八六

射山溪 水香園 鳩の巢 氷川 八七

内温泉 (七七) 日原溪及鐘乳洞 (七七) 八七

大菩薩嶺登山 (日程案) 八八

概説 大菩薩峠 (五九) 雲峯寺 嵯峨 八八

大菩薩嶺 (五九) 八八

秩父長瀨遊覽 (日程案) 九〇

長瀨 (六〇) 寶登山 (六〇) 九〇

奥秩父 (六一) 九〇

概説 秩父町 秩父神社 三峯神社 九〇

三峯縱走奥多摩溪へ (日程案) 九一

兩神山 (六三) 白石山 (六三) 九一

筑波山 (八〇) 筑波町 筑波神社 九一

加波山 (八〇) 土浦 (八〇) 阿見瀨 九一

水戸と大洗遊覽 (日程案) 九二

水戸市 (八二) 旅館 名所 大洗 (八三) 大洗磯前神社 湊町の旅館 酒列磯前神社 平磯の旅館 阿字ヶ浦 (八三) 笠間稻荷 (八四) 西念寺 (八四) 西山莊 (八四) 袋田 (八四) 鑛泉 袋田瀨

矢祭山 (八四) 日立製作所 (八四) 日立鑛山 (八四) 平湯海岸 (八五) 勿來の關址 (八五) 相馬の野馬追祭 (八四) 相馬三妙見 (八四) 九二

湘南方面

横濱市 (八六) 杉田ノ梅林 (八七) 金澤八景 (八七) 鎌倉・江ノ島遊覽 (日程案) 八八

三浦半島遊覽 (日程案) 八九

鎌倉町 (九三) 旅館 名勝 八九

江の島及其附近 (九三) 八九

横須賀市 (九四) 浦賀 (九四) 久里濱 (九五) 三崎 (九五) 大楠山 (九五) 葉山 (九五) 逗子 (九五) 八九

目次

三

鷹取山ハイキング(九六) 大山(阿夫利神社)(九六)

箱根及其の附近

概説(九七) 箱根火山(九七) 地質時代

箱根遊覽(日程案七種).....一九一—二〇四

箱根の諸温泉(一〇五)

湯本 塔の澤 宮ノ下 底倉 堂ヶ島 木賀 仙石原 小涌谷
蘆の湯 強羅 姥子

箱根の名勝(一一〇)

大涌谷 蘆の湖(二〇) 箱根神社 關所址 箱根町 元箱根 十
國峠(二三) 乙女峠 長尾峠(二三) 金時山 箱根舊道 石橋山古
戰場 小田原(二三) 報徳神社 二宮翁舊址

大雄山最上寺.....二二三
湯河原温泉.....二二四

伊豆半島

概説(一二五)

伊豆遊覽(日程案五種).....二一六—二二三

伊豆の諸温泉(一二三)

熱海(二三) 伊豆山(二五) 伊東(二五) 熱川(二六) 畑毛
(二七) 古奈(二七) 長岡(二六) 修善寺(二九) 船原(三〇)
土肥(三〇) 吉奈(三一) 嵯峨瀬(三三) 月ヶ瀬(三三) 湯ヶ島
(三三) 湯ヶ野(三三) 小鍋(三三) 峯(三三) 谷津(三三)
今井濱(三三) 河津濱(三三) 横川・北湯ヶ野(三三) 河内(三三)

硫黄島列島(一五三) 北硫黄島 中硫黄島 南硫黄島

東北沿線

日光見物(日程案).....一五三

日光・丸沼方面遊覽(日程案).....一五五

日光・裏日光遊覽(日程案).....一五六

日光概説(一五六) 日光町(一五六) 旅館 名所 自動車料金表

輪王寺 東照宮(一五五) 二荒山神社(一六) 大猷院

靈廟 霧降瀧 裏見瀧(一六二) 中禪寺(一六二) 男體

山(一六三) 日光湯元温泉(一六四) 戰場ヶ原 湯の湖 川俣

温泉 八丁の湯 鬼怒沼 湯澤の噴泉塔 川治温泉 湯西川温泉

鬼怒川温泉(一六五) 白根山 菅沼 丸沼 片品川 丸沼温泉 白根温泉 追員の吹御瀧

尾瀬沼 燧岳

鹽原温泉めぐり(日程案).....一六九

鹽原温泉郷(一七〇) 概説 大綱(七〇) 蘆蓋(七〇)

鹽の湯(七〇) 畑下戸(七〇) 門前(七〇) 古町(七〇)

那須温泉めぐり(日程案).....一七三

那須温泉(一七三) 概説 新那須(七三) 湯本(七三)

八幡 北旭 辨太 大丸 三斗小舎 高雄保 飯盛 郭公 板室

蓮臺寺(二四) 下加茂(三四) 志保(三五) 大澤(三五)

伊豆の名勝(一三五) 下田(一三五) 旅館 名勝 天城山(一三六)

伊豆東海岸(一三七) 篠海ヶ浦

伊豆南海岸(一三七) 彌陀窟 養掛島 石廊岬

伊豆西海岸(一三七) 松崎町 堂ヶ島 田子

内浦灣(一三八) 三津 靜浦

三島町(一三八) 三島神社

沼津市(一三九) 駿河灣遊覽(一三九)

伊豆大島遊覽(日程案二種).....二四〇

新島・式根島・大島遊覽(日程案).....二四三

伊豆七島(一四三)

大島(一四四) 三原山 元村 湯場 波浮港村

利島(一四六) 新島(一四六)

式根島(一四六) 足附温泉 地奈多の湯

三宅島(一四七) 御藏島(一四七) 八丈島(一四七)

小笠原島遊覽(日程案).....二四八

小笠原諸島(一五〇) 概説 小笠原への交通(一五一)

父島列島(一五一) 父島 兄島 南島島

母島列島(一五三) 犂島列島(一五三)

宇都宮市(一七五) 大谷観音(一七五)

須賀川の牡丹(一七五) 郡山市(一七五) 福島市(一七六)

靈山(一七七) 靈山神社 飯坂温泉・湯野温泉(一七七)

藏王山 鎌先温泉 小原温泉 遠刈田温泉 青根温泉 峨嵋温泉

松島・金華山(遊覽日程案).....二八一

仙臺市(一八三) 旅館 名所 林子平 支倉六右衛門

鹽釜(一八四) 鹽釜神社 松島(一八六) 遊覽経路 四大観 旅館

金華山(一八八) 石巻市(一九) 一の関(一九)

平泉(一九九) 中尊寺 毛越寺 達谷窟 嚴美溪

尻鼻溪 氣仙沼 小原木の大理石 明神崎 水澤町 緯度観測所

駒形神社

花巻温泉(一九三) 花巻スキー場 臺温泉

盛岡市(一九三) 旅館 名所 年中行事 岩手山(一九四)

十和田湖.....一九五

概説 湖景鳥瞰臺 湖上遊覽(一九六) 十和田神話(一九七)

十和田探勝行路(一九八) 古間木口(一九八) 三木木町 燒山 奥入瀬(一九八)

毛馬内口(一九九) 大湯温泉 發荷峠

八甲田口(一九九) 酸ヶ湯 八甲田山 葛温泉

黒石口(二〇〇) 温湯温泉 板留温泉 二庄内温泉 沖浦温泉

温川温泉 切明温泉 三戸口(二〇一) 五戸口(二〇一)

十和田遊覽(日程案二種).....二〇一

子ノ口(二〇四) 休屋(二〇三) 小坂嶺山(二〇五)

五

恐山(三〇六) 下北半島の海岸(三〇六) 薬研温泉 下風呂温泉 佛ヶ浦の奇勝 浅虫温泉(三〇七) 青森(三〇七) 旅館 名所 年中行事 青函連絡船

奥羽線

吾妻山及其附近(三〇九) 信夫高湯温泉(三〇) ぬる湯 五色温泉(三〇) 新五色温泉 五色スキー場 滑川温泉 姥湯温泉 小野川温泉 白布高湯温泉 米澤市(三二〇) 朝日岳(三三) 上の山温泉(三三) 赤湯温泉(三三) 山形市(三三) 寺(三二四) 天童温泉(三二五) 大沼の浮島(三五) 抱返り(三五) 夏瀬温泉 田澤湖 遊覽日程案

男鹿半島(遊覽日程案) 概説(三二九) 島めぐり(三二九) 湯本温泉 船川(三三〇) 八郎湯(三三〇) 寒風山 秋田市(三三〇) 旅館 名所 大鶴・藏館温泉(三三二) 弘前市 旅館 名所 林檎 岩木山・岩木神社(三三三)

磐越線

猪苗代湖・磐梯山(遊覽日程案) 東山温泉(三五) 若松市(三五)

笹の湯温泉(三四八) 法師温泉(三四八) 利根温泉 大室温泉 水上温泉(三四九) 湯原 大穴 鶴の瀬 谷川 湯檜曾 湯澤温泉(三五〇) 貝掛温泉 赤城登山(日程案) 赤城山 赤城スキー・スケート場 前橋市 桐生市

信越線

妙義登山(日程案) 磯部温泉 高崎市 黒瀧山 荒船山(三五) 神津牧場 下仁田町 浅間登山(日程案) 碓氷峠と八ヶ岳山麓めぐり(日程案) 上信高原温泉めぐり(日程案) 上越温泉と平穩温泉めぐり(日程案) 軽井澤 霧積温泉 小瀬温泉 萬座温泉 新鹿澤温泉 鹿澤温泉 千ヶ瀬遊園 星野温泉 松原湖(三三) 上田市 菅平(三三) 別所温泉 戸倉温泉 上山田温泉 川中島古戦場 平隠温泉郷(二六五) 湯田中 安代 遊 上林 地獄谷 發哺 熊の湯 穂波 角間 中野温泉 野瀬温泉 山田温泉 長野市(二六七) 旅館 名所 善光寺(二六) 榎花峽 戸隠山(二六九) 野尻湖(二六九) 妙高温泉 赤倉温泉 池の平 關温泉 燕温泉 妙高山 新潟市(二七七) 彌彦神社 長岡市 高田市 直江津

猪苗代湖(三三六) 磐梯山(三三六) 磐梯山北麓の堰止湖(榎原三湖(三三七) 龜ヶ城址 磐梯温泉 押立温泉 熱海温泉 川上温泉 中ノ瀬温泉 沼尻温泉(三三八) 柳津虚空藏(三三九) 飯豊山(三三八)

羽越線

出羽三山(登山日程案) 羽黒山 月山 湯殿山(三三) 羽越温泉めぐり(日程案) 酒田市(三三五) 旅館 名所 莊内平野 飛鳥(三三六) 鳥海山(三三六) 吹浦の羅漢岩 鶴岡市(三三七) 名所 旅館 湯田川温泉 善賢寺 湯野濱温泉 加茂港 温海温泉 貳ヶ關 笹川流れ 村上町 瀬波温泉 粟島 新發田町 加治川堤の櫻 新津町と油田

上越方面

伊香保遊覽(日程案) 草津と吾妻溪谷廻り(日程案) 伊香保温泉(三四三) 榛名山 榛名湖 榛名神社 草津温泉(三四四) 白根山 湯の平温泉 應徳温泉 花敷温泉 四萬温泉(三四六) 鹿澤温泉 川原湯温泉(三四六) 鳩の湯温泉 松の湯 川中温泉 大塚温泉 鹽川温泉 我樂目喜鐘堂 總社温泉 川場温泉 老神温泉 穴原温泉 白根温泉 湯宿温泉

佐渡

佐渡ヶ島遊覽(日程案) 佐渡概説(二七三) 兩津町(二七四) 加茂湖 金北山 根本寺 井戸堂 黒木御所 妙照寺 河原田町 相川町(二七五) 相川金山 佐渡をけさ 瀬根町 越の松原 眞野宮 阿佛坊 小木町(二七六) 筋島・經島 海府の絶勝

北陸線

信越・北陸名所巡り(日程案) 親不知・子不知 小川温泉 富山市(三三三) 旅館 名所 高岡市 刺水神社 大牧温泉 庄川峽(三三七) 俱利伽羅峠 七尾港(二六四) 九十九灣 和倉温泉(二六四) 穴水町 門前町と總持寺別院 輪島町 金澤市(二六六) 旅館 名所(兼六園) 山中温泉(三三八) 山代温泉(三六六) 片山津温泉(三六九) 栗津温泉(三六九) 郡谷寺 吉崎御坊 北瀧湖 蘆原温泉(三九〇) 東尋坊(三九〇) 三國町 福井市(三九二) 旅館 名所 永平寺(三九三) 敦賀町(三九三) 小濱町 蘇洞門(三九三) 黒部峽概説(二九六) 宇奈月温泉(二九七) 黒雜温泉 二見温泉 錦織温泉 鐘釣温泉 祖母谷温泉 阿曾原温泉 仙人温泉 東谷温泉

白山登山(日程案).....二九九

富士及山麓

富士五湖めぐり(日程案).....三〇一

富士五湖.....三〇五

岳麓の交通(三〇五) 岳麓の名所(三〇七) 御殿場 須走 山中湖(三〇七) 忍野温泉 忍野入海 吉田 山の神の大藤 大月 谷村町 三ツ峠(三〇九) 船津(三〇九) 河口湖(三〇九) 鳥居峠 西湖(三〇九) 青木ヶ原の樹海 コウモリ穴 紅葉臺 精進湖(三二〇) パノラマ臺 本栖湖(三二〇) 大宮町 浅間神社 大石寺 願朝駒止の櫻 白糸の瀧 猪の頭標園 愛鷹山(三三三)

富士山.....三三三

富士登山道(三三四) 御中道廻り 登山期 登山注意 登山に必要な準備

富士登山日程案(其一).....三三八

富士山頂 山上の奇観 御鉢廻り

富士登山日程案(其二).....三三〇

富士登山と五湖巡り日程案.....三三一

御嶽昇仙峽と身延詣で(日程案).....三三四

昇仙峽・金峯山・増富遊覽(日程案).....三三五

板敷瀧 野原谷 猫坂峠 黒平温泉 金峯山 瑞穂山 増富ラヂウム温泉

立山から黒部・宇奈月へ(日程案).....三四三

日本アルプス(概説).....三四三

白馬岳(三四四) 白馬鍾温泉 白馬大池 大町 仁科三湖 四ツ屋

上高地(三四五) 上高地池温泉 島々 梓川通り 中ノ湯温泉

大正池 田代池 神池 徳本峠

乗鞍岳(三四七) 白船温泉 焼岳

下呂湯ノ島温泉 中山七里 高山町 平湯温泉

燕岳(三四八) 常念岳

槍ヶ岳(三四九) 穂高岳 中房温泉

羅川入り 針ノ木峠 平ノ小舎 五色ヶ原 ザラ峠

立山(三五〇) 雄山 室堂 立山温泉

松本市(三五二) 浅間温泉 山邊温泉 入山邊温泉 美しが原

姥捨山(三五三)

甲斐駒ヶ岳登山(日程案).....三五三

木曾駒ヶ岳登山(日程案).....三五四

木曾御嶽登山(日程案).....三五五

南アルプス 中央アルプス(概説)(三五七)

甲斐駒ヶ岳(三五七) 木曾駒ヶ岳(三五八) 御嶽(三五八)

高島町 木曾峽谷の勝

惠那峽(概説・日程案).....三五九―三六一

天龍峽(概説・日程案).....三六一

甲府及其の附近

甲府市(三三八) 名所 旅館 甲州葡萄酒 湯村温泉

御嶽昇仙峽(三三九) 下部温泉(三三九)

木喰五行上人遺蹟 鯉澤町 富士川下り

身延山久遠寺(三三〇) 七面山 身延町

上諏訪温泉 諏訪湖 霧ヶ峰 下諏訪 諏訪神社 岡谷

和田峠越えと温泉の旅(日程案).....三三五

和田峠沿線の名所(三四四)

種橋古戦場 和田峠 鷲ヶ峰 美ヶ原高原 美ヶ原牧場 丸子町

甘水温泉 甘利山 桂川畔依水荘附近の鮎漁

日本アルプス

登山口旅館及山小屋宿泊料、案内人組合料金表(折込)

白馬方面登山(日程案).....三三五

上高地登山(日程案).....三三六

上高地から飛驒地へ(日程案).....三三七

乗鞍岳登山(日程案).....三三八

燕・槍・上高地縦走(日程案).....三三九

針ノ木・立山縦走(日程案).....三四一

東海地方

三保・久能山(日程案).....三六五

久能山・東照宮(三六六) 日本平 久能の葎畑

三保の松原(三六七) 三保神社 羽衣の松

静岡市(三六七) 名所 旅館

清水市 狐ヶ崎遊園 興津町 吐月峯柴屋寺 丸子ラヂウム温泉

大井川 接岨峽 小夜の中山 可垂齋 秋葉山

濱名湖・蒲郡(遊覽日程案).....三七二

濱名湖(三七二) 濱松市 三方ヶ原古戦場 井伊谷宮

奥山半僧坊 摩訶耶寺 大福寺

辨天島(三七四) 豊橋市(三五五)

豊川稻荷(三七五) 砥鹿神社

長篠古戦場 鳳來寺 鳳來山 鳳來峽

渥美半島(三七六) 伊良湖岬

蒲郡(三七七) 諏訪神社の大提灯

南知多(遊覽日程案).....三七七

概説・交通(三八〇) 半田町 武豊町 河和附近 師崎

篠島(三八二) 内海町(三八二)

野間村 鵜の山 常滑町 新舞子 聚楽園

名古屋市.....三八二

概説 瀬遊順路 名勝 旅館

伊勢

湯の山温泉(三六六) 津市(三六六)

伊勢參宮(日程案二種).....三六七

伊勢大廟(三九〇) 宇治山田市(三九五)

倭姫宮 月讀宮 徽古館 農業館

朝熊岳(三九三) 金剛寺 二見町

鳥羽町(三九四) 渡鹿野 賢島 アゴ灣

木曾川下り(日程案).....三九五

犬山町(三六六)

長良川鵜飼.....三九六

岐阜市(三九八) 名所 旅館 鵜飼(三九八)

大垣(三九九) 養老公園(三九九)

谷汲寺 關ヶ原古戰場 伊吹山

京都及其附近

京都市.....四〇一

概説(四〇一) 観光案内所(四〇三)

遊覽日程案三種(四〇三) 主なる交通機關(四〇五)

市内の主なる旅館(四〇六) 娯樂場 百貨店 土産物

洛中及洛外の名勝(四〇六—四三四)

(東山方面) 豐國神社(四〇六) 八坂神社(四〇六) 平安神宮(四〇六)

京都の主なる年中行事(四三三) 都路(四三三) 鴨川踊(四三三) 葵祭

祇園祭 時代祭 太秦の牛祭 大堰川三船御遊 染織祭

比叡山及三井寺・石山寺詣で(日程案).....四三五

比叡山(四三六) 延暦寺 根本中堂 横川中堂

琵琶湖及其附近

近江八景めぐり 島めぐり(四三八) びわ湖遊覽(四三九)

琵琶湖.....四四一

概説 近江八景 竹生島(四四三) 多景島 沖の白石 沖の島

大津市(四四三) 名勝 旅館

三井寺(四四三) 疏水運河 日吉神社 滋賀院 西教寺 雄琴鑛泉

近江舞子 朽木溪谷 蓬坂山 膳所町 茶臼山 建部神社

石山寺(四四五) 南郷 岩間寺 立木觀音 壹根町 長命寺 醒ヶ

井養鰯場

宇治川舟遊(日程案).....四四七

大阪遊覽(日程案).....四五一

大阪市(四四九) 主なる交通機關(四四九)

主なる旅館(四五〇)

名所史蹟案内(四五二) 中ノ島公園 天滿宮 大阪城址 造幣局

生國魂神社 高津神社 四天王寺 天王寺公園及其附近 住吉神社

吉田神社 東福寺 泉涌寺 三十三間堂(四〇七) 養源院 方廣寺大
佛殿(四〇八) 智積院 妙法院 西大谷(四〇九) 清水寺(四〇九) 六波
羅密寺 建仁寺 八坂塔 高臺寺 東大谷(四一〇) 智恩院(四一〇)
青蓮院(粟田御所) 南禪寺(四一〇) 南禪院庭園 禪林寺 銀閣寺
(四一一) 金戒光明寺(黒谷) 聖護院 恩賜京都博物館 圓山公園
(四一二) 岡崎公園 京都市立記念動物園 インクライン(四一三) 京
都帝國大學

(中央部) 京都御所(四一三) 二條離宮 賀茂御祖神社(四一三) 賀茂

別雷神社(上鴨) 北野神社(四一四) 平野神社(四一四) 建勸神社 白

峯宮 護王神社 梨木神社 東寺 西寺址 東本願寺(四一五) 西

本願寺(四一五) 本願寺 佛光寺 正法寺 興正寺 壬生寺 壬生

狂言 金蓮寺 誓願寺 本能寺 妙滿寺 六角堂(四一七) 神泉苑

妙傳寺 妙顯寺 本隆寺 妙蓮寺 立本寺 要法寺 頂妙寺 清

淨華院草堂 等持院(四一七) 相國寺(四一八) 金閣寺(四一八) 大徳寺

(四一八) 紫野 羅生門址 新京極(四一九) 賀茂川 五條大橋 四

條大橋 願山陽書齋 京都植物園(四一九) 西陣織館 商品陳列所

(修學院・鞍馬・大原方面) 修學院離宮 貴船神社 鞍馬寺(四二〇)

百萬遍智恵寺 三千院(四二二) 寂光院 大原の里 八瀬(四二二)

(西山・山崎・嵐山・愛宕・三尾方面) 桂離宮(四二三) 長岡宮址 石清

水八幡(四二三) 大原野神社 光明寺 勝持寺花の寺 善峯寺 天

王山 山崎聖天 水無瀬宮 櫻井驛址 松尾神社 梅宮神社 仁

和寺(四二四) 妙心寺(四二四) 雙ヶ岡 嵐山(四二五) 嵐山温泉 大悲

閣 大覚寺 常寂光寺 清涼寺 祇王寺 二尊院 天龍寺 法輪

寺 西芳寺 愛宕神社(四二六) 三尾の紅葉(四二六) 高尾山神護寺

檜尾山西明寺 梅尾山高山寺

保津川下り(四二七)

(伏見・桃山・山科・醍醐方面) 桃山東御陵(四二八) 乃木神社 桃

山城址 稻荷神社(四二九) 大石良雄隱宅址 勸修寺 隨心院 醍醐

寺(四三〇) 巨椋池 觀月橋

(宇治及其附近) 宇治町(四三〇) 平等院(四三一) 橋寺 興聖寺

心齋橋筋 道頓堀 千日前 娯樂場 百貨店 土産物

大阪附近河泉地方の名所(四五五)

四條畷神社 千早城址 金剛寺

阪神附近の名所(四五六)

寶塚(四五七) 清三寶 箕面公園(四五七)

有馬温泉(四五七) 甲子園(四五七) 六甲山(四五七)

神戸市(四五八)

概説 ホテル 旅館(四五九) 名所

摩耶山 須磨の風光(四六〇) 須磨の旅館 娯樂場 土産物

初瀬・室生・香落又は赤目四十八瀧遊覽(日程案).....四六一

月ヶ瀬・笠置遊覽(日程案).....四六三

笠置山(四六四) 笠置鑛泉 木津川下り 夢絃峽 上野町

月ヶ瀬梅溪(四六七)

長谷寺(四六七) 寶生寺(四六八)

赤目四十八瀧(四六八)

香落溪(四六八)

名張町の旅館 延壽院

大和名所めぐり(日程案).....四六九

奈良市(四七三) 名所 旅館

奈良公園 興福寺(四七五) 春日神社 東大寺 奈良帝室博物館 春

日興山めぐり 正倉院 般若寺 新薬師寺 法華寺 大極殿址

大安寺址 西大寺 唐招提寺 薬師寺 あやめ池遊園地 東洋民

俗博物館 奈良の主なる年中行事

法隆寺(四七七) 龍田川 龍田神社 廣瀨神社

生駒山寶山寺(四七八) 生駒山遊園地

生駒・信貴縦走 行基菩薩墓

信貴山(四七九) 高安城址

天理教會本部(四〇) 石上神社 丹波市町
 神武天皇畝傍山東北御陵(四八〇)
 橿原神宮(四八〇) 畝傍考古館 八木町の旅館
 大和三山(畝傍山・天香久山・耳成山)(四八二)
 久米寺 岡寺 橋寺 壹飯寺 當麻寺

高野山 (登山日程案)……………四八三
 高野山 金剛峯寺 麓谷 高野山スキー場 粉河寺(以上折込)

吉野遊覽(日程案)……………四八四
 吉野山(四八六) 吉野山の櫻 旅館 吉野神宮 藏王堂 如意輪寺
 下市 上市 吉野川下りと鮎狩

吉野群山……………四八八
 大峯山山上ヶ岳(四八九) 大臺ヶ原(四八九)
 山上ヶ岳登山日程案(二種)……………四八九
 大臺ヶ原登山日程案……………四九一
 山上ヶ岳・大臺ヶ原登山日程案……………四九二
 大峯山脈縦走及大臺ヶ原登山日程案……………四九三

和歌浦(遊覽日程案)……………四九六
 和歌山市(四九六) 日前・國懸神宮
 和歌浦(四九七) 紀三井寺(四九八)

南紀名勝めぐり(日程案)……………四九九
 吉野北山方面の瀨八丁・熊野方面探勝(日程案)……………五〇二
 西吉野大塔・十津川方面からの瀨八丁熊野方面探勝(日程案)……………五〇四

高野山・荒神ヶ岳・伯母ヶ岳から十津川郷の探勝(日程案)……………五〇五
 ら六里ヶ峯を経て龍神・牛廻山
南紀・熊野路(五〇六)
 浦の初島 下津 有田の蜜柑山 阿片と除虫菊 道成寺 南部の
 梅林(五〇七) 南部町の旅館 鹿島遊園 龍神温泉(五〇八) 田邊町
 (五〇七) 奇絶峽

白濱・湯崎温泉(五〇七)
大邊路(五〇八)
 権温泉(五〇九) 串木町 橋杭岩 大島 潮の岬(五〇九) 古座町
 古座峽 勝浦町(五一〇) 勝浦附近の諸温泉 湯川温泉
 那智山(五一〇) 那智瀧 那智観音 那智神社 那智妙法山
 補陀落寺
 新宮市(五一二) 名所 旅館 熊野速玉神社
 瀨峽(五一三) 熊野川 瀨峽の旅館
 熊野川飛行艇定期時刻及賃金表(折込) 熊野坐神社 湯の峯温泉
 川湯温泉

中邊路(五一三)
 沿道の名勝 鮎川温泉
 熊野から伊勢路へ(五一四)
 七里御濱 木の木町 鬼ヶ城 尾鷲町 三野瀧驛前の旅館

山陰方面

天橋立・城の崎遊覽(日程案)……………五一五
 宮津町(五一七) 天の橋立(五一七)
 天橋立汽船定期便(五一八) 切戸の文珠 籠神社 森松公園 成相寺
 櫻峠
 久美濱湖 小天橋海水浴場 久美濱の旅館

大江山 元伊勢宮 河守町の旅館
 出石の鶴山 出石町の旅館 玄武洞
城の崎温泉(五二〇) 浦富海岸 浦富町の旅館
 鳥取市(五二二) 鳥取温泉 因幡史傳説地
三朝温泉(五三二) 船上山 伯耆大山
大山寺(五三三) 大山村の旅館
 米子市(五三三) 皆生温泉 石鏡溪 清水寺

出雲大社・松江・美保關遊覽(日程案)

松江市(五三七) 名所 旅館
 宍道湖 八重垣神社 熊野神社 玉造温泉(五三六) 美保神社 美保
 關(五三八) 關の五木松 枕木山 北浦めぐり 加賀のクケ戸
 一畑薬師(五三九) 鯉淵寺 萬福寺
出雲大社(五三〇) 稻佐の濱 日御碕神社
隠岐島(五三〇) 概説 船便
 西郷港 知夫港 ドツサリ節 由良比賣神社 黒木御所址 御島
 羽院行在所遺址 名物關牛 驛鈴 水若酢神社

千丈溪(五三三) 斷魚溪(五三三)

山陽の名勝

舞子(五三三) 明石市 播州の三松(尾上・高砂・曾根の松) 鶴林寺
 加古川町の旅館
姫路市(五三四) 書寫山圓教寺 赤穂(五三四) 西大寺(五三四) 西大寺
 町の旅館
岡山市(五三五) 名所 旅館
 吉備津彦神社 吉備津神社 妙教寺(高松稻荷) 宗忠神社(黒住教本部)

萩・下關附近

鷺羽山(五三六) 豪溪(五三七) 神庭の瀧 帝釋峽(五三七) 神島 白石島
 等岡町 山野温泉 鬼ヶ城 福山市(五三八)
鞆の浦(五三八) 名所 島めぐり 阿伏鬼観音 鞆の浦の鯛網
 鞆町の旅館 大三島 大山祇神社 音戸の瀨戸
廣島市(五三九) 名所 旅館
 三段峽(五四〇) 太田川下り
嚴島(五四二) 嚴島神社 島めぐり 嚴島町の旅館
 錦帯橋 八代の鶴山

湯田温泉(五四四) 長門峽(五四四) 阿武川下り
秋吉臺と鐘乳洞……………五四四
 秋吉洞 景清洞 大平洞 中尾洞 地獄臺 櫻の森 秋吉への自
 動車 旅館
萩市(五四六) 名所 旅館 六ヶ島
青海島(五四七) 湯本温泉
下關市(五四七) 名所 旅館 下關海峽

瀬戸内海

瀬戸内海概説……………五四九
小豆島(五四九) 寒霞溪(五四九) 草壁町 土の庄町 小豆島・
 余の島 坂手港 瀬戸内海の船便(折込)
淡路島……………五五一
 淡路への交通 島内の交通機關 洲本町 志筑町の旅館 伊弉諾
 神社 岩屋町 由良町 先山千光寺 福良町 郡家町

鳴門の観潮(五五三)
 陰曆に依る鳴門観潮時刻表(五五三)
 鳴門観潮(日程案)……………五五四
 瀬戸内海名勝めぐり(日程案)……………五五五

四 國

祖谷溪・琴平・屋島遊覽(日程案)……………五五六
 室戸岬・鳴門・屋島・琴平遊覽(日程案)……………五六〇
 四國遍路を兼ねての一周旅程案……………五六三
 四國地方……………五六七
 高松市(五七) 名所 旅館 栗林公園 女木島
 屋島(五九) 淡古嶺 獅子の靈岩 遊鶴亭 屋島寺 屋島附近の古蹟
 八栗寺(五〇) 志度寺 志度寺緣起 志度町 平賀源内 大窪寺 津田の松原
 金刀比羅宮(五七) 琴平町 善通寺
 佛生山法然寺 瀧宮天満宮 鹽之江鎮泉 丸龜市 琴彈公園
 松山市(五七) 旅館 名所 松山城址
 道後温泉(五七) 石手寺
 面河溪(五七) 溪中の旅館 石鎚山(五七) 太山寺 高濱 宇和島市(五七)

池田町(五七) 大歩危・小歩危(五七)
 祖谷溪(五七) 劍山・劍峽(五七)
 土柱(五〇) 靈山寺 大麻比古神社
 鳴門観潮臺(五〇) 交通 旅館
 撫養町
 徳島市(五二) 名所 旅館
 忌部神社 阿波踊 淨瑠璃と人形芝居 坂東十郎兵衛屋敷趾 立江寺
 室戸岬(五三) 最御崎寺 金剛頂寺 室戸岬町 室戸町
 高知沿線……………五八四
 大杉 龍河洞 紀之貫之の遺跡 長尾雞
 高知市(五四) 名所 旅館 桂濱 五臺山
 中村町 宿毛町 渭南の奇勝(龍串・見残し岬)(五六)
 四國八十八ヶ所(五六) 順拜の順路 弘法大師 八十八ヶ所所在地・交通・御詠歌(五六)

九 州

九州一周(旅程案)……………五九九
 別府・耶馬溪・雲仙・阿蘇遊覽(日程案)……………六〇三
 雲仙遊覽(日程案)……………六〇七
 (鹿兒島沿線)(六〇九)
 門司市 宗像神社 香椎宮 筥崎宮
 福岡市(六〇九) 旅館 名所
 太宰府神社(六一) 觀世音寺 太宰府址 戒壇院

武蔵温泉(六一) 旅館 名所 娯樂場
 熊本市(六一) 登山交通と順路 阿蘇神社
 阿蘇山(六一) 戸下・栃木・湯の谷・垂玉・地獄
 阿蘇の諸温泉(六一) 林温泉
 人吉温泉 球磨川下り
 鹿兒島市(六一) 名所 旅館 指宿温泉(六一)
 (日豊線に沿ふて)(六一)
 霧島國立公園……………六六の次に折込
 霧島神宮 霧島山
 霧島温泉 榮之尾・硫黄谷・明礬
 日向高千穂(六一) 高天原 天岩戸
 青島(六一) 青島温泉 鶴戸神宮
 西都原(六一) 宮崎市(六一) 宮崎神社
 別府温泉(六一) 地獄めぐり 自動車賃
 別府温泉・濱脇温泉(六一) 觀海寺温泉(六一) 堀田温泉(六一) 鐵
 輪温泉(六一) 明礬温泉(六一) 柴石温泉(六一) 龜川温泉(六一)
 宇佐神宮(六一) 宇佐町の旅館 中津市
 耶馬溪(六一) 交通 概説 溪中の旅館(六一)
 本耶馬溪・深耶馬溪・裏耶馬溪・麗し谷・奥耶馬溪 羅漢寺(六一)
 大走りの勝 青の洞門
 日田町(六一) 鶴飼船 筑後川下り

英彦山神社(六一)
 (長崎線に沿ふて)(六一)
 唐津市(六一) 名所 旅館 セツ釜
 名護屋城址 呼子港 加部島
 武雄温泉
 長崎市(六一) 旅館 名所 年中行事

雲仙(六一) 中部雲仙の三大景觀 北部雲仙の大自然 和やかな南部雲仙 雲仙の三大觀勝 雲仙國立公園と温泉 雲仙の宿泊設備 娯樂施設とその使用料 雲仙温泉中心觀光日程
 小濱温泉(六一) 島原 南島原海岸
 天草 島(日程案)……………六三七
 概説 天草への交通(六一) 島内自動車 本渡町(三一) 富岡町 下津深江温泉 高濱村 崎津 牛深町 宮田村 天草松島 大矢野島 湯島

北 海 道

五日間 東京―北海道往復(旅程案)……………六四一
 一週間 東京―北海道往復(旅程案)……………六四二
 十日間 東京―北海道往復(旅程案)……………六四五
 十一日間 東京―北海道往復(旅程案)……………六四八
 二週間 北海道・樺太遊覽(日程案)……………六五二
 北 海 道……………六五六
 島情一斑(六一) 地勢 氣候 夏季平均温度
 (函館及其の附近)(六一)
 函館市(六一) 旅館 名所
 湯ノ川温泉・根崎温泉(六一) 六五八
 大沼公園(六一) 湖上舟遊 旅館
 鹿部温泉(六一) 川汲温泉 蕨山温泉 駒ヶ岳 トラピスト女子修道院
 當別トラピスト修道院 福山町 江差町 濁川温泉 昆布温泉

(小樽及其附近)(六六二) 旅館 名所 蝦夷富士
 (札幌及其附近)(六六三) 旅館 名所 真駒内種畜場
 定山溪温泉(六六三)
 (旭川及其附近)(六六四) 旅館 名所 近文アイヌ部落
 旭川市(六六四) 旅館 名所 近文アイヌ部落
 層雲峡(六六五) 層雲峡温泉
 大雲山(六六五) 登山口 山上の展望
 (室蘭及其附近)(六六九) 勝仙峡と松原温泉(六七) 吹上温泉 十勝岳(六六) 然別湖(六六)
 室蘭市(六六九) 旅館 名所
 登別温泉(六七〇) 倶多羅湖 カルス温泉 白老アイヌ部落
 洞爺湖温泉(六七二) 洞爺湖 向洞爺 有珠岳 支笏湖(六七)
 夕張炭坑(六七)
 (釧路及其附近)(六七三) 釧路市(六七三) 香探湖 狩勝峠(七三)
 阿寒湖(六七四) 概説 阿寒への交通 湖上遊覧
 阿寒岳 阿寒湖畔温泉 離阿寒温泉 離阿寒温泉
 屈斜路湖(六七六) 概説 美幌峠の展望
 屈斜路への交通 湖上定期船 湖畔の諸温泉(川湯・仁伏・仁伏峠・砂湯・赤湯・池の湯・和琴) 硫黄山
 摩周湖(六七八) 摩周への交通
 弟子屈温泉(六七九) 鑑別温泉 塘路湖 原岸湖のカキ島町 根室
 (網走及其附近)(六七九) 網走(六七九) 能取湖 野付牛

稚内町(六〇)

樺太

樺

概説 氣候 各月平均温度 林業 産業 樺太への交通(六三)
 (樺太廳鐵道沿線)(六八三)
 大泊町 豊原町 小沼 川上炭山 落合 榮濱 本斗 眞岡町 泊居
 (樺鐵沿線及奥地)(六八五)
 白鳥湖 元泊 知取 敷香 海豹島 恵須取 安別

臺灣

臺灣遊覽旅行(日程案) 六八七
 臺灣視察十三日間日程 六九二
 臺灣 六九三
 島情一斑(六九三) 地勢・氣候 各月平均温度 産業 住民 教育
 臺灣旅行(六九六) 臺灣への交通 臺灣中心の諸航路(六九七)
 乗車券(六九八) 旅行上の諸注意(旅装・手荷物・旅費・通貨・時差・島内視察・蕃界視察・臺車・自動車・撮影及寫眞上の注意・土産物・移出禁止品と植物検査) 急行料金・變臺車料金(七〇〇)
 基隆市(七〇〇) 名所 旅館
 金山温泉 アジンコート
 臺北市(七〇二) 艋舺・大稻埕・城内 旅館(七〇三) 名所

北投温泉(七〇三) 草山温泉(七〇四)

淡水街 新店街 烏來蕃社(七五) 桃園(七〇四) 角板山(七〇五) 新竹市
 臺中市(七〇五) 旅館 名所
 彰化街 二水街(七〇六) 外車埕 補里
 日月潭(七〇七) 石印蕃化の杵歌
 日月潭水力發電工事 遊覽順路
 霧社(七〇八) 入蕃手續 霧社蕃暴動事件 能高越
 新高山(七〇九) 登山路 登山注意 登山期 服裝 宿泊地 強力
 嘉義市(七一) 旅館 名所
 阿里山(七一一) 阿里山鐵道 阿里山神木 關子嶺温泉
 臺南市(七二三) 名所 旅館 安平港 赤崁城址
 高雄(七二五) 旅館 名所 鳳梨の産地
 屏東(七二六) 潮州 四重溪温泉 臺灣の役 恒春 鹽寮鼻(七七)
 澎湖島(七八) 馬公街
 (臺灣東部地方)(七八)
 礁溪温泉 宜蘭 花蓮港
 太魯閣峽(七九九) 臺東 花燒島 紅頭嶼
 鮮・滿・中國旅行
 氣候と遊覽季節に就て 七二二
 旅装と携帶品に就て 七二三
 通貨に就て 七二三
 標準時に就て 七二三
 撮影其他に就て 七二三
 税關検査に就て 七二三
 土産物に就て 七二四

滿洲土産標準數量

旅行券に就て 七二五
 鮮滿への旅行経路 七二五
 旅館宿泊料 七二五
 旅行相談所 七二六
 乗車船券に就て 七二六
 (單獨の場合) 内鮮滿周遊券 朝鮮・滿洲往復乗車券 大連經由
 滿洲往復割引乗車券 東亞遊覽券 日中往復券 日中周遊券 日
 滿往復券 日滿周遊券
 (團體旅行の場合) 取扱方大要 割引率

朝鮮

概説 氣候 人口 七三〇

京釜線

釜山(七三二) 旅館 名所 東來温泉
 大邱(七三三) 新羅古蹟(七三三) 慶州 佛國寺
 太田 水原
 京城(七三三) 旅館 名勝
 郊外の名所(清涼里・東九陵・牛耳洞・望月寺・洗眞亭)
 仁川(七三七) 名所 旅館

京元・咸鏡線

元山(七三七)
 金剛山(七三八) 探勝順路 探勝の準備と注意事項 探勝割引乗車

券 旅館(七五)

(名勝) 長安寺・烏峯・明鏡臺・靈源庵・水龍洞・百塔洞と望軍臺・鳴淵潭・三佛殿・表訓寺・正陽寺・萬源洞と八潭・摩訶衍と白雲臺・妙吉祥・楡岾寺・海金剛・溫井里・神溪寺・玉簾洞・九龍潭・八潭・寒霞溪・萬物相・久米山莊・九成洞

成興 清津(七四三) 會寧 上三峯 南陽 雄基 羅津

京 義 線

平壤(七四五) 名所 旅館
新義州 鴨綠江(七四六)

十日間 東京―朝鮮往復(旅程案)……………七四七

朝鮮金剛山探勝(日程案)……………七四九

滿鮮周遊(旅程案)……………七五二

青島及滿洲旅行(日程案)……………七五三

內鮮滿周遊券第五號乙經路(日程案)……………七五九

滿洲國……………七〇九

概説 滿洲國政府組織 行政 歴史 住民 面積と人口 地勢 氣象 産業

安 奉 線

安東(七七二) 旅館 名所

五龍背溫泉 本溪湖(七七二)

滿 鐵 本 線

大連(七七二) 大連への交通 概説 旅館 名所

旅順(七七五) 遊覽地 旅館

熊岳城(七七七) 大石橋 營口 湯崗子溫泉 千山 鞍山(七七七) 遼陽

撫順(七七七) 遊覽地 旅館

奉天(七七七) 名所 旅館

開原 四平街(七七七) 公主嶺

新京(七七九) 新市街・開埠地・舊城市・寬城子 旅館 新戰跡

京 圖 線

吉林(七八三) 敦化(七八四)

哈爾巴嶺 老頭溝 朝陽川 延吉 圖門 圖門南陽間の交通事情

【天圖線】 龍井(七八五)

【奉吉線】 東陵 撫順城 元帥林 山城鎮 海龍 朝陽鎮 磐石(七八六)

平 濟 線

鄭州地方概説(七八六) 八面城 鄭家屯

洮南(七八七) 齊々哈爾(七八八)

【榆樹線】 榆樹屯 東昂々溪(七八九)

【拉濱線】 新站 五常(七八九)

【濱北線】 坪關 綏化 海倫 通化 北安(七八〇)

【齊北線】 克山 泰安 寧安(七八〇)

中 華 民 國

三週間 中國漫遊(旅程案)……………八〇五

天津(八〇八) 北平(八〇八) 萬里の長城 萬壽山 明の十三陵
青島(八〇九) 嶗山 漢口(八〇九) 洞庭湖 岳州 長沙
南京(八二〇) 蘇州 上海(八二二) 杭州(八二二)

附 録

國有鐵道對料三等旅客賃金表……………折込

東海・山陽及九州線主要驛三等運賃表……………折込

東北方面主要驛三等運賃表……………折込

高崎・信越・北陸方面主要驛三等運賃表……………折込

中央線主要驛三等運賃表……………折込

主治效能別に依る全國主要溫泉案内……………一

三十三所觀音靈場めぐり……………一三

西國三十三ヶ所・新西國三十三ヶ所・阪東三十三ヶ所・秩父三十四ヶ所

ケーボン式鐵道省遊覽券……………二五

國有鐵道旅行案内……………二七

乗車券の通用期間 途中下車 團體割引 急行料金 寢臺料金

食堂内食料 貸切 託送手荷物 手廻品携帶品一時預り 小荷

物 旅客附隨小荷物 手荷物及小荷物の配達 手荷物及小荷物の

保管 入場券 荷物運搬人

五十音別索引……………卷頭

遊覽略圖……………卷中・折込・寫眞裏

寫眞……………卷頭及卷中

總局 廣 軌 線

【京濱線】 哈爾濱(七九二) 新市街・埠頭區・舊哈爾濱・傅家甸・松江

【濱洲線】 概説 海拉爾 滿洲里(七九三)

奉 山 線

概説 新民 大虎山 溝帮子 幫縣 興城 山海關 萬里長城(七九六)

【大鄭線】 通遼 莫林廟(七九七)

總局 バス 線

【京餘線】 農安 扶餘(七九九)

【山通線】 通化(七九九)

【安城線】 大虎山 城子曠(七九九)

【敦海線】 鏡泊湖 東京城(七九九) 寧安 海林(八〇〇)

【哈同線】 三姓 佳木斯 富錦 同江(八〇〇)

【納黑線】 嫩江 愛琿 黑河 訥河(八〇〇)

【興安線】 蘇鄂公府 索倫(八〇〇)

松花江・黑龍江航路(八〇〇)

熱 河

熱河省概況……………八〇〇

承德(熱河)(八〇二) 喇嘛廟 赤峯 全寧

旅程と費用概算

五十音別索引

(此の索引は検索の便を圖り、正當な發音法に依らず主に發音通りの音で五十音順に配列いたしました。)

相川町(佐渡)	二七五
相川金山(佐渡)	二七五
愛媛(滿洲)	八〇〇
青木ヶ原(富士山麓)	三〇九
青島温泉(宮崎縣)	六一九
青根温泉(宮城縣)	六一九
青の洞門(ヤハ溪)	一七九
青海島	六二五
青葉城趾(仙臺)	五五七
青堀鑛泉(房州)	一八五
青梅町(武州)	六五
青森市	二〇七
青山温泉(北海道)	七
青山御所	一三
赤穂町(播州)	五三四
赤城登山	二五三
赤倉温泉	二七〇
赤坂離宮	一三
赤間宮(下關)	五四八
赤目四十八瀧	四六八
赤湯温泉	二二二
縣神社(宇治)	四三一
明石市	五三三
秋保温泉(宮城縣)	附録 五
秋田温泉(秋田縣)	附録 九
秋田市	三三〇
秋葉山	三三〇
秋吉臺	五四四
秋芳洞	五四四
阿寒湖	六七四
阿寒岳	六七五
阿寒湖温泉	六七六
阿久根温泉(鹿児島縣)	附録 六
阿字ヶ浦	八三
阿蘇山	六四
阿蘇神社	六五
阿曾原温泉(黒部峽)	二九八
阿里山	七二一
阿里山神木	七二三
阿武川下り	五四四
阿伏兔觀音	五三八
阿波の十郎兵衛敷趾	五八二
阿佛坊妙宣寺(佐渡)	二七六
阿夫利神社(相州大山)	九六
阿彌陀寺(箱根塔の峯)	一〇六
阿見飛行場(霞ヶ浦)	八〇
阿波踊(徳島縣)	五八二
英虞灣(志摩)	三九四
淺草(東京)	二七
淺草公園(東京)	一九
淺草神社(三社大權現)(東京淺草)	一六
淺間山	二五七
淺間温泉	三五二
淺蟲温泉	二〇七
朝熊岳(伊勢)	三九三
朝日岳	二二
朝日鑛泉(山形縣)	三二

旭温泉(那須)	一七四
旭川市	六六四
足尾銅山	一五五
足附温泉(伊豆式根島)	一四六
蘆の湖(箱根)	一一〇
蘆の湯温泉(箱根)	一〇九
芦原温泉	二九〇
アジノコト(臺灣)	七〇一
飛鳥山(東京)	四四
熱海温泉	二二三
熱海温泉(岩代)	二二七
熱川温泉(伊豆)	二二六
熱田神宮	二八五
温海温泉(羽前)	三三八
愛鷹山(富士)	三二二
愛宕公園(東京)	二二〇
愛宕山(東京)	二二〇
愛宕神社(東京)	二二〇
愛宕神社(京都)	四三六
厚岸湖の力キ島	六七九
渥美半島	三七六
吾妻山	二八九
穴水町(能登)	二八六
穴原温泉(上州)	二四七
天城山(伊豆)	一三六
天草島	六三九
天草松島	六四〇
天津(房州)	六九
天の橋立	五二七
天の香久山(大和)	四八二
甘利山	三三四
葵(京都)	四三三
油壺灣(三浦半島)	九五
網張温泉(岩手縣)	附録 一〇
網走	六七九
あやめ池遊園地(大和)	四七七
嵐山	四三五
嵐山鑛泉(京都)	五二五
鮎川鑛泉(紀州)	五四四
荒川堤(東京)	四五
荒川遊園(東京)	四五
荒船山	二五五
荒船山(東京梅照院)	四三
新井薬師(東京梅照院)	四三
新湯温泉(鹽原)	一七一
有栖川宮記念公園(東京)	二二
有田の蜜柑山(紀伊)	五〇六
有福温泉(島根縣)	附録 一一
有馬温泉	四三七
淡路島	五五一
粟田御所(京都)	四一〇
粟生島(新潟縣)	二四〇
栗津温泉	二八九
安房神社	六八
安代温泉(平穩)	二六五
安樂温泉(鹿児島)	附録 五
安樂寺(高知市)	五八五
安東(滿洲)	七七二
安平港(臺灣)	七五
安別(樺太)	六八六
鞍山(滿洲)	七七六
飯坂温泉	一七七
飯田町(信州)	三六三
飯豊山	三三八
飯盛温泉(那須)	一七四
飯沼觀音(銚子市)	七七
硫黄山(北海道)	六七八
硫黄島(小笠原)	一五三
硫黄谷温泉(霧島)	折込
碓ヶ關温泉(青森縣)	附録 一二
井伊谷宮	三七四

イ・ウ

井の頭恩賜公園(東京府)……………四〇
 伊香保温泉……………二四三
 伊勢神宮……………三九〇
 伊弉諾神社(淡路)……………五五三
 伊豆半島遊覽……………二五—一三九
 伊豆山温泉……………一二五
 伊豆山神社……………一二五
 伊豆七島……………一四三
 伊東温泉……………一二五
 伊能忠敬翁……………七六
 伊吹山……………四〇〇
 伊良湖岬(渥美半島)……………三七六
 生田神社(神戸)……………四九九
 生國魂神社(大阪)……………四三三
 生地温泉(富山縣)……………附録 一二
 息栖神社(茨城縣)……………七七
 生駒山寶山寺……………四七六
 池上本門寺(東京)……………三八
 池田町(四國)ノ旅館……………五七八
 池ノ平温泉……………二七〇
 石垣山(箱根)……………一〇五
 石鎚山(四國)……………五七六
 石手寺(四國)……………五七四
 石ノ巻市……………一八九

石橋山古戰場(相州)……………一二三
 石山寺(大津市)……………四四五
 石上神社(大和)……………四八〇
 石廊岬(伊豆)……………一三七
 石清水八幡宮……………四三三
 磯部鑛泉……………二五四
 潮來町(茨城縣)……………七六
 板敷瀑溪(甲州)……………三三六
 板留温泉(青森縣)……………二〇一
 板室温泉(那須)……………一七四
 一ノ關町……………一八九
 一ノ谷(神戸鴨越)……………四六〇
 一ノ宮町(房州)……………七八
 一碧湖(伊豆)……………一三六
 一畑藥師(出雲)……………五三九
 一心寺(大阪)……………四五四
 出石の鶴山……………五一九
 出雲大社……………五三〇
 嚴島(宮島)……………五四一
 嚴島神社(安藝)……………五四三
 緯度觀測所……………一九三
 因幡の兎傳説地……………五二
 稻佐の濱(出雲)……………五三〇
 稻荷神社……………四三九

稻荷山公園(東京近郊)……………四四
 稻積温泉(羽後)……………附録 二
 稻村ヶ崎(鎌倉)……………九三
 猪苗代湖……………三三六
 猪の頭瀑園(岳麓)……………三一
 渭南の奇勝(四國)……………五八五
 犬吠岬……………七八
 犬山町(愛知縣)……………三九六
 指宿温泉(九州)……………六一七
 射水神社(高岡市)……………二八三
 今井濱温泉(伊豆)……………一三三
 祖谷溪(四國)……………五七八
 入山邊温泉(信州)……………三三三
 岩井温泉(鳥取縣)……………附録 三
 岩木山神社……………三三三
 岩木山……………三三三
 岩手山……………一九四
 岩間温泉(加賀國白山)……………三〇〇
 岩間寺(宇治河畔)……………四四六
 岩屋町(淡路)……………五五三
 忌部神社(徳島市)……………五八二
 インクライン(京都)……………四二

ウ

上野恩賜公園……………一八
 上野動物園……………三三
 上野驛(東京)……………二五
 上野町(伊賀)……………四六六
 上田市……………二六三
 美ヶ原(信州)……………三三四—三五三
 宇佐神宮……………六三三
 宇治町……………四三〇
 宇治山田市……………三九二
 宇治川下り……………四四七
 宇都宮市……………一七五
 太秦の牛祭(京都)……………四三四
 宇奈月温泉……………二九七
 宇部神社(鳥取)……………五三二
 宇和島市……………五七七
 牛深町(天草島)……………六四〇
 有珠岳(北海道)……………六七二
 内浦灣(伊豆)……………一三八
 内海町(知多半島)……………三六一
 内牧温泉(熊本縣)……………附録 一〇
 鵜戸神宮(宮崎縣)……………六九
 鵜ノ瀬温泉(上州)……………二四九
 鵜ノ山(知多半島)……………三八二
 畝傍山御陵……………四八〇

畝傍山……………四八二
 畝傍考古館……………四八二
 姥子温泉(箱根)……………二〇
 姥湯温泉(山形縣)……………二〇
 右左口峠(甲州)……………三三三
 海湖温泉(島根縣)……………附録 二
 梅ヶ島温泉(静岡縣)……………附録 五
 梅宮神社(京都府)……………四三四
 浦賀町(相州)……………九四
 浦富海岸……………五二
 浦の初島(紀州)……………五〇六
 裏見ノ瀧(日光)……………一六一
 烏來蕃社(臺灣)……………七〇五
 雲仙……………六三二
 雪仙嶽……………六三三

エ

江之島……………九三
 江差町(北海道)……………六六〇
 永平寺……………二九二
 永觀堂(京都)……………四二
 營口(滿洲)……………七七六
 回向院(東京)……………一八
 蝦夷富士(北海道)……………六六二

オ

惠山温泉(北海道)……………六五九
 惠須取(樺太)……………六八六
 惠那峽……………三五九
 惠那の瀧……………三六〇
 惠那登山……………三六〇
 榮之尾温泉(霧島)……………折込
 圓覺寺(鎌倉)……………九二
 演劇博物館(東京)……………二四
 鹽山温泉(山梨縣)……………附録 七
 延曆寺……………四三六
 延吉(滿洲)……………七八五

大垣市	三九八
大國魂神社(東京)	四一
大倉集古館(東京)	二四
大楠山(相州)	九五
大窪寺(四國)	五七一
大隈侯庭園(東京)	二二
大阪市	四四九
大阪城址	四四九
大澤温泉(伊豆)	一三五
大澤温泉(岩手縣)	附録 一三
大杉(四國)	五八四
大島(伊豆)	一四四
大島(紀州)	五〇九
大須觀音(名古屋)	三八五
大鷹森(松島)	一八六
大臺ヶ原山	四八九
大瀧温泉(羽後)	附録 三
大三島	五三九
太田の金山・呑龍上人	四六
大月(甲州)	三〇八
太田川下り(廣島縣)	五四二
大津市	四四二
大塚鑛泉(上州)	二四七
大泊町(樺太)	六八三
大沼公園	六五八
大沼の浮島(山形縣)	二二五
大原野神社(京都府)	四三三
大原の里(京都)	四二
大歩危、小歩危(四國)	五七六
大町(信濃)	三四四
大宮鐵道工場	四四五
大宮町(靜岡縣)	三三一
大物忌神社(鳥海山)	二三七
大牧温泉	二八三
大峯山(山上ヶ岳)	四八九
大丸温泉(那須)	一七四
大室温泉(上牧温泉)	二四八
大山(相州)	九六
大山祇神社(愛媛大三島)	五三九
大矢野島(天草)	六四〇
大谷觀音(栃木縣)	一七五
大湯温泉(秋田縣)	一九九
大涌谷(箱根)	一〇九
大鰐温泉	三二
樗峠(天橋立)	五九九
蓬坂山	四四五
雄琴鑛泉(滋賀縣)	四四五
小天温泉(熊本縣)	附録 九
小笠原島遊覽	一四八
小川温泉	二八二
小木町(佐渡)	二七六
小郡の旅館	五四六
小河内温泉(鶴ノ温泉)	五七
小谷温泉(長野縣)	附録 八
小樽市	六六三
小田原町(相州)	二二
小野川温泉(山形縣)	二二
小濱町	二九三
小濱温泉(島根縣)	附録 四
小濱温泉(長崎縣)	六三六
小原温泉(宮城縣)	一七九
小原木の大石(岩手縣)	一九二
追貝の吹割瀧(上州)	一六七
老神温泉(上州)	二四七
岡崎公園(京都)	四二二
岡寺(大和)	四八二
岡谷(信州)	三三三
岡山市	五三三
男鹿半島	二一九
沖浦温泉(青森縣)	二〇一
沖の白石(近江)	四四二
沖の島(近江)	四四二

隱岐島	五三〇
興津町(駿州)	三三九
興津の旅館(房州)	七〇
奥入瀨溪(子和田)	一九八
奥多摩溪	五六
奥秩父	六一
奥山半僧坊	三七四
巨椋池(京都)	四三〇
忍野八海(富士山麓)	三〇八
忍野鑛泉(富士山麓)	三〇七
鷺宿温泉(岩手縣)	附録 八
恐山(青森縣)	二〇六
押立温泉(磐梯山麓)	二二七
落合(樺太)	六八四
乙女峠(箱根)	一一二
應德温泉(上州)	二四六
音無山(伊勢)	三九四
鬼ヶ城(紀州)	五四
鬼ヶ岳(岡山縣)	五三八
姥捨山(信州)	三三二
近江八景	四四一
近江舞子	四四五
面河溪(四國)	五七六
尾瀨沼(上州)	一六七
尾上の松(播州)	五三三
尾山神社(金澤市)	二八八
尾鷲町(紀州)	五二四
親不知・子不知	二八二
鴨綠江	七四六
御嶽山(木曾)	三五八
溫井里(朝鮮)	七四二
溫根湯温泉(北海道)	六八〇
おせんころがし(房州)	七〇
音戸の瀬戸	五三九
海上の松	二七六
海府(佐渡)	六八五
海龍(滿洲)	七九〇
海倫(滿洲)	八〇〇
海林(滿洲)	二五〇
貝掛温泉(越後)	五三三
皆生温泉(鳥取縣)	七四三
會寧(朝鮮)	七九九
開原(滿洲)	六一
戒壇院(太宰府)	六七
鏡ヶ浦(房州)	七一
嘉義(臺灣)	七一
花月園(横浜市鶴見區)	三七
花蓮港(臺灣)	七一九
覺王山日蓮寺(名古屋)	三八五
角間温泉(信州平穩)	二六六
角板山(臺灣)	七〇五
鶴林寺(播州)	五三三
鹿教湯温泉(信州)	附録 三
鹿澤温泉(信州)	二六三
鹿島神宮	七六
鹿兒島市	六六七
鹿野山(房州)	六六
笠岡町(岡山縣)	五三八
笠置山	四六五
笠置鑛泉	四六六
笠間稻荷(茨城縣)	八四
笠松公園(丹後)	五八
賢島(志摩)	三九四
樞原神宮	四八〇
春日神社(奈良市)	四七三
春日山奥山めぐり	四七五
甲子温泉	附録 二
可睡齋	三七〇
檜の森(山口縣秋芳臺)	五四五
鰻澤町(甲州)	三三〇

霞ヶ浦	七四
粕壁牛島の藤(東京近郊)	四六
柏谷ノ横穴(伊豆)	二七
片品川溪谷(上州)	二六六
片山津温泉	二八九
勝浦(上総)	七〇
勝浦(紀州)	五〇九
勝見温泉(鳥取縣)	附録 六
桂濱(高知市外)	五八五
桂離宮(京都)	四三三
香草温泉(上州草津)	二四五
香取神宮	七六
香椎宮(九州)	六〇九
香草温泉(上州草津)	二四五
金柵温泉(熊本縣)	附録 四
金澤市	二八六
金澤八景(相模)	八七
金櫻神社(甲州昇仙峽)	三三四
金ヶ崎宮(敦賀)	二九三
鐘釣温泉(黒部峽谷)	二九七
佳木斯(滿洲)	八〇〇
鎌倉町	九二
鎌倉宮	九三
鎌倉大佛	九三
鎌先温泉(宮城縣)	一七九
上高地(日本アルプス)	三四五
上高地温泉	三四六
上諏訪温泉	三三一
上ノ山温泉	二二三
上山田温泉	二六四
上林温泉(信州平糶)	二六六
上三峯(朝鮮)	七四三
上牧温泉(上州)	二四八
龜戸天神(東京)	四〇
龜川温泉(別府)	六三三
龜川(安房)	六八
鴨川(京都)	四三三
燕島	一九四
加賀のワケド(島根縣)	三三九
加賀の千代女の墓	二八八
加波山(茨城縣)	八〇
加治川堤の櫻(越後)	二四〇
加茂湖(佐渡)	二七四
加茂港(羽前)	二三八
賀茂川(京都)	四一九
賀茂御祖神社(京都)	四三三
賀茂別雷神社(京都)	四三三
唐津市	六二七
樺太	六八二
狩勝峠	六七三
輕井澤町	二六三
カルルス温泉(北海道)	六七〇
可垂齊(秋葉山)	三七〇
河口湖	三〇九
河内温泉(伊豆)	一三三
河津濱温泉(伊豆)	一三三
河和附近(知多半島)	三八一
川浦温泉	附録 一
川上温泉	二三八
川上炭山(樺太)	六八四
川汲温泉(北海道)	六五九
川崎大師(平間寺)	三七
川治温泉(裏日光)	一六五
川渡温泉(宮城縣)	附録 七
川中温泉(上州)	二四七
川中島古戰場	二六四
川奈ゴルフ場(伊豆)	二六
川場温泉(上州)	二四七
川古温泉(上州)	二四八
川俣温泉(裏日光)	一六四
川原湯(上州)	二四六
川湯温泉(紀州)	五三

川湯温泉(北海道)	六七八
草堂(京都)	四一七
寛永寺(東京)	一八
神田明神(東京)	一五
神庭の瀧(岡山縣)	五三七
關東耶馬溪	二四二
寒霞溪(小豆島)	五四九
寒の池獄温泉(大分縣)	附録 九
寒風山	三〇〇
鐵輪温泉(別府)	六三三
觀海寺温泉(別府)	六三三
觀世音寺(太宰府)	六一
觀音崎燈臺(相州)	九四
關子嶺温泉(臺灣)	七三
館山寺(濱名湖畔)	三七二
漢口(支那)	八〇九
漢江(朝鮮)	七三六
咸興(朝鮮)	七四二
勸修寺(京都)	四二九
甘水温泉	三三四
月山(羽前)	二二二
娥々温泉(宮崎縣)	一七九
蒲郡	三七七
蒲生氏郷の墓	三三五
岳州(支那)	八一〇
我樂目嬉鏡泉(上州)	二四七
鰯淵寺(出雲)	五三〇
鷲巖鼻(臺灣)	七七
火燒島(臺灣)	七〇
宮城	一三
基隆(臺灣)	七〇〇
木賀温泉(箱根)	一〇七
木更津町(房州)	六五
木曾川下り	三九六
木曾峽谷の勝	三五九
木津川下り	四六六
木津温泉(丹後)	附録 一三
木ノ本町(紀州)	五二四
奇絶峽(紀州)	五〇七
喜多院(川越市)	四七
北浦(關東)	七四
北浦(島根半島)めぐり	五二九
北温泉(那須)	一七四
北回歸線(臺灣)	六八九
北潟湖	二九〇
北野神社(京都)	四一四
北山温泉(富山縣)	附録 六
北湯ヶ野温泉(伊豆)	一三三
吉祥寺(東京)	一七
吉林(滿洲)	六三
吉備津彦神社	五三六
吉備津神社	五三六
孤ヶ崎遊園(清水市)	三六八
京都市	四〇一
京都御所	四一三
清水寺(京都)	四〇九
清澄山(房州)	六九
清澄庭園(東京)	二二
鬼怒川温泉(表日光)	一六五
鬼怒沼(裏日光)	一四五
鬼子母神(東京)	四五
城ヶ崎温泉	五三〇
貴船神社(京都)	四二〇
紀三井寺	四九八
紀貫之の遺蹟(四國)	五八四
霧ヶ峯	三三
霧積温泉	二六
霧島山	折込
霧島温泉	折込
霧島神宮	折込

霧降瀧(日光)	一六一
桐生市	二五二
切明温泉(青森縣)	二〇一
切戸の文殊(丹後)	五二八
清見湯	三六九
清澄山(房州)	六九
鏡泊湖(滿洲)	七九
金華山	一八八
金山温泉(臺灣)	七〇一
金山温泉(箱根)	二二二
金峯山(甲州)	三七
金峯山寺(吉野、蕨王堂)	四七
金北山(佐渡)	二七四
金閣寺(京都)	四一八
金龍温泉	三六〇
琴彈公園(四國)	五七三
近松寺(唐津市)	六二八
錦縣(滿洲)	七九七
錦繡温泉(新鐘釣)	二九七
錦帶橋	五三三
銀閣寺(京都)	四一
銀座通り(東京)	二七
祇王寺(京都嵐山)	四二六
祇園祭(京都)	四三三
宜蘭(臺灣)	七九
岐阜市	三九八
經島(佐渡)	二七六
牛耳洞(京城)	七三六
玉泉寺(伊豆下田)	一三六
行基菩薩墓(大和)	四七九
鶺鴒沼(相州)	九四
草壁町(小豆島)	五五〇
草津温泉(上州)	二四四
串本町(紀州)	五〇九
葛温泉(日本アルプス)	附録 二
香掛温泉(信州)	附録 七
釧路市	六七三
朽木溪谷(近江耶馬溪)	四四五
屈斜路湖(北海道)	六六六
九十九里濱	七六
九品佛(東京)	三九
熊野那智神社	五一
熊野坐神社	五二
熊野速玉神社(新宮市)	五一
熊野神社(出雲)	五二八
熊野川	五二
熊の湯温泉(信州平穩)	三六六
熊本市	六二
熊本城	六三
球磨川下り	六六
鞍馬寺(京都)	四〇
栗野岳温泉(鹿児島縣)	附録 六
久地梅林	四〇
久能山	三六三
久米寺	四八二
久美濱湖(丹後)	五一九
久留米市	六〇四
久里濱(相州)	九五
暮坪の立岩(羽前)	二二九
俱利伽羅峠古戰場	二八四
俱多羅湖(北海道)	六七〇
黒平鑛泉(甲州)	三六
黒木御所(佐渡)	二七五
黒山鑛泉(埼玉縣)	四七
黒谷(京都)	四一
黒瀧山	二五五
黒住教本部	五三六
黒部峽谷	二九六
黒薙温泉(黒部)	二九七

弘明寺(横濱)	八七
郡家町(淡路)	五五二
カンナ祭(長崎)	六三一
京王閣(東京)	四二
京城	七三三
景福宮(京城)	七三五
慶州(朝鮮)	七三三
氣仙沼町	一九二
氣比神宮(敦賀町)	二九三
華嚴瀧(日光)	一六一
建長寺(鎌倉)	九二
建勳神社(京都)	四一四
建仁寺(京都)	四〇九
兼六園(金澤市)	二八七
劍峽、劍山(四國)	五七九
夏油温泉(岩手縣)	附録 一〇
下呂湯ノ島温泉	二四七
狛鼻溪	一九三
嚴美溪(五串瀧)	一九一
玄武洞	五三〇
玄宮園(彦根)	四四六
元帥林(朝鮮)	六六
元山(滿洲)	七七七
小泉八雲氏舊宅(松江)	五二七
小石川植物園(東京)	三三
小坂鑛山(秋田縣)	二〇五
小濟温泉(信州)	附録 一〇
小屋原温泉(島根縣)	附録 四
小瀬温泉(上州)	二六二
小鍋温泉(伊豆)	一三三
小沼(蘆太)	六八四
小日向温泉(上州)	二四九
小舟渡遊園地(越前)	二九三
小涌谷温泉(箱根)	一〇八
小金井の櫻(東京)	四一
小湊(房州)	六九
小佛峠	四九
小金山神社(金華山)	一八八
粉河寺(和歌山縣)	四九八
國分寺趾(武藏)	四一
國分寺(佐渡)	二七六
國分寺趾(陸奥)	二八五
國府臺(房州)	四八
國技館(東京京)	二六
國防館(東京)	三三
黒河(滿洲)	八〇〇
香落溪	四六八
琴彈公園(四國)	五七三
高知市	五八四
高麗神社(武藏)	四四
高野山	四三及折込
高野温泉(福島縣)	附録 七
高臺寺(京都)	四〇九
昂々溪(滿洲)	七九〇
恒春(臺灣)	七二七
甲子園	四三七
甲府市	三三八
甲府市	二五五
神津牧場	五三七
神島(岡山縣)	四五六
神戸市	四一六
興正寺(京都)	四三一
興聖寺(宇治)	四三二
興城・興城温泉(滿洲)	七九八
興福寺(奈良市)	四七三
後樂園(東京)	二二
公主嶺(滿洲)	七七九
古座町(紀州)	五〇九
古座峽(同)	五〇九

古四王神社(秋田縣)	三二一
古町温泉(鹽原)	一七一
古奈温泉(伊豆)	一三七
紅頭嶼(臺灣)	七〇
溝帮子(滿洲)	七九七
鯉川温泉(北海道)	附錄 七
克山(滿洲)	七九〇
駒形神社	一九二
駒ヶ岳(秋田縣)	二二七
駒ヶ岳(甲斐)	三五七
駒ヶ岳(木曾)	三五八
駒ヶ岳(北海道)	六六〇
駒ノ湯温泉(宮崎縣)	附錄 一六
駒の湯(木曾)	三五四
籠神社(丹後)	五二八
光長寺(三島町)	一三九
光明寺(京都府)	四三三
弘法大師	五八八
郡山市	一七五
杭州(支那)	八二二
金剛山(大和)	四五五
金剛山(朝鮮)	七三八
金剛寺(大和)	四五五
金剛峯寺(高野山)	四六二の次の折込
金剛證寺(伊勢羽熊山)	三九三
金刀比羅宮	五七一
金色堂(平泉)	一九〇
金蓮寺(京都)	四六
金戒光明寺(京都黒谷)	四二一
昆布温泉(北海道)	六六一
琴平町(四國)	五七二
衣川柵址(平泉)	一九一
五色温泉(山形縣)	二二〇
五色ヶ原(日本アルプス)	三五〇
五條大橋(京都)	四九
五常(滿洲)	七八六
五智國分寺(越後)	七八六
五劍山(四國)	五七〇
五臺山(高知)	五八五
五稜廓(函館)	六五七
五龍背(滿洲)	七七一
御殿場町	三〇七
護王神社(京都)	四一四
護國寺(東京)	一七
豪徳寺(東京)	三九
豪溪(岡山縣)	五三七
極樂寺(鎌倉)	九三
強羅温泉(箱根)	一〇九
後樂園(岡山市)	五三六
同(東京)	二一
呼蘭(滿洲)	七九〇
最上寺(相州大雄山)	一三三
西京寺(近江)	四四四
西湖(富士五湖)	三〇九
西郷港(隠岐島)	五三一
西寺趾(京都)	四一五
西大寺(播州)	五三四
西大寺(大和)	四七五
西都原(九州)	六二一
西念寺(茨城縣)	八四
西芳寺(京都)	四二六
榮濱町(樺太)	六八四
酒田市	二三五
酒列磯前神社	八三
酒解神社	四三三
坂手村(小豆島)	五五一
相模川下り	五一
相良温泉(熊本縣)	附錄 六
崎津(天草島)	六四〇
櫻井驛趾(京都附近)	四三三

櫻川堤の櫻(土浦)	八〇
櫻田御門(東京)	一三
櫻島(鹿児島)	六七
索倫(滿洲)	八〇〇
作並温泉(宮城縣)	附錄 二二
嵯峨澤温泉(伊豆)	一三二
嵯峨鹽温泉	五九
篠海ヶ浦(伊豆)	一三七
笹川流れ	二二九
笹湯温泉(上州)	二四八
笹倉温泉(越後)	附錄 四
笹原温泉(信州)	附錄 一〇
札幌市	六六二
薩埵峠(東海道)	三六九
佐渡	二七三
佐原町	七五
醒ヶ井	四四六
小夜の中山	三七〇
澤渡温泉(上州)	二四六
澤根町(佐渡)	二七五
三姓(滿洲)	八〇〇
三段峽	五四〇
三斗小屋温泉(那須)	一七四
三徳山三佛寺(鳥取縣)	五三三
三寶寺池(東京)	四三
三里塚(成田)	七五
三本木町	一九八
三十三間堂(京都)	四〇七
三千院(京都、大原)	四二一
山居倉庫(莊内)	二三五
山上ヶ岳(大峰山)	四八九
山城鎮(滿洲)	七六六
藏王山	一七六
藏王高湯	二二四
藏王堂(吉野)	四八七
ザラ峠(日本アルプス)	三五〇
式根島(伊豆)	一四六
入ノ波温泉(吉野)	四九二
鹽釜神社	一八六
鹽釜町	一八五
鹽原温泉	一六一
鹽釜温泉(鹽原)	一七〇
鹽ノ湯(鹽原)	一七一
鹽之江鏡泉(四國)	五七三
鹽川鏡泉(上州)	二四七
鹽狩温泉(北海道)	附錄 九
鹽澤温泉(山梨縣)	附錄 一一
潮ノ岬(紀州)	五〇九
鹿部温泉(北海道)	六五九
信貴山	四七九
信夫高湯	二一〇
敷香(樺太)	六八五
七面山	三三一
七里ヶ濱(鎌倉)	九三
七里御濱(紀州)	五二四
七里田温泉(大分縣)	附錄 四
四國八十八ヶ所	五八七
四條大橋(京都)	四一九
四條吸神社(大阪)	四五五
四重溪温泉(臺灣)	七二六
四天王寺(大阪)	四五三
四平街(滿洲)	七七九
四本龍寺趾(日光)	一六一
四萬温泉(上州)	二四六
靜浦(伊豆)	一三九
静岡市	三六七
志賀高原	二六六
志學温泉(島根縣)	附錄 九
志筑町(淡路)	五五三
志度寺(四國)	五七〇

志度町(四國)……………五七一
 志戸平温泉(岩手縣)……………附録 三
 志保鑛泉(伊豆)……………一三五
 支笏湖(北海道)……………六七一
 滋賀院門跡……………四四四
 然別湖(北海道)……………六六八
 篠(島(知多半島)……………三八一
 篠ヶ谷梅林(岐阜)……………三九八
 不忍池(東京上野公園)……………一九
 芝公園(東京)……………二〇
 芝離宮恩賜庭園(東京)……………二〇
 柴又帝釋天(東京)……………四八
 柴石温泉(別府)……………六三三
 澁温泉(信州平穩)……………二六五
 品川臺場(東京)……………二二
 島根半島北浦巡り……………五九
 島々宿(信濃)……………三四六
 島原湊(九州)……………六三六
 清水市……………三六八
 清水谷公園(東京)……………二〇
 清水の次郎長……………三六九
 清水折戸灣の釣り……………三六九
 下北半島……………二〇六
 下諏訪温泉……………三三三

下關市……………五四七
 下關海峽……………五四八
 下仁田町……………二五五
 下風呂温泉(青森縣)……………二〇七
 下部温泉……………三三九
 下田港(伊豆)……………三三五
 下賀茂温泉(伊豆)……………三三四
 下内澤温泉(秋田縣)……………附録 九
 下津深江温泉(天草島)……………六四〇
 白石島(七ノ内海)……………五七七
 白石山(秩父)……………六二
 白糸瀧(岳麓)……………三一
 白老アイヌ部落……………六七〇
 白鳥湖(樺太)……………六八五
 白根山(日光)……………一六六
 白根山(草津)……………二四五
 白根温泉(上州)……………一六七
 白馬岳(北アルプス)……………三四四
 白馬鑛温泉(白馬岳)……………三四四
 白馬大池……………三四四
 白船温泉(アルプス)……………三四七
 白布高湯(山形縣)……………二二一
 白濱温泉(紀州)……………五〇七
 白峯宮(京都)……………四一四

射山溪(奥多摩)……………五七七
 震災記念堂(東京本所)……………二六
 新鹿澤温泉(信州)……………二六二
 新京(長春)……………七七九
 新宮極(京都)……………四一九
 新宮市(紀州)……………五一
 新勝寺(成田山)……………七四
 新義州(朝鮮)……………七四六
 新宿(東京)……………二八
 新宿御苑……………一三
 新高湯温泉(羽前)……………附録 二
 新月ヶ瀬(越生梅林)……………四七
 新站(滿洲)……………七六
 新月島公園(東京)……………二
 新田中温泉(宮城縣)……………附録 三
 新東郷温泉(鳥取縣)……………附録 三
 新竹市……………七五
 新店街(臺灣)……………七〇四
 新那須温泉……………一七三
 新發田町(越後)……………二四〇
 新舞子(知多半島)……………三二
 新舞子海水浴場(房州)……………六五
 新民(滿洲)……………七七
 新藥師寺(大和)……………四七五

新羅の古蹟……………七三二
 親湯温泉(信州)……………附録 八
 眞湯温泉(岩手縣)……………二
 神溪寺(朝鮮金剛山)……………七四二
 神泉苑(京都)……………四一七
 神武寺(相州)……………九五
 心濟橋筋(大阪)……………四五四
 宍道湖(松江)……………五八
 朱乙温泉(朝鮮)……………七四二
 書寫山圓教寺……………五三四
 青蓮院(京都)……………四〇
 精進湖(富士五湖)……………三〇
 精進パノラマ臺……………三〇
 清淨華院(京都)……………四七
 松陰神社(東京)……………三九
 昇仙峽(甲州)……………三三九
 昌慶苑(京城)……………七三五
 昌德宮(京城)……………七三五
 彰化街(臺灣)……………七〇六
 修學院離宮(京都)……………四二〇
 修善寺温泉(伊豆)……………二二九
 修禪寺(修善寺町)……………二二九
 莊内平野……………二三五
 庄川峽……………二八三

礁溪温泉(臺灣)……………七二八
 承德(滿洲)……………八〇三
 稱名寺(相模)……………八七
 聖護院(京都)……………四二
 聖天院(東京近郊)……………四四
 勝持寺(京都、花の寺)……………四三
 正倉院(大和)……………四七五
 正法寺(京都)……………四六
 相國寺(京都)……………四八
 小天橋(丹後)……………五八
 小豆島……………五四九
 勝仙峽(北海道)……………六六七
 植物園(東京)……………三三
 州峯(相州)……………四一九
 十國峠(相州、日金山)……………九五
 十二社權現(東京)……………四〇
 深大寺(東京)……………四〇
 衆樂園(知多半島)……………三八二
 城ヶ島(相模)……………九五
 城子鹽(滿洲)……………七九九
 常念岳(日本アルプス)……………三四九
 常寂光寺(京都)……………四三五
 寂光院(京都、大原)……………四二

日月潭(臺灣)……………七〇七
 神武寺(相州逗子)……………九五
 時代祭(京都)……………四三四
 地奈多温泉(伊豆式根島)……………一四七
 仁川(朝鮮)……………七七
 上海(支那)……………八一
 山海關(滿洲)……………七九八

又

水香園(奥多摩)……………五七
 水原(朝鮮)……………七三二
 水郷(房州)……………七四
 水天宮(東京)……………一六
 水前寺公園(熊本市)……………六三
 水裡坑(臺灣)……………七〇六
 綏化(滿洲)……………七九〇
 菅平(信州)……………二六三
 菅沼(上州)……………一六六
 酸ヶ湯温泉(青森縣)……………二〇〇
 宿毛町(四國)……………五八五
 須賀川の牡丹……………一七五
 須川温泉(岩手縣)……………附録 五
 須走村(富士山麓)……………三〇七
 須卷温泉(鹽原)……………一七一

須磨の風光	四六〇
須磨の關趾(神戸)	四六〇
須磨寺(神戸)	四六〇
杉田梅林(横濱)	八七
助川町の旅館	八五
裾花峽(信州)	二六八
筋湯温泉(大分)	一〇
隅田川十二大橋(東京)	二七
住吉神社(大阪)	四五四
隅田公園(東京)	二
洲の崎(安房)	六八
洲本町	五五二
駿河灣遊覽	一三九
諏訪湖	三三三
諏訪神社(信州)	三三三
諏訪神社(愛知)	三三七
諏訪神社(長崎市)	六三〇
瑞嚴寺(松島)	一八七
瑞寶殿(仙臺)	一八四
隨心院(京都)	四三九
西山莊(茨城縣)	八四
青岸渡寺(紀州、那智山)	五一
青松寺(東京)	一七
清津(朝鮮)	七三
清正公堂(東京)	一六
清水寺(鳥取縣)	五三
清澄山、清澄寺(房州)	六九
清三寶荒神(兵庫縣)	四五六
清涼寺(京都)	四二五
清涼里(朝鮮)	七三六
正陽寺(朝鮮金剛山)	七四一
誓願寺(京都)	四六
積翠寺温泉	附録 一
關金温泉(鳥取縣)	二七〇
關ヶ原古戰場	附録 二
關ヶ原古戰場	四〇〇
關の五本松	五九
赤十字博物館(東京)	二四
赤峯(滿洲)	八三
石霞溪(鳥取縣)	五三
瀬戸内海	五九
瀬波温泉(越後)	二四〇
瀬見温泉(羽前)	附録 三
接岨峽	三七〇
泉岳寺(東京)	一七
泉涌寺(京都)	四七
洗足池(東京)	三八
洗劍亭(京城郊外)	七三六
仙醉島(軀)	五三
仙石原温泉(箱根)	一〇七
仙臺市	一八三
仙人温泉(黒部峽)	二九八
淺間神社(靜岡縣)	三二一
淺間神社(靜岡市)	三六八
淺草寺(東京)	一八
千ヶ瀧遊園(信州)	二六三
千日前(大阪)	四五四
千ヶ山(滿洲)	七七六
千山先光寺(淡路)	五五二
千丈溪	五三二
染織祭(京都)	四三四
戰場ヶ原(日光)	一六四
船上山(伯耆)	五三二
善福寺池(東京)	四三
善寶寺(羽前)	二三八
善峯寺(京都府)	四三三
善光寺	二六八
善通寺(四國)	五七二
善通寺町	五七二
禪林寺(京都水觀堂)	四一一

膳所町(大津市) 四四五
 全 寧(滿洲) 八〇三

リ

早雲寺(箱根)	一〇五
層雲峽(北海道)	六六四
層雲峽温泉(鹽谷温泉)	六六五
曾根の松(播州)	五三三
疏水下り(琵琶湖)	四四四
相馬野馬追祭	八五
相馬三妙見	八五
總持寺(鶴見)	三七
總持寺別院(能登)	二八六
總社温泉(群馬縣)	二四七
底倉温泉(箱根)	一〇七
宗吾堂(成田)	七五
崇福寺(長崎市)	六三〇
草山温泉(臺灣)	七〇四
袖ヶ澤温泉(鹽原)	一七一
蘇洞門(小濱)	二九三
蘇州(支那)	八〇
増上寺(東京)	一七
造幣局(大阪)	四三三

タ

泰安(滿洲)	七九〇
鯛の浦(房州)	七〇
大社町ノ旅館(出雲)	五三〇
大正池(日本アルプス)	四六六
大石寺(靜岡縣)	三一
大虎山(滿洲)	七九七
大孤山(滿洲)	七九九
太山寺(四國)	五七七
當麻寺(大和)	四八二
平の小舎(日本アルプス)	三五〇
臺温泉	一九三
臺灣旅行	六八七
臺東	七三〇
臺灣神社	七〇三
臺灣の役	七二六
臺北市	七〇二
臺中市	七〇五
臺南市	七二三
帝釋峽(岡山縣)	五三七
高雄市	七二五
高雄山(武州)	四九
高尾山神護寺(京都)	四二六

高雄股温泉(那須)	一七四
高岡市	二八三
高崎市	二五四
高崎鑛泉(房州)	六七
高砂の松(播州)	五三三
高津神社(大阪)	四三三
高千穂(日向)	六八
高田市	二七八
高輪御所(東京)	一三
高輪大木戸(東京)	二七
高原山	一六九
高濱村(天草島)	六四〇
高濱(四國)	五七七
高天原	六八
高松市	五六七
高松城址	五三六
高松稻荷	五三六
高山町(飛騨)	三四八
高山城址(大和)	四八〇
高山不動(東京近郊)	附録 四
鷹ノ湯温泉(秋田縣)	附録 五
鷹ノ巢温泉(越後)	附録 二
寶川温泉(上州)	二四九
寶塚温泉	四五六

瀧温泉	附録	一
瀧宮天満宮(讃岐)	附録	五七三
武田尾鏡泉(兵庫縣)	附録	四
武豐町(知多半島)	附録	三八〇
武雄温泉(九州)	附録	六二九
建部神社(近江)	附録	四四五
筍澤温泉(山形縣)	附録	八
田子港(伊豆)	附録	一三八
田澤湖	附録	二二五
田澤温泉(信州)	附録	七
田代池(日本アルプス)	附録	三四六
橋寺(大和)	附録	五〇七
龍田川	附録	四七六
龍田神社	附録	四七六
龍串(四國)	附録	五八七
達谷窟	附録	一九一
立江寺(四國)	附録	五八二
立山(日本アルプス)	附録	三五〇
立山温泉(日本アルプス)	附録	三五一
立木觀音(宇治河畔)	附録	四四六
館山北條町(房州)	附録	六七
館林(東京近郊)	附録	四六
蓼科温泉	附録	一
谷川温泉(上州)	附録	二四九
谷汲山華嚴寺	附録	四〇〇
谷村町	附録	三〇八
種差海岸(東北)	附録	一九四
多摩川園(東京)	附録	三九
多摩川原園(東京)	附録	四一
多景島(ワコ)	附録	四四二
多摩公園墓地(東京)	附録	四一
多摩御陵	附録	四九
多摩加湖(樺太)	附録	六八五
玉前神社(房州一の宮)	附録	七九
玉川遊園地(東京)	附録	四〇
玉造温泉	附録	五八
手向山八幡宮(奈良市)	附録	四七四
丹波市(大和)	附録	四八〇
丹那トネル	附録	三二四
淡水街(臺灣)	附録	七四
誕生寺(安房)	附録	六九
垂玉温泉(阿蘇)	附録	六六
大安寺址(大和)	附録	四七五
大連市	附録	七七三
大山寺(伯耆)	附録	五三二
大覺寺(京都)	附録	四二五
大德寺(京都)	附録	四一八
大田(朝鮮)	附録	七三三
大佛殿(京都方廣寺)	附録	四〇八
大極殿趾(大和)	附録	四七五
大雪山(北海道)	附録	六六五
大東岬(房州)	附録	七八
大石橋(滿洲)	附録	七六
大菩薩嶺	附録	五九
大邱(朝鮮)	附録	七三一
大福寺(駿州)	附録	三七四
大悲閣(京都)	附録	四一五
大猷院靈廟(日光)	附録	一六一
醍醐寺(京都)	附録	四三〇
太宰府神社	附録	六一一
太宰府趾	附録	六一一
太魯閣峽(臺灣)	附録	七一九
獄温泉(廣島縣)	附録	六
抱返り	附録	二二五
斷魚溪(島根縣)	附録	五三三
壇の浦(下關)	附録	五八八
談古嶺(屋島)	附録	五七〇
智恩院(京都)	附録	四一〇
智積院(京都)	附録	四〇八

知恩寺(百萬遍)	附録	四三〇
知多半島めぐり	附録	三八〇
知恩寺(丹後)	附録	五八
知取(樺太)	附録	六八五
知夫港(樺太)	附録	五三一
近文アイヌ部落	附録	六六四
齊々哈爾(滿洲)	附録	七八八
千倉鑛泉(房州)	附録	六八
千早城(大和)	附録	四五五
千葉市	附録	六五
銚子	附録	七七
銚子(小笠原)	附録	一五一
秩父神社	附録	六一
中禪寺湖	附録	一六二
中宮祠(日光、二荒山神社)	附録	一六三
中宮温泉(石川縣)	附録	一六三
中尊寺	附録	一九〇
鳥海山	附録	二二六
竹生島	附録	四四二
筑後川下り	附録	六二六
朝鮮神宮(京城)	附録	七三四
朝鮮陽(滿洲)	附録	八〇一
朝鮮陽(滿洲)	附録	七八四
朝鮮陽(滿洲)	附録	七八四
朝鮮陽(滿洲)	附録	七八四
長安寺(金剛山)	附録	七四一
長命寺(近江)	附録	四四六
長門峽	附録	五四四
長沙(支那)	附録	八一〇
頂妙寺(京都)	附録	四一七
茶臼山(大津市)	附録	四四五
茶臼山(大阪)	附録	四五四
青島(支那)	附録	八〇九
定山溪温泉(北海道)	附録	六六三
定義温泉(宮城縣)	附録	九
定義温泉(阿蘇)	附録	六六六
地獄谷温泉(信州)	附録	二六六
地獄谷温泉(伊豆式根島)	附録	一四七
津市	附録	三八六
杖立温泉(熊本縣)	附録	三
月尾島(朝鮮仁川)	附録	七三七
月ヶ瀬	附録	四六七
月ヶ瀬温泉(伊豆)	附録	一三一
月讀宮(伊勢)	附録	三九三
筑波山	附録	八〇
筑波町	附録	八〇
土浦町	附録	八〇
津田の松原(四國)	附録	五七一
津ノ宮(佐原)	附録	七五
葛温泉	附録	二〇〇
網島鑛泉(横濱市)	附録	三九
椿温泉(紀州)	附録	五〇九
燕岳(日本アルプス)	附録	三四八
燕温泉	附録	二七〇
壺坂寺(大和)	附録	四八二
敦賀町	附録	二九二
鶴岡市	附録	二二七
鶴ヶ岡八幡宮(鎌倉)	附録	九二
鶴舞公園(名古屋)	附録	三八五
鶴ノ温泉(小内内温泉)	附録	五七
逗子町(相州)	附録	九五
遼(滿洲)	附録	七九
通北(滿洲)	附録	七九〇
通化(滿洲)	附録	七九
九十九灣(能登)	附録	二八四
帝國大學(東京)	附録	二六
帝國大學(東北)	附録	一八四
帝國大學(京都)	附録	四二二
帝國大學(北海道)	附録	六六三

帝國議事堂(東京)	三五
皇室博物館(東京)	三三
逓信博物館(東京)	三四
鄭家屯(滿洲)	七七七
弟子屈溫泉(北海道)	六七九
鐵道博物館(東京)	二四
鐵舟寺	五六五
哲學堂(東京)	四三
照國神社(鹿兒島市)	六七
天使園(トラピスト修道院)	六六〇
天覽山(武蔵)	四三
天童溫泉	二二五
天王山(京都府)	四三三
天王寺公園(大阪)	四五四
天文臺(東京)	四一
天龍川下り	三六二
天龍寺(京都)	四二六
天理教會本部(大和)	四八〇
天滿宮(大阪)	四五三
天津(支那)	八〇八
傳通院(東京)	一七
傳法院(東京淺草)	一八
電氣博物館(東京)	二五
出羽三山	三三一
土ノ庄町(小豆島)	五〇
土肥溫泉(伊豆)	一三〇
土肥金山	一三一
東京科學博物館(東京)	三三
東京市復興記念館	二四
東京見物	一
東京天文臺	四一
東京驛	二五
東京株式取引所	二六
東京米穀商品取引所	二六
東京中央卸賣市場	二七
東京城(滿洲)	七九
東郷溫泉(鳥取縣)	附錄 二
東照宮(日光)	一五九
東照宮(久能山)	三六六
東尋坊	二九〇
東寺(京都)	四一五
東大寺(奈良市)	四七四
東福寺(京都)	四〇七
東洋民俗博物館(大和)	四七七
東萊溫泉(朝鮮)	七三一
東陵(滿洲)	七六六
唐招提寺(大和)	四七五
塘路湖(北海道)	六七九
遠刈田溫泉(宮城縣)	一七九
等持院(京都)	四一七
塔ノ澤溫泉(箱根)	一〇五
拇尾山高山寺(京都)	四二七
砥鹿神社	三三六
手向村(羽黒山麓)	三三一
吐月峯(柴屋寺)	三六九
湯岡子溫泉(滿洲)	七七六
桃園街(臺灣)	七〇五
洗南(滿洲)	七八七
とげぬき地藏(東京)	四五
常滑町(知多)	三八二
徳島市	五八一
徳本峠(日本アルプス)	三四六
徳壽宮(京城)	七三四
戸隠山・戸隠神社	二六九
戸倉溫泉(信州)	二六四
戸下溫泉(阿蘇)	六六六
利島(伊豆)	一四六
所澤飛行場	四三
栃木溫泉(阿蘇)	六二六
轟溫泉(宮城縣)	附錄 九

鳥取市	五三一
鳥取溫泉	五三一
鳥羽	三九四
鳥居峠(岳麓)	三〇九
鳥部山(京都)	四〇九
飛鳥(羽後)	二二六
鑛別溫泉(北海道)	六七九
泊居(樺太)	六八五
岡嶋(滿洲)	七八五
富岡町(天草島)	六四〇
富岡八幡社(東京府社)	一六
富岡溫泉(東京近郊)	四四
富山(松島)	一八七
富山市	二八二
富山の浦	五三八
豊川稻荷	三七五
豊橋市	三七五
豊原町(樺太)	六八四
豊島園(東京)	四三
瀨島峽(紀州)	五二二
十勝岳	六六八
十和田湖	一九五
十和田神社	一九七
堂ヶ島溫泉(箱根)	一〇七
堂ヶ島(伊豆)	二三八
土柱(四國)	五八〇
道成寺(紀州)	五〇六
道後溫泉(四國)	五四四
道頓堀(大阪)	四四
同江(滿洲)	八〇〇
洞爺湖	六七
洞爺湖溫泉	六七〇
洞庭湖(支那)	八一〇
訥河(滿洲)	八〇〇
吞龍上人	四六
敦化(滿洲)	七四四
トノノス山(東京近郊)	四四
トラピスト修道院	六六〇
直江津町	二七六
中津峽(奥秩父)	六一
中津市	六三三
中野溫泉(信州)	二六七
中ノ澤溫泉	三三八
中ノ島公園(大阪)	四三三
中の湯溫泉	三四六
中村町(四國)	五八五
中村公園(名古屋)	三八五
中山七里(飛騨)	三四七
中房溫泉(日本アルプス)	三四九
中山法華經寺(房州)	四八
長尾峠(箱根)	一一二
長尾鶏(四國)	五八四
長岡市	二七八
長岡宮趾(京都府)	四三三
長岡溫泉(伊豆)	一一八
長崎市	六二九
長篠古戰場	三七六
長田神社(神戸)	四六〇
長瀨(秩父)	六〇
長良川の鵜飼	三九八
長等山(近江)	二六七
名栗鑛泉(東京近郊)	四四四
名古屋城	三九二
名古屋屋敷	三九四
名護屋城趾(九州)	六二九
名來の關趾	八五
勿來の關趾	二五一
梨木鑛泉(赤城山麓)	四一四
梨木神社(京都)	四一四
那古寺(房州)	六七

花の寺(京都、勝持寺) 四三二
 羽田(東京、蒲田) 三三
 羽黒山(羽前) 三三
 羽衣の松(三保) 三六七
 羽村堰(奥多摩) 五六
 母島(小笠原島) 一五三
 波浮港(大島) 一四六
 濱名湖 三七一
 濱名湖畔の旅館 三七一
 濱松市 三三三
 濱村温泉(鳥取縣) 附録 一〇
 早戸温泉(福島縣) 附録 二二
 葉山町(相州) 九五
 原村の梅林(東京) 三九
 原鶴温泉(福岡縣) 附録 六
 針ノ木峠(日本アルプス) 三五〇
 春採湖(北海道) 六七三
 榛名山 二四三
 榛名湖 二四三
 榛名神社 二四四
 林温泉(九州) 六六
 林子平の墓 一八五
 哈爾濱(滿洲) 七九一
 哈爾濱(滿洲) 七八四

反射爐(伊豆、韭山) 二八
 半田町(知多半島) 三八〇
 半僧坊(方廣寺) 三三四
 磐梯山 三三六
 磐梯温泉 三三七
 磐石(滿洲) 七八六
 祖母谷温泉(黒部) 二九八
 萬里の長城 七九八
 芭蕉翁 四六六
 阪東十郎兵衛敷趾(徳島市外) 五八二
 阪東札所めぐり 附録 一六
 莫林廟(滿洲) 七九九

日吉神社(滋賀縣) 四四四
 比叡山 四三六
 彦根町 四四六
 英彦山神社 六二六
 東大谷(京都) 四一〇
 東谷温泉(黒部峽) 二九八
 東本願寺(京都) 四一五
 東山温泉 二二五
 水川の幽境(奥多摩) 五七
 飛行館模型室(東京) 二五
 附折温泉(山形縣) 附録 八
 人吉温泉(九州) 六二六
 檜原湖(磐梯山麓) 三二七
 被服廠跡(東京) 二六
 姫路市 五三四
 平磯町の旅館 八三
 平泉 一八九
 平湯海岸 八五
 平賀源内 五七一
 平野神社(京都) 四一四
 平島温泉(熊本縣) 附録 三
 平穩温泉郷 二六五
 平湯温泉(飛騨) 三四八
 平等院(宇治) 四三一

廣島市 五三九
 廣瀨神社(大和) 四七八
 弘前市 三三三
 琵琶湖 四四一
 表訓寺(金剛山) 七四一
 美女谷鑛泉(神奈川縣) 四九
 白虎隊墓 三三五
 百萬遍(京都知恩寺) 四三〇

福渡戸温泉(鹽原) 一七〇
 釜山(朝鮮) 七三一
 富錦(滿洲) 八〇〇
 富士山 三三三
 富士川 三三〇
 富士五湖めぐり 三〇五
 藤島神社(福井市) 二九三
 藤崎八幡宮(熊本市) 六三三
 藤田東湖の墓(水戸) 八三
 二子山(箱根) 一〇九
 二見浦(伊勢) 三九三
 二荒山神社(日光) 一六一
 二荒山神社(宇都宮) 一七五
 二俣ラヂオ温泉(北海道) 附録 三
 舟岡山(京都) 四一四
 船川(秋田縣) 三三〇
 船形觀音(房州) 六七
 船小屋温泉(福岡縣) 附録 四
 船原温泉(伊豆) 一三〇
 船津(富士山麓) 三〇九
 扶餘(滿洲) 七九九
 武甲山(秩父) 六一
 撫順(滿洲) 七七七
 撫順城(滿洲) 七六六

佛光寺(京都) 四一六
 佛生山(四國) 五七二
 佛國寺(朝鮮) 七三二

平安神宮(京都) 四〇六
 平泉(滿洲) 八〇一
 平壤(朝鮮) 七四五
 屏東(臺灣) 七二六
 辨天温泉(那須) 一七四
 辨天島 三三四
 辨天鳥(羽前) 三三九
 別所温泉(信州) 二六四
 別府 六二〇
 北平(支那) 八〇八

豐國神社(京都) 四〇六
 北安(滿洲) 七九〇
 北投温泉(臺灣) 七〇三
 北票(滿洲) 八〇一
 方廣寺(奥山半僧坊) 三七四
 方廣寺(京都) 四〇八
 鳳來峽 三七六

鳳來寺 三三六
 鳳來山 三三六
 伯耆大山 五三三
 奉天(滿洲) 七七八
 法隆寺(大和) 四七七
 法華寺(大和) 四七五
 法華經寺(房州中山) 四八八
 法師温泉(上州) 二四八
 法輪寺(京都) 四三六
 星ヶ浦(滿洲) 七七五
 星野温泉(信州) 二六三
 發哺温泉(信州平穩) 二六六
 最御崎寺(四國) 五八三
 保田(房州) 六六七
 保津川下り 四三七
 報徳二宮神社(相州) 一一三
 寶登山(秩父) 六〇
 佛ヶ浦(青森縣) 二〇七
 穂高岳(日本アルプス) 三九九
 穂波温泉(信州平穩) 二六六
 埔里(臺灣) 七〇七
 堀田温泉(別府) 六三三
 堀切の菖蒲(東京) 四五
 幌内川(樺太) 六八五

本溪湖(滿洲) 七七一
 本園寺(京都) 四一六
 本門寺(東京池上) 三八
 本斗町(樺太) 六八四
 本渡町(天草島) 六三九
 本能寺(京都) 四一六
 本妙寺(熊本縣) 六三
 本隆寺(京都) 四一七
 澎湖島 七七八
 望月寺(朝鮮) 七三六

マ

舞子 五三三
 眞岡町(樺太) 六八四
 眞賀温泉(岡山縣) 附録 一〇
 眞胸内種畜場(札幌) 六六三
 眞野町(佐渡) 二七五
 眞野宮(佐渡) 二七五
 眞野山西明寺(京都) 四三七
 横尾山(島根縣) 五九
 枕木山(島根縣) 一八四
 政岡の墓(仙臺) 七四
 間島(滿洲) 七四
 魔周湖(北海道) 六七八
 馬公街(臺灣) 七八

増富鑛泉(山梨縣) 三三七
 松江市 五三七
 松尾神社(京都府) 四三四
 松尾芭蕉翁 四六六
 松崎町(伊豆) 一三七
 松崎温泉(鳥取縣) 附録 一三
 松島 一八六
 松の湯温泉(上州) 二四七
 松原湖 二六三
 松本市 三五
 松山市 五七三
 松山温泉(北海道) 六六七
 前橋市 二五二
 丸龜市 五七三
 丸沼温泉(上州) 一六六
 丸子ラヂウム鑛泉 三六九
 丸子町 三三四
 丸ノ内ビルディング(東京) 二五
 圓山公園(京都) 四二
 摩訶耶寺 三三四
 摩尼寺(鳥取縣) 五二
 摩耶山(神戸) 四六〇
 萬座温泉(上州) 二六二

萬福寺(大和) 四三一
 萬福寺(出雲) 五三〇
 滿洲里 七九五
 萬壽山(支那北京) 八〇九

三井寺 四四三
 三浦半島遊覽 八九
 三笠艦 九四
 三笠山(奈良) 四七四
 三方湖 二九三
 三方ヶ原古戰場 三三四
 三國港 二九一
 三國峠(上州貝掛温泉の項) 二五〇
 三崎町(相州) 九五
 三朝温泉 五三三
 三島町(伊豆) 一三八
 三島神社(伊豆) 一三九
 三島角(九州) 六〇〇
 三ツ峠 三〇九
 三峯神社(秩父) 六一
 三津(伊豆) 一三八
 三原山(大島) 一四五
 三保の松原 三六七
 三室戸寺(大和) 四三一
 三尾の紅葉(京都) 四三六

三宅島(伊豆) 一四七
 彌陀窟(伊豆) 一三七
 御藏島(伊豆) 一四七
 御嶽(武蔵) 五六
 御嶽昇仙峽 三九
 瑞牆山(甲州) 三七
 水澤町 一九二
 水戸市 九二
 水無瀬宮(京都) 四三三
 水若酢神社(隱岐) 五三三
 湊川神社(神戸) 四九九
 南部の梅林(紀州) 五〇六
 峯温泉(伊豆) 一三三
 箕掛島(伊豆) 一三七
 見殘岬(四國) 五八七
 身延山(久遠寺) 三三〇
 身延山關東別院(東京) 三九
 身延町 三三一
 箕面公園 四五六
 壬生寺(京都) 四一六
 壬生狂言(京都壬生寺) 四一六
 耳成山(大和) 四八二
 都踊(京都) 四三三
 美保關 五九
 美保神社 五八
 美幌峠(北海道) 六七七

宮崎市 六一九
 宮崎神宮(宮崎市) 六一九
 宮島(嚴島) 五四二
 宮田村(天草島) 六四〇
 宮地町の旅館 六一五
 宮津町(丹後) 五七
 宮ノ下温泉(箱根) 一〇六
 妙吉祥(金剛山) 七四二
 妙高山 二五二
 妙高温泉 二六九
 妙高山 二七〇
 妙高寺(豊川稻荷) 二七〇
 妙心寺(京都) 三三五
 妙顯寺(京都) 四一七
 妙傳寺(京都) 四一七
 妙法山(紀州) 五一
 妙法寺(東京) 四一
 妙法院(京都) 四〇八
 妙蓮寺(京都) 四一六
 妙蓮寺(京都) 四一七
 明神池(日本アルプス) 三六六
 明神崎(岩手縣) 一九二
 明礬温泉(別府) 六三三
 明の十三陵(支那) 八〇九

夢絃 峽(伊賀)	四六六
向洞 翁(北海道)	六七一
武甲 山(秩父)	一五三
武藏 温泉(九州)	六一
武藏 嵐山(埼玉縣)	四七
六 少 島	五四七
宗像 神社(九州)	六〇九
宗忠 神社(黒住教)	五三六
村上 町(越後)	二二九
村杉 温泉(新潟縣)	附録 八
村山 貯水池(東京府)	四二
紫 野(京都)	四一九
室 生 寺	四八八
室 戸 町	五八二
室 戸 町	五八三
室 蘭 市	六六九
霧 社 事 件	七〇八
霧 社 事 件	七〇九
撫養 町(四國)	五八一
雌阿寒 温泉(北海道)	六七六
明治 神宮	一四
明治 温泉(信州)	附録 一〇
目黒 不動尊(東京、瀧泉寺)	三六

女木 島(讃岐)	五六八
毛 越 寺(平泉)	一九一
最上 温泉(山形縣)	附録 二二
木喰 上人遺跡	三三〇
百草 園(東京府)	四〇
元 泊(樺太)	六八五
元 村(伊豆大島)	四六
元 箱 根	二二
元 伊勢 宮	五九
元 湯(鹽原)	一七一
本 栖 湖(富士五湖)	三一
紅葉 谷 温泉(北海道)	附録 三
桃山 御陵	四八
桃山城 址	四九
森ヶ崎 鑛泉(東京大森)	三七
盛岡 市	一九三
師崎 町(知多半島)	三八
門前 温泉(鹽原)	六〇九
門前 温泉(鹽原)	一七一
野 猿 谷(甲州)	三六
矢口 の 渡(東京)	三九
矢熊 温泉(伊豆)	一三〇

矢祭 山	八四
箭 島(佐渡)	二七六
藥 師 寺(大和)	四七五
藥 王 院(高尾山)	四九
燒 岳(日本アルプス)	三三七
燒 山(十和田)	一九八
藥 研 温泉(青森縣)	二〇七
八重垣 神社(松江)	五三八
八代村 的 鶴	五三三
八 栗 寺(京都)	四二一
八 事 山(名古屋)	三三〇
八坂 神社(京都)	四〇六
八幡 塔(京都)	四〇九
八幡 温泉(那須)	一七四
屋 島(四國)	五六九
屋 島 寺(四國)	五七〇
靖國 神社(東京)	一五
安田 邸園(東京)	二〇
休 屋(十和田)	二〇四
谷津 温泉(伊豆)	一三三
谷川 温泉(福島縣)	附録 七
谷村 町(甲州)	三〇八
柳津 虚空藏(會津)	三三八
耶 馬 溪	六二四
彌彦 神社(越後)	二七七

藪塚 鑛泉(群馬縣)	四六
槍ヶ岳(日本アルプス)	三九
山鹿 素行 生誕地 碑	三三五
山形 市	二二三
山口 貯水池(東京府)	四三
山崎 聖天(京都府)	四三三
山 寺	二二四
山中 湖(富士五湖)	三〇七
山中 温泉	二八八
山代 温泉	二八八
山田 温泉(信州)	二六七
山田 温泉(富山縣)	附録 五
山野 温泉(廣島縣)	五三八
山邊 温泉(信州)	三五三
山之 湯 温泉(鹿兒島縣)	附録 六
湯河原 温泉(伊豆)	二四
湯川 温泉(紀州)	五〇
湯ヶ島 温泉(伊豆)	一三一
湯ヶ野 温泉(伊豆)	一三三
湯ヶ野 温泉(紀州)	五〇七
湯澤 の 噴泉 塔(奥日光)	一六五
湯澤 温泉(越後)	二五〇
湯 島 温泉(天草)	六四〇
湯 島 温泉(上州)	二四八

湯島 天神(東京)	一六
湯宿 温泉(上州)	二四七
湯田 温泉(山口市)	五四四
湯田川 温泉(羽前)	二三八
湯田中 温泉(信州平穩)	二六五
湯谷 温泉(富山縣)	附録 七
湯殿 山(羽前)	三三二
湯西川 温泉(栃木縣)	一六五
湯の 峯 温泉(紀州)	五三
湯の川 温泉(北海道)	六五七
湯ノ川 温泉(島根縣)	附録 八
湯田中 温泉(富山縣)	附録 七
湯の 谷 温泉(阿蘇)	六六
湯の 原 温泉(大分縣)	一〇
湯の 元 温泉(鹿兒島縣)	附録 八
湯の 尾 温泉(鹿兒島縣)	附録 四
湯の 平 温泉(大分縣)	附録 五
湯の 平 温泉(上州)	二四五
湯の 岱 温泉(秋田縣)	附録 五
湯の 網 温泉(茨城縣)	附録 二
湯の 浦 温泉(熊本縣)	附録 二
湯の 小屋 温泉(上州)	二四九
湯の 花 温泉(上州)	二四九
湯の 花 澤 温泉(箱根)	一〇九
湯の 子 温泉(熊本縣)	附録 七
湯の 山 温泉(伊勢 孤野 温泉)	三六六
湯之 湖(日光)	一六四

湯野 温泉(飯坂)	一七七
湯野 濱 温泉(羽前)	二三八
湯出 温泉(熊本縣)	附録 三
湯原 温泉(上州)	二四八
湯濱 温泉(宮城縣)	附録 二
湯 場(伊豆大島)	一四六
湯檜 曾 温泉(上州)	二四九
湯本 温泉(箱根)	一〇五
湯本 温泉(那須)	一七三
湯本 温泉(長州)	五三七
湯村 温泉(甲府)	三三八
湯村 温泉(兵庫縣)	附録 三
湯村 温泉(島根縣)	附録 四
湯村 温泉(石川縣)	附録 九
湯津 温泉(島根縣)	附録 四
湯比 ヶ 濱 温泉(鎌倉)	九三
由比 院(別府)	附録 五
由良 町(淡路)	五五二
遊行 寺(相州 藤澤)	九四
遊就 館(東京)	二二
夕張 炭坑(北海道)	六七三
熊 岳 城(滿洲)	七四六
雄 基(朝鮮)	七四四
楡 岫 寺(金剛山)	七四二
楡 岫 屯(滿洲)	七九〇

ヨ
 横濱市……………八六
 横川温泉(伊豆)……………一三三
 横須賀市……………九四
 吉岡温泉(鳥取縣)……………七
 吉崎御坊……………二九〇
 吉田(富士山麓)……………三〇八
 吉田神社(京都)……………四〇七
 吉奈温泉(伊豆)……………一三三
 吉野川下りと鮎狩……………四八八
 吉野神宮……………四八六
 吉野朝皇宮跡……………四八七
 吉野山……………四八六
 吉野梅林……………五八
 吉見百穴(埼玉縣)……………四七
 吉峯寺……………四三三
 米子市……………五三三
 米澤市……………二二〇
 頼朝駒止の櫻(岳麓)……………三一
 養老公園……………三九九
 養源院(京都)……………四〇八
 要法寺(京都)……………四一七
 ラ
 頼山陽書齋(京都)……………四一九
 樂々園(武州)……………五八

リ
 羅漢寺(耶馬溪)……………四一九
 羅生門跡(京都)……………四一九
 羅津港(朝鮮)……………七四四
 蘭越新見温泉(北海道)……………八
 喇嘛廟(熱河省)……………八〇三
 栗林公園(四國)……………五六八
 立願寺(熊本縣)……………附録
 立本寺(京都)……………四一七
 輪王寺(日光)……………一五九
 臨濟寺(静岡市)……………三六八
 龍河(四國)……………五八四
 龍華……………三六五
 龍口……………九四
 龍山(片瀨)……………七三六
 龍神温泉(紀州)……………五〇六
 龍井(滿洲)……………七五五
 旅順(滿洲)……………七五五
 靈山(福島縣)……………一七七
 靈山寺(四國)……………五八〇
 兩神山(奥秩父)……………六二
 兩津町(佐渡)……………二七四
 了仙寺(伊豆下田)……………一三六
 遼陽(滿洲)……………七七七
 遼原(滿洲)……………八〇一

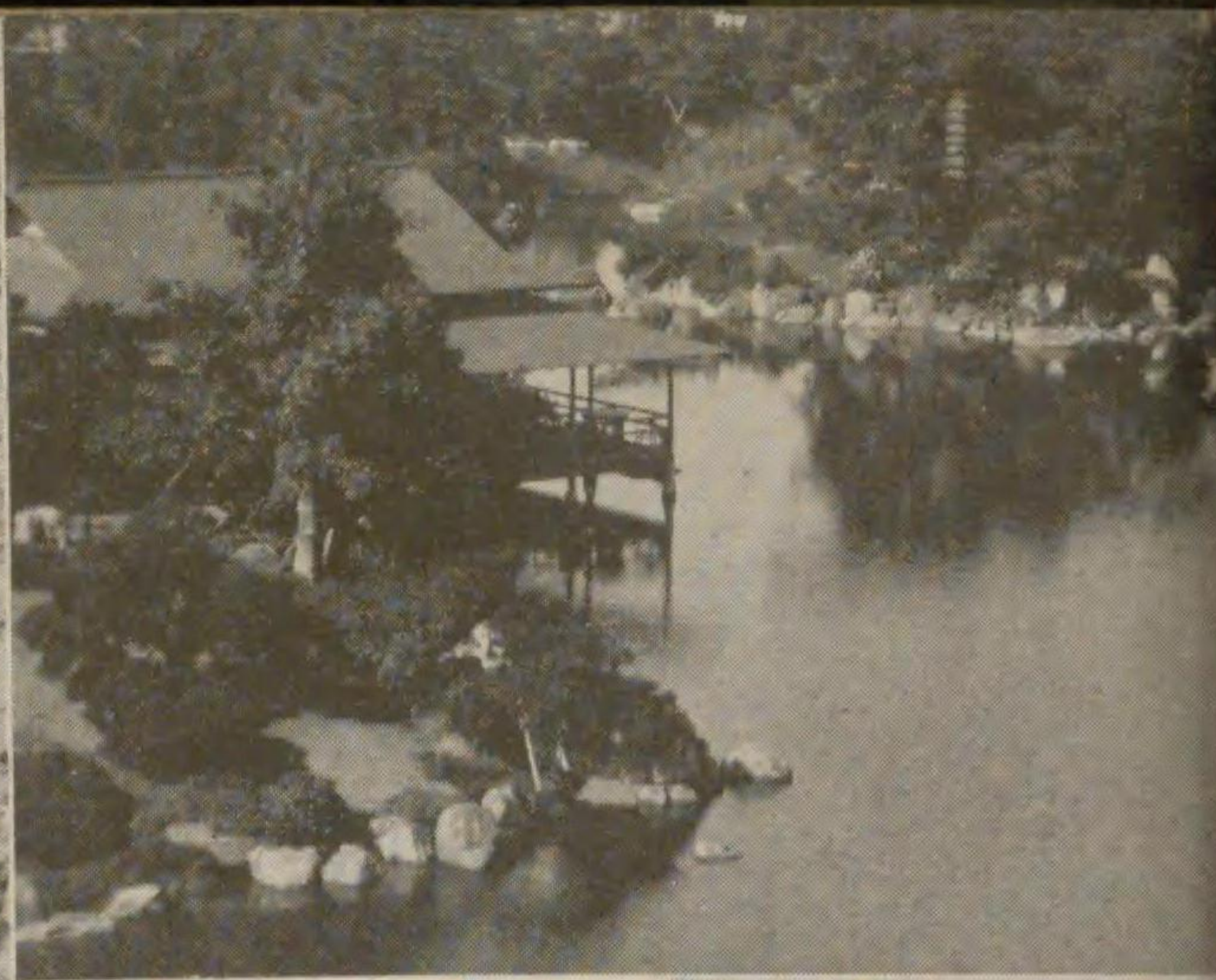
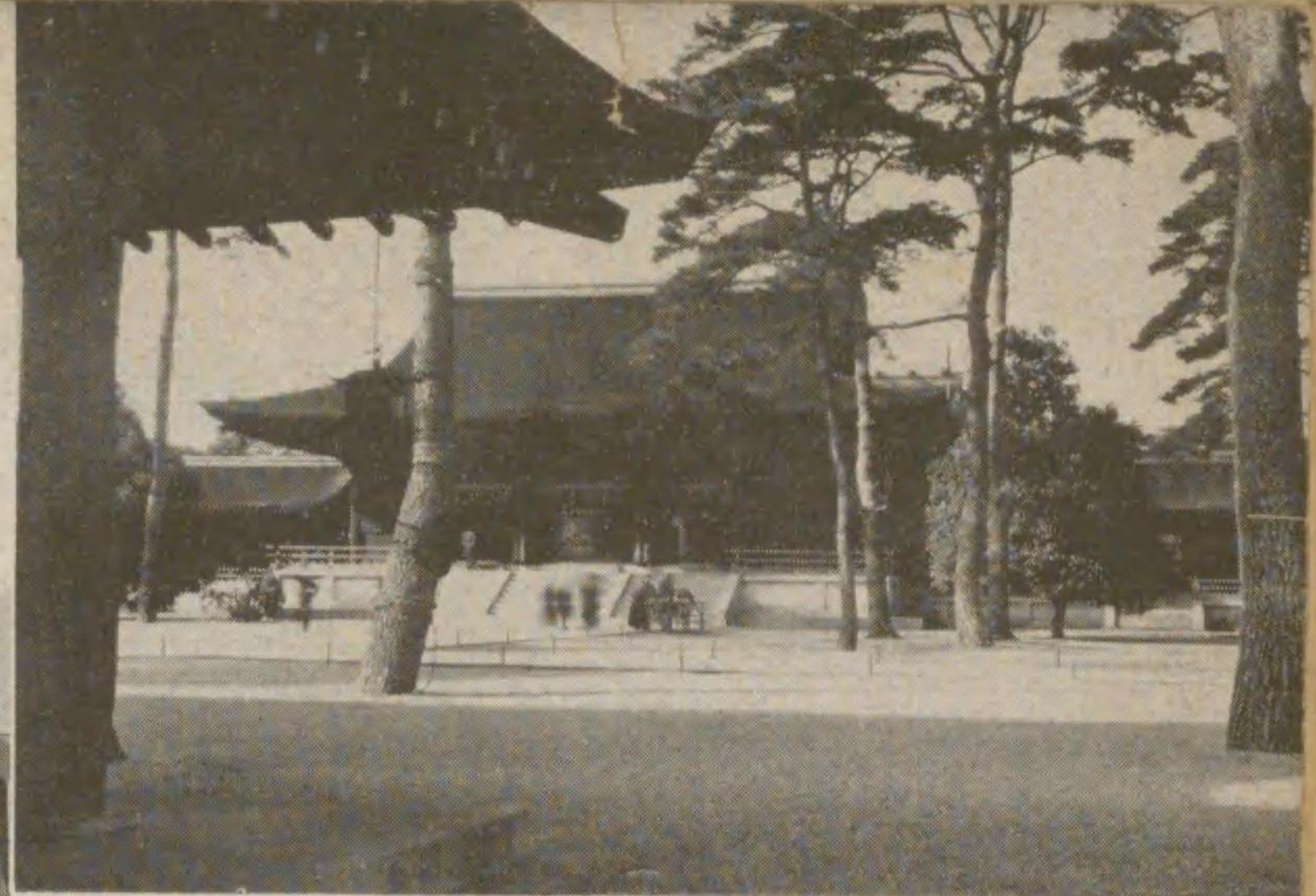
レ
 靈泉寺温泉(信州)……………附録
 蓮華王院(三十三間堂)……………四〇七
 蓮臺寺温泉(伊豆)……………一三四
 六甲山……………四九七
 六波羅密寺(京都)……………四〇九
 六角堂(京都頂法寺)……………四一七
 勝山(支那)……………八〇九
 老虎灘(大連郊外)……………七七五
 老頭溝(滿洲)……………七六四
 若松市……………三五
 和歌山市……………四九六
 和歌浦……………四九七
 和倉温泉……………二八四
 和田峠……………三三四
 和鹿野(志摩)……………三九四
 和琴温泉(北海道)……………六八八
 輪島町(能登)……………二八六
 稚内町(北海道)……………六八〇
 鷺ヶ峯……………三三四
 鷺羽山(岡山縣)……………五三六
 ワ
 六波羅密寺(京都)……………四九七
 六角堂(京都頂法寺)……………四一七
 勝山(支那)……………八〇九
 老虎灘(大連郊外)……………七七五
 老頭溝(滿洲)……………七六四
 若松市……………三五
 和歌山市……………四九六
 和歌浦……………四九七
 和倉温泉……………二八四
 和田峠……………三三四
 和鹿野(志摩)……………三九四
 和琴温泉(北海道)……………六八八
 輪島町(能登)……………二八六
 稚内町(北海道)……………六八〇
 鷺ヶ峯……………三三四
 鷺羽山(岡山縣)……………五三六



城前弘の櫻

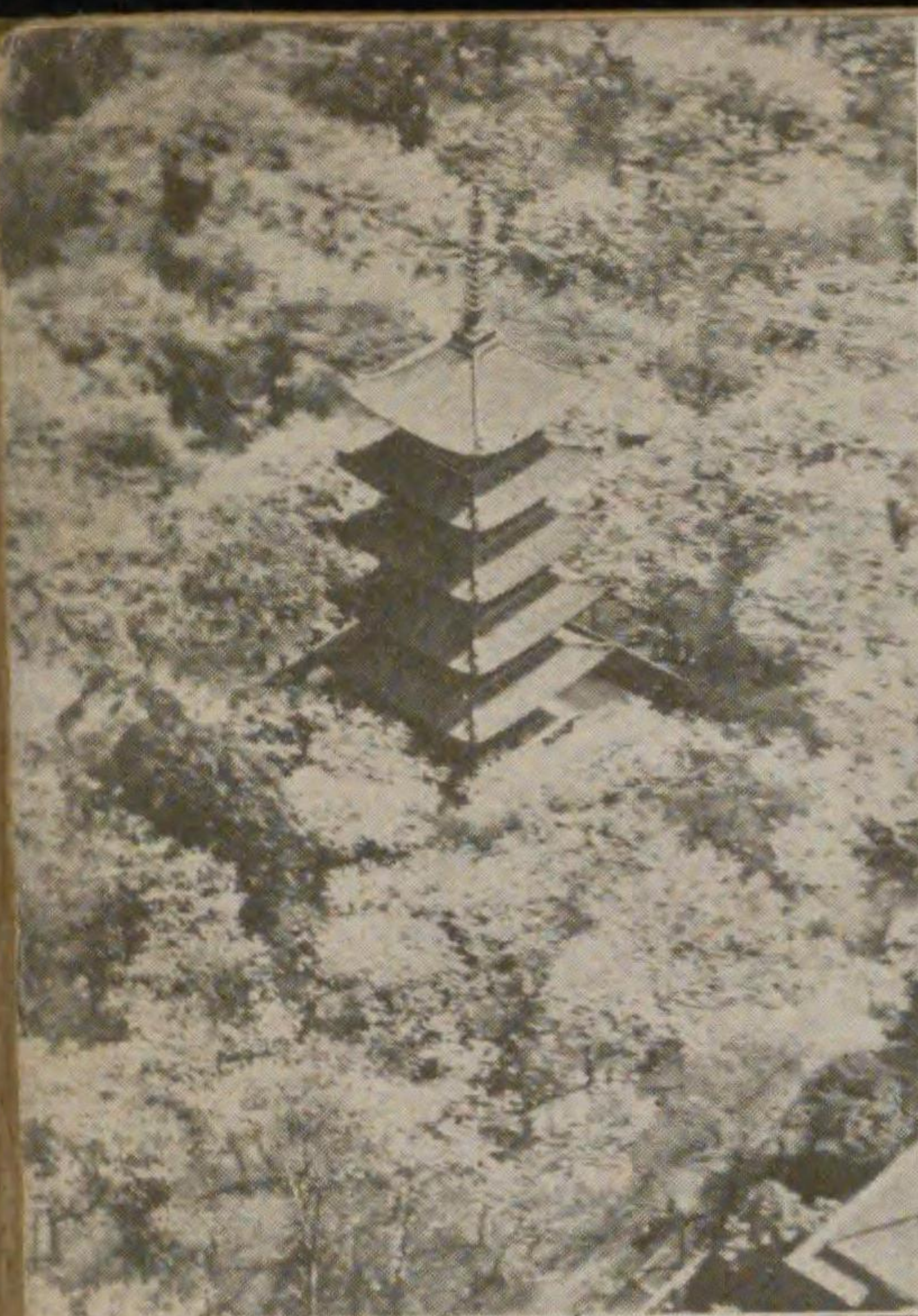
東京

右、明治神宮拜殿



上、深川
清澄公園

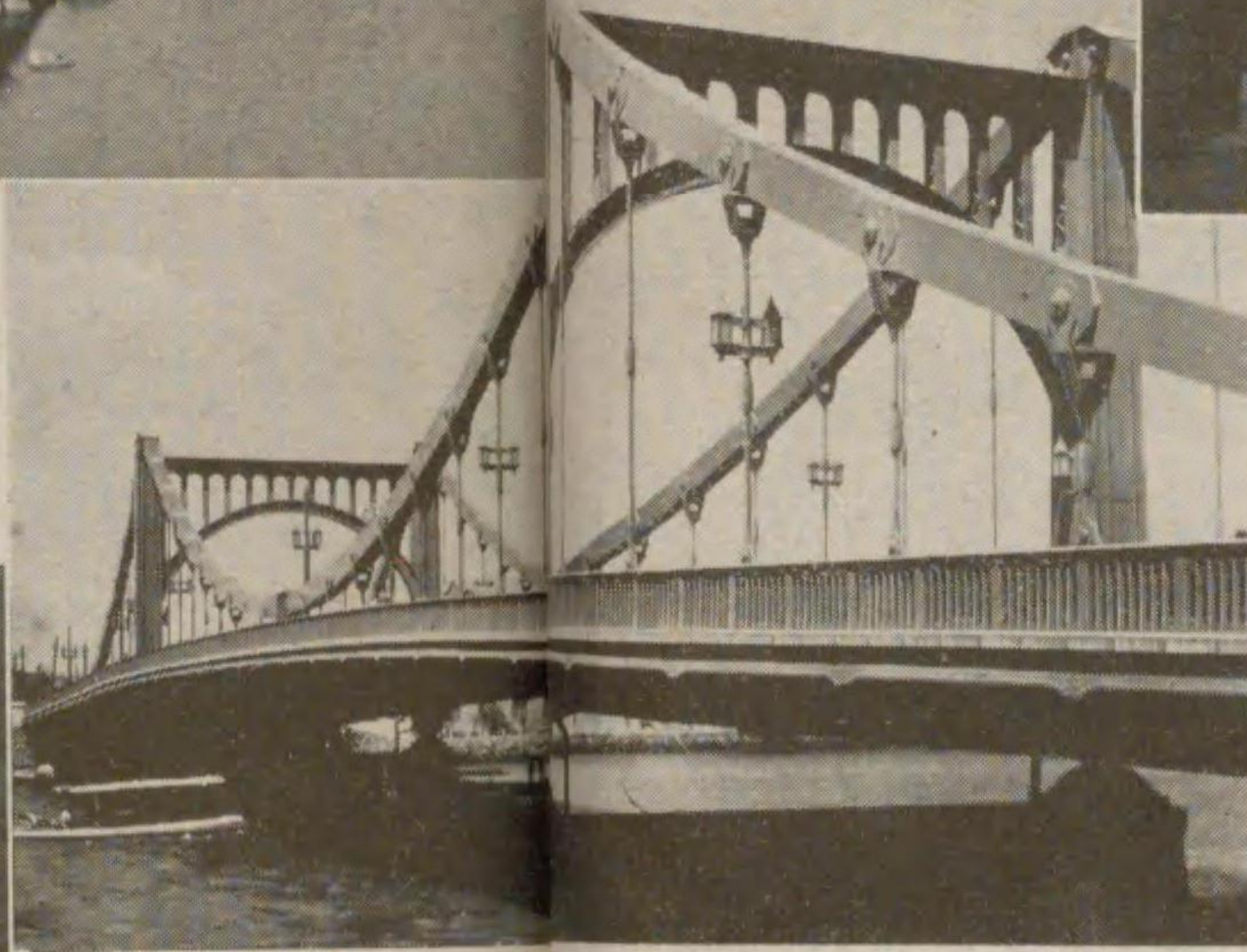
左、花の
上野山



右、櫻田門より新議事堂を望む
下、飛行機より東京驛を見下す



橋洲清・上

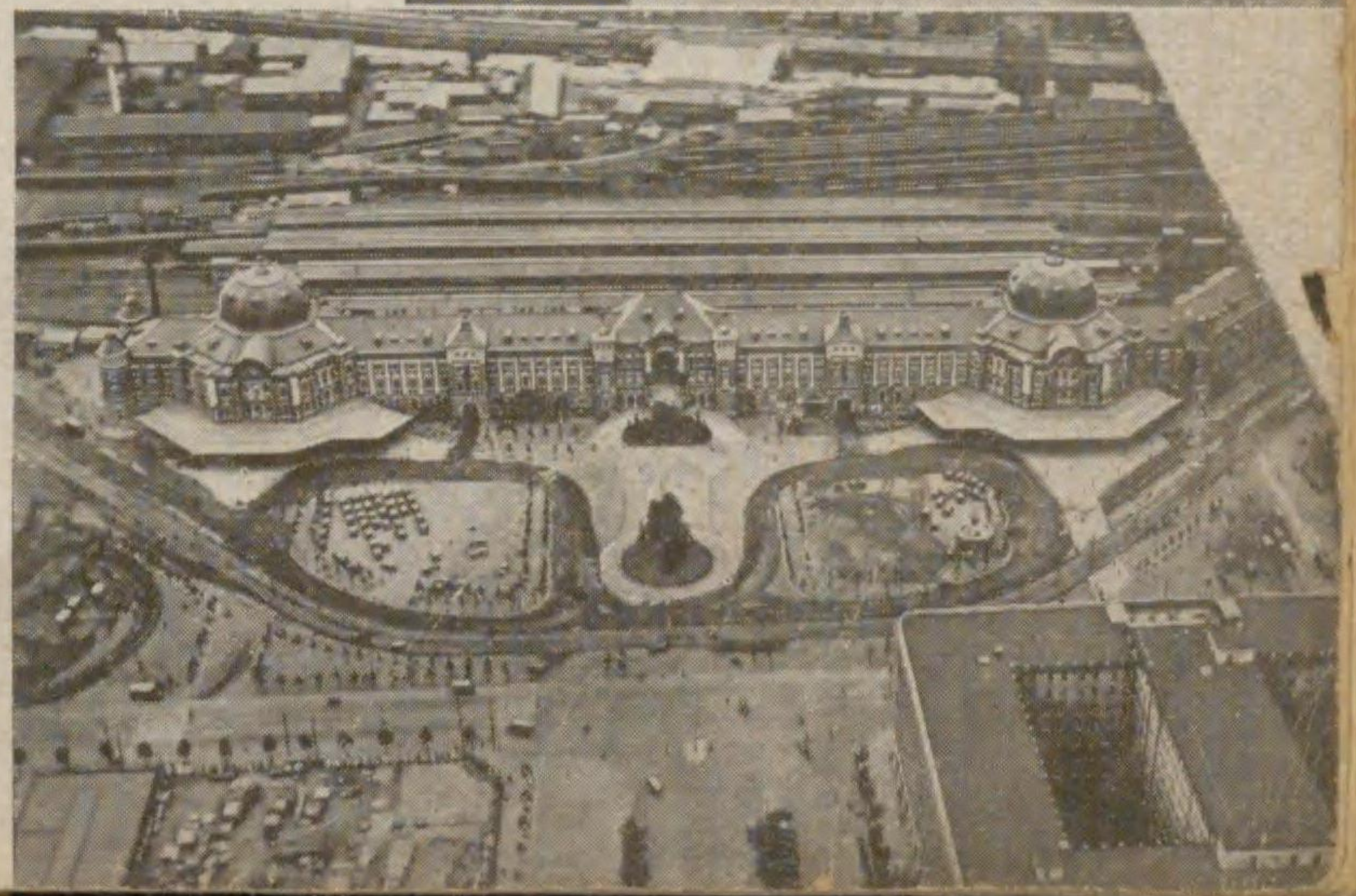


堂音觀草淺・左



下、銀座カフェ街の夜

左、歌舞伎座のぼね



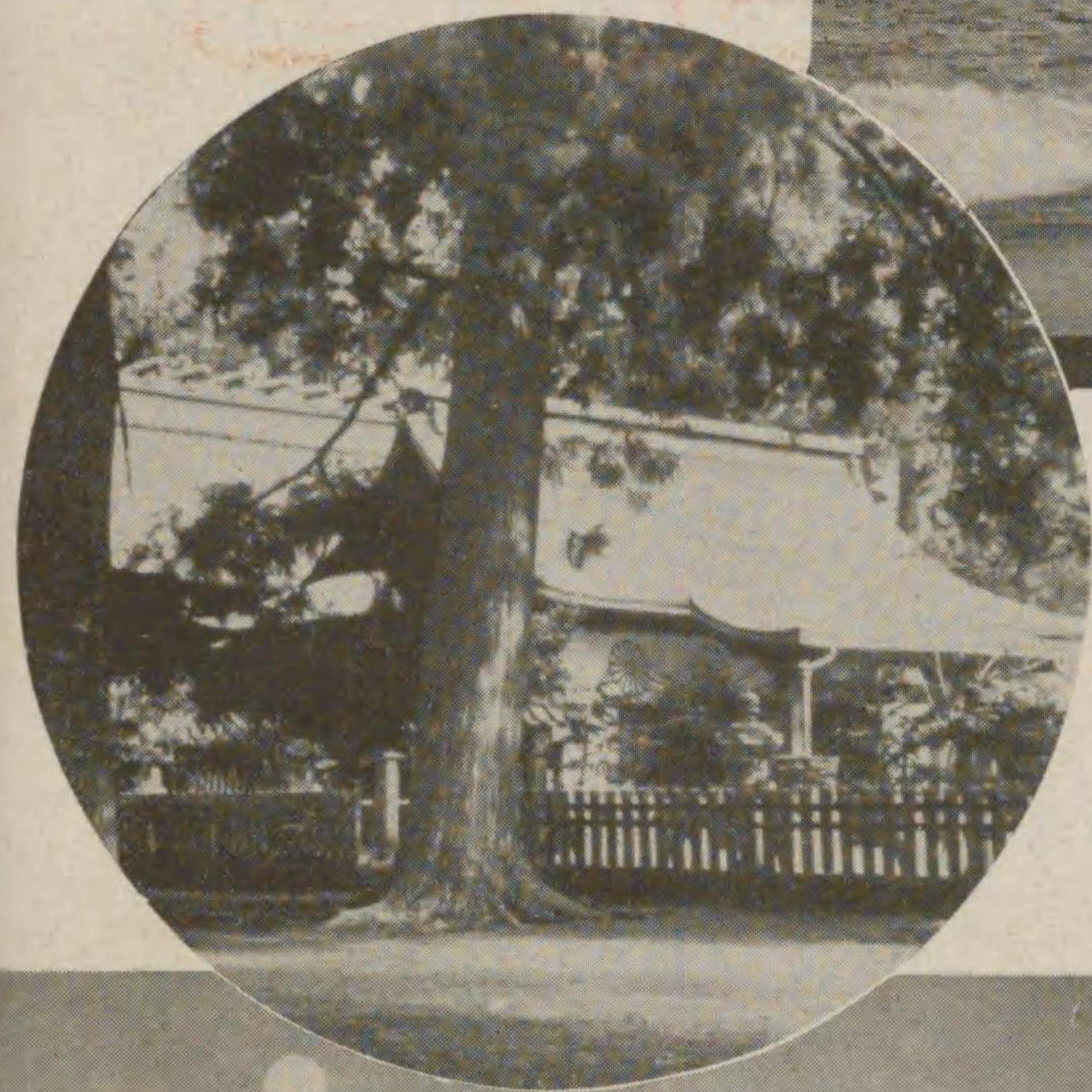
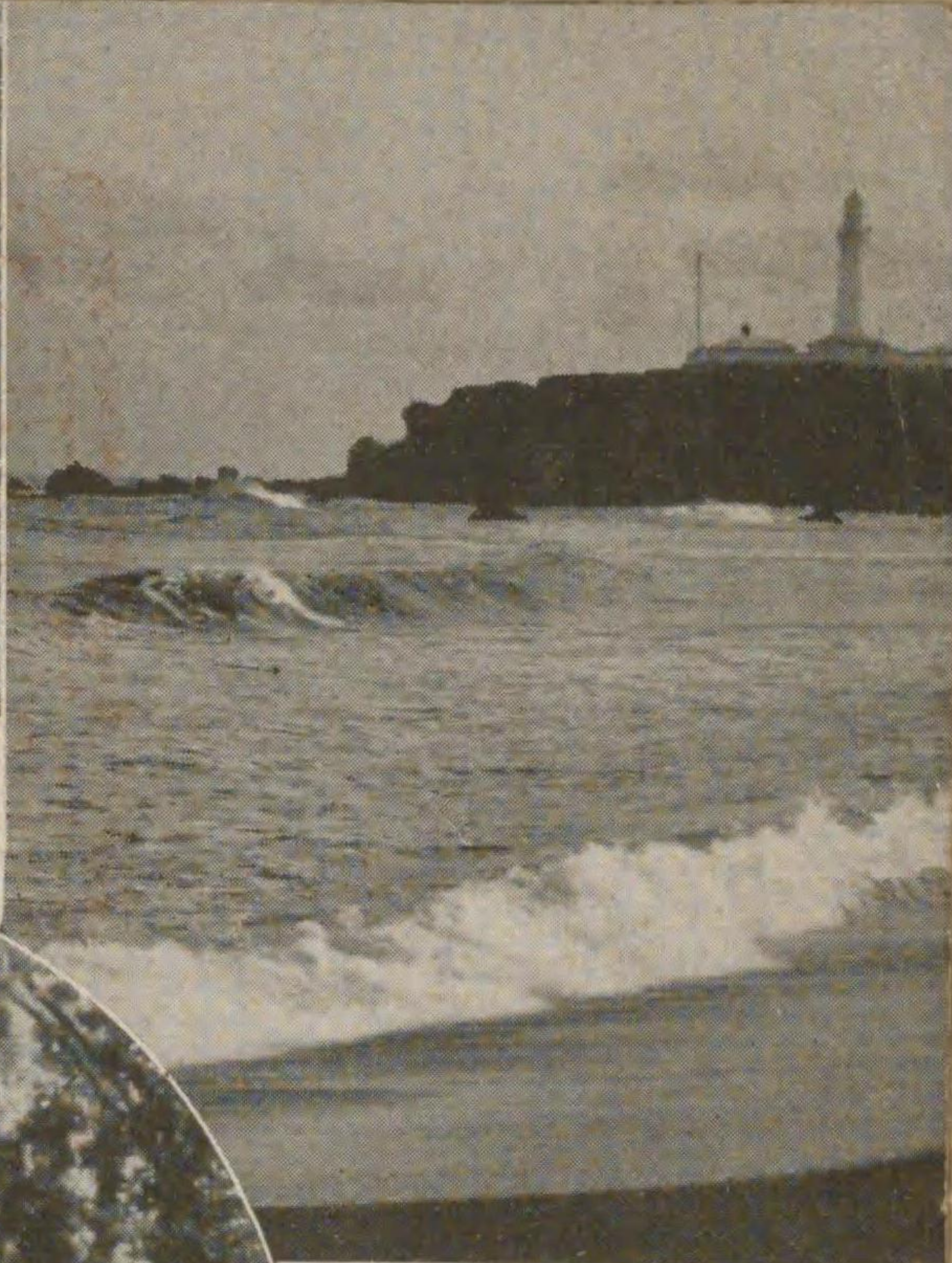
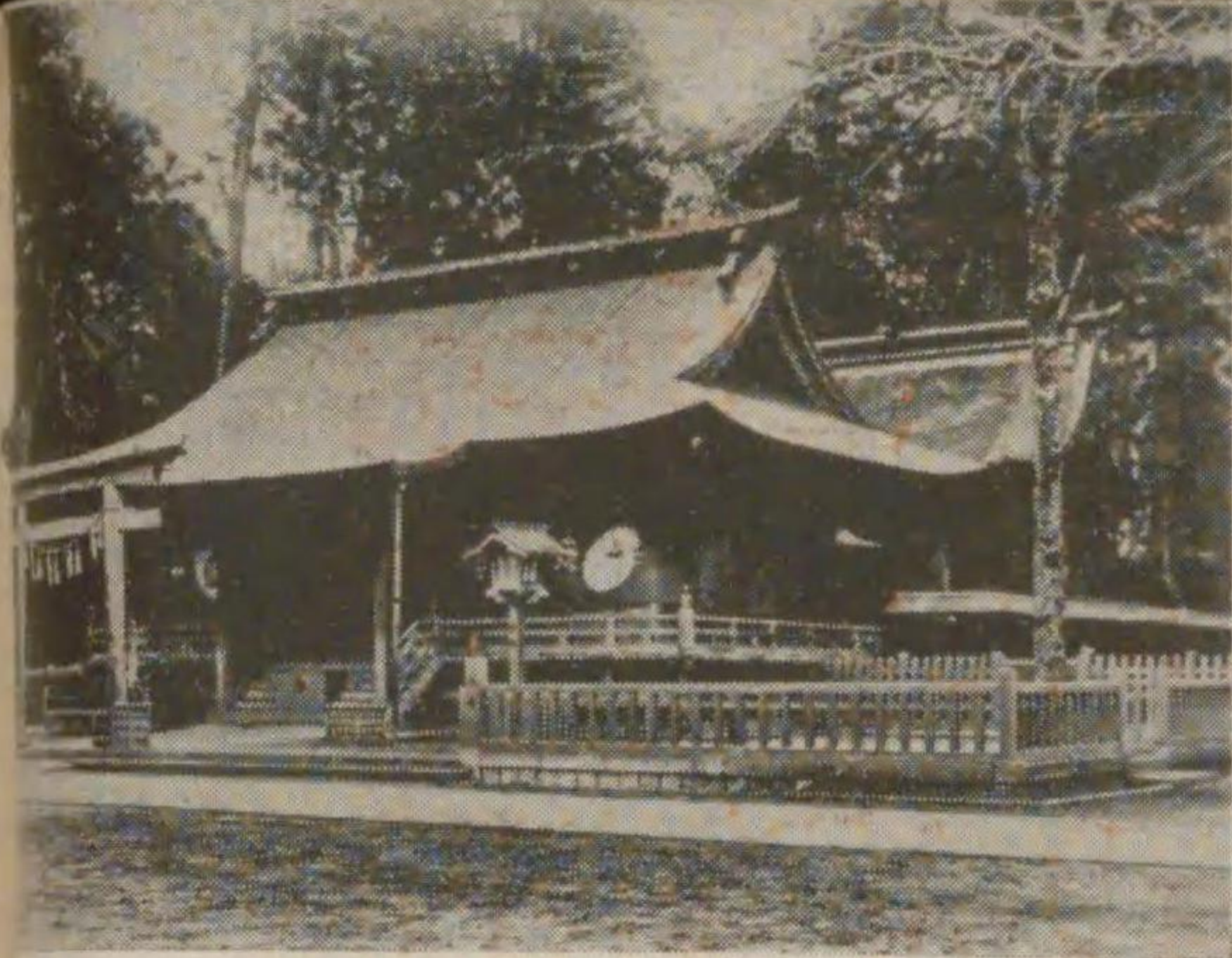
東京市

東京市は關東地方の南部、武蔵野臺地(註一參照)の東端が太平洋岸の一大内海たる東京灣の北岸に臨んでゐるところに位置し、その位置、わが國のほぼ中央に位置し、百貨の集散並に中央集權の爲政上、極めて便利な位置を占めて居るのみならず、背後には天産豐饒な關東大平野を擁し、交通の至便と相俟つて帝國の國際關係の中樞をなしてゐる。

市は地勢概ね平坦にして隅田川に跨がり、荒川放水路及江戸川その東部を流れ、多摩川は市の西南部を灌漑してゐる。昭和七年一月一日、多年の懸案であつた大東京都市計畫案が實現するに至り、舊市域に隣接せる五郡六〇ヶ町三十二村を併合せる結果、面積五五〇方呎二四八(舊市域八一方呎二九、新市域四六九方呎二九)、人口四、九七〇、八三九人(舊市域二、〇七〇、九二八、新市域二、九〇〇、九〇一、以上昭和五、一〇四調。昭和九年一月推計人口は五、六六三、三五〇人、町數大略二、二〇〇町を有するに至り、わが邦第一の大都市たるは勿論、世界に於てもその人口に於て第二、地域の廣大なること第五の地位を占むる事となつた。(註二參照)

舊市域は主として所謂江戸時代からの市街地で、行政上之を麴町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・小石川・四谷・牛込・本郷・下谷・淺草・本所・深川の一五區に分つが、地形上臺地部と低地部とに分たれ、西部の低き臺地部を山手、東部沿海の低平地を下町と一般に通稱してゐる。山手の手は即ち武蔵野臺地の東端に附した名稱で、高さ二〇―三五米内外の臺地をなし(最高は四谷區旭町の三五米四)、その間、

東京



房總方面

上右、銚子犬吠崎燈臺
上左、鹿島神宮
中、香取神宮
下、月夜の水郷

所々に狭長な谷地を挟み、一高一低相交つて波狀を呈し、その丘陵地はまた風光の美に富んでゐる。即ち愛宕山、品川神社、九段上、目白臺、湯島天神、上野公園、日枝神社、道灌山、飛鳥山等は皆丘陵の位置を占めて眺望の勝地として知られてゐる。麻布、芝、四谷、赤坂、牛込、本郷、麴町各區の大部分が所謂山の手に屬し、全市の約三分の二を占め、官衙や勤め人の住宅が多い。之に反し下町は荒川沿ひの低地に發達した部分、即ち前記武蔵野臺地の堆積後、更新期の終りに起つた地變の一大現象たる東京灣の陥没に起因する沖積層で(最低は本所區向島押上町の〇・九米)東京灣没地帯の北邊は利根川に沿うて遙に北し、一方は鬼怒川流域にも及んでゐるが、今の下町區域は當時は海水に蔽はれてゐた所である。現に河邊及海濱に堆積しつゝある新地層であつて、多く人工運河を縱横に通じ本所、深川、淺草、下谷、日本橋、京橋等の各區が之に含まれてゐる。主に商工業地域で商店軒を連れ、工業もまた盛に行はれてゐる。

新市域は、舊市域の東北西に隣接する北豊島・品川・荏原・豊多摩・南葛飾の五郡八二ヶ町村の地域で、昭和七年一月一日永年の懸案であつた「都市計畫」の實現を見るに當り、新に東京市に併合せられたところで、行政上之を品川・目黒・荏原・大森・蒲田・世田谷・澁谷・澁橋・中野・杉並・豊島・瀧野川・荒川・王子・板橋・足立・向島・城東・葛飾・江戸川の二〇區に分つてゐる。

舊市域はもと江戸と稱し、鎌倉時代に秩父重弘の子重綱と云ふもの江戸太郎と稱し、此の地に占據するに始まると云ふ。江戸太郎は源頼朝に仕へた事が吾妻鏡にも見え、爾來江戸氏は南北朝の頃まで此の地に土着し、その館は後の

江戸城の附近にふつたと云ふ。その後室町時代には上杉氏の領地となり、その將太田道灌が後花園天皇の長祿元年四月(紀元二二一七年、昭和八年より四十六年の昔)初めて城を此の地千代田、實田の里に築いてこれに據つたが、大永四年(紀元二一八四年)北條氏の有に移つた。天正一八年(紀元二二五〇年)豊臣秀吉北條氏を滅し、その舊領關東を徳川家康に與へたので、家康は江戸を居城とした。慶長八年(紀元二二六三年)家康は征夷大將軍となり、初めて江戸幕府の幕を開くに及び、江戸は富と權力の中心となり、大小の諸侯各々邸宅を構へ、また市民の集まるもの多く、次第に繁華の地となり、終に八百八街の稱(註三参照)あるに至つた。家康から第一五代の慶喜の將軍職を解くに至るまで實に二六五年、明治元年七月一七日(紀元二五二八年)東京と改稱され、同一〇月一三日車駕東幸、皇居を奠め給ひ、帝國の首府となつた。明治維新の變亂に際しては一時衰頹したが、その後年を逐ふて再び繁榮を來し、わが國に於ける政治、軍事、經濟、學藝等百般の中心地となり、殊に大正一一年(紀元二五八三年)の關東大震災を一轉期として區劃の大整理行はれ(註四参照)名實共に世界主要都市の一として數へられてゐる。

(註一) 武蔵野臺地は、一方多摩川と他方荒川及びその支流越邊川との間に挟まつてゐる第四紀層の緩波狀の臺地で、基盤は第三紀層でその上を洪積層が蔽ひロームが主として表層をなしてゐる。所謂赤土と名づけられるものは、關東地方特有のものである。臺地はその西端の關東山塊に接する所が最も高く、標高一二〇米に達するが、東及北に向つて次第に低下し、大東京の部分では二〇一五〇米を示してゐる。

(註二) 世界大都市の面積及人口

Table with 4 columns: City Name, Area, Population, and Year. Includes cities like London, New York, and Tokyo.

東京見物日程案 (五種)

帝都として百般の施設が充實し、近代文化の豪華な壯觀を誇る東京は、また江戸・明治・大正・昭和の豊富な史蹟を加へて探るべき名所史蹟が餘りにも多い。殊に大東京となつてからは世界第二位の人口と東西、南北各八里の廣大な地域を擁するので、東京見物に來て眞實の東京を知るには相當の長い日数を要するのである。只單に代表的な名所史蹟を探る丈でも一日や二日では

其一日見物 (A) (遊覽乗合自動車利用)

Itinerary table with columns for time (午前, 午後), location (遊覽箇所), and specific sightseeing spots like 皇居, 皇太后御廟, etc.

(註三) 江戸時代に於ける市街は、慶長八年東南海灘の埋立で今の濱町八丁堀以南及び銀座の地が出来、更に萬治前後には木挽町海洲埋築、赤坂及び小日向の濕潤地埋立、本所、深川、鐵砲洲等の築成に依つて市街は大に擴大された。之より先明暦三年の大震災を一轉期として市區の大改正が行はれた。寛政、天保の江戸全盛期には町數實に二、七、七〇餘町を算へた。

(註四) 大震災と復興事業 大正一二年九月一日午前一時五十分、突如として起つた大規模の地震は、市内の大小建築物を倒壊せしめると共に、次いで發した大火災に下町を焦土と化し、その一部にも慘害を及ぼした事は、世人の記憶に今尚新たな處である。震災によつて破壊された家屋は山ノ手方面よりも、地質の軟弱な本所、深川、下谷、淺草等の下町が最も被害多く、家屋は一軒として満足なものなく、或は倒潰し、或は大破損を蒙るの事多かつた、更に夜に入つては數十ヶ所に起つた火災が折柄の烈風に煽られて四方に延焼し、かくして三晝夜焼け通した結果は、全市の六四パーセントを灰燼に歸し、到る處に死屍累々として横はり、滿目これ焦土と化したのであつた。陸地測量部及東京市水道局で調査した處によれば、焼失戸數四〇七、九〇〇戸、その罹災民一、五四五、〇二九人に達することである。政府は災害の復舊計畫として災後直ちに内閣直屬の帝都復興院並に内務省内に復興局を設けて復興事業の立案と指導とを開始し、建築、道路、港灣、電車路、公園その他一切の設計を調査立案し、塵埃處分施設、地下埋設物整理施設等に至るまで、國家百年の計を建て、著々實行に着手した。その結果、今や幅員二二米以上の幹線道路五三線及一二三線の補助道路は略完成し、濱町、隅田、錦糸各公園の外五二ヶ所の小公園完備され、また鐵筋コンクリート等の商店、會社、文化的洋風の住宅街が新設改修道路を挟んで櫛比對立して面目全く一新するに至つた。或る意味に於て、大震災は却つて東京市の大發展に一新時期を開くものとも觀られる。

【氣候】中央氣象臺觀測、昭和五年度に於ける東京の平均氣溫

Table showing average temperature data for Tokyo from January to December.

はむつかしい程である。しかし可成短い日數で、多く見られるのは、むしろ夏であるが、それには先づ雨降を避るべき、無駄のない上手な遊覽コースを作る事が肝要である。次に掲げた五種の遊覽コースは東京市役所内所其他の調査に依る便利と趣向と興味を主眼として、主に市街内に於ける名勝史蹟の見物日程案で、出發點も便宜上東京驛を起點として立案したものである。

其二 一日見物 (B) (市電利用) 乗物賃合計七四錢

内譯 市電電車(バス) 四九錢
地下鐵道(バス) 二〇錢
五〇錢

東京驛(徒歩ニテ)
丸ビル・郵船ビル・東京中央郵便局・丸ノ内會社街・宮城二重橋
補正成銅像・櫻田門
警視廳

櫻田門(市電澁谷行ニ乗車)
▲霞ヶ關官廳街▲新講事堂▲三宅坂▲閑院宮邸▲赤坂見附▲豊川稻荷▲青山御所

明治神宮前(市電下車乗合自動車神宮橋行ニ乗車)
▲明治神宮表參道▲同潤會アパート

神宮橋(省線電車山ノ手線原宿驛前)
(乗合自動車ヨリ下車)
▲赤穂義士の墓

明治神宮參拜
實物殿(拜觀料一〇錢)
神宮内苑代々木口
(外苑行乗合自動車ニ乗車)

神宮外苑(バス下車徒歩ニテ)
▲聖徳記念繪畫館(拜觀料十錢)
▲運動競技場

慶應大學病院
信濃町(市電二乗車)
▲陸軍大學

乃木坂(市電下車徒歩ニテ)
▲乃木神社・舊乃木大將邸

乃木坂(市電二乗車)
(途中飯倉一丁目及札ノ辻ニテ乗換)

泉岳寺前(市電下車)
▲慶應大學

泉岳寺前(市電淺草雷)
(途中三田ニテ乗換)
▲芝公園▲増上寺▲飛行館

内幸町(市電下車)
勸業銀行

日比谷公園
▲東京市政調査會館▲東京市日比谷公會堂
帝國ホテル・美松百貨店

日比谷(市電東鴨方面行ニ乗車)
▲帝國劇場▲東京會館▲時事新報社▲明治生命保險會社▲郵船會社▲東京海上火災保險會社▲和田倉門▲大藏省▲中央氣象臺▲學士會館

神保町書店街
(神保町ニテ新宿方面行電車ニ乗換)

九段坂上(市電下車)
靖國神社

九段坂上(市電兩國方)
▲遊就館▲國防館(觀覽料兩館ニテ一〇錢)
▲須田町▲兩國橋

横網町(市電下車)
震災記念堂
▲復興記念館(一〇錢)

横網町(市電柳島行ニ乗車)
(途中吾妻橋一丁目ニテ三田須田町行ニ乗換)

雷門(市電下車徒歩ニテ)
▲吾妻橋▲淺草松屋▲京成電車雷門驛

淺草公園
▲仲見世商店街▲淺草寺觀音堂▲活動寫眞及劇場

上野驛前(バス下車)
▲西郷銅像▲市街展望

上野公園
▲兩大師▲動物園(五錢)▲博物館(十錢)▲科學博物館▲寶永寺▲美術館▲美術學校▲音樂學校▲不忍池等アリ之等ヲ全部見ルトキハ此處

雷門(上野方面バ)スニ乗車
▲上野驛▲地下鐵ストア

廣小路(松坂屋地階カラ地)下鐵ニテ三越へ
三越百貨店・三井銀行・日本銀行・橫濱正金銀行

三越前(バスニテ銀座へ)
▲日本橋▲白木屋▲丸善洋書店▲高島屋▲第一相互保險會社▲京橋

銀座一丁目(バス下車)
松屋・伊東屋・三越銀座支店・服部貴金屬時計店

新 宿(市電下車)
新宿盛り場
三越・ほてい屋・伊勢丹百貨店・二幸・帝都座

新 宿(市電二乗車)
靖國神社

九段坂上(市電下車)
▲遊就館・國防館(入場料一〇錢)
▲市街展望

九段坂上(市電二乗車)
(途中三宅坂ニテ乗換)

日比谷公園
▲日比谷公會堂▲市政調査會館▲音樂堂

貴衆兩議院

其三 一日見物 (市電利用)

乗物賃計八八錢

内譯 市電電車(バス) 六三錢
地下鐵道(バス) 二五錢
九〇錢

(第一日)

東京驛(徒歩ニテ)
乃木神社參拜迄一日見物其二ノ日程案ニ依ル

乃木坂(市電二乗車)
(途中御成門ニテ乗換)

増上寺前(市電下車)
増上寺・芝公園

赤羽橋(市電二乗車)
(途中札ノ辻ニテ乗換)
▲慶應大學

泉岳寺前(市電下車)
泉岳寺(義士ノ墓)

泉岳寺前(バス二乗換)

銀座七丁目(バス下車)
銀座通り(商店街)

銀座二丁目(バス乗車)
▲京橋▲第一相互保險株式會社▲高島屋

日本橋(バス下車市電柳島行ニ乗車)
白木屋百貨店
▲兜町株式會社▲水天宮▲人形町商店街▲新大橋

横網町(市電下車徒歩ニテ)
震災記念堂
復興記念館(一〇錢)

横網町(市電柳島行ニ乗車)
(途中吾妻橋二丁目ニテ須田町三田行ニ乗換)

吾妻橋西(市電下車)
▲吾妻橋

隅田公園
▲淺草公園
▲仲見世商店街▲淺草寺觀音堂▲映畫劇場街

上野廣小路
松坂屋地下室カラ地下鐵道ニテ三越へ

三越前(地下鐵下車)
三越・三井銀行、日本銀行、橫濱正金銀行

新 宿(市電下車)
▲遊就館▲國防館(入場料一〇錢)
▲市街展望

九段坂上(市電下車)
(途中三宅坂ニテ乗換)

日比谷公園
▲日比谷公會堂▲市政調査會館▲音樂堂

貴衆兩議院

(第二日)

東京帝國大學
▲帝大附屬病院
▲上野不忍池

上野公園
▲動物園(一五錢)▲西郷銅像▲市街展望

愛宕山下(バス下車)
ラヂオ放送局

愛宕山下(市電二乗車)
(途中四谷見附ニテ乗換)
▲赤坂見附
▲赤坂離宮

其四 三日見物(市電利用)

乗物賃合計一圓三三錢

内記(市營電車 乗合自動車(バス) 地下鐵道) 九八錢 三〇錢 五錢

<p>(第一日)</p> <p>東京驛(徒歩ニテ) 乃木神社參拜迄ハ其二ノ行程下同シ</p> <p>乃木坂(市電二乗車) (途中御成門ニテ乗換)</p> <p>増上寺前(市電下車) 徒歩ニテ</p> <p>増上寺・芝公園</p> <p>赤羽橋(市電二乗車) (途中札ノ辻ニテ乗換) ▲慶應大學</p> <p>泉岳寺前(市電下車) 泉岳寺(義士ノ墓)</p> <p>泉岳寺前(市電二乗車) (途中銀座四丁目ニテ乗換) ▲歌舞伎座▲東京劇場</p> <p>築地本願寺前(市電下車) 西本願寺別院</p> <p>築地本願寺前(バス乗車)</p>		<p>▲蠟燭町</p> <p>日本橋(バス下車) 白木屋・高島屋百貨店</p> <p>日本橋(バス乗車) ▲京橋▲第一相互生命保險會社</p> <p>銀座一丁目(バス下車) 銀座通り</p> <p>○●○</p> <p>(第二日)</p> <p>市電ニテ九段坂上ニ至リ 靖國神社 遊就館・國防館(一〇錢) 九段坂上(市電ニテ) ▲神田書店街</p> <p>上野廣小路(市電下車) 上野公園 (其二參照)</p>		<p>上野驛(地下鐵ニテ)</p> <p>雷門驛(下車) 淺草公園(其二參照)</p> <p>雷門(市電ニテ) (途中吾妻橋一丁目ニテ乗換) ▲吾妻橋</p> <p>横網町(市電下車) 震災記念堂 復興記念館(一〇錢)</p> <p>横網町(市電ニテ) (途中淺草橋ニテ乗換) ▲國技館▲兩國橋</p> <p>三越前(市電下車) 三越・日本銀行</p> <p>日本銀行前(市電二乗車) 數寄屋橋(徒歩ニテ)</p> <p>朝日・日々・報知新聞社 日本劇場</p>		<p>日比谷公園(其二參照)</p> <p>日比谷(市電ニテ) ▲帝國劇場▲東京會館▲時事新報社▲明治生命保險會社▲日本郵船會社▲東京海上火災保險會社▲和田倉門▲大藏省▲氣象臺▲學士會館</p> <p>神保町(市電下車) 神田通り</p> <p>○●○</p> <p>(第三日)</p> <p>神田駿河臺下(バスニテ) ▲明治大學▲御茶ノ水橋</p> <p>帝大赤門前(バス下車) 東京帝國大學</p> <p>帝大赤門前(市電ニテ) (途中上富士前ニテ電車乗換) ▲第一高等學校</p>		<p>護國寺前(市電下車) 護國寺參詣</p> <p>護國寺前(市電二乗車) (途中江戸川橋ニテ乗換)</p> <p>早稻田(市電下車) 早稻田大學 ▲大隈講堂・演劇博物館</p> <p>若松町(新宿行ノ市電二乗車)</p> <p>新宿(市電下車) 新宿繁華街</p> <p>新宿(バスニテ)</p> <p>四谷見附(バス下車) 赤坂御所</p> <p>四谷見附(市電ニテ)</p> <p>西久保巴町(市電下車) 愛宕山 ラヂオ放送局</p>	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

其五 三日見物(市電・省電・バス利用)

日程	午前	午後	夜	
第1日	<p>二重橋宮城拜觀(東京驛カラ徒歩一〇分前カラ) 櫻田御門(宮城外苑南側入口) 日比谷公園(電車日比谷交差點前分、第一九頁參照)</p> <p>靖國神社(電車九段坂上下車、第一五頁參照)</p>	<p>植物園(電車指ヶ谷町下車、徒歩三〇〇米餘、第二二頁參照)</p> <p>護國寺(電車護國寺前下車、第一七頁參照)</p> <p>傳通院(電車傳通院前下車、第一七頁參照)</p> <p>帝國大學(電車正門前下車、第二六頁參照)</p> <p>吉祥寺(電車同寺前下車、第一七頁參照)</p>	<p>上野廣小路通り</p> <p>神田大通リ</p>	
第2日	<p>芝公園(電車増上寺前又ハ芝園橋下車、省線電車濱松町電カラ一〇分、第二〇頁參照)</p> <p>泉岳寺(電車泉岳寺前下車、省線品川驛カラ徒歩約二〇分、第一七頁參照)</p> <p>高輪御所(泉岳寺南隣り、第一三頁參照)</p>	<p>明治神宮(電車明治神宮前下車、省線原宿驛カラ徒歩一〇分、第一四頁參照)</p> <p>赤坂離宮、青山御所(第一三頁參照)</p> <p>乃木神社(電車乃木坂下車、徒歩一〇分、第一五頁參照)</p>	<p>銀座通り</p> <p>又ハ</p> <p>觀劇(第二八、二九頁參照)</p>	
第3日	<p>上野公園(省線上野驛上、市電上野公園前下車)</p> <p>博物館、美術館、動物園、東照宮、兩大師等アリ。(第一九頁參照)</p>	<p>國技館(電車國技館前下車、第二六頁參照)</p> <p>被服廠跡(電車石原町一丁目下車、第二六頁參照)</p> <p>又ハ買物(三越、白木屋、高島屋、松屋、松坂屋等)</p>	<p>淺草公園(電車雷門下車)</p> <p>淺草寺、劇場、活動寫眞館等(第一九頁參照)</p>	

註 多摩御陵參拜日程は第四九頁參照

東京市内の主な交通機関

「註」

一、以上見物日程案中、其二・其三・其四は東京市設案内所調査順路による。

一、東京遊覧の順路は以上の外幾多のコースを考へられるが、此處では市電本位に時間と費用の經濟を重んじた見物所要時間は、各自の趣味・目的等により夫々相違があるが、此處には大體の標準を示し、之丈は見物出来る事を示したものである。

一、見物順路・旅館・名所案内等に左記案内所で無料で相談に應じて居る。

A 東京市設案内所

麹町區丸の内東京市役所内 (東京驛乗車口から南約二〇〇米) 電話丸の内(二三)四〇九六番 四〇九七番 九〇番 尚東京驛降車口鐵道案内所内出張所がある。電話丸の内三〇九〇番

B ジャパン・ツーリスト・ビューロー

(日本旅行協會) (事業概要は廣告欄を御参照下さい) 本部 東京市麹町區丸の内一丁目一番地(東京驛降車口) 電話丸の内八〇一番、四一四一番から四一四四番迄

自四月至十月 前八時から後四時迄、自十一月至三月前九時から後四時迄(本部案内所は五時迄) 休日 日曜、祝日、十二月三十一日から一月三日迄 及三月十二日(創立記念日) 但し東京驛降車口鐵道案内所内出張所があり、一月一日を除く外毎日午前八時から午後九時迄營業してゐる。

案内所

東京驛乗車口(南口) 電話丸の内 八〇二(后九時迄、元日休)

附近・不忍池動物園及上野公園・淺草公園及隅田公園・龜戸天神・靈災記念堂・清澄庭園・水天宮・深川不動尊・銀座通・日本橋 以上二ヶ所の名所を市電及バス共用にて自由に廻遊する事が出来るものである。

▲乙券 料金五〇錢(約三割引)通用二日間 以上二ヶ所の内八ヶ所を自由に廻遊するものである。此の遊覽券は一枚刷で、これに依つて市電・バスの乗換券を發行する外、名所地圖を一枚添へる。電車内、自動車各營業所及日本旅行協會で發賣する。

【鐵道省線】

○東北・京濱線 大宮・浦和・赤羽・上野・秋葉原・神田・東京・新橋・品川・蒲田・横濱・櫻木町間。二、三等車。但し大宮・赤羽間三等のみ、赤羽・蒲田間運轉の電車は朝夕混雑時の外は二等車なし。

東 京 一 櫻木町間三〇分 驛數一四 運轉所四二三分三〇秒 平均四三秒五分 東 京 一 大宮間三〇分 驛數一七 四三分 平均四二秒五分

▲運轉所要時分 大宮一赤羽、大宮一蒲田、上野一櫻木町、東京一櫻木町。▲運轉間隔 大宮一赤羽一六分(但朝夕混雑時には八分毎、赤羽一上野八分毎、上野一蒲田四分毎、蒲田一櫻木町八分(但田端一品川間は左記山手線電車と交互に運轉されて居るので田端一上野間は二分又は四分毎、上野一品川間は二分毎になる)

▲運轉所要時分 大宮一赤羽間一五分半、赤羽一上野間一五分半、上野一東京間七分半、東京一品川間一分二分、品川一櫻木町間一分二分。○山手循環線 品川・新宿・池袋・上野・東京・品川間循環及池袋・赤羽間 全區間三等車のみ。

品川一新宿一田端間二〇分 驛數一七 運轉二五三分三〇秒 平均三八秒五分 池袋一赤羽間 五秒五分 四 八三分三〇秒 三八秒五分 品川一新宿一田端一三四分 二八 六四分 三二秒四分 循環線池袋一田端一三四分 二八 六四分 三二秒四分 循環線は早朝四時過ぎから夜半一時半頃まで四分乃至一分六分毎に運轉。但し上野・東京・品川間は京濱線と交互發車。池袋一赤羽間八分乃至三分六分毎に運轉。

東京市内の主な交通機関

神田驛前 電話 田 一、七二二(后六時迄、元日休) 四、二〇二(切符の舊市内配達をなす)

帝國ホテル内 銀座 五、二四一(九時一六時、日・祭休)

丸ビル鮮満案内所内 丸の内 三、一三一(九時一四時、日・祭休)

日本橋三越内 日本橋 三、三七一 各百貨店の營業時間に準ず

高島屋内 高島 四、四四一 七月八月及十二月を除く外毎月八日の日休

銀座松屋内 銀座 四、六四一

上野松屋内 上野 四、七三二

新宿三越内 新宿 六、三四二

鐵道案内所 (各主要驛)

DC 旅館案内所(無料) 上野驛構内(電下谷二、一七九) 東京驛構内(電丸ノ内二、九三二)

E プレイガイド (観劇・映畫其他の各種催物案内) 京橋區銀座二丁目(電京橋一、二五九) 其他丸ビル内(丸ノ内三、七三六)

銀座三越内(京橋三、一一一) 上野松屋内(下谷一、一一一) 新宿紀ノ國屋内(四谷四、七五一) 淺草松竹座(淺草一、七三五) 等に出張所がある。

東京市内の主な交通機関(一〇年二月現在)

▲運轉所要時分 品川一新宿間二〇分、新宿一池袋間九分、池袋一上野間一六分、上野一品川間一分二分、池袋一赤羽間八分。

○中央線 東京・神田・萬世橋・飯田橋・代々木・新宿・中野・吉祥寺・國分寺・立川・淺川間。全區間三等車のみ。

東京一新宿一淺川五三分 驛數四六 運轉七八三分三〇秒 平均四〇秒五分

▲運轉所要時分 御茶水一兩國間五分半、兩國一船橋間二六分五〇秒。

○以上の外に東京一横濱一六分、鎌倉一横須賀間電車あり、六二分四 驛數一二平均時速五五秒運轉所要六八分凡そ三〇分毎に運轉(朝夕混雑時増發)

【東京地下鐵道】

新橋(省線驛)一京橋一三越前一神田(省線驛)一末廣町一上野廣小路一上野(省線驛)一稻荷町一田原町一淺草間(八分六所要一七分)午前六時半頃から夜一二時迄二分半乃至五分毎に發車。

▲運賃 三驛迄五錢 四驛目八錢 五驛目一圓一錢 八驛目一圓三錢 九驛目以上一圓五錢

【乗合自動車】

東京市電氣局經營及東京乗合自動車會社經營の二種あり、午前七時頃から夜一時頃迄各主要線に頻りに運轉す。料金は市營一區一錢二區一五錢、特別區域五錢、會社營業の青バスは一區五錢。

市バス回数券 五錢券一枚綴一冊五〇錢、三錢券一枚綴一冊三〇錢(之は主として電車からバスへ乗換の場合に用ひられる)

【貸切自動車】

省線驛構内駐在自動車は一哩迄三〇錢、以上一哩を增す毎に一〇錢宛、待料五分毎に一〇錢宛。

東京舊市内の主なる旅館

舊市内の主なる旅館

〔麹町区〕 柘屋支店(内幸町一ノ九、新橋驛から七〇米、市電内幸町停留所から四〇米、電銀座五五五五、室一五、普通一泊六圓半、七圓、旭館(内幸町一ノ五、電銀座三一七五、室一二、一泊四圓乃至六圓、朝食付二圓半乃至五圓、茶代廢止、④四圓)。

〔日本橋区〕 名倉屋本店(室町三ノ一五、市電室町三越前から五〇米、電日本橋二二七二、室四〇、普通一泊四圓、四圓半、五圓半、⑤五圓、千代田旅館(江戸橋二ノ一、電日本橋二二四七、一二四九、室二六、普通一泊五圓、⑤五圓)、吳服橋龍名館(吳服橋二ノ一、電日本橋一一七七、一七九、室四三、普通一泊四圓、④四圓)、大盛館大野屋(蛸殼町一ノ四、電茅場町三二〇七、七三二〇八、室二八、東京驛から約半軒、市電蛸殼町から一〇米、普通一泊四圓、五圓、茶代廢止)。

〔神田区〕 龍名館本店(駿河臺三ノ四、御茶ノ水驛から約三〇〇米、電神田一一三五、室二〇、普通一泊五圓、④六圓、洋式バスあり) 龍名館分店(小川町三ノ二、電神田一一三一、一三三、室二〇、普通一泊四圓半、④四圓半)、今城館(錦町一ノ一、東京驛から約半軒、市電神田橋停留所前、電神田一一五一、一七一、室三四、普通一泊三圓半、六圓、④四圓半、茶代廢止)、昌平館(錦町一ノ一、同上、電神田一一四五、室三五、普通一泊三圓半、七圓半、和食付洋室六圓半、⑤五圓、茶代廢止)、日昇館(駿河臺一ノ一、御茶ノ水驛から約三〇〇米、電神田二七八〇、二三一七、和室八、一泊三圓半、洋室一、室代三圓半、④四圓、茶代廢止)、初谷(淡路町二ノ一〇、萬世橋驛から約一五〇米、電神田三三七一、室二八、普通一泊三圓半、四圓半、④三圓半、茶代廢止)、清光館(美土代町三ノ四、市電小川町から約二〇〇米、電三六二七、三二二九、室三一、普通一泊四、五、六圓、④四圓半)、都賀屋(淡路町二ノ二七、萬世橋驛から二五〇米、電神田一〇二三、普通一泊三、四、五、六圓、④四圓)、萬代屋(淡路町二ノ八、萬世橋驛から三〇米、電神田五二五、五二六、二四〇三、室二六、普通一泊四圓五圓、④四圓)、廣島屋(須田町二ノ一九、萬世橋驛から一〇〇米、市電須田町から七〇米、電浪花四四〇、八三四、室二〇、普通一泊三圓半、③三圓半)。

〔本郷区〕 花水館(湯島天神町一ノ六八、市電黒門町から二〇〇米、御徒町驛から約半軒、電下谷三三五〇、五五七五、八〇三一、室二八、普通一泊三圓半、五圓、八圓、⑤五圓、茶代廢止)。

〔下谷区〕 名倉屋支店(車坂町六、上野驛前、電下谷一一八一、一八三、室三一、普通一泊三、四、五圓、③三圓半)、井筒屋(御徒町四ノ四、上野驛前、電下谷八六一、一五六六、室二九、普通一泊二圓、四圓、③三圓)、針久上野支店(東黒門町三、上野驛から約一軒、市電黒門町から一〇〇米、電下谷九七八、一二六一、室二六、普通一泊三圓半、四圓半、④四圓半)、山下館(車坂町二、上野驛前、電下谷二二七八、二二七八、和室一泊三圓均一、③三圓)、ホテル部朝食付二圓半均一、サビス料一割) 群玉舎上野館(車坂町九上野驛前、電下谷一四八〇、室三七、一泊二圓半、五圓、③三圓)、宇仁館支店(車坂町一〇四、上野驛前、電下谷七四〇六、室四七、普通一泊三圓、四圓、圓均一、二圓、③三圓)。

〔京橋区〕 有明館大野屋(築地四ノ一四、電京橋一一〇七、一一〇八、七二八六、室三〇、普通一泊五、六、七圓、④六圓)、城東館大野屋(京橋一ノ八、電京橋五〇七一、五一〇九、室四〇、⑤五圓、普通一泊五圓) 春日館(京橋一ノ八、電京橋一三〇八、二〇八二、室一三、⑤五圓)、扶桑館(木挽町四ノ三、市電歌舞伎座前から二〇米、電京橋四七九、三六六三、室一一、一泊朝食付五圓均一、茶代及席料なし)。

〔芝区〕 紀伊國屋(新橋三ノ一、新橋驛から五〇米、電銀座三〇一六、三三三〇、室二二、室代二圓、四圓半、食事朝六〇錢、晝一圓半及一圓八〇錢、夕同上、茶代廢止)、信濃屋(琴平町四〇、電芝二二〇八、室二八、一泊四、五、六圓、茶代廢止)、伊勢屋(南佐久間町一ノ一、電芝一一六一、一一六二、室三二、一泊三圓、七圓、茶代廢止)。

洋式ホテル

○帝國ホテル

麹町區内山下町一ノ一日比谷公園前 東京驛から自動車五分、急行列車着毎に専用バス運轉、新橋驛又は有樂町驛から約半軒

電話 銀座(五七)自三、一五一番至三、一六四番 電話略號 "Impho" Tokyo 室數・料金 ▲一人室……バス無(五〇室)室代六、七、八圓 食事付一、二、一三、一四圓 バス付(八五室)室代八、九、一〇、一二圓 食事付一、四、一五、一六、一八圓 ▲二人室……バス無(四〇室)室代一〇、一二、一四圓 食事付二、二四、二六圓 バス付(九〇室)室代一四圓、一八圓 食事付二六圓、一三八圓 ▲特別室(二室)室代五〇圓 食事付六〇圓 ▲總室數二六七 總收容人員四〇〇人 食事料 朝一品料理 晝二圓及一品料理 夕二圓五〇錢及一品料理 御茶三〇錢 菓子三〇錢 土曜日デナーダンス三圓五〇錢 代表者 取締役會長 大倉喜七郎 取締役支配人 犬丸徹三

○東京鐵道ホテル

(鐵道省直營) 麹町區丸ノ内二ノ一東京驛樓上

電話 丸ノ内(三三)自一、三三二至二、三二七 自七、二二至七、二四 電話略號 "Railhote" Tokyo 室數・料金 ▲一人室……バス無(三六室)室代六圓 巴士付(一室)室代七圓五〇錢 ▲二人室……バス無(七室)室代一八圓、八圓 二人九圓、一圓 巴士付(一五室)一人七圓五〇錢、九圓 二人一圓、一三圓五〇錢 巴士及控室付(七室)一人一圓、一三圓 二人一圓、一五圓、一五圓五〇錢 二人床室……バス無(一室)室代一八圓 二人二圓 巴士付(二室)二人七圓五〇錢、二人一圓 巴士及控室付(三室)一人九圓、一〇圓、二人一三圓五〇錢、一五圓 外二大、中、小ノ宴會場ヲ有シ大衆向 食事代 朝一圓 晝二圓五〇錢 ライトランチ一圓 夕二圓 客室ニテ食事ノ場合ハ一人一室ニ付五〇錢 共同浴室使用料 一回三〇錢 茶菓 四五錢 支配人 鍋持確磨

Table with columns: ホテル名, 電話番号, 室代, 食料, 記事. Rows include 丸之内ホテル, 万平ホテル, 東洋ホテル, 八洲ホテル.

東京市の主なるホテル

○山王ホテル 麩町區水田町二ノ七三	中央ホテル 麩町區内幸町一ノ六	ホテル芳千閣 神田錦町三ノ一九	山形ホテル 麻布區市兵衛町二ノ四	菊富士ホテル 木郷區菊坂町八二	新宿ホテル 淀橋區角等一、新宿驛前	大森ホテル 大森區新井宿二ノ一五	御園ホテル 下谷區御徒町三ノ八
銀座(五七) 自五七〇七	銀座(五七) 一三三三	神田(二五) 二七九六 三六三六	赤坂(四八) 一〇九八	小石川(八五) 六九〇三	四谷(三五) 一〇四七 五九一八	大森 一〇三六 三六六一	下谷 一三〇四 四〇一五 三八八八
風呂無 食代 一人室一三、室代三圓、二室共用バス付三七室、室代三圓半、四圓半 一人室二四、室代五圓、五圓半、六圓、二人室一四、七圓乃至一二圓 朝洋アラカト、和七〇錢、晝和洋共一圓、夕同一圓半 サビビス料 總勘定高ノ一割	風呂無 食代 一人室三〇、朝和食付二圓半、三圓、四圓、二人室二〇、朝和食付五、 六、七圓 ●(和洋共同)朝五〇錢、晝一圓、夕一圓二〇錢 ●浴場ハ無料ニテ早朝ヨリ用意シアリ。サビビス料一人一日五〇錢	室代 一人室和洋・支何レモ二圓以上、二人室同四圓以上、バス付一人四圓乃 至八圓 定食六〇錢乃至一圓五〇錢、洋食八〇錢乃至三圓、其他一品料理及支那料 理モ調理スル ●サビビス料 總勘定ノ一割▲日本風呂ハ何時ニテモ入浴出來ル(無料)	洋室 一人室七、室代二圓乃至三圓半▲二人室一四、三圓乃至七圓 ●(和)朝五〇錢、晝一圓二〇錢、夕一圓半 ●(洋)朝八〇錢、晝一圓二〇錢、夕一圓半	室代 ▲洋室一五、室代二圓一圓▲和室三五、一泊二食付二圓一圓 朝五〇錢、晝一圓二〇錢、夕同上	風呂無 食代 ▲室六八、一人室一圓八〇錢一圓五圓、二人室三圓一圓六圓、三人室七圓半 朝和五〇錢、晝七〇錢、晝和洋共一圓、夕同一圓半 サビビス料トシテ總勘定ノ一割 洋バス使用料一回三〇錢	洋式 室敷三五ウチ風呂付一、二人室(朝食付)一人室三圓乃至六圓、同バス付七 圓、二人室六圓乃至九圓、同バス付九圓乃至十一圓 ●サビビス料トシテ總勘定ノ一割 ●サビビス料トシテ總勘定ノ一割	日本間 食代 一六、室代二圓半、一人増一圓二五錢 朝五〇錢、晝八〇錢、夕一圓 外ニサビビス料トシテ總額ノ一割
純洋式、市電又ハ 山王下車スグ、 日枝神社(山王様)ノ 境内ニ接ス	市電内幸町下車	東京驛カラ約一杆四	洋式、ランニングウ ォーター及瓦斯電氣 ヒーターノ設備アリ	市電本郷三丁目下車 長期滞在ハ二割乃至 五割引アリ	長期滞在ニハ五分乃 至二割ノ割引アリ		

大東京案内

宮城及離宮

宮城 麩町區。東京驛から半軒、市電馬場先門下車。
東京市の中央、霞ヶ關、日比谷の北に當り東は御苑、西は吹上、北は本丸と申上げ皆壘濠を以て相限られてゐる。御城内約三〇萬坪と承る。皇居は舊徳川氏の江戸城で、長祿元年(後花園天皇)鎌倉宰領上杉定正の家臣太田持資入道道灌が築いたのを徳川家康大擴張し、明治元年一〇月一三日之を皇居と定め給ふたものである。
今日の宮城は明治六年五月五日後宮火を失して全部烏有に歸されたので同一七年七月御起工、二一年一〇月御竣工になつたものである。

二重橋と正門前御苑 東京驛から約半軒、市電馬場先門下車。
御正門を通常二重橋と申上げる。地の低下に隨ひ二つの御橋が架けられたもので、先づ南行して下橋に上り大升形に入り、更に北行して高橋を過ぎて禁垣に入る。何人も第一の橋際まで行き御濠を隔て、拜する事が出来る。
正門東西の御苑廣地を西丸と稱し、今俗に二重橋外と申上げ。北は本丸、東は八重洲(和田倉、馬場先の二門がある)南は(櫻田門あり)日比谷、霞ヶ關に通じ皆御濠を以て限られてゐる。御苑中に楠公驢馬の銅像があり(明治三〇年一月大阪住友家の献上したもので、別子銅山産の銅を以て鑄たもの)皇威を千載の後まで護つてゐる。外苑面積四〇八、九二五方米六二。

櫻田御門 麩町區祝田町、市電日比谷下車。
正門前御苑から南へ霞ヶ關、虎の門に通づる御門でもと江戸六口の一で小田原口と稱した。關東大震災迄は完全に狹形門の遺構を存して居たが、今は濠橋を鐵筋コンクリートで改造されてゐる。萬延元年三月三日、時の大老井伊直源が登城の折、水戸浪士大關和七郎外一七名の爲に要撃された所である。

大東京案内(宮城・離宮)

赤坂離宮

赤坂區。市電四谷仲町下車。
もと紀州侯の邸地、明治五年離宮となる。明治六年皇居炎上の後明治大帝の假皇居となり、明治年代の新政は凡て此處で御勅裁あらせられた御由緒の地である。ルキ一四世式の御館は明治四年の御造營になつたもので、初め今上陛下東宮假御所となり、又、假皇居となつて兩陛下の日常御起居遊ばされた處である。

青山御所

赤坂區青山。市電赤坂表町下車。
もと紀州邸及篠山藩青山邸であつた所で、赤坂離宮と相連る。明治七年御所となり先帝陛下東宮にあらせられる頃に御住居遊ばされた所である。近時秩父宮御殿新築せられ又澄宮假御所も設らへられてゐる。

新宿御苑

四谷區新宿。市電新宿一丁目下車。
もと内藤氏の邸地であつた處で、苑内泉池あり、櫻樹多く、またその一部に大正天皇の葬場殿址がある。

高輪御所

芝區高輪。市電 伊皿子下車。
舊細川侯中屋敷址で、泉岳寺の南方に當つてゐる。元祿の昔大石良雄以下一七人の赤穂義士が預けられ切腹したのは此の御所内であると云ふ。後御所となり、今上陛下東宮に渡らせられる頃此處に御住居遊ばされ、昭和二年高松宮御殿が新築された。

神社

明治神宮

(官幣大社) 澁谷區代々木外輪町。

参道の入口は南北西の三つある。南参道入口は青山、澁谷、原宿方面からの参道で、省線原宿驛から直ぐ神宮橋を渡り一ノ鳥居をくぐり玉川砂利を踏み御神橋を渡り、約半軒で二ノ鳥居がある、之を過ぎれば間もなく御社殿である。市電明治神宮前停留所から前記神宮橋迄約一軒。乗合自動車五錢。

北参道入口は外苑からの連絡路に連り千駄ヶ谷にあり、省線電車代々木驛又は千駄ヶ谷驛下車。西参道入口は小田急参宮橋又は京王電車神宮裏下車のもので、代々木練兵場に面してゐる。

祭神は明治大帝、昭憲皇太后の二柱を鎮齊し奉る。社殿は玉垣内の地積約二一、四〇〇方米に本殿・拜殿・神門等、流造の莊重質實を見せられたもので、大正四年一〇月地鎮祭を行ひ、六ヶ年の歳月を閲して同九年一月竣工したのであるが、その資金は一切國庫から支出し、國民全部の力を以て御造営上げたのである。拜殿より内部を内院と稱し、外部を外院と稱する。内院は廻廊によつて繞らされ、其中に御本殿及中門がある。一般参拜者は拜殿外御階上滌縁の所まで行き拜禮する事が出来る。

【御祭典】

祭典及恒例式

大祭	祭二月十七日	天長節祭	祭四月二十九日
祈年	祭十一月三日	明治天皇祭	祭七月三十日
新嘗	祭十一月二十三日	鎮座記念祭	祭十一月一日
中祭	祭一月一日	明治節祭	祭十一月三日
歳旦	祭一月三日	小祭	祭(毎月一日)
元始	祭二月十一日	御衣	祭立(夏)
紀元節	祭(四月十一日)	御衣	祭立(冬)
昭憲皇太后祭	祭(四月十一日)	除夜	祭(十二月三十一日)

▲恒例式

春季皇靈祭遙拜(春 分 日) 秋季皇靈祭遙拜(秋 分 日)
神武天皇祭遙拜(四月三日) 大正天皇祭遙拜(十二月二十五日)
大 祓(六月三十日) 大 祓(十二月三十一日)
十一月三日の例祭當日には勅使の御差遣がある。

▲内苑

神宮御鎮座の地で總面積七二五、三四〇方米、東は省線電車山手線に限られ西南は代々木練兵場と接し、北は代々木山谷に面し、周圍には土壘を繞らしてある。舊御苑の地はもと加藤清正の下屋敷であつたのが寛永以後参拝主の下屋敷となり、明治七年御買上ありて御領地となつたもので、祭神御在世中屢々行幸啓あらせられた御由緒があり、且樹林泉池の幽邃稀に見る所である。

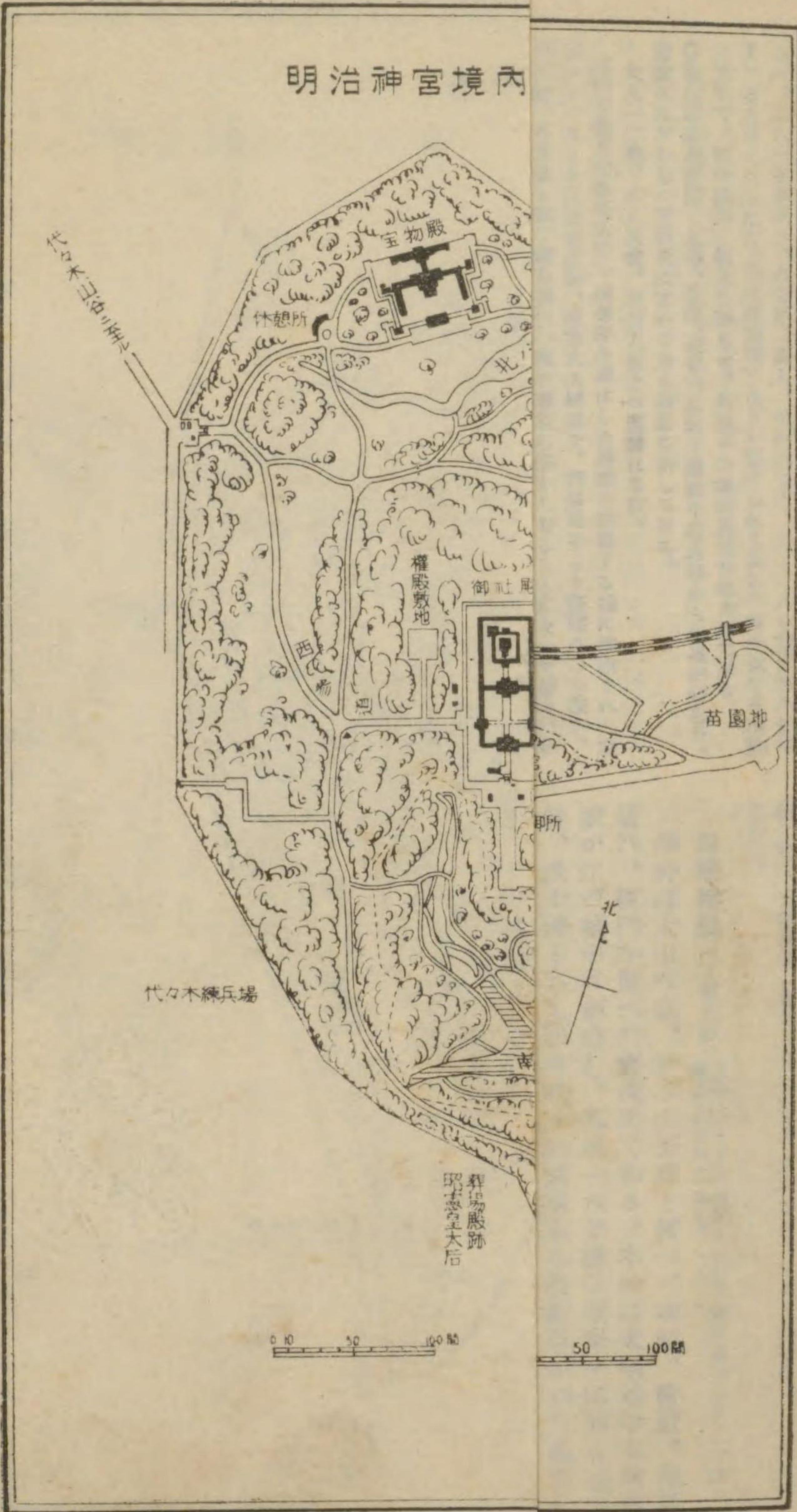
▲寶物殿

御本殿の北方にあり、總建坪五五〇坪の校倉式を模した鐵筋コンクリート造りで、祭神に最も御關係の深い御物を陳列してある。拜觀所要約三分。拜觀料大人一〇錢(二〇人以上五錢宛) 小人五錢。拜觀時間(自一月一日至翌三月三十一日、午前九時—午後四時、自四月一日至九月三〇日、午前八時—午後五時、年中無休、館内には外套及帽子の着用を禁ず。

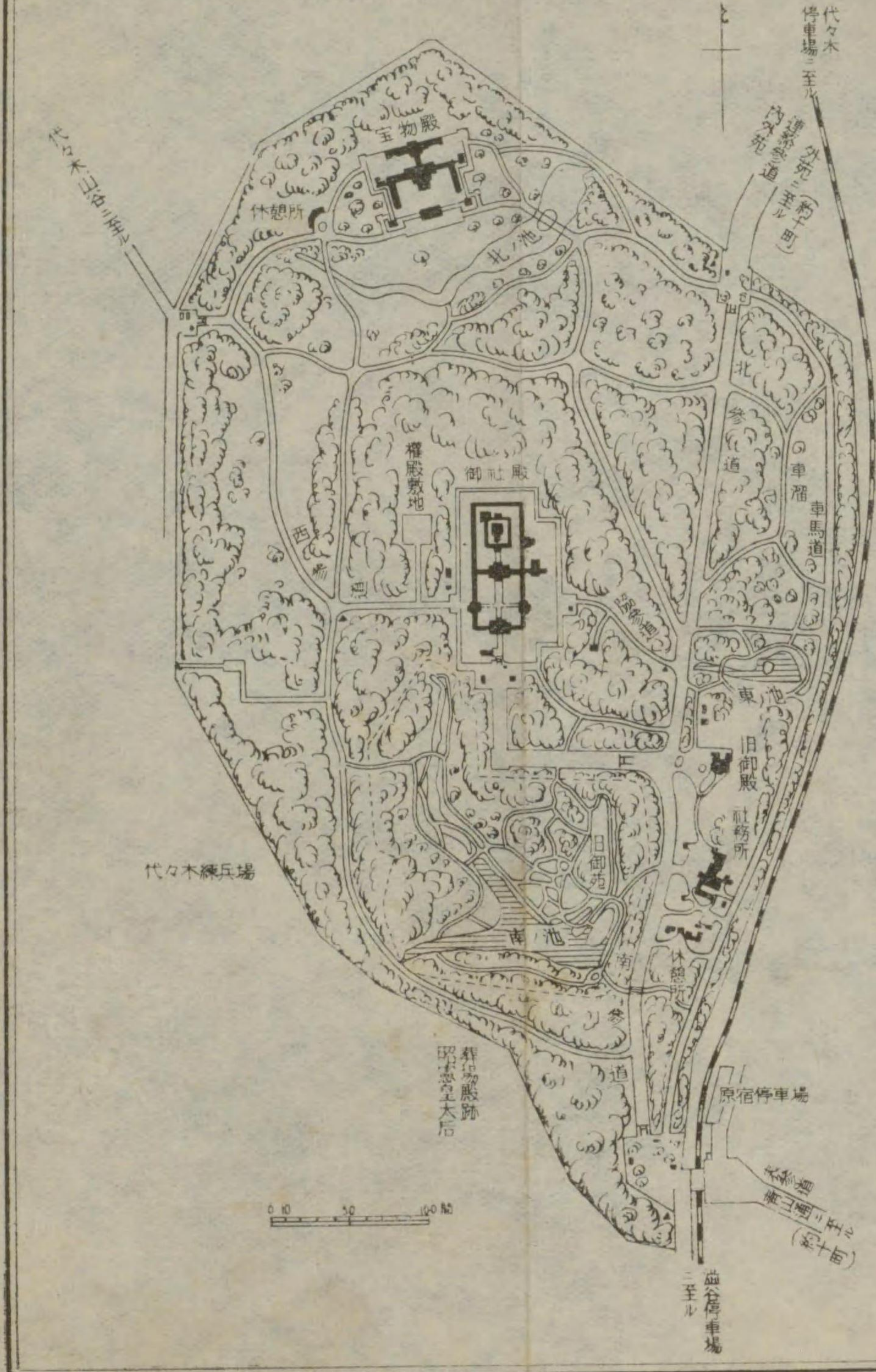
▲明治神宮外苑

省線電車信濃町驛の西南、市電青山三丁目停留所の北、又は神宮参拜後、原宿驛から乗合自動車で一軒餘、五錢。面積四八六、〇五六方米二あり、もとの武家屋敷の地で、明治六年青山練兵場となり、大帝は此の地に屢々親兵の式を擧げさせ、また、大正元年九月には御輦車停駐の葬場殿址として大帝の御由緒の深い神域である。外苑は祭神に對する國民尊崇追慕の餘り、一般國民奉贊の「獻金六七〇餘萬圓を基とし大正六年八月から一〇年の星霜を閲し、大正一五年一〇月に竣工したもので、「聖徳記念繪畫館」を中心として「憲法記念館」、「葬場殿址」等の記念建築物を配し、西南隅の低地三萬三千方米の地には六萬五千人を入る、(東南北の斜傾地に約五萬人、西面鐵筋コンクリート造觀覽席に一萬五千を收容) 大競技場あり、内外苑連絡道路を隔て、北隣に「水泳場」(約五、六〇〇方米、收容約一

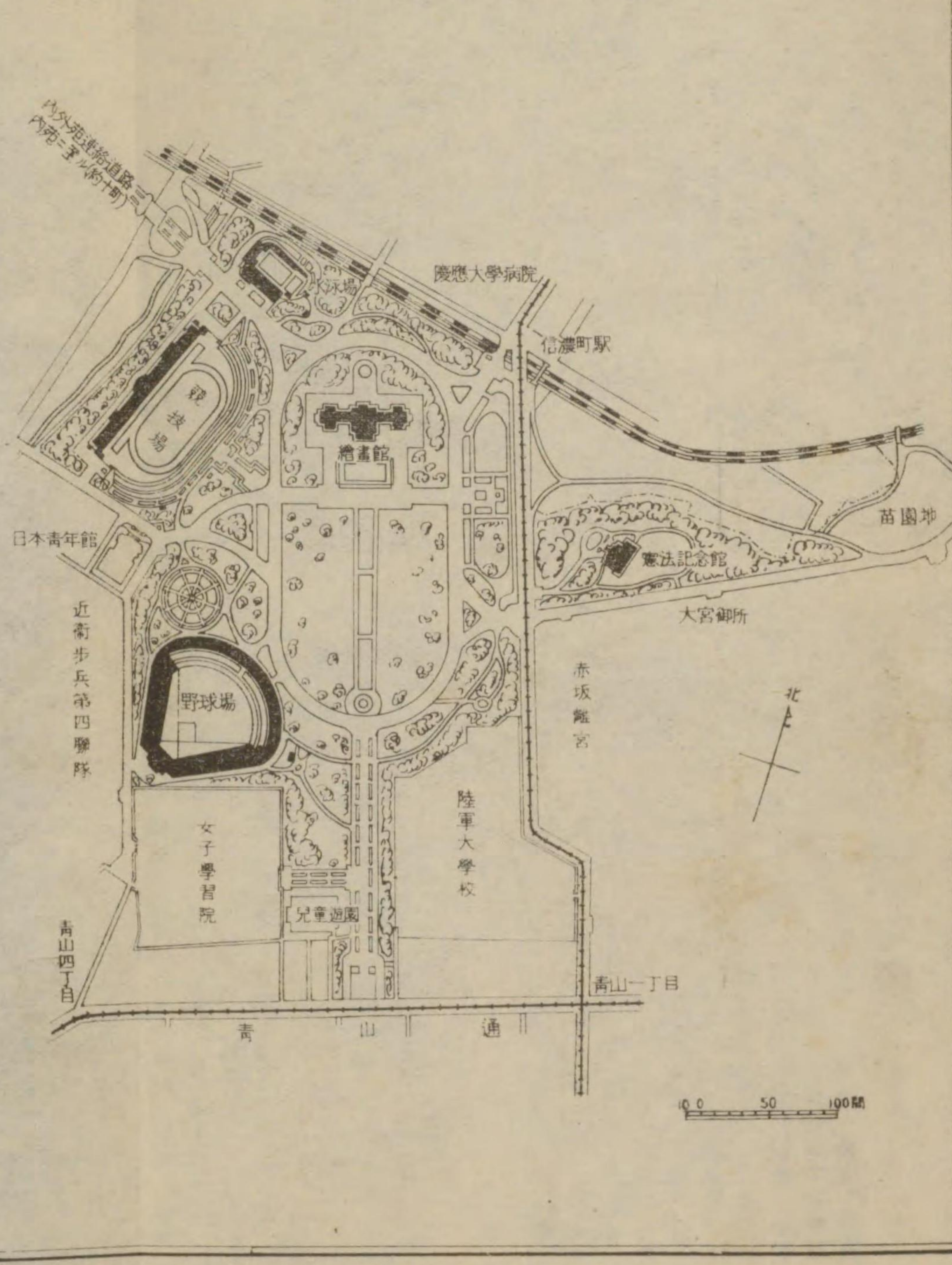
明治神宮境内



明治神宮境内略圖



明治神宮外苑略圖



祭神は明治大帝、昭憲皇太后の二柱を鎮齊し奉る。社殿は玉垣内の地積約二一、四〇〇方米に本殿・拜殿・神門等、流造の莊重質實を見せられたもので、大正四年一〇月地鎮祭を行ひ、六ヶ年の歳月を閲して同九年一月竣工したのであるが、その資金は一切國庫から支出し、國民全部の力を以て御造営申上げたのである。拜殿より内部を内院と稱し、外部を外院と稱する。内院は廻廊によつて繞らされ、其中に御本殿及中門がある。一般参拜者は拜殿外御階上滯縁の所まで行き拜禮する事が出来る。

【御祭典】

- 祭典及恒例式
- ▲大祭 天長節祭(四月二十九日)
 - 新年 祭(二月十七日)
 - 例 祭(十一月三十日)
 - 新嘗 祭(十一月三日)
 - ▲中祭 明治節祭(十一月一日)
 - 歳旦 祭(一月一日)
 - 元始 祭(一月三日)
 - 紀元節 祭(二月十一日)
 - 昭憲皇太后祭(四月十一日)
 - ▲小祭 御衣立(毎月一日)
 - 御衣立(夏)
 - 御衣立(冬)
 - 除夜祭(十二月三十一日)

祭典を纏らしてある。舊御苑の地と加藤清正の下屋敷であつたのが寛永以後、徳田親綱の屋敷となり、明治七年御買上ありて御領地となつたもので、祭神御在世中屢々行幸啓あらせられた御由緒があり、且樹林泉池の機宜精に見る所である。

尙苑内に加藤清正の掘つたと傳へる「清正井」があり、南には「菖蒲田」(毎年五月下旬、菖蒲の開花一般に公開される)がある。

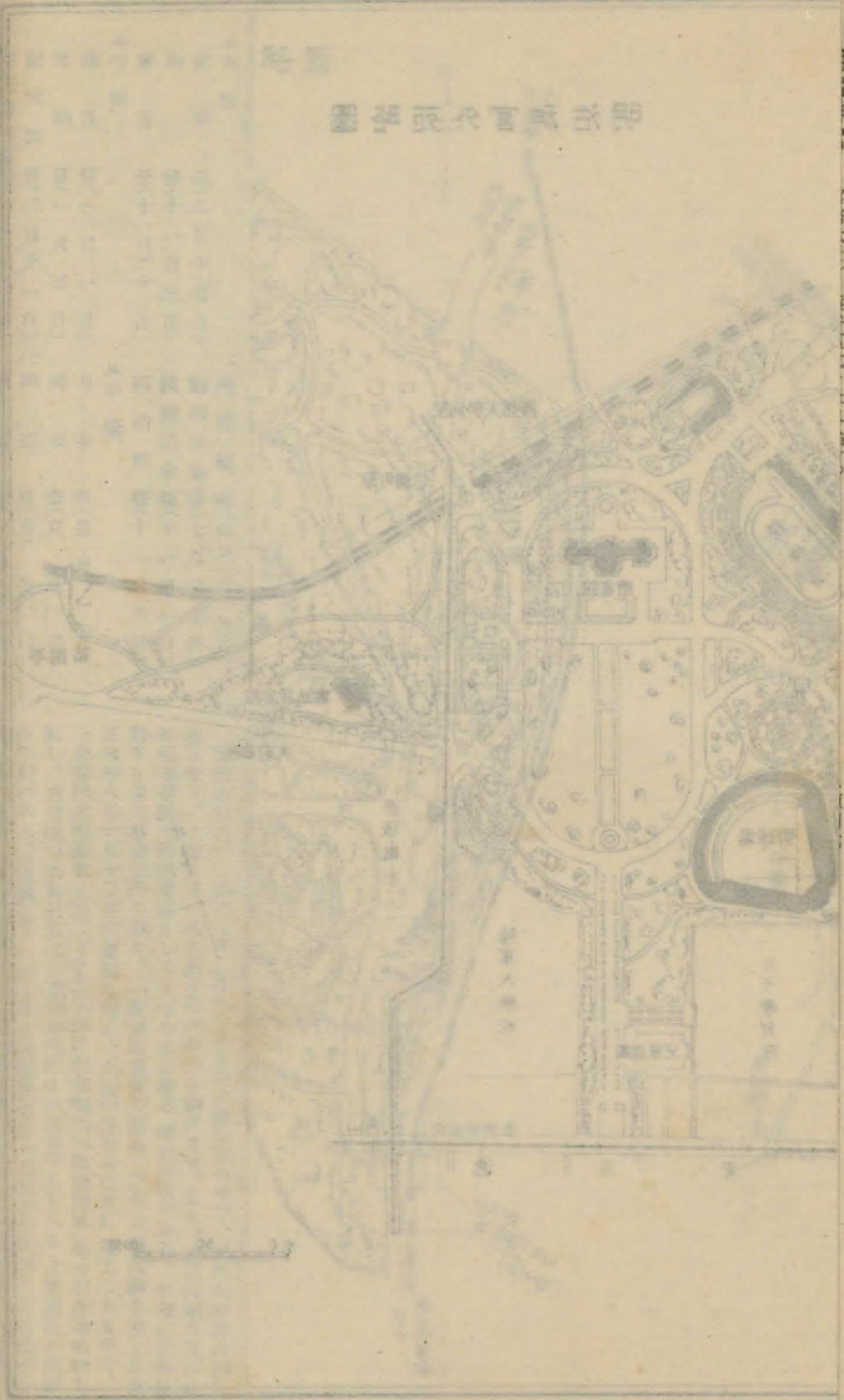
○寶物殿 御本殿の北方にあり、總建坪五五〇坪の校倉式を模した鐵筋コンクリート造りで、祭神に最も御關係の深い御物を陳列してある。

拜觀所要約三〇分。拜觀料大人一〇錢(二〇人以上五錢宛) 小人五錢。

拜觀時間(自一〇月一日至翌三月三十一日、午前九時—午後四時、午後五時—午後八時、午後八時—午後五時、年中無休、館内には外傘及帽子の着用を禁ず。

【明治神宮外苑】 省線電車信濃町駅の西南、市電青山三丁目停留所の北、又は神宮参拜後、原宿驛から乗合自動車で一軒餘、五錢。

面積四八六、〇五六方米二あり、もとの武家屋敷の地で、明治六年青山練兵場となり、大帝は此の地に屢々觀兵の式を擧げさせ、また、大正元年九月には御輦車停駐の葬場殿址として大帝の御由緒の深い神域である。外苑は祭神に對する國民尊崇追慕の餘り、一般國民奉賛の獻金六七〇餘萬圓を基とし、大正六年八月から一〇年の星霜を閲し、大正一五年一〇月に竣工したもので、「聖徳記念繪畫館」を中心として「憲法記念館」、「葬場殿址」等の記念建築物を配し、西南隅の低地三萬三千方米の地には六萬五千人を入る、(東南北の斜傾地に約五萬人、西面鐵筋コンクリート造觀覽席に一萬五千を收容) 大鼓技場あり、内外苑連絡道路を隔て、北隣に「水泳場」(約五、六〇〇方米、收容約一



萬三千人、競技場の東南に相撲場、(収容二萬人)組立式籠球場、野球場(六、二八一方米あり、内野約二萬人、外野約三六、七〇〇人の観覧者を収容す)青山入口近には「児童遊園場」などが設けられてある。苑の過半は清緑な芝生で、明快廣闊な気分を漲らせ、最新の公園的設備が施されて居る。

○聖徳記念繪畫館 土曜、日曜、祝祭日に限り開館午前九時から午後四時まで、團體及地方からの拜觀者にはいつでも拜觀を許して居る。

大人一〇錢、小人五錢、五〇人以上の團體は半額。

明治天皇及昭憲皇太后の御事跡を現はした繪畫を奉揚する爲に建設された鐵筋コンクリート花崗岩表装、近世式大建築で、御事跡中より畫題八〇を選び、日本畫、西洋畫各四〇題を現代一流の畫家に描かしむることになつて居り、いま(昭和十年二月現在)七二枚奉掲されて居る。

乃木神社 (府社) 赤坂區新坂町六三。市電乃木坂(乃木神社前)下車。祭神は陸軍大將乃木希典及同夫人静子を祀る。本社は大正一二年一月中央乃木會の手によつて造營されたもので質實剛健にして神嚴の氣自ら湧く。

神社に接して(新坂町五五)舊乃木邸の質素な木造洋館がある。大正元年九月一三日、明治天皇御大葬の日、忠節無比の乃木將軍夫妻が殉死を遂げられた處で、舊邸の土地全部は、大將の遺言によつて東京市に寄附せられ、現にその管理によつて一般に公開されてある。参拜時限 九時から四時迄。

尙將軍夫妻の墓は近くの青山墓地内東北部にあり(市電青山三丁目下車)。

靖國神社 (別格官幣社) 麹町區富土見町三ノ一。市電九段坂上下車。俗に九段招魂社と云ふ。畏くも明治大帝の勲旨により維新の勤王の志士及び其の後の戦歿者の亡靈を弔祭し給ふ所で、昭和十年四月末現在で合祀四九回、祭神一二八、八四五柱に及んで居る。春期大祭の四月三〇日及び秋期大祭の四月二三日の祭典は總て勅使を以て行はせられる。

御社地は宮城の乾に位し、開潤高燥の佳境を占め、眺望に富む庭園など設けられ又境内に櫻樹多く戦利記念品を蔵する遊就館・國防館(第二三頁参照)、能

樂堂、相撲場などがあり、大村益次郎の銅像、日本一の花崗岩大鳥居(高さ四〇尺、大銅鳥居(高さ六九尺六寸)等がある。九段上廣場面積二、三二四方米〇五。

日枝神社 (官幣大社) 市電山下停留所の東北、麹町區永田町二ノ五七、麹町公園内にあり。

祭神は大山咋命、俗に山王様と稱へ、本殿、幣殿、拜殿唐門、樓門を備へた権現造である。本社は文明年中太田道灌が江戸城中に創建し、天正一八年徳川家康が江戸入城の時、産土神としてから代々の將軍家の崇敬厚かつた處である。今の地に遷されたのは萬治二年で、現今の建築はその當時のもので大正一二年の震災後大修理を加へ朱塗、鍔金具などが美しく輝いてある。毎年六月一五日の例祭は古來山王祭と稱し、神田明神の祭禮と共に名高く、江戸時代から日本三大祭の一に數へられてある。社境は所謂「星岡」の高臺、麹町公園の丘上にあり、南方の展望開け、幽邃な

こと市内稀に見る處である。

神田神社 (府社) (俗に神田明神と稱す) 神田區宮本町一八。市電明神前下車。省線御茶ノ水驛聖橋口下車。

祭神は大己貴命、少彦名命を祀り、聖武天皇の天平二年の創建に係る極めて古き由緒のある神社で、中古以來江戸氏・太田氏の氏神で、江戸時代また徳川氏の崇敬厚く、御府内總鎮守の尊號を奉つた。例祭は九月一五日で、江戸時代隔年の神幸祭即ち神田祭は日枝神社の山王祭と並んで天下祭とさへ稱され、現今でも行列の人員約四〇〇を算する盛儀が行はれる。九月一五日の例祭は日枝神社の祭禮と併び稱されてある。社殿は大正一二年の震災に遇ひ、昭和六

年二月工費五〇萬圓の豫算を以て再建に着手し、同九年五月、以前の権現造に依つた鐵筋コンクリート造り辨柄朱塗の壯麗な社殿が竣工した。

湯島天神 (府社) 本郷區湯島梅園町一、湯島公園内、市電天神下下車。祭神は菅原道真・天手力男命を祀る。當社は正平一〇年二月郷民の勸請に係ると傳ふる古社で、現在の社殿は明治一八年の建築である。例祭五月二四・二五日。

境内は公園地で、左の一方に菅公一千年祭記念碑があり、右手の権上に立てば遙か上野の丘が見えて眺望が佳い。

水天宮 (無格社) 日本橋區蠟燭町三丁目二。市電水天宮前下車。祭神は天御中主命・安徳天皇を祀り、建禮門院(高倉中宮)二位尼(平時子)を配祀する。本社は久留米市にある水天宮の分靈で、文政元年芝赤羽橋の久留米藩邸内に鎮座したのを明治五年今の地に移したものである。水難の神、安産の神、水商賣一切に御利益あらたかな神様として參詣者が多い。毎月一日・五日・一五日に月次祭、四月一〇日に例祭を行ふ。

大正一二年の震災に類焼して一旦淺草の有馬邸に假殿を設けたが、昭和五年三月二七日に現在の社殿が竣工した。

白山神社 (郷社) 小石川區白山前町七七、市電白山上下車。祭神は菊理姫命を祀り、天曆年間加賀の白山神を勧請したもので、江戸御府内十社の一に數へられた古社である。例祭九月二一日。

根津權現 (府社) 本郷區根津須賀町二七、市電本郷追分町下車。祭神は素戔鳴尊・大山咋尊・譽田別尊を祀る。神社創立の年代は詳でないが、現在の本殿・拜殿・唐門・樓門等は寶永三年の建立になる總朱塗の華麗な権現造である。例祭九月二一日。

境内は相當廣く、丘あり、小池あり、もとツ、芝園と稱し、その丘地のツ、宛然ら劇場の内部を想はせるものがある。本堂右翼の鼓樓には、豊臣秀吉が朝鮮征伐の時分捕つたと傳へられる直径九尺の「時の太鼓」があり、左翼の鐘樓には太田道灌が江戸城の陣鐘に用ひたと云ふ鐘を吊し、而かもこの鐘は電氣仕掛けで自働式に鳴り出すモダン振りである。境内には赤穂義士の間新六、畫家酒井抱一、関秀作家樋口一葉等の墓がある。

法會は一月の終正會、一月一八日の先師會、春秋彼岸の讚佛會、五月二日の宗祖大師降誕會、七月一三日から一六日迄の歡喜會、十一月一日から一六日迄の報恩講等がある。

泉岳寺 (曹洞宗) 芝區高輪車町。市電泉岳寺前下車。萬松山と號し、下野國大中寺末。芝の青松寺及橋場の總泉寺と共に江戸の曹洞宗三大寺院の名刹である。殊に赤穂義士の墓所を以て全國に知られ、東京遊覽者の見落す事の出來ぬ名所のひととされてゐる。

赤穂義士の墓所は史跡として指定され、例年四月一日から四月三〇日まで義士祭があり、一二月一四日の討入の日及二月四日切腹の日には法要があり殊に賑はふ。

青松寺 (曹洞宗) 芝區愛宕町一丁目。市電廣町停留所の東北、文明年間太田道灌の創建した曹洞宗三大寺院の名刹で、萬年山と號し、大正大地震の祝融の災に罹つたが、本堂は立派に復興建築が出來上り、大伽藍が高く聳えてゐる。境内廣く、後方丘陵上の墓地に江戸の儒者井上金峨の墓があり、又上海事件で名高い爆彈三勇士の銅像がある。

増上寺 (淨土宗) 芝公園二號地。市電増上寺前または省線電車濱松町驛下車。三縁山廣澤院と號し關東淨土宗の總本山、一八檀林の冠首で、往昔から上野寛永寺に亞ぐの巨刹であつた。創建時代は詳かではないが、もと麴町平河町にあつたのを慶長三

ジは上州館林から移植したものと云ふ。

淺草神社 (三社大權現社) 淺草公園内。祭神は徳川家康・土師眞仲知命・檜前濱成命・檜熊武成命を祀る。當社は維新前迄は三社權現と稱せられたが、維新後東照宮を合祀したので淺草神社と改めた。例祭五月一七・一八兩日。三社祭は俗に觀音祭と呼び、深川の八幡祭・神田の神田祭と共に江戸の三大祭として有名であつた處である。

富岡八幡社 (府社) 深川區富岡町一ノ三二、市電不動尊前下車。祭神は豐田別命(應神天皇)を祀り、寛永元年別當始祖長盛法印が靈夢により勸請する處と傳へ、大正一二年の大震災に罹り、昭和五年再建された。例祭八月一四・一五・一六の三日間。

佛閣

清正公堂 (日蓮宗) 日本橋區濱町二丁目、濱町公園の東南部、市電新大橋下車。市營バス濱町中ノ橋下車。熊本妙妙寺の別院で、加藤清正公を祀り、濱町清正公として古くから有名でな處である。緣日は毎月四日、大祭は六月二四日、別に二月五日には勝守が授けられ參詣者が頗る多い。

西本願寺別院 京橋區築地三ノ一、市電築地終點下車。元和三年三月、准如上人が江戸淺草濱町(今の日本橋區濱町二丁目)に江戸海邊坊舎を建立したのが當寺の起原であると云ふ。明曆の振袖火事のために今の地に移り、大正一二年の大震災に一大偉觀をなした大伽藍を烏有に歸し其の後四年の歳月と一五〇萬の工費とを以て昭和九年春完成を見

た復興建築は、間口四八間、奥行三一間、高さ一一〇尺、總延坪一、九六一坪、古代中印度佛敎式と稱する豪華なる様式で、古典とモダンを巧に調和せしめたものである。本堂は二四間四方で九〇〇人を座せしむる椅子席を連らねて

年今の地に巨刹を造營し、徳川氏の菩提寺となつたが、當時の建築物は多く焼失し、僅に三解脱門と云ふ三門(國寶)があるのみで、現今の本堂は大正一〇年の建築である。境内に徳川家靈廟(二代將軍靈廟)及墓所があり、寶物には法然上人繪傳二卷(國寶)、大藏經(床板五三五六冊、元版五九三二卷、高麗版六五三一卷、何れも國寶)、五百羅漢像百幅その他約二百點あり、毎年九月一般の觀覽に供してゐる。

徳川家靈廟は南北の二ヶ所に分れ、拜觀料一ヶ所三二錢、午前八時から午後四時迄。廟所の結構は日光に亞ぎ、精緻なる意匠を凝し、華麗を極めてゐる。

傳通院 (淨土宗西派) 小石川區表町八八、安藤坂上。無量山壽經寺と號し、關東十八檀林の一たる名刹である。應永二二年聖間(今は了譽、一に三ヶ月上人とも云ふ)開山、後家康の生母傳通院を祀つてから寺號が改められた。境内福壽院の大黒天は三國傳來の靈像と云はれ、家光御臺所(本理院)秀頼夫人天樹院(千姫)明治維新の志士清川八郎及杉浦重剛の墓もある。

護國寺 (新義眞言宗豐山派) 小石川區大塚坂下町一六。市電護國寺前下車。神齡山悉地院と號し、東京屈指の巨刹で、天和元年亮賢僧正が、徳川綱吉の生母桂昌院尼の本願により建立されたものと云ふ。本尊は桂昌院の持佛であつた天竺から渡來の天然の瑪瑙石像の二臂如意輪觀世音を安置し、帝都七觀音の一つである。境内には室鳩巢の墓があり又明治の元勳三條公、山縣公、大隈侯等の墓もある。

吉祥寺 (曹洞宗) 本郷區駒込吉祥寺町一八。市電吉祥寺前下車。

太田道灌江戸築城の際、井戸の中から「吉祥増上」と刻した金印を得、瑞祥として其處に吉祥庵を建て、其地諏訪明神の敷地(今の和田倉門内)であつたから諏訪山と號したのに創まる。その後徳川將軍歴代の崇敬厚く、府内第一の寺格を賜つた。天正一九年には地を神田臺に賜り、今の水道橋は當時吉祥寺橋と云はれた。又當時境内に梅檀林と云ふ學寮が創設された。明暦の大火に全焼し、駒込の現地に移つた。こゝに七堂伽藍の美觀を現出したがその後屢に融に遭ひ、今は經藏に當時の佛見出すのみで、本堂は享保一二年建立の假堂である。梅檀林はその頃寮舎三十餘、學徒千六百餘名を有し、宗門其他の碩徳英才は皆この中から生れた。今の駒澤大學の蓋籙は實にこの梅檀林にある。境内廣大徳川將軍家より賜つた櫻樹も多く、由緒深き大佛もある。表門の梅檀林なる額は江戸三大額(淺草寺、東海寺)の一として著名であり、又秀忠より拜領の額も今尙存してゐる。

寛永寺

(天台宗) 上野公園内、東京帝室博物館の西隣にある。

寛永四年四月江戸城鎮護のため天海僧正の創建した名利で、東叡山圓頓院とも稱し、天台宗關東の總本山で、比叡山延曆寺に比せられたところである。今博物館のある所はもと寛永寺本坊即ち法親王常住坊舎のあつた位置で、昔の正門が其儘博物館の正門となつてゐる。正門前の竹の臺にはもと中堂があり(今の寛永寺中堂は明治八年、上州世良田の長樂寺本堂を舊大慈院跡に移したものである)。中堂の前には大塔と圓堂が相對し、更に法華常行の二堂があり、輪奐の美を備へてゐたが、明治元年の兵火に依て諸堂の大部分を失はれ、現存するものは清水堂、五重塔及兩大師あるのみである。寛永寺にも増上寺に相對して徳川氏靈廟が設けられ(元祿一二年再建の四代將軍廟及寛永一二年竣工の五大將軍廟とある)常に拜觀を許して居る。

淺草寺

(天台宗) 淺草公園地。市電雷門、地下鐵淺草終點下車。

金龍山と號し、本尊聖觀世音は推古帝三六年(紀元二二八年)宮戸川(今の隅田川)から出現し給ふたと傳ふる祕佛を安置す。現在主要建築物は本堂(觀音堂、國寶)、五重塔婆(國寶)、經藏、仁王門及傳法院で、何れも江戸時代の建物である。本堂(觀音堂)は一八間四面の大伽藍で慶安二年徳川三代將軍家光の造營したものである。その後元祿元年五代將軍綱吉の時修理が加へられ、更に昭和八年大修理が加へられた。地は淺草公園内にあり、市内の最も繁華な遊興地にかこまれ、參詣者が常に雑踏し、去る關東の大震災には奇蹟的にも其の災害を免れ益々世人の信仰を厚くするに至つた。

傳法院

淺草公園地。當寺は淺草寺の本坊で、もと觀音院、知樂院と稱し、貞享二年以後東叡山の監理する處となつて傳法院と稱せられ、いまは比叡山延曆寺の直末になつてゐる。元版一切經、小野道風書その他の國寶を多く藏し、また小堀遠州の設計になる庭園は、かゝる繁華の内にあつて池水の清澄、古色鬱然たることは稀に見る所として著名である。

回向院

本所區東兩國二ノ二、國技館の南隣。市電國技館前下車。當寺は國豐山無緣寺と號し、明暦三年正月(紀元二二一七年)延焼八百餘町に及んだ所謂振袖火事の大火に横死した十萬八千餘人の生靈を供養のため將軍家細の命により建立したもので、安政大地震の殉難者一萬五千餘人も合葬されてゐる。

伽藍は大正一二年の大震災に焼失、目下三階建(高さ七〇尺)耐震耐火、近代建築の美を集め、工費一五萬四千餘圓の豫算を以て再建準備中である。宗派は淨土宗鐵西派なるも、本来無緣寺として一宗一派に偏せず、宗派を超越して居る。

公園

上野恩賜公園

省線電車上野驛、市電及乗合自動車上野公園前下車。

○竹の臺 寛永寺中堂のあつた場所、同公園の中央に位し、東京府立美術館があり、臨時諸種の展覽會が開催されてゐる。

○不忍池 上野驛と本郷臺向ヶ岡との間にある低地一四萬平方メートルの池で、もと附近の水田の用水となつてゐたが、其後蓮池となり、觀月橋が架けられ、中島に辨財天祠があつたが最近近代的遊歩地として改造された。

○日比谷公園 總町區西日比谷町、内山下町。省線電車有樂町驛、市電日比谷公園前下車。櫻田門外の一廓に當り、總面積一六四、五六六方米九八、洋風式公園の最初のものである。地は江戸時代には大名屋敷(松平肥前守、松平大膳大夫、幕府御用屋敷)であつたが、維新後日比谷ヶ原と變り永らく近衛練兵場となつて毎年明治大帝は觀兵式を行せられたが、明治三二年から三九年に互り獨逸の公園を範とし之にわが國古來の造庭手法を加へた綜合的近代公園を造營し、同三六年六月から一般に開園したものである。園内には圖書館・大音樂堂・日比谷公會堂・市政會館・運動場・花壇・雲形池の噴水等があり又菊花大會、納涼會など催され、新音樂堂には臨時音樂又は舞踊會が催されて居る。

○園内特殊施設使用料(X印は入場料不徴收のもの)
▲音樂堂(一回) 晝 一六〇圓 X八〇圓 夜 二〇〇圓 X一〇〇圓
▲庭球場(一ヶ所) 一時間以内五〇錢、二時間以内一圓、四時間以内三圓
六時間以内六圓、八時間以内九圓

○淺草公園 淺草區。市電雷門地下鐵淺草終點下車。

○櫻ヶ岡・東照宮 園の南方上野廣小路から緩かな坂を登れば一條の大路園内に通じ、その右側が櫻ヶ岡で、寛永七年林羅山が家塾を建て、九年徳川義直が孔子廟を創めた所である。現在は西郷隆盛の銅像、彰義隊の墓碑、清水堂があり、丘の北方にある小山は掃跡山といふ。そしてその西、大道を隔てた所が忍ヶ岡で東照宮がある。東照宮は徳川家康を祀り、寛永三年藤堂高虎の創建で、現在の社殿は慶安四年幕府の改造したもので、後光明天皇の勅額、歌仙額等の國寶を有し、境内には酒井雅樂頭獻上の唐銅燈籠、諸侯寄進の石燈籠などが多数あり殊に土井大炊頭獻上の五重塔は淺草のそれと共に江戸時代建築の優秀なものと云はれてゐる。又鳥居の外には小松宮彰仁親王の御銅像、五條天神、花園神社、精養軒、グラント將軍夫妻手植のローソン樹とタイサンボクがあり、左には樹木の間から不忍池を見下ろすことが出来る。

○公園は往昔の忍ヶ岡で江戸時代には大名邸や聖堂があつたが、後寛永寺が建立されたので全部其の境内となり徳川幕府の終るまで盛んであつたが、大政維新、幕府瓦解するや舊幕黨彰義隊を組織し、輪王寺宮を奉じて此の地に據り、薩長諸藩の兵來りて攻め、激戦一日(明治元年五月一日)にしてさしもの堂塔伽藍は大部分灰燼に歸して了つた。そこで同年八月之を官に收め、六年公園として指定され八年不忍池をも公園に併せ、後帝室所屬となつたが更に其の一部を市に下賜されたのである。園内の特殊設備としては動物園・舟遊場・プール・庭球場・兒童遊園等であるが、近年繼續的に改良工事を加へ面目一新した。

○公園は往昔の忍ヶ岡で江戸時代には大名邸や聖堂があつたが、後寛永寺が建立されたので全部其の境内となり徳川幕府の終るまで盛んであつたが、大政維新、幕府瓦解するや舊幕黨彰義隊を組織し、輪王寺宮を奉じて此の地に據り、薩長諸藩の兵來りて攻め、激戦一日(明治元年五月一日)にしてさしもの堂塔伽藍は大部分灰燼に歸して了つた。そこで同年八月之を官に收め、六年公園として指定され八年不忍池をも公園に併せ、後帝室所屬となつたが更に其の一部を市に下賜されたのである。園内の特殊設備としては動物園・舟遊場・プール・庭球場・兒童遊園等であるが、近年繼續的に改良工事を加へ面目一新した。

金龍山淺草寺境内にして、淺草觀音堂を中心として其附近一二〇、三八一方米の地を修理して明治六年太政官布告によりて公園に指定されたものであるがその後整理して一二〇、五五八方米六八となつた。觀音堂西の約三千方米餘の瓢箪池を繞つて花屋敷・劇場・活動寫眞館其他各種飲食店櫛比し所謂淺草六區(園内は六區に分れ、此の邊は第六區に當る)の賑ひを呈し東京名所隨一の不夜城の觀を爲してゐる。

芝公園 芝區。市電増上寺前停留所は既に園内になつてゐる。省線電車濱松町驛下車。

三縁山増上寺境内の一部、愛宕下の南方五一七、八〇四方米九六の地域を明治六年公園としたもので、天然の風致其儘の公園地である。園内西の一半は丘陵地で杉その他の喬木林をなし、東の一半は低地で松林がある。園の中央には増上寺があり、その南に徳川氏靈廟(一七百參照)東照宮・丸山古墳(徳川二代靈廟の南、丘陵の上にあり、圓形墳一箇及圓墳約一〇箇あり、明治三一年頃墳輪破片、勾玉、金環其他が発見された)伊能忠敬の碑(丸山圓形墳の上にあり我國實測の時此處を元標としたと云ふ)など、北には徳川氏靈廟、西には金地院・紅葉山・蓮池などがあり、また陸上競技場・プール(入場料大人一〇錢、小人五錢)・テニスコート(使用料一時間三〇錢、四時間以内一圓八〇錢、六時間以内三圓六〇錢)等がある。

愛宕公園 市電西久保巴町下車。停留所の南、芝區愛宕山の上であり、面積一五、八四七方米二七、山は標高二六米に過ぎないが、東北西の三方展けて市街の大牛を俯瞰し得、往時風流人の月見に花見に、或は雪見に喜ばれた勝地である。山上に愛宕神社(六月二十四日は千日参りが行はれる)、東京中央放送局の演奏所がある。

愛宕山 芝區。市電愛宕山下。

因一郎のため刺殺されたのを悼んで建てた碑がある。面積一〇、九九七方米二九。

後樂園 今史蹟名勝として指定され、公開されて居ない。

陸軍造兵廠東京工廠の構内にある。江戸時代に水戸藩主徳川頼房、光圀父子が徳大寺佐兵衛に命じて造營せしめた名園で、震災のため今はや、風致を損して居るも江戸時代造營の庭園として現存するもの、隨一である。

故大隈侯庭園 淀橋區戸塚町。入園は午前九時から午後四時迄、天候又は學校の都合にて臨時閉門のこともある。

舊安田邸園 市電横網町停留所前の西約一〇〇米、本所區横網にあり、安田氏から東京市に寄附された江戸時代の泉池で、園内に公會堂(入場料晝六〇圓×四〇圓、夜七〇圓×五〇圓、×印は入場料不徴收のもの)がある。面積一三、三三五方米四四。使用料一日五〇圓。

清澄庭園 市電深川區役所前停留所前。深川區清澄町三丁目にあり岩崎氏から東京市に寄附されたもので、明治初年岩崎彌太郎氏の造營になる。市に下賜された大正天皇の葬場殿が此處に移されて居る。此の庭園は園遊會場として利用される。面積四八、五五二方米〇七。使用料一日二付(大正記念館、涼亭ヲ含ム)二二〇圓。

隅田公園 本所區隅田公園地及淺草區淺草河岸にあり、面積一八九、〇八六方米八一の隅田川を利用する。隅田川の岸に沿ひ吾妻橋から川上約一軒三に亘り、所謂向島堤を含み、言問橋に依つて連結される對岸の淺草河岸をも含まれてゐるのである。本所側の舊水戸家徳川邸址は公園中の最も幅廣い部分で林泉の風致がよい。隅田公園庭園使用料一日五〇圓、野球場使用料(二時間二付)二圓、二人乗短艇一隻一時間以内一〇圓。

品川臺場 品川灣内にあり、嘉永年間徳川幕府の築造したもので、江川太郎左衛門の設計に成り、竣工したもの六つ、未成中のもの二基ある。第三番(二九、九五〇方米)及第六番(一九、二〇〇方米)の臺場は原形最もよく保有され、指定の史蹟地となつて居り、うち第三番は公園となり隅田川口から三軒半許り、水上公園として公開されてゐる。夏季七月一日から濱町公園前及芝浦から定期船が出る。往復三五錢。

昔は月の名所として知られ、今はJ.O.A.K放送局の名によつてお馴染の愛宕山は、山とは云ふもの、高さは僅かに二六米、面積は一五、八四七方米二七の丘陵に過ぎないのである。

然し市街地に發立してゐるだけに、昔から江戸第一の眺望地として名があり、今も尚東京灣の景観を一時の中に收め得る頗る景勝の地である。もと愛宕神社の境内であつたのを明治一九年に公園に指定されたものである。山頂には愛宕神社が祀られ、左側には東京中央放送局のアンテナが高く聳えてゐる。登道は三つあつて、曲垣平九郎が騎馬で上下したと傳へられる男坂は八六段の峻嶮な石段でこの右手にや、緩やかな女坂がある。北側の新道は頂上まで自動車を通ずる。

愛宕神社 火齋靈命、日本武尊、罔象女神を祀つたもので、慶長年間の創建と傳へられ、古來火除の神として知られてゐたが、大正の大震災には皮肉にも社殿悉く焼失して了つた。然し現在は復興全く成つて美麗な社殿が建てられてある。祭日は九月二十四日、一月二日には毘沙門の神使と稱する行事が行はれる。

明治維新の江戸攻撃の時、幕臣勝海舟と官軍の將西郷隆盛とが、共にこの愛宕山に登つて眼下に江戸の市街を眺めながら、談笑の裡に江戸城明渡しのことを決めて、東京をして兵火の慘から救つたのは有名な話である。

この愛宕山の洞中を、愛宕町一丁目から西久保巴町に貫いて造られたトンネルは、延長約四二間、幅員五間、高さ二〇尺で、東京市唯一のトンネルである。

舊芝離宮恩賜庭園 省線電車濱松町驛の東側。開園午前九時から午後五時頃迄。

元祿年間當時の老中大久保忠朝の經營したもので、江戸時代の代表的且典型的の名園で、林泉を主として之に島嶼を築き、橋を架して遊歩を便にし、池の水は潮入である。また園内に櫻樹が多い。明治九年離宮となり、大正一三年一月今上天皇陛下御成婚記念として東京市に下賜されたもので、昭和八年十一月史蹟として指定された。面積四九、一八四方米一三。使用料一日八〇圓。

清水谷公園 市電赤坂見付停留所の北約二五〇米、鷗町區紀尾井町にあり、園内に櫻樹及びつばきが多く、また大久保利通が明治一一年紀尾井坂で馬

新月島公園 京橋區月島四號地。市電 月島終點から東へ約一軒。

本公園は東京港築港計畫に依る月島四號埋立地の東端に位置し、市民保健體育の資に供するため運動本位の公園、所謂スポーツ公園として假設備をなし、昭和九年三月廿五日から一般に開放されたものである。總面積五七、四四四方米四一(一七、三七六坪九五)、園の北部には一九、五四四方米(約六千坪)の野球場があり、まだスタンドの設備はないが、其の廣さに於ては神宮球場より一週り廣い。南部には二五、四一一方米の競技場及約六百平方メートルの兒童遊園を設けてある。球場使用料二時間に付一圓五〇錢。

有栖川宮記念公園 麻布區盛岡町

此の地はもと盛岡藩二〇萬石の領主南部甲斐守利恭の下屋敷であつたが、維新後他に拂下げてあつたのを、故有栖川宮威仁親王殿下が新邸御造營の恩召を以つて今の盛岡町全體の地域(二萬七千坪)御買上げになられたが遂に御造營の事なく御境界遊ばされた。同宮家の御祭祀を繼がせられた高松宮殿下には現在の高輪御所があらせられるので、自然此の地は御不用となつたので、先に宮内省に移管せられた約一萬坪を除く大部分の地即ち一〇、九八八坪餘を昭和九年一月五日、故宮殿下御命日に際し東京市に御下贈になつたのである。市では直ちに純日本式の公園としての設備をなし同年七月から開園した。園の東方は高臺、西方は低地、東北隅の溪谷に滾々と泉が湧き、それが低地に導かれて大池となり、之にのぞむ百坪程の平地には見事な梅樹がある。

風致地區

都市計畫法第十條第二項に基く帝都の内外に於ける都市計畫風致地區は、大正一五年九月明治神宮の内外苑に通ずる參道四路線並に其の兩側與行各一〇間の區域を指定したのが最初であつた。その後、昭和五年四月に多摩御陵の周圍を、同年一〇月に洗足・善福寺・石神井・江戸川の四風致地區を指定し、次いで昭和八年一月更に多摩川・野方・和田堀・大泉の四風致地區が指定せられ、多摩御陵を除く東京都市計畫に屬する分は九ヶ所、七、〇五七、〇〇五坪に達し、東京都市計畫區域總面積(約一六五、五〇〇千坪)の四分二厘強を有して居る。

▲明治神宮風致地區 赤坂區・澁谷區・淀橋區の各一部、八三、五〇五坪。▲洗足風致地區 大森區の一部、九一、二二五坪。▲善福寺風致地區 杉並區。板橋區の各一部、一八二、七〇〇坪。▲石神井風致地區 板橋區の一部、二八

大東京案内(動物園・植物園・博物館)

四、一五〇坪。▲江戸川風致地区... 川風致地区... 和田堀風致地区... 淀橋區、杉並區の各一部... 尚多摩御陵風致地区は八王寺都市計畫に因るもので、東京府南多摩郡淺川町、横山村の各一部面積一〇、一八九坪である。

動物園、植物園、博物館

上野恩賜公園動物園

省線電車上野驛下車、市電上野公園前下車。上野公園方面からは表門、本郷及不忍池方面からの入場者は裏門から入る。

〔入園料〕大人一五錢、二歳以下一〇錢、五歳以下無料、團體は三〇人以上大人一〇錢、小人八錢、五〇人以上大人八錢、小人五錢、一〇〇人以上學生大人五錢、小人三錢宛、市内小學校及幼稚園生は無料。

開園時刻 一月一日 午前九時—午後四時 二月一日 午前八時—午後六時 三月一日 午前八時—午後五時

入園券は開園時刻の三〇分前迄發賣。二月二九・三〇・三一日休園。開園時刻は天候其他の都合に依り伸縮する事がある。觀覽所要 二時間位。

もと宮内省の所轄で帝室博物館に附屬してゐたが大正一三年一月東京市へ下賜されたもので、明治一五年創立、今日までに漸次完備し、諸種の哺乳類・鳥類・蟲類・兩棲類・魚類等を飼育して一般に觀覽せしめてゐる。總面積三三、〇〇〇平方米、飼育動物數二六五種、一二〇〇點(昭和九年九月現在)。昭和七年三月東京市役所發行「動物園案内」(繪入)一部一五錢。

小石川植物園

小石川區白山御殿町。市電指ヶ谷町停留所下車西へ約二〇〇米。

る。博物館は明治五年二月博覽會事務局を正院中に於かれたのに始まり、八年博物館と改稱し、一五年現在の地に新築、一九年宮内省の管理に歸したもので、主として本邦・支那・印度等の東洋のものを蒐め、總數約四六萬に達し、歴史・美術・工藝等各部門の参考品が分類陳列されてゐたが、大正一二年の震災で本館を崩壊され、今復興建築中で陳列は主として表慶館のみとなつてゐる。表慶館は明治三年五月先帝陛下御成婚に際し、之を奉祝記念せんが爲、東京市民により建設獻納され、明治四二年五月開館したものである。

遊就館・國防館

市電九段坂上下車。靖國神社境内、社殿の傍にあり。

〔兩館共通入館料〕大人一〇錢、一歳以下五錢、六歳以下無料。

開館時間 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日

▲一月二八日から三一日迄休館。

▲觀覽券は開館時刻の三〇分前迄發賣す。觀覽所要約一時間。

遊就館は明治一二年一月の創立にかゝり、大正一二年の大震災に於てその厄に遭ひ、昭和六年一〇月に總延坪一、九〇〇坪の近代東洋式三層の新館落成した。昭和九年四月更に本館の西隣に附屬國防館と謂ふ總延坪五八〇坪で徳川時代の武器庫に模した近代的兵器博物館が新築された。遊就館の清楚にして典雅の建築と國防館のどつしりとした偉容とは森嚴なる靖國神社の神域に相應しく帝都九段坂上の一偉觀をなしてゐる。

大東京案内(動物園・植物園・博物館)

〔入園料〕普通觀覽券一人三付一〇錢(廿回券一圓四〇錢、五〇回券三圓) 一〇人以上の學生團體は一人に付三錢、五〇人以上の普通團體は五錢宛。 温室及び山草栽培所其他の入場者は別に五錢(學生團體二錢、普通團體三錢)

觀覽時間 四月中 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月 自五月

▲毎年一月一日休園。觀覽所要約二時間。

▲温室内の觀覽は毎日曜日、祝祭日並に土曜日正午から、但し臨時に觀覽を許すこともある。山草栽培所其他は時宜に應じ觀覽を許す。

當園は昔の白山御殿、館林侯綱吉の下屋敷であつたのが享保六年江戸幕府が藥園と稱して設けたもので甘藷先生が始めて甘藷を試作した所である。今は東京帝國大學理學部附屬植物園となり、内外のあらゆる花卉を集め温室を備へて四時不絶の花を培養してゐる。又園内泉石の配置妙を極め、四季の眺めに富む。總面積一五方軒九。

帝室博物館

上野公園内。

省線電車上野驛又は鶯谷驛下車、市電上野公園前下車。〔入館料〕大人一〇錢、小人五錢(六歳未満無料)團體三〇人以上は一人に付大人五錢、小人三錢。目錄類東京帝室博物館案内一〇錢。

開館時刻 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日

▲一月二六日から翌年一月二日まで休館。觀覽所要約一時間。

土地としては公園外であるが、上野公園の一部とも見るべき寛永寺舊本坊の跡に建てられたもので、正面の古風な純日本式の黒門は寛永寺中書院の正門であつたものであ

本館の陳列館は先史時代から現代までの諸種の武器什具を各其時代別に分類陳列して其の沿革を知らしめ、軍事の參考に供する外、明治天皇、大正天皇の御遺物を始めとして明治以後に於ける各戦役の記念品及戦歿者の遺物等二萬點を陳列してある。

國防館に於ては主として我陸軍に於ける最新の科學兵器を陳列し其機構は動力運轉又は斷面、模型「デオラマ」等で動的に表示して觀衆の理解を容易ならしめてあるのみならず各種の實驗も出来る様に準備され且亦映畫を公開してゐる。

斯くして遊就館は國防館と共に國民精神の作興、科學國防の普及に努めてゐる。

東京科學博物館

下谷區上野公園内、兩大師前。

〔入場料〕大人一〇錢、小人五錢。二〇人以上にして引率者ある團體は一人に付五錢、尋常小學校兒童團體は無料。▲但切符は開館時限三〇分前迄發賣す。

開館時刻 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日 自一月一日

▲一月二九日から正月三日まで閉館す。

文部大臣監督の下に經營してゐるもので、大正一四年三月東京帝室博物館から天産部陳列品全部を譲渡されたので之を中心として本郷湯島二丁目自然科學に關する各種の參考資料を蒐集陳列し、又隨時各種の展覽會を催して社會教育に盡して居たものであるが、その後建物の狹隘を感じ上野公園竹之臺の學士院隣地に新築されたものである。陳列品は動物學部・植物學部・地學部・理工學部の四大部門に

大東京案内(動物園・植物園・博物館)

分たれ、何れも有益なる参考資料が多数蒐集されてある。

○定期演劇其他

風洞・飛行機操縦・新聞印刷・X光線・オツシログラフ・偏光顕性・スペクトル・紫外線等毎日十時半、一時半、三時半の三回定期演劇があり、また毎週土曜日一時から二時迄一部門宛三〇人を限り陳列品に就て特別の説明がある。尚毎週土曜日二時半から本館二階大講堂で活動寫眞映寫があり、また天體觀測は晝間も一般に公開して居るが特に夜間觀測希望者のため毎週水曜日及土曜日の二回、日没から九時頃迄四〇人を限り(但し水曜日は三〇人限り)觀測を指導して居る。天體觀覽券一〇錢。

大倉集古館

赤坂區芝園三、市電西久保巴町又は虎ノ門、溜池下車、何れも約三〇〇米。

開館時刻(自四月至九月 午前九時—午後四時 自十月至三月 午前九時—午後三時)

▲毎月曜、三大節及一二月二六日から一月五日迄休館。▲入館料無料。

大正四年故大倉喜八郎氏が授爵記念として、其蒐集に係る美術を擧げて財團法人に寄附する事となり、大正六年開館されたが大正一二年震災に焼失し、再び向男爵の寄附により昭和三年一〇月開館したものである。支那風の建築で階上、階下に別れ、總面積約二五〇坪あり、主なるものは平安時代の普賢菩薩の木像、鎌倉時代の詩繪の手箱、刀剣類を首め、世界最古にして最大なりと稱せらる、支那の石佛及秦時代の大漆鏡、支那三國時代の優秀な石彫の獅子、支那の墓誌石、婁(せん)・瓦當(ぐわとう)・鏡范(せんぱん)・西蔵の金銅佛などである。

逓信博物館

省線電車飯田町驛下車、市電牛込見付下車。麴町區富士見町五ノ二三にあり。入館料無料。觀覽所要約一時間。

開館時刻(午前九時から午後三時まで 但七月二一日から八月三一日迄は午前八時から正午迄)

▲祭日及毎週月曜日、一二月二〇日から翌一月一五日止休館。

演劇博物館

市電早稻田終點下車、または省線高田馬場驛下車。澁橋區戸塚町一ノ六四七、早稻田大學内にある。入場料無料。毎日九時から四時迄、但祝祭日の翌日は毎月曜、八月中休館(電話牛込五二四)

電気博物館

麴町區有樂町二丁目。市電數寄屋橋停留場、省線有樂町驛下車。開館日時 一月六日—一二月二六日迄毎日午前九時から五時迄開館 觀覽無料

鐵筋コンクリート造の地階共四階建の東京市電気研究所内の第一階(面積一八七坪)を電気博物館としたもので、同館には電気に関する機械器具材料・模型・圖表・寫眞・繪畫等が陳列されてゐる。

飛行機模型室

芝園田村町一ノ三。市電田村町一丁目下車。開館日時 毎日午前八時—午後四時、毎月第一及第三月曜日休館 觀覽無料

帝國飛行協會の事業として航空知識普及及宣傳のために設けられた鐵筋コンクリート、ルネッサンス式六階建飛行館の一階が陳列室である。航空機模型・同器材及び發動機・航空母艦模型・飛行機模型、その他圖表等が陳列してある。

名 所

東京驛

麴町區丸の内にあり、大東京の表玄関に當り、また大東京の中心點をなして一日十三、四萬の乗降客を吞吐してゐる。建物は大正三年竣工したルネッサンス式鐵骨煉瓦及石材造の間口三三四米、奥行二〇米乃至四二米の堂々たるもので、今日でこそ丸ビル、中央郵便局其他の大建築に包圍されて、さほど目立たないが、しかし尚東洋第一のステーションである。階下中央に帝室御用御車寄及御待合所、南翼に乘車口、北翼に降車口あり、構内にはツリリスト・ビュロー、鐵道案内所、東京市設案内所、旅館案内所等あつて旅客の便を計り、階上には東京鐵道局及東京鐵道ホテルがある。また地下室には大浴場(一回三〇錢)、理髮室、美容室、食堂などがあり、旅行者は此處で清々しい気分を取戻して市内を見物又は商用を遂げる事が出来る。

上野驛

下谷區上野、上野公園下にあり、此處は大東京北口の玄関をな

大東京案内(名所)

早稻田大學名譽教授坪内逍遙氏の業績を記念する爲、昭和三年に創建されたもので、總面積四五二坪一六(建坪一二二坪四)地階共四階建のエリザベス朝式と稱する建築様式で、主として沙翁時代の劇場のフォーチュン座の構造を模したものである。正面玄関は舞臺となり陳列品は芝居錦繪、劇場看板其他で參考圖書も多く蒐められてある。

鐵道博物館

省線東京驛下車又は市電丸の内下車。大手町、省線高架線アーチ下にあり。毎日午前九時から午後四時迄。毎土曜日午後活動寫眞あ

鐵道知識普及のため、鐵道省が鐵道の諸設備及車輛の實物、模形及圖表類を陳列公開してゐるものである。入場無料。

赤十字博物館

芝園芝公園五號地。市電御成門又は濱松町一丁目下車、省線濱松町驛から半軒許り。開館時間 自四月至一〇月 午前八時—午後四時 但七月二一日から八月末日迄は正午迄 自一月至三月 午前九時—午後四時

但團體の觀覽者には月曜日も特に入場を許し、且つ現場の案内説明並活動寫眞映寫の希望に應ずるから、此の場合には成るべく電話等に豫め申込み置かす事。

本館は日本赤十字社創立五十年記念事業の一として建築されたもので、二階鐵筋コンクリート延坪六九一坪あり、赤十字の歴史及事業並に保健・衛生に関する資料を陳列し、大正一五年一二月五日から一般に公開されたものである。入館料無料。

東京市復興記念館

本所横綱町、震災記念堂苑内、市電石原町下車。開館日時 毎日 但シ毎月末日休館

自四月至五月 午前八時—午後五時 自六月至九月 午前八時—午後六時 自十月至三月 午前九時—午後五時

大正十二年大震災の被害を記念する物品、其状況を後世に傳ふべき繪畫、

し毎日七萬人前後の乗客を吞吐し(昭和八年十一月九日調乗車人員三萬三千餘人にて第六位、降車人員約三萬一千人にて第八位に居る。現在の本屋は昭和七年三月工費約二百五〇萬圓を費して竣工した近代式瀟灑な建物で、階下には自動車庫あり、また各種の食堂・賣店があり、更に地下鐵道と連絡して淺草及銀座へ數分にて達する様になつてゐる。

帝國議事堂

麴町區霞ヶ關、市電狸田門下車。海抜九八尺の霞ヶ關の高臺に、白壁の大建築が堂々と聳ゆること二一六尺、その高さ正に日本第一、世界有数の大建築である。中央に方形の高塔があり、上部はピラミッド型で最上部は展望室、二階正面に帝室御車寄がある。右は貴族院、左は衆議院、兩院は略シメントリに造營され、各議場は二階にある。建坪約三、七四〇坪、建物正面長さ約四八間、總室數三六一室あり、兩議場の坪數は夫々二〇坪、議席は夫々五一九席、傍聽席數貴族院九六八席、衆議院一、一三七席、總工費豫算二二八〇萬圓で大正一〇年から一三ヶ年の歳月を経て漸く完成に近づいたのである。これに使つた材料は花崗岩が山口縣の黒髮島及び廣島縣の倉橋島の産、大理石は全部琉球産、その他凡て純國産品を用ひたといふ。

水準原點

麴町區水田町、參謀本部陸地測量部の前庭にある。深さ一〇米の所から築いた煉瓦積基礎上の臺石に、水晶製の尺度を嵌入したもので、その零分畫の位置を東京灣内隅田川河口靈岸島水準點から精密水準測量で導き、東京灣の中等海面からの眞高二四米五に一致させたものである。

日本銀行

日本橋區本町二丁目。市電日本銀行前下車。江戸時代に後藤光次が金吹をした金座址の地である。日本の中央金庫で、米國ワシントンの中央金庫に倣つて建てられた花崗石造三階建である。

丸の内ビルディング

(略して丸ビルと云ふ) 麴町區丸の内、東京驛前。

三菱合資會社の所有。米人フリーラーの設計になり、大正十二年竣工。この大東京第一と稱せられる大建築も、僅か二ヶ年の短年月に完成せられ、その足

場なしの建築方法は、日本に於ける最初のものであるといふ。
 外觀は直四角な箱形で間口・奥行共に約五〇間、鐵筋コンクリート建、地下室共九階、中央に二つの大きな中庭をもつてゐる。敷地二、八二二坪、延坪一八、二八〇坪、高さ一〇三尺、建築總工費一千五百萬圓。
 最近の調べによれば、その部屋數約八五〇、そこに働く事務員總數約三、三〇〇、一日の入館者推計數は實に四萬の多きに達するといふ。
 一階、二階及地下階は各種の商店、食堂で占められ、その店數は約百軒、銀座通の商店數が約二五〇軒といはれるから、丸ビル一つだけで立派な街、一つの盛り場が出来てゐるわけである。三階から八階までは貸事務室に造られ、そこには凡ゆる方面の會社商店が事務所を置いて居る。
東京株式取引所 日本橋區兜町、鐵橋南詰。
 兜町といへば直ぐ株式取引所を聯想さる、程、此處は株屋町として著名な所である。
 この株式取引所が創立されたのは明治十一年五月で、當時の資本金は僅に二〇萬圓、取引員一四名、一ヶ年の取引高は債券額二、六五五萬圓、株式數が二五二枚と云ふ微々たるものであつたが、それが五〇年後の今日には資本金四、七〇〇萬圓、昭和八年度の賣買高は、株式は一、八四三萬餘株で其の代金は、一三八、一七七萬圓を越ゆる巨額である。債券額も九一、六六四萬圓餘に達してゐる。
 株式取引所の建物は本館、市場、それに貸事務所である東株ビルの三つから成り、總工費六四一萬餘圓、全部の竣工を見る迄に六年七ヶ月の日數を費してゐる。この種の建物としては、東洋に冠するは勿論、世界屈指の大取引所と云はれてゐる。

東京米穀商品取引所 日本橋區蠟燭町。
 いつも兜町と對照されるのは此の蠟燭町で、「蠟燭町に出入りする」のは即ち「米相場に手を對す」ことを意味されて居る。米相場の起原は相當古いものであるが、東京兜町米商會所と東京蠟燭町米商會所の二社が、米商會所條例によつて營業を開始したのは明治九年一〇月のことである。この兩社は一六六年に合併して東京米商會所と改稱したが、當時の資本金は一〇萬圓に過ぎなかつた。これが其後發展生長をして今日の取引所となつたわけである。最近一ヶ年

の米の取引賣買高は五、六〇〇萬石を越え、金額は一三二、三〇〇餘萬圓と云ふ膨大なものである。
ニコライ聖堂 神田駿河臺。省線電車御茶ノ水驛下車。
 日本ハリストスの正教會本會の會堂で、ハリスト復活聖堂が其の本稱であるが、大教司ニコライの創建になるので此の名がある。明治二四年竣工、ビザンチン様式の煉瓦造で本堂(地盤から頂上まで一四尺)、鐘樓(二五尺)の二字に分れ、古式によるギリシヤ式十字形をなしてゐる。
東京帝國大學 本郷區本富士前町。市電大學正門前下車。
 面積約三九七方尺、もと加賀藩主前田家の邸であつた處で、今にその門が保存され大學赤門で知られて居る。農學部(目黒區駒場にあり)以外の各學部がある。

國技館 市電國技館前下車。兩國橋の東詰に近き本所區東兩國町二ノ二にあり、此地は舊幕時代からの相撲場で、今の建物は正八年一五〇萬圓を費して竣工したもので、建坪四千坪、高さ一三五尺、直徑四〇〇尺の圓形大鐵骨は市内何處からでも、それと一目に判る程大きなものであり、僅に一萬六千人の觀客を收容する事が出来る。毎年此處で行はれる一月の春場所及五月の夏場所は好角者を熱狂させ、七、八月には納涼會、一〇、十一月には菊花大會が催される。
被服廠跡 本所區横綱町。市電石原町一丁目下車。
 舊陸軍被服廠の地で、去る大震災の時約三萬五千の生靈が甚慘にも此所で惨死した所である。此の慘ましい死を招いた人々の靈を弔ひ、震災を永遠に記念するため數十萬人の據金に依り百萬圓の資金を以て建設された純日本風鐵筋コンクリート造の堂と三重塔の二字から成る「震災記念堂」がある。記念堂の中には六萬人の遺骨と其人々の銘々簿とが木體として安置されてゐる。又堂内には大震災を物語る種々の油繪や、當時の慘禍を偲ばしむる記念物が保存され、此處を訪ふ人々はまぎれと眼のあたりあの大震災の悲しい叫びが蘇つて來るであらう。
 地は元大震災前までは横綱町公園となる事となり、着々準備中であつたが、震災後其計畫をかへて記念堂を建設したもので、このあたりは稀な體着たる樹林地で、日本風な庭園に造られてゐる。

繁華街

東京中央卸賣市場 京橋區築地、市電築地下車。
 これは大正一二年發布の中央卸賣市場法に基づき、千五百萬圓の巨費を投じて設立せられたもので、市民の日常必需品たる魚類、肉類、卵、蔬菜及果實等の卸賣を行ふ。建物、設備等は一切東京市の所有で、各間屋、仲買店が之を借りて商賣することになつて居り、その規模の宏壯、施設の完備取扱數量等、世界屈指の市場である。

隅田川十二大橋
 東京には大阪程に河川はない。従つて橋の數に於て大阪に一籌を輸するが、橋の壯大に於ては全國何れの都市にもその比を見ない。特に震災後隅田川に架せられた相生橋・永代橋・清洲橋・兩國橋・藏前橋・靨橋・駒形橋・吾妻橋・言問橋・白鬚橋の十二大橋は、それぞれ特色ある様式を備へ、之に新大橋及千住大橋を加へ共に帝都の近代都市美を代表してゐる。就中、清洲橋橋長一八六米餘、幅員二二米、永代橋(橋長一八五米餘、幅員二二米)は共に三百萬圓の巨費を投じて建設されたもので、その壯麗さに於ても他を壓してゐる。隅田川を巡航してゐる汽船を利用してこれら隅田の諸橋を見物するも亦興味があらう。

日本橋 市内目貫の日本橋通りの通一丁目と室町一丁目に跨り、日本橋川に架つてゐる。慶長八年の創架で、翌年この橋詰が國內里程の元標と定められた。現今のものは明治四四年の架替である。
 昔は此の橋の南詰に高札場があり、諸法律令・全國里程表・親籠・馬などの賃金・荷物の運賃などを掲示して居つた。同じく南詰今の通一丁目のあたりに晒場があつて、罪人は小傳馬町の牢から早朝引き出されて、夕方五時まで晒されたものである。破戒僧、情死未遂者は本刑として之を科せられたと云ふ。
 現在の橋は昔に比べて長さが短くなり、幅が廣くなつてゐる。橋の中央には道路元標の鐵塔が建てられてゐる。橋名の文字は江戸に縁故深い十五代將軍慶喜公の筆になるものである。

高輪大木戸址 市電田町九丁目停留所の南、車町河岸に寄つた通路の傍にある。もと大規模の木戸があり東海道々中の客は此處で旅装を改め、送迎のものも多く此處を限りとしたと云ふ。今史蹟地として指定され、長方形の石壁が遺つてゐる。

京橋の銀座通り、日本橋の大通り、神田小川町通り、人形町通り(水天宮前から小傳馬町への大通り)などの目貫の大通りで、淺草、上野の廣小路なども股賑を極め、新宿、牛込神樂坂、澁谷道玄坂等も震災後殊の外賑はひ、それら異つた盛り場情緒を見せてゐる。
銀座 京橋區銀座一丁目―八丁目。
 市電銀座一丁目、二丁目、四丁目、七丁目、地下鐵銀座、省線有樂町又は新橋驛下車。
 銀座通りとは新橋から京橋まで延長約八百米許の街路で、慶長七年駿府から今の二丁目の所に銀座を移し、銀を吹き貨幣を鑄造したので起源して居る。松屋・三越支店・松坂屋等の百貨店や、服部・天寶堂・御木本眞珠店・伊東文具店十字屋樂器店・明治屋等の大商店軒を連ねて東京のショッピング・センターを形成し、夜はまばゆいネオンサインの色彩、ジャズの囀音、カフェー、バーによつて獨占され、麗々紐育の第五番街に對比させられる程の繁華を見せ、日本の凡ての流行は此の銀座街から流れ出すのである。此の銀座街を漫歩する事を「銀ブラ」と稱されてゐる。

此の地慶長以前は一帶の沙入地であつたのを、慶長八年に諸侯がそれら區劃を受持つて埋立てたものである。今日の俗稱に残る尾張町・出雲町・因幡町・加賀町など、云ふ舊稱は、それらの大名の分擔地を呼んだものである。やがて丸の内や木挽町あたりに、武家屋敷がふえるにつれて商店も出來たわけであるが、この外の諸町、八官町とか三十間堀とか宗十郎町・日吉町・山下町等二ヶ町を今はたゞ銀座の名の下に一括して、東西は三十間堀川と外濠、南北は京橋川と新橋川とに圍まれた一廓を、「銀座」と「銀座西」とに分け、各々一丁目から八丁目に及んでゐる。
淺草 淺草區淺草公園、市電、地下鐵雷門下車。
 同じ盛り場でも銀座はや、取り澄した感があるが、淺草は誰にでも親み易く、大衆的だと云ふ點にその特長がある。觀音様に參詣したのち所謂六區に廻つて、そこに並ぶ映畫館や劇場や寄席等をのぞくのも一興であらう。これらの

大東京案内(特殊街、娯樂)

娯樂場は朝十時頃から開場してゐる。浅草は又食物屋が多く、安直に食べられるのも此處の特色である。

新宿

昔は一宿場に過ぎなかつた新宿が、震災後急激な發展をして、現在では東京に於ける有数の盛り場となつた。省線新宿驛の旅客数が日本一であると云ふ事實がこれを證明してゐる。百貨店・大商店・映畫館・劇場・カフェ・バーがぞくぞくと建てられて行く。新宿はその位置が大東京の殆ど中央に位してゐるので今後も益々發展するであらう。

特殊街

官廳街

霞ヶ關一帯には官廳が立ち並び、官廳街と呼ばれてゐる。櫻田門から虎の門に向つて警視廳・司法省・裁判所(大審院、控訴院、地方裁判所)・海軍省・内務省(目下建築中)・文部省があり、辨慶堀に沿つて三宅坂方面にかけ新議事堂・陸軍省・參謀本部があり、附近には首相官邸を始め各大臣官邸、各國の大公使館が多い。

オフィス街

東京驛頭から周圍を見廻すと、丸ビルを中心として巨大なビルディングが並び立ち、所謂丸の内オフィス街を形成してゐる。日本全國の大會社・大銀行の本店或は支店の大部分がこゝに事務所を有してゐて、このオフィス街の事務所に通勤するものは約四萬人と云はれ、朝夕東京驛から吐き出され又吸ひ込まれて行く通勤者の行列は壯觀を呈する。

書店街

學生街と云はれる神田の駿河臺下から九段坂下にかけて、通りも横町も殆ど古木屋で占められてゐる。神保町を中心とした古木屋の数は二百餘軒と云はれ、三省堂・東京堂・富山房等の有名な書店もこゝにある。

娯樂

主としてレビュウを上演する。

新宿劇場

市電角筈停留所、省線新宿驛下車
電話 四谷(三五)三一六四
浅草區第六區三號、市電田原町下車
電話 浅草(八四)二二九八

公園劇場

浅草第六區(電話根岸一九五一)
昭和座 浅草第六區(電話本所二七四六)
高砂座 深川區東元町(電話本所二七四六)

主なる娯樂館

〔外國映畫を主とするもの〕

日本劇場 麴町區有樂町、省線有樂町驛前(電丸ノ内三五八五一八)
帝國劇場 麴町區丸ノ内、市電日比谷下車(電丸ノ内三七三〇一四)
日比谷映畫劇場 麴町區有樂町一丁目、市電日比谷下車
電話 銀座(五七)一五六一 各階五〇錢均一

南明座 神田區小川町三ノ一、市電小川町下車(電神田四四二一)
シネマ銀座 京橋區銀座七ノ一、同 銀座七丁目下車(電銀座二七五一)

芝園館 芝園新堀町、同 芝園橋下車(電三田三六七六)
本郷座 本郷區春木町一ノ五、同 本郷一丁目(電小石川四〇一四)

葵館 赤坂區溜池三〇、同 溜池下車(電赤坂五四〇)
新宿歌舞伎座 四谷區永住町、同 新宿一丁目下車(電四谷三二一六)

大勝館 浅草區公園第六區、同 雷門下車(電浅草二四二〇)
目黒キネマ 品川區上大崎二丁目、同 省線目黒下車
武藏野館 淀橋區角筈一丁目、同 省線新宿(電四谷二〇六)

道玄坂キネマ 澁谷區榮通一ノ五、同 省線澁谷(電青山七六四八)

〔日本映畫を主とするもの〕

丸ノ内松竹劇場(松竹) 麴町區有樂町、市電數寄屋橋、省電有樂町下車
(電丸ノ内三八一一三)

新富座(松竹) 京橋區新富町六ノ八、市電新富町下車(電京橋四六九八)

麻布松竹館(同) 麻布區木村町一五三、同 四ノ橋下車(電高輪五九九九)

帝國館(同) 浅草區公園第六區、同 雷門(電浅草二〇二二、六二六六)

大東京案内(娯樂)

主なる劇場(十年二月現在)

歌舞伎座

京橋區木挽町四丁目、市電・バス三原橋下車
電話 京橋(五六)三一三三
現今の建物は正一四年の竣工で、鐵骨鐵筋コンクリート構造による日本宮殿風の典雅なものである。四階建てで地下室があり、總建坪四、三〇〇坪餘。二、五〇〇人を收容する事が出来る。

東京劇場

京橋區築地三丁目、萬年橋際、市電・バス三原橋下車
電話 京橋(五六)五一五一
歌舞伎座と川を隔てたすぢ向に有り昭和五年の竣工になる現代式設備の完備してゐる四階建ての建築である。

新橋演舞場

京橋區木挽町六丁目、市電三原橋下車徒歩二三百米、又は銀座七丁目下車徒歩約半軒
電話 銀座(五七)七五七、七五八

明治座

日本橋區濱町二丁目、銀座通り
市電久松町又は中の橋・濱町下車、或は東京驛前から乗車自動車同座前下車(五錢)
電話 浪花(六七)三八九

歐風に東洋風を加味した現代式鐵筋造四階建て、總建坪二、一三四坪、千人を收容し得る。

東京寶塚劇場

麴町區有樂町一ノ一二
市電日比谷下車、省線有樂町又は新橋驛下車
電話 銀座(五七)三〇三九、一五六一、五九六一
本劇場は昭和九年一月一日日比谷の一角に新に開館されたもので、外觀は全く舊來の様式を離れた新興型式清新明朗な感じを與へ、内部もあらゆる最新設備をされてゐる。建坪一、〇二坪六五四延坪四、七九三坪五九八、地階共六階建て、觀客定員一階一、四九六人、二階七六八人、三階五一四人計二、七七八人である。觀覽一階一圓半、二階一圓、一圓半、三階五〇錢。大阪寶塚少女歌劇、其他毎月上演される。

新宿第一劇場

澁谷區角筈一丁目、市電及省線共新宿下車
電話 四谷(三五)六〇四四
地階共五階、一、五〇八坪の現代式建築で、千五百人を收容し得る。

浅草松竹座

浅草區公園第六區四號、市電及地下鐵田原町下車
電話 浅草(八四)二〇〇三

主なる娯樂

スポーツ

スポーツは今全盛時代である。春秋毎に行はれる東京六大學野球リーグ戦はスポーツの中でも人氣の焦點であり、春夏兩場所の大相撲、眞夏の日に行はれるアイス・スケートの快等遊士を樂しませる。に充分であるまた近年益々級の娯樂として一部有産階級に獨占されてゐたゴルフも最近では料金の安の普及ゴルフ・ゴルフリンクがどしどし設けられ、紺碧の大空に白線を描いて飛ぶゴルフ!それはなんとも云へぬ爽快な気分を湧き立たせ、大衆的スポーツとして誰でも氣安く朗かに樂しめる様になつたのである。

神宮球場

毎年春秋二回、東京六大學野球リーグ戦が行はれて東京名物の一つに算へられて居り(内野券一圓、外野券五〇錢)盛夏七、八月頃は東京日々新聞社主催の都市對抗野球戦が催される。

神宮外苑競技場

隔年毎に全國青年の血を躍らす神宮體育會は十一月に催され、この外水泳・ラグビー・拳闘なども隨時行はれる。

アイス・スケート

山王スケートリンク(芝區溜池山王會館地階、市電山王下下車)
滑走料一時間二付五〇錢 スケート貸料一時間二〇錢(毎日)

芝浦

朝日スケート場(市電芝浦二丁目下車)
滑走料 一時間五〇錢 スケート貸料一時間二〇錢(夏期休み)

大東京案内(娯樂)

▲伊勢丹スケートリンク(新宿伊勢丹百貨店内)
滑走路 一時間五〇銭 スケート貸料一時間二〇銭(期間未定)

【ゴルフ場】

(バブリック)

▲駒澤ゴルフ場(目蒲電鐵直營)世田谷區深澤一ノ九五三
電話青山(三六)一七六六

東横電車 自由ヶ丘驛から二軒餘、バスにて七、八分、賃一〇銭、七分

又省線山手線目黒驛から東横タクシーにて一人七〇銭二人以上一臺一圓

十八ホール 六、一四五ヤード

入場料二〇銭 グリーンフキー平日一圓八〇銭、日・祝・祭日三圓三〇銭

(但平日前十時迄に退場する者及後四時から入場者に限り一圓)

キヤデー使用料 一人一ラウンド六〇銭 二ラウンド目四〇銭

ロッカー使用料 一個一日一〇銭 同 六ヶ月四圓

クラブ貸付料 一セット(八本組)二圓(但土曜及日・祝祭日には貸付をな

さず)

教授料 三〇分五〇銭、半ラウンド一圓 一ラウンド二圓

▲等々力ゴルフ場(目蒲電鐵經營)世田谷區玉川野毛町一、〇〇三
電話 玉川一〇二番

東横電車等々力驛下車約三〇〇米、バス片道五銭

六ホール 九八五ヤード(二萬五千坪)

開場時間 自五月至九月 前七時―後九時、四月及十月 前八時―後九時

三月及十一月 前八時―後八時、十二、一、二月 前九時―後七時

入場料 一回 二〇銭

グリーンフキー 平日八〇銭、日曜及祝祭日 一圓八〇銭

練習料 ボール一籠(三打入)五〇銭

練習ボール・グリーンフキー共通回数券 一五回分六圓

貸クラブ料 八本組一日一圓 一本一〇銭

教授料 三〇分又は一ラウンド 五〇銭

キヤデー使用料 三ラウンド迄三〇銭、四ラウンド以上五〇銭

ロッカー使用料 一回一圓一〇銭、六ヶ月四圓

九ホール 三、三〇七ヤード

グリーンフキー 平日一圓 日・祝・祭日二圓

キヤデー 五〇銭(次回からは四〇銭) 入場料二〇銭(現在なし)

貸クラブ 一本に付一〇銭、五本入一ラウンド五〇銭

練習用ボール 三打入一籠四〇銭(二籠目から三〇銭宛)

▲砧ゴルフ場 東京府砧村

小田急 小磯船橋驛下車、徒歩數分

九ホール 一、九三五ヤード

入場料 二〇銭、グリーンフキー平日八〇銭、日・祭一圓八〇銭

練習用ボール 三〇球入 三〇銭

貸クラブ料 一セット(五本入)五〇銭

キヤデー 一ラウンド 一五銭

ダンスホール

社交ダンスも東京における見逃せない流行の一つで、現在市内にダンスホ

ールが八ヶ所、教習所百餘ヶ所を算へ、ダンスには實に八百餘人に達してゐる

舞踏料は普通晝一回一〇銭、夜二二銭となつてゐる。

和泉橋舞踏場 神田區岩木町六、和泉橋市場ビル内 市電岩木町下車

銀座ダンスホール 京橋區京橋二丁目京橋ビル七階 同 京橋

新橋ダンスホール 芝區芝口二ノ一、太田屋四階 同 省電新橋

國華社交舞踏場 京橋區八丁堀仲町、中島ビル三階 市電本八丁堀

帝都舞踏場 四谷區新宿三丁目帝都座ビル五階 省電新宿

日米舞踏場 京橋區京橋一丁目千代田信託ビル五階 東京驛八重洲口

フロリダ舞踏場 赤坂區溜池町溜池會館三階 市電溜池

ユニオンダンスホール 日本橋區蛸殼町日鮮會館五階 市電水天宮前

川崎ダンスホール 川崎市、省線川崎驛から二〇〇米

東横 會館 川崎市上丸子字中耕地、東横電鐵新丸子驛から二〇〇米

主なる百貨店

(〇印は店内に鐵道案内所及日本旅行協會案内所の)
ある事を示す

三 越 〇本 店 日本橋區室町一ノ七 市電室町二丁目

銀座支店 京橋區銀座四ノ一 同 銀座四丁目

大東京案内(官公署・學校其の他)

テニスコート使用料 一回三〇銭
▲玉川ゴルフ場(目蒲電鐵經營)世田谷區玉川野毛町、電話 玉川一〇二番

目蒲電鐵等々力驛下車三〇〇米

午前七時から午後九時迄

六ホール 九八五ヤード

入場料 二〇銭、グリーンフキー平日一圓 日・祝・祭日二圓

練習料 ボール一籠(三打入)五〇銭 教授料 三〇分五〇銭

貸クラブ料 一セット一圓 一本貸一〇銭宛

キヤデー 三〇銭、ロッカー 一〇銭

附屬テニスコート使用料 一回三〇銭

▲六郷ゴルフ場 蒲田區六郷橋際、電話 蒲田六四八

省線川崎驛下車、京濱電車及青六郷土手下車

十八ホール 六、一〇〇ヤード 一八萬坪

入場料 二〇銭、グリーンフキー 平日一圓、日・祝・祭日二圓

練習用 ボール一籠(三打)五〇銭 二籠目は四〇銭

貸クラブ料 一本に付一五銭 一セット一圓

キヤデー A五〇銭 B四〇銭 C三〇銭

ロッカー 一〇銭 シャワー 一〇銭

教授料 ハーフランド又は三〇分五〇銭、一ラウンド一圓

▲柏ゴルフ場 千葉縣東葛飾郡柏町、電話 柏一五番

常盤線柏驛から一料八、バス八分、一五銭、貸切三人迄五〇銭、三人以

上七〇銭。

九ホール 三、〇〇四ヤード

グリーンフキー 平日 半日七〇銭、一日一圓、日・祝・祭日半日一圓、一日

一圓半、定期券三ヶ月一〇圓、六ヶ月一七圓、一ケ年三〇圓

キヤデー 一回A二五銭、B二〇銭、C一五銭

貸クラブ 半日一〇銭、一日五〇銭

年中開場 但、春秋の競馬大會日には休場

▲川口ゴルフ場 川口市荒川河畔(舊浮間ヶ原)

省線赤羽驛西口から堤防迄四〇〇米、夫からゴルフ場迄約三〇〇米。赤

羽驛又は川口驛から坂下迄銀バス、夫からゴルフ場行専用自動車あり。

〇新宿支店 淀橋區角管一ノ一

〇銀座支店 京橋區銀座三ノ一

〇浅草支店 浅草區花川戸一(東武ビル内)

〇上野支店 下谷區上野廣小路一

〇白木屋 日本橋區通一ノ九

〇高島屋 日本橋區通二ノ五

〇高島屋 四谷區新宿三ノ七

以上各店とも毎月三回八の日休み、但七月八月及十二月中は無休

中元・歳暮賣出及其他臨時又は常時に夜間營業がある。

美 松 麴町區有樂町一ノ二 同日比谷

伊 勢 丹 四谷區新宿三ノ八 同 新宿車庫前下車、毎週月曜休み 但

七月は十五日迄及十二月は十五日過は無休にて夜間營業をし

てゐる。

東横百貨店 澁谷區上通二丁目五五 省線電車澁谷驛前

地下鐵ストア 上野驛前、須田町市電交又點室町、三越筋向及日本橋・銀座

新橋の地下道等にある。

官公署・學校其の他

九年五月東京市設案内所調による

(所在地) (電話) (電車下車地)

官公署 宮城內 和田倉門

宮城內 宮城內(丸ノ内一―一) 馬場先門

宮城內 宮城內(丸ノ内二―一) 霞ヶ關

外務省 麴町區霞ヶ關一丁目(銀座五―一) 霞ヶ關

内務省 麴町區外櫻田町(銀座五―一) 大手町

大藏省 麴町區大手町一丁目(丸ノ内二―一) 三軒坂

陸軍省 麴町區水田町(銀座四―一) 霞ヶ關

海軍省 麴町區霞ヶ關二丁目(銀座三―一) 櫻田門

司法部 麴町區西日比谷町(銀座三―一) 溜池

文部省 麴町區三年町(銀座五―一) 溜池

大東京案内(官公署・學校其の他)

農林省 蕨町區大手町二丁目(丸ノ内二一五二) 鎌倉河岸
商工省 京橋區木挽町(銀座四五〇) 三原橋
通信省 蕨町區大手町(丸ノ内四五二) 新常盤橋
鐵道省 蕨町區永樂町(丸ノ内一五五一) 吳服橋
拓務省 蕨町區西日比谷町(銀座五一三一) 櫻田門
警視廳 蕨町區外櫻田町(銀座五五一) 同
東京府廳 蕨町區丸ノ内(丸ノ内一〇〇〇) 市役所前
東京市役所 同(丸ノ内五一) 同
參謀本部 蕨町區永田町一丁目(銀座四一五二) 三宅坂
近衛師團司令部 蕨町區代官町(丸ノ内三一〇) 五番町
第一師團司令部 赤坂區青山南町(青山八四) 青山一丁目
會計検査院 蕨町區大手町二丁目(丸ノ内四九二) 大手町
行政裁判所 蕨町區紀尾井町(九段二二二) 蕨町六丁目
大審院 蕨町區日比谷町(銀座四二一九) 霞ヶ關
控訴院 同(銀座四二四〇) 同
東京地方裁判所 蕨町區西日比谷町(銀座四二〇九) 同
東京商工會議所 蕨町區丸ノ内三ノ一四(丸ノ内三五) 馬場先門
會館 蕨町區丸ノ内三ノ一四(丸ノ内三五) 同
青山市會館 赤坂區青山南町六ノ三〇(青二〇六二) 明治神宮前
飛行會館 芝區田村町一ノ三(銀座一六七) 田村町一丁目
市政會館 蕨町區日比谷公園内(銀座二〇二) 内幸町
三會堂 赤坂區溜池(赤坂二九) 溜池
上野自治會館 下谷區上野公園(下谷四四〇) 上野公園前
日本青年會 四谷區霞ヶ丘神宮外苑内(青山二〇六一) 信濃町
學士會館 神田區錦町三ノ一三(神田一一八一) 一ツ橋
如水會館 神田區一ツ橋通一(九段二一三二) 一ツ橋
大隈會館 澁橋區早稻田大學構内(牛込四四二〇) 早稻田車庫前
教育會館 神田區一ツ橋通二(九段四一五一) 一ツ橋
華族會館 蕨町區三年町一(銀座二一八一) 溜池
軍人會館 蕨町區九段一ノ五(九段四一〇一) 九段下
交社 芝區榮町一三(芝三五〇) 眞倉一丁目

東京高等學校(官立) 中野區榮町通二丁目(四谷二二〇七) (京王電車) 幡ヶ谷下車
學習院高等科(官內省立) 豐島區目白町一丁目(牛込二〇〇〇) (省線) 目白下車
東京府立高等學校(公立) 目黒區森町五九一(高輪六四〇二) (東横電車) 府立高校前下車
武藏高等學校(私立) 板橋區中新井町一丁目(大塚四〇〇) (武藏野電車) 江古田下車
成蹊高等學校(私立) 北多摩郡武藏野町吉祥寺(荻窪一一三) (省線) 吉祥寺下車
成城高等學校(私立) 北多摩郡砧村(砧一〇〇)(小田急電車) 成城學園前下車
東京高等師範學校(官立) 小石川區大塚窪町(小石川七一六) (市電) 文理科大學前下車
青山學院高等學部(私立) 澁谷區綠岡二(青山二〇〇八) (市電) 青山車庫前下車
明治學院高等學部(私立) 芝區白金今里町(高輪三六六六) (市電) 二本榎町下車
大東文化學院(私立) 蕨町區富士見町一丁目(九段二二八七) (市車) 九段上下車
二松學舍專門學校(私立) 蕨町區一番町四九(九段二〇〇七) (市車) 九段上下車
國士館專門學校(私立) 世田谷區世田谷一丁目(世田谷一一四五) (市電) 松蔭神社前下車
東京高等工藝學校(官立) 芝區新芝町(三田一一五六) (省線) 田町下車
東京高等蠶絲學校(官立) 瀧野川區西ヶ原町一一七四(小石川一五八八) (市電) 蠶絲學校前下車
東京高等商船學校(官立) 深川區越中島町(本所八三) (市電) 越中島下車
大倉高等商業學校(私立) 赤坂區葵町三(青山二一七三) (市電) 西久保巴町下車
高千穂高等商業學校(私立) 杉並區大宮町一六七五(中野四一) (西武電車) 阿佐ヶ谷下車
巢鴨高等商業學校(私立) 豐島區西巢鴨町二ノ二六〇三(大塚九三二) (王子電車) 巢鴨新田下車
東京高等獸醫學校(私立) 世田谷區下馬町三ノ四六九(青山四九二八) (玉川電車) 三軒茶屋下車

大東京案内(官公署學校其の他)

借行社 蕨町區飯田町二ノ五二(九段三六三) 九段下
交詢社 京橋區銀座六ノ四(銀座一九〇〇) 銀座七丁目
官立大學
帝國大學 本郷區元富士町(小石川三〇三三)(市) 大學正門前 赤門前
商科大學 北多摩郡谷保村國立(國立五七) (省電) 國立驛
工業大學 目黒區大岡山(高輪四五〇) (目蒲) 大岡山
文理科大學 小石川區大塚窪町(大塚三一二五) (市) 文理科大學前
私立大學
應慶義塾大學 芝區三田町二ノ二(四谷一四三八) (市) 慶應義塾前
早稻田大學 澁橋區戸塚一丁目(牛込五一三) (市) 早稻田車庫前
明治大學 神田區駿河臺一丁目(神田一一九一) (市) 駿河臺一
法政大學 蕨町區富士見町四ノ二(九段一七五) (市) 新見附
中央大學 神田區駿河臺三丁目(神田三〇一五) (市) 小川町駿河臺下
日本大學 神田區三崎町(九段三〇) (市) 三崎町
國學院大學 澁谷區水川町(青山五七八五) (市) 青山南町六丁目
慈惠會大學 芝區愛宕町(芝三五) (市) 御成門
專修大學 神田區今川小路二ノ廿八(九段一四四〇) (市) 今川小路
立教大學 豐島區池袋三丁目一二七二(大塚一一三三) (市) 池袋(武藏野) 上り屋敷
拓植大學 小石川區茗荷谷町三(小石川六〇〇) (市) 文理科大學前
立正大學 品川區東大崎町四ノ一六〇(高輪一九六) (省) 五反田
駒澤大學 世田谷區新町一丁目(世田谷一〇) (玉川) 駒澤
東京農業大學 澁谷區常盤松町(青山五八三四) (市) 青山南町六
日本醫科大學 本郷區駒込千駄木町五九小石川五二〇〇) (市) 駒込千駄木町 追分町
大正大學 豐島區西巢鴨町四丁目(大塚八九四) (市) 西巢鴨町
東洋大學 小石川區原町(大塚四八〇〇) (市) 曙町
上智大學 蕨町區紀尾井町七(九段七八二) (市) 蕨町九丁目
高等專門學校
第一高等學校(官立) 本郷區向ヶ丘園生町(小石川一九八) 高等學校前

大東京案内(官公署學校其の他)

帝國女子專門學校(私立) 小石川區大塚町七〇(大塚一四四) (市電)文理科大學前下車
聖心女子學院高等專門學校(私立) 芝區白金三光町(高輪七〇七〇) (市電)日吉坂下車
實踐女子專門學校(私立) 澁谷區常盤松一〇一(青山四九四四) (市電)並木橋下車
千代田女子專門學校(私立) 麴町區中六番町六(九段二五五一) (市電)市ヶ谷驛前下車
日本女子高等學院(私立) 中野區上高田一ノ三九七二(中野二五) (省線)東中野下車
青山學院女子專門部(私立) 澁谷區綠岡町二二(青山二〇一) (市電)青山車庫前下車
東京女子專門學校(私立) 本郷區湯島六丁目(小石川三七七八) (市電)湯島五丁目下車
共立女子專門學校(私立) 神田區一ツ橋通町二九(九段一二二〇) (市電)一ツ橋下車
和洋女子專門學校(私立) 麴町區富士見町一ノ二(九段一九〇七) (市電)九段坂上下車
東京家政專門學校(私立) 麴町區九段三丁目(九段一八九二) (市電)一口坂下車
東京女子醫學專門學校(私立) 牛込區市ヶ谷河田町(牛込七七) (市電)若松町下車
帝國女子醫學專門學校(私立) 大森區大森五丁目(大森二〇七〇) (京濱電車)梅屋敷下車
東洋女子齒科醫學專門學校(私立) 本郷區元町二ノ六三(小石川二八二八) (市電)壹岐坂下車
東京女子齒科醫學專門學校(私立) 品川區大井水神町二〇九二 (大森一〇三二) (京濱電車)鈴ヶ森下車
昭和女子醫學專門學校(私立) 目黒區上目黒五ノ二六〇七(青山一九三三) (東横電車)祐天寺又は磯谷谷下車
東京藥學專門學校女子部(私立) 下谷區上野櫻木町三二(下谷一六五〇) (市電)逢初橋下車
共立女子醫學專門學校(私立) 芝區芝公園(芝二二二) (市電)御成門下車
聖路加女子專門學校(私立) 京橋區明石町三七(京橋九) (市電)築地二丁目下車
日本女子高等商業學校(私立) 麴町區富士見町三ノ二(九段二〇〇八) (市電)築地二丁目下車

三四

女子經濟專門學校(私立) 本郷區元町一ノ二五(小石川五九〇二) (市電)本郷元町下車
櫻井女子英學塾(私立) 本郷區向ヶ岡彌生町三(小石川二六九一) (市電)逢初橋下車
圖書館
市立日比谷圖書館 麴町區日比谷公園内(銀座四二〇〇) (市電)内幸町下車(閱覽料三錢)
同 駿河臺圖書館 神田區駿河臺三ノ二ノ六(神田四一九) (市電)小川町下車(閱覽料二錢)
同 京橋圖書館 京橋區築地一ノ二八(京橋四三二〇) (市電)築地二丁目下車(同)
同 深川圖書館 深川區清澄庭園内(本所六四) (市)西平野町(同)
同 品川圖書館 品川區南品川一ノ二三七(高輪二六九二) (京濱)南馬場
官立帝國圖書館 下谷區上野公園内(下谷三二八〇) (無)
私立大橋圖書館 麴町區飯田町一ノ六(九段六五〇〇) (市)九段下同五錢)
病院
東京市立衛生試驗所 麴町區丸ノ内三丁目 (丸ノ内五一)内線四三〇) (市電)有樂橋(省)有樂橋下車
同 築地病院 京橋區築地(銀座三〇五一) (市)築地
同 廣尾病院 澁谷區豐澤町六八(高輪四八〇三) (市)天現寺橋
同 大久保病院 澁谷區東大久保町五三〇(四谷四一九四) (市)新田裏(省)新大久保
同 大塚病院 小石川區辻町一八(大塚七〇九) (市)大塚辻町
同 深川病院 深川區牡丹町(本所六二〇〇) (市)不動尊前
同 本所病院 本所區江東四ノ一〇(本所四五四五) (市)錦糸堀
同 駒込病院 本郷區駒込動坂町三六(小石川七七〇一) (市)駒込動坂
同 養老所 中野區古田三ノ一六一(四谷五二二七) (西武)沼袋
同 豐多摩病院 澁谷區板橋町五ノ一二七九(四谷四七四) (省)大久保
同 豐島病院 板橋區板橋區九ノ一八八三(大塚二二七〇) (省)板橋(市)下板橋
同 葛飾病院 江戸川區逆井一ノ九一(墨田八〇八) (省)平井(城東)小松川

同 城東病院 城東區龜戸九ノ二二二(墨田三二二) (城東)淺間前(東武)龜戸天神
同 在原病院 世田ヶ谷區世田ヶ谷三ノ二一〇五(在原二九一三) (市)山下(小田急)豪徳寺
濟生會 芝區赤羽町一(三田一五一) (市)赤羽橋
泉橋慈善病院 神田區和泉町一(下谷六〇〇六) (市)豐島町
聖路加國際病院 京橋區明石町三七(京橋九) (市)築地二丁目
帝國大學病院 本郷區帝國大學構内(小石川七八〇八) (市)本郷區役所前
慶應大學病院 四谷區西信濃町(四谷五〇〇〇) (市)信濃町
日本大學病院 神田區駿河臺(神田二五八〇) (市)駿河臺一丁目
順天堂病院 本郷區湯島五ノ一〇(小石川三四〇〇) (市)順天堂前
同 愛記念病院 本所區橫綱町(墨田二九二〇) (市)石原町一丁目
墓地葬儀所
多摩墓地 北多摩郡多磨村 (省)武藏境(京王)市公園墓地前
多摩納骨堂 北多摩郡多磨村(府中七九) (京王)同
青山墓地 赤坂區青山南町三丁目(青山六二六三) (市)青山三丁目
雜司ヶ谷墓地 豐島區雜司ヶ谷一ノ一 (市)護國寺前(王子)雜司ヶ谷
染井墓地 豐島區巢鴨六丁目 (省)駒込(市)駒込橋
龜戸墓地 城東區大島町三ノ一四七(市)環江裏町(城東)大島三丁目
谷中墓地 下谷區谷中天王寺 (省)日暮里(市)園子坂下
青山葬儀所 赤坂區青山南町三丁目 (青山六二六二) (市)青山三丁目
新聞、通信社
二六新報社 芝區新橋二丁目一ノ六(銀座四六) (市)新橋驛前(省)新橋驛
日本新聞社 麴町區有樂町二ノ四(日本橋内) (銀座三一七一) (市)數寄屋橋(省)有樂町驛
報知新聞社 麴町區有樂町一ノ二三(丸ノ内五五一) (市)數寄屋橋(省)有樂町驛
東京日日新聞社 麴町區有樂町一ノ一(丸ノ内三三二) (市)數寄屋橋(省)有樂町驛
東京大勢新聞社 京橋區銀座西五ノ二(銀座二五二二) (市)數寄屋橋(省)有樂町驛
東京毎日新聞社 京橋區銀座西三ノ一(銀座四七二) (市)數寄屋橋(省)有樂町驛

大東京案内(官公署學校其の他)

東京毎日新聞社 日本橋區松島町三〇(浪花七〇三二) (市)水天宮前
東京朝日新聞社 麴町區有樂町二ノ三(丸ノ内一三二) (市)數寄屋橋(省)有樂橋
東京夕刊新聞社 京橋區京橋三ノ七(京橋七二〇〇) (市)京橋(省)有樂橋
中外商業新報社 日本橋區北島町一ノ三六(茅場町二五一) (市)茅場町
中央新聞社 麴町區内山下町一ノ一(銀座八二二) (市)内幸町
讀賣新聞社 京橋區銀座西三ノ一(京橋一一二二) (市)有樂橋(省)有樂橋
やまと新聞社 芝區愛宕町二ノ三二、四號(芝一一二二) (市)田村町四丁目
萬朝報社 京橋區銀座西二ノ三(京橋二二二〇) (市)有樂橋(省)有樂橋
國民新聞社 京橋區銀座西七ノ二ノ一號(銀座五五五五) (市)有樂橋(省)有樂橋
都新聞社 麴町區内幸町一ノ五(銀座三一〇五) (市)内幸町
時事新報社 麴町區丸ノ内二ノ一八(丸ノ内二二二) (市)和泉門(省)東京驛
新聞聯合社 京橋區銀座西八ノ九(銀座二二二二) (市)銀座六丁目(省)新橋驛
日本電報通信社 京橋區銀座西七ノ一(銀座四一一) (市)銀座西六丁目
一番高い建築 新帝國議事堂 (高さ二六尺)
一番大きいビルヂョイ ヤグビル (延建坪一七、八五七坪、地上八階地下二階、敷約八五〇、二、に勤務する人三、三〇〇人)
一番長い橋 新荒川大橋 (長さ約六丁)
一番交通量の多い橋 數寄屋橋 (午前七時から午後七時までの通過車輛數一〇、八三五)
一番古い銅像 大村益次郎の銅像 (鑄國社境内にあり。明治二二年に建てられたもの)
一番広い道 路 千代田通り (東京驛から和田倉門に至る)
一番乗降客の多い停車場 東京驛 (昭和八年十一月調査) (一日一三二、九二六人)
一番古い鳥居 靖國神社の大鳥居 (高さ五九尺六寸、竿木の長さ九五尺餘)
一番大きい時計 上野地下鐵ストアの大型時計 (直徑六〇尺、長針の長さ二八尺、三階から八階まで腕にかけるときを刻む)
一番古い銅像 大村益次郎の銅像 (靖國社境内にあり。明治二二年に建てられたもの)

三五

大東京案内(年中行事)

年中行事

- 一月 初日 初日之出(九段、神田神社、湯島天神、上野、愛宕山、丸山、深川洲崎) 初詣(軍方参) 七福神詣(一日、三日) (向島三圓、弘福寺、多聞寺、白鬚、百花園、長命寺)
- 二日 陸軍記念日、金刀毘羅神社大祭(芝虎の門)
- 三日 大師(川崎、西新井)
- 四日 帝都復興記念日
- 五日 帝都復興記念日
- 六日 消防出初式
- 七日 陸軍始觀兵式、茅場町薬師
- 八日 芝虎の門金刀毘羅神社初祭
- 九日 蕨入、閻魔
- 十日 浅草観音初参
- 十一日 川崎初大師
- 十二日 龜戸天神の鷹狹
- 十三日 不動初参
- 十四日 初卯(龜戸天神境内妙義社) 初芝居、大相撲春場所
- 十五日 紀元節 建國祭 (宮城廣場、九段・上野公園其他)
- 十六日 釋迦涅槃會
- 十七日 雜市 (日本橋十軒店及各百貨店)
- 十八日 初午、節分、追儺、梅見
- 二月 初午、節分、追儺、梅見
- 三月 陸軍記念日、金刀毘羅神社大祭(芝虎の門)
- 四日 大師(川崎、西新井)
- 五日 帝都復興記念日
- 六日 帝都復興記念日
- 七日 彼津會、六阿彌陀詣(常樂院、眞樂寺、無量寺、西福寺、延命院、常光院)
- 八日 桃花、彼岸櫻
- 四月 神武天皇祭
- 五日 花祭(釋迦誕生灌佛會)
- 六日 三圓神社祭禮
- 七日 東照宮大祭(芝、上野)
- 八日 平河天神祭
- 九日 天長節、靖國神社春季大祭
- 十日 花見、沙千狩、五月人形市、東京大學野球リーグ戦
- 五月 水天宮
- 六日 カラカラ五日 神田神社祭禮 (隔年)
- 七日 浅草神社祭禮 (三社祭)
- 八月 仙島住吉神社祭禮
- 九日 王子神社祭禮
- 十日 八幡宮祭禮(深川・市ヶ谷)
- 十一日 秋草、二十六夜、都市對抗野祭
- 十二月 東京市自治記念日
- 一日 湯島天神祭禮
- 二日 池上本門寺其他
- 三日 狩獵解禁
- 四日 べつたら市
- 五日 恵子講
- 六日 靖國神社秋季大祭
- 七日 美展術覽會、神宮競技、菊花大會
- 一月 明治節
- 二月 西の市(第一・第二・第三等ノ西ノ日) 顔見世狂言
- 三月 歳暮大賣出し、歳の市、クリスマス

東京新市域及近郊遊覽案内

京濱方面

森ヶ崎鑛泉 大森區森ヶ崎町。京濱電車梅屋敷驛から一軒六、自動車乗合一〇錢、貸切五〇錢。省線蒲田驛から二軒八、自動車一七錢、貸切七〇錢。乗合一五錢(前六時半―後一〇時半迄五分毎)

波靜かな東海に臨み、都塵を避けて半日の清遊を試みるに手近ではあるが、今は都人士、遊士の享樂地と化してゐる。泉質はアルカリ性鹽類泉で赤褐色を帯び、浴用加熱。胃腸病・ゼンソク・リウマチス・神経痛・婦人病・皮膚病に效があると云ふ。

〔旅館〕 大金(電話大森四四四番、室敷二二)、盛平館(電話四三三番、室敷二四)、勇館(電話四二〇番、室一三)、平盛館(電話六二四、室一七)、榮樂(電話一三、室一五)、萬金(電話四二二、室二〇)、富士川(電話二二七、室一五)、あら井館(電話二〇六二、室一三)、豐家(電話九七、室七)、光遊館(電話二〇二九、室一五)、壽元(電話四二七、室一〇)、音羽屋(電なし)、夕月荘(電なし)、海樂園(電話二〇六八)、松翠館(電話六七二、室七)。以上宿泊料二圓半、三圓、三圓半、晝食一圓。團體規定なし。早朝より鑛泉風呂あり。

羽田 蒲田區羽田穴守町。京濱電車穴守終點下車。品川から直通電車運轉、電車賃品川から片道二五錢。

豐宇氣比賣命を祀る稻荷神社があり、穴守神社とも云ふ。四時参詣者多く午の日は殊に賑はふ。祠を去る五〇米許りの海濱は風光よく、海遠淺で潮干狩及び海水浴に適す。附近に東京飛行場及び京濱電鐵羽田グラウンドがある。

〔旅館〕 元鈴木(電話羽田六、室八)、新川(電話同三三、室一〇)、長谷川(電話五五、室九)、小ひら(電話三七、室一)、要館(電話二〇、室六)、梅月(電話二四、室七)、松の家、海老金、壽々喜屋(電二)、其他。一泊二圓、三圓。晝食一圓。

○海の家(京濱電鐵直營)

東京新市域及近郊遊覽案内(京濱方面)

川崎大師

神奈川縣橘郡大師河原村。

▲省電川崎驛から東へ約三軒半、自動車乗合一〇錢、一五分、二〇分毎に運轉

▲東京―川崎間二五錢。横濱―川崎間一八錢。

▲京濱電車京濱川崎で大師驛に乘換へ川崎大師驛下車、夫から二〇〇米。電車賃品川から片道二八錢。

金剛山平間寺と號し、眞言宗新義派の本山である。弘法大師の像を安置し、厄除大師と稱し、靈驗の故を以て参詣者が常に絶えぬ。毎月二〇日、二一日を縁日とし、一月二一日の初大師及び三月二一日の御影供修行の縁日には殊に参詣者が多い。近時境内を公園とし四時賽者の遊覽に供して居る。

〔旅館〕 洗心樓(電話川崎一二二、室一〇、一泊二圓乃至五圓)。

總持寺 (曹洞宗大本山) 横濱市鶴見區鶴見町。

省線電車品川―總持寺驛間片道二五錢。

京濱電車品川―總持寺驛間片道二五錢。

境内廣く(約六六萬平方米)丘陵勝景の地を占め、靜寂なる淨區をなしてゐる。もと元亨元年道元禪師(常濟大師)の開山で、能登國に建立され、越前の永平寺と並び稱せられた禪門の道場であつたが、明治年間現地に移され、曹洞宗總持寺派大本山として全國に知られて居る名刹で、堂塔伽藍輪奐の結構目を駭かすものがある。

花月園 省線鶴見驛から約六〇〇米、總持寺境内に隣接す。東京―鶴見間電車三五分、片道三〇錢。

京濱電車花月園前驛から三〇〇米。品川―花月園前電車片道二五錢。

入園料大人三〇錢(京濱電鐵線旅客は二〇錢)、小人二〇錢(同一〇錢)自然の眺望地勢の起伏を利用して造られた約五萬坪の遊園地で園内には演藝場・貸ボート・ダンスホール等がありその他運動具など整つてゐる。

日本航空輸送會社遊覽飛行

東京羽田飛行場で毎月第一日曜日定期に、その他臨時として、年一〇回午前九時から午後四時迄數回左記のコースに依り遊覽飛行を行つてゐる。(但し乗客多數の場合は、午後二時以後の來場者は當日の搭乗困難の場合があるから、午前中飛行希望の方は可成午前九時から一〇時迄、午後の希望の方は午後一時から二時迄に飛行場に行かるとのこと)。

一、羽田―芝浦―永代―田端―池袋―淀橋―中目黒―羽田。飛行々程約六〇分、所要約二〇分間、料金一人一〇圓。
二、羽田―永代―御臺場―羽田。所要約一〇分(約二〇分)料金一人五圓
▲羽田飛行場にゆくには京濱電車品川驛から飛行場の自動車電車連絡券を求め、京濱蒲田驛で自動車に乗換へれば飛行場迄ゆく、連絡料金片道二九錢、省線蒲田驛前から飛行場入口迄は自動車片道二〇錢、一六分毎。

目蒲電車池上線

本門寺 (日蓮宗大本山) 大森區池上本町。
▲池上驛から約半軒。省線蒲田驛―池上驛間電車四分、片道五錢。
▲省線電車大森驛から西南二軒七、池上電鐵會社兼合自動車にて約一〇分、片道一〇錢、頻りに運轉してゐる。

長榮山大國院と號し、京都の妙顯寺・大國寺及中山の法華經寺と共に日蓮宗四大本山の一に數へられ、普く人口に膾炙し、文永年間池上の郷土右衛門太夫宗仲が日蓮に歸依してこれを創建したと傳へ、日蓮上人開基の古刹で、關東

宇は寛永一一年徳川家光の造營したものと云ふ。境内に獨鈷の瀧、甘藷先生青木昆陽の墓がある。又門前から右折する十數歩の所に白井權八、小紫の比翼塚がある。

矢口の渡・新田神社

目黒蒲田電車武蔵新田驛から二〇〇米。省線蒲田驛から電車賃五錢。此處は「神靈矢口渡」で有名なところで、新田義興が正平七年足利基氏の計に陥り、遂に舟中に刺腹せる所。附近に義興を祠る新田神社(府社、正平一三年の創建)從臣を祀る十騎社及頓兵衛地蔵がある。

原村の梅

目黒蒲田電車矢口渡驛から西南へ五五〇米。電車賃蒲田から五錢、目黒から二〇錢。
花期は二月下旬頃。立春梅と稱する名木を始め數百株の老樹がある。此處から新田神社に詣で「神靈矢口の渡」で有名な矢口の渡に出れば六郷堤上の眺めも亦捨て難い趣がある。

九品佛

世田ヶ谷區區玉川與澤町。
目黒蒲田電車九品佛驛前。省線目黒驛から電車片道一四錢(大岡山驛乗換澁谷から一五錢、大井から一五錢)。
珂磧上人の開基になる興澤淨眞寺にあり、上人自作の金色丈六の阿彌陀佛が三體づ、三字の堂に納り其の堂は上品堂、中品堂、下品堂の名を附し總じて九品堂といふ。毎年五月七、八、九日に千部會、十一月一三、四、五日には千夜法要がある。

多摩川園

大森區田園調府二丁目。
多摩川園前。省線蒲田から一三錢、目黒から一六錢、澁谷から一八錢。
目黒蒲田電鐵會社經營の遊園地で、園内には大浴場(無料)及諸種の運動機關(一回一〇錢宛)がある。入園料三〇錢、前九時から後四時半迄、七、八月中は夜間九時まで
綱島温泉 横濱市神奈川區南綱島。

東京新市域及近郊遊覽案内(玉川・小田急・南武電車沿線)

屈指の靈場、弘安五年一〇月一二日上人入滅の靈地である。寺域六九、三八四坪、樹木鬱蒼たる丘陵、幽邃閑雅の佳境を占め、釋迦堂・清正堂・題目堂・祖師堂・五重塔・仁王門等伽藍宏壯を極む。境内に宗仲夫妻の墓を初め狩野探幽の墓・徳川家・前田家・松平・上杉・細川諸侯の廟や星亨・加藤清正の銅像などがある。一〇月一二日は日蓮上人が宗仲の邸で入滅した日で、其の日は御會式があり遠近の善男善女雲集して境内及參道立錫の餘地がなくなる。

洗足池

大森區南千束町。
▲洗足驛前。省線蒲田驛から電車約一五分、片道一四錢。省電山の手線五反田驛から約一〇分、片道九錢。

池は南北約一二〇米、東西約三〇〇米許り、三方丘陵に圍まれ碧潭の清水を湛ふる近郊稀に見る幽邃の地で、内務大臣指定の風致區の一つになつてゐる。湖上には舟遊の便がある(貸ボート一時間二人乗二五錢、三人乗三〇錢、四人乗四〇錢、湖畔三周一〇錢。和舟一時間六〇錢。但日曜祭日には何れも倍額)。池畔に日蓮袈裟掛松、清明文庫、南洲翁記念碑、勝海舟の墓及び立正大師の銅像がある。

目黒不動尊

目黒區下目黒二丁目。
▲目黒蒲田電車不動前驛から西へ五五〇米。省線目黒驛―不動前間電車片道五錢。
瀧泉寺と號し天台宗に屬す。大同年間慈覺大師の草創にかゝり大師自作の不動明王を安置し、本堂、仁王門等の堂

目黒蒲田電車・東京横濱電車沿線

東京横濱電車綱島温泉驛から半軒以内。電車賃省線目黒から二七錢、澁谷から二八錢、横濱から一八錢。
電鐵會社直營の大浴場がありラヂウム含有の浴用加熱泉で胃腸病、リウマチス、痔疾、神経痛、婦人冷症に效があると云ふ。附近に料理兼業の鱧泉旅館があり、遊樂的氣分に富んでゐる。

【旅館】……電氣園(電網島一、室一三)、入船亭(電同五二、室一二)、永命館(電同二〇、室一二)、桃仙閣(電同三三、室一八)、桃花園(電同一九、室一三)加納屋(電同五、室一六)、(以上一泊二圓半乃至五圓、家族風呂浴場等完備)綱島ホテル(電同六七、室六、洋室三あり)、梅島館(電同四、室六)、河泉(電同四五、室六)(以上一泊三圓均一)

玉川電車・小田原急行電鐵・南武鐵道沿線

松陰神社

世田ヶ谷區若林町三〇四。
▲玉川電車松陰神社停留所の北一五〇米。澁谷から電車片道一〇錢。
▲小田原急行世田ヶ谷中原停留所の南一軒。新宿から電車片道一一錢。
明治一五年官の許しを得て毛利公の建立せしもの、吉田寅次郎を祀る。社の背後に幕末の志士一頼三樹三郎、小林民部少輔、來原良藏、福原乙之進、綿貫次郎助等の墓がある。

豪徳寺

曹洞宗。世田ヶ谷區世田ヶ谷二丁目。
▲玉川電車豪徳寺停留所の東北一五〇米。澁谷―豪徳寺前間二道一三錢。
▲小田原急行電車豪徳寺前驛から東北へ、文明年間の創設にかゝる古刹で、知らる。井伊家の菩提寺で幕末

身延山關東別院

(日)

東京新市域及近郊遊覽案内 (中央線・京王電車沿線)

身延山別院前から西へ約三〇〇米。澁谷―別院前間三〇分、片道一六錢。日蓮宗總本山身延山久遠寺の關東別院で、昭和七年秋建立されたものである。祖師堂・稻荷殿・白鬚大善神祠・客殿・庫裡等輪奐の美全く整ひ、參者が多し。また境内は脚下に多摩の清流を眺めて景趣に富んでゐる。

玉川遊園地

世田ヶ谷區玉川瀨田町。身延山別院前停留所から西北へ三三〇米。澁谷―身延山別院前間三〇分、片道一六錢。

玉川電車會社經營、多摩の清流に沈む丘陵形勝の地に自然の地形を利用して遊園地に造りたるもの。京都の清水舞臺に模した朱塗の玉川閣は緑樹の間に隠見して風致を添へてゐる。

玉川スポーツランド

世田ヶ谷區玉川町。玉川停留所から南東へ三〇〇米、澁谷―玉川間三〇分、片道一六錢。玉川の清流に沿ふて玉川兒童園・玉川テニスコート・玉川プール等の會社直營の運動設備があり、加ふるに玉川の貸ボート・魚釣・ピクニック等の好適地をなし、大東京新名所のスポーツランドを形成してゐる。

久地の梅

神奈川縣橋本郡高津町。玉川電車結終點から碓の渡を渡り夫から半軒餘。又は同線高津から一軒餘、觀梅期には乗合自動車やゆく、電車片道一九錢。

南部鐵道久地梅林駅から半軒。川崎―久地梅林間電車三分、片道三三錢。川邊氏の庭内にあるもので梅林の樹數四百餘。其の多くは元祿年間に植培した古木で關東一の稱がある。花期は二月下旬から三月上旬。

中央線・京王電車沿線

井ノ頭恩賜公園

北多摩郡武蔵野町。中央線吉祥寺驛の南半軒餘、帝都電鐵にて〇軒六。

金銅釋尊像は國寶に指定されて居り、福滿童子の戀の傳説のある五大尊池や、深大寺城の舊蹟がある。又、近時境内大いに開拓されて夏期プール、林間學校等が設けられる。

東京天文臺

北多摩郡三鷹村。

省線電車武蔵境驛の南四〇〇米、京王電車上石原停留所の北二〇〇米。三鷹村大澤、東經一三九度三二分二九秒、北緯三五度四〇分二二秒、海拔五七米の所にある。

大正一三年東京麻布から移つたもので、敷地面積三〇萬平方米、子午環室、第一赤道儀室、天體寫眞儀室、卯酉儀室、經緯儀室、子午儀室、太陽寫眞儀室聯合子午儀室等天文の設備が總て整つてゐる。

大國魂神社

(官幣小社) 北多摩郡府中町京所。

▲京王電車府中停留所の南三三〇米。新宿―府中間電車片道三六錢。▲中央線國分寺驛の南約三軒餘、乗合自動車。片道二一錢、一〇分。

祭神は大國魂神を祀る。景行天皇の四年五月五日神託によつて鎮祭したのが草創である。府中にもと阪東の強國武藏の首都であつて、それに奥羽、兩毛方面から鎌倉に至る道に沿ふた樞要の地で、當社はその總社であつた。大祭は五月五日で、當日は三多摩の各方面から集まる參詣者で、附近橋に見る雑踏である。社前の名高い巨樺の並木は前九年の役の時頼義が植ゑ、慶長の頃徳川家康が植ゑつたものと云ふ。樹數六〇本。幹周三米乃至六米あり指定の紀念物である。

武蔵國分寺社

北多摩郡國分寺村國分寺。

中央線國分寺驛から西南二軒餘。東京―國分寺間電車片道四三錢。

天平九年聖武天皇の詔勅により國家の安寧を祈り國民の教化を目的として國毎に建てられた金光明寺の一つで、寺跡は今指定の史蹟である。古は其の伽藍のみ十丁四方に亘つたと云ふ巨刹であつたが、元弘年間新田、北條の戦ひで全部烏有に歸し、今は僅かに藥師堂(鎌倉時代の作である國寶木像藥師如來座像を安置す)と運慶作の仁王像を残すのみである。

小金井の櫻

(指定の名勝) 北多摩郡小金井村。

▲中央線武蔵小金井又は武蔵境驛から約一軒餘。東京―小金井間電車五七

東京新市域及近郊遊覽案内 (西武電車・武蔵野電車沿線)

▲帝都電鐵井ノ頭公園驛前、澁谷から電車。舊帝室御料林であつたのを大正三年に

され同六年五月開園したものである。面積二四〇方米九三餘。正面から西に當る臺地を御殿山と稱し、一段低い地で其處に井ノ頭池がある。池は徳川時代の神田

上水の水源池で水清く、境幽に、池を繞つて自然景林が茂つてゐる。中島に辨天祠あり公園の趣を爲し、そこに小動物がありまた東端水門の近くに廣場があつて兒童用庭園的

徒渉池と水泳場、動物園などがある。

○短艇料金一艇一時間以内二人乗三〇錢、四人乗五〇錢

○動物園入場料 五錢、(小人三錢)

百草園

南多摩郡七生村百草。

京王電車百草停留所の西二〇〇米。新宿―百草間電車片道四八錢。慈覺山松蓮寺と云ふ禪刹の跡で、標高一四〇米餘の丘陵を遊覽地と爲したるもの。市郊外屈指の展望臺で、眼下には多摩の清流の蜿蜒たるを俯瞰し、遠く秩父の連山を眺め、又、茫漠たる武蔵野の壯觀を一眸の裡に收む事が出来る。園内の八幡神社に國寶の銅製阿彌陀座像がある。

十二社權現

(郷社熊野神社) 澁谷區十二社三三三。

京王電車神宮裏停留所の北三三〇米。新宿―神宮裏片道四四錢。江戸時代からの名社で境内幽邃、殊に夏祈禱の勝地として開ゆ。祭神は伊弉册命、速玉男、事解男、若一王子、三耳尊、瓊々杵尊、彦火出雲見尊、鵜鷲不合尊、阿遲突智尊、植山如也、國象女命、雅康靈神の十二神を合祀す。所謂十二社とは熊野神社の境内が、れる名で、池畔には料理店が軒を接してゐる歡樂郷である。

深大寺

(天台宗) 北多摩郡神代村深大寺。

京王電車柴崎から西北一軒半。新宿―柴崎間電車片道二四錢。天平五年(約一千五百年前)の創建に、古刹で、櫻山と號し、寺内の

分、片道三九錢。

▲西武電鐵花小金井停留所から半軒餘。高田馬場―花小金井間片道四錢。櫻樹は元文の頃武蔵野新田の世話役川崎平右衛門が日本の各地方から山櫻の優良種を集めて移植したもので、その補植されたものもある。樹齡百年乃至二百年に及ぶものがある。

就中日の出櫻、入日の櫻、三吉野櫻、小町櫻など特に名木と稱され、多摩川上水を挾み八軒餘も續き、小金井橋畔から上流下流を見渡した眺が、下流は、(昭和五年四月調樹數、千八百五十株新小金井は千百株)

多摩川原遊園・京王閣

北多摩郡調布町下石原中島通り二二二〇―二二二二。

京王電車多摩川原停留所の南一〇〇米。新宿から電車四〇分、片道二八錢。京王閣入園料大人三〇錢、小人一五錢。午前十時から午後五時乃至九時まで

温泉遊園地で各種運動機關・浴場・大食堂・貸船・演藝場等があり、一日の清遊に好適の場所である。

多摩公園墓地

(東郷元帥御靈所)

市公園墓地前驛下車北約一軒、連絡自動車の便あり。四谷新宿―多摩墓地正門前間 電車自動車連絡引往復六五錢。

武蔵野の一端幽邃に富む三〇萬坪の地を下して作られた公園式の市設墓地で、中央噴水塔近くの名譽墓地には護國の偉人東郷元帥の英靈永へに鎮ませられてゐる。

西武電車・武蔵野電車沿線

妙法寺

(除厄祖神) (日蓮宗身延派) 杉並區堀の内二丁目。

西武電車妙法寺口驛から數百米。新宿からの乗合自動車は寺から一〇〇米程の所までゆく。

寺は日圓山と號し、江戸時代から今日迄引繼いで東都屈

指の流行佛として常に賽者の跡を絶たない名刹で一〇月の御會式には池上の本門寺と並び稱せられる賑はひを呈する

哲學堂

中野區江古田町。西武電車新井薬師前驛から北へ三三〇米、高田馬場―新井薬師前間片道七鐘。

和田義盛の遺蹟、和田山の地を下して故井上圃了博士が創建せるもの。圖書館、博物館(入場無料)があり妙正寺川に臨む風光の地を占め、又附近に法政グラウンド、新井薬師などがある。

新井薬師

〔子育薬師〕(新義真言宗豊山派) 中野區新井薬師町二七六

▲西武電車新井薬師前驛から南約三〇〇米餘。

▲中央線中野驛から北へ一軒餘。

新井山梅照院と號し、本尊薬師如来は俗に子育薬師として知られ、毎年一、五、九月の八日、一二日は縁日として参詣者殊に賑はふ。境内に府内八八ヶ所の第七一番の大師堂があり、その後方は遊園地となつてゐる。

善福寺池

板橋區上石神井町。

西武電車上石神井驛から南七〇〇米餘、または省線吉祥寺驛の北一軒餘。内務大臣指定の東京近郊風致保存區の一つで、上井草の西部、青梅街道の南にあり、遅野井川の水源で、四圍小丘連立し、池邊蘆葦繁茂し、清泉滾々として湧き、中島に辨天祠などありて風致に富んで居る。善福寺は往時可福寺と並び稱されたが今は廢墟となつてゐる。

三寶寺及三寶寺池

板橋區上石神井町一丁目。

▲西武電車上石神井驛から北へ一軒。高田馬場―上石神井電車片道二一鐘。

▲武蔵野電車石神井驛から七七〇米。池袋―石神井電車片道二〇鐘。

寺は新義真言宗で應永元年(後小松帝の御代)元二、〇五四年に

れ松柏雜樹鬱蒼として茂り、山容又千姿萬態、紺碧の淨水を湛へ、所謂山紫水明の勝地で都人士清遊の絶好地である。附近一帯は元弘三年新田義貞が北條軍と大合戦をした久米川古戰場として知られてゐる。池畔に二間幅の探勢道があり、逍遙に適して居る。下堰堤附近に和洋兩式の村山ホテルがある。

○村山ホテル 北多摩郡東村山村廻田、西武電車村山貯水池前驛から三〇〇米、電話東村山二二、和室二二、一泊二圓以上、洋室八、室代三圓以上

食事料朝一圓、晝一圓半、夕二圓。

▲村山ホテル備付遊覽自動車

▲村山・山口貯水池遊覽一周(臺六人乗)一〇圓。

遊覽乗合片道二〇鐘、往復三〇鐘。

東京(送り又は迎へ)一臺(二人乗)一〇圓。

山口貯水池

交通機關は前記村山貯水池と同じ。武蔵野電車村山貯水池

池際驛から二〇〇米。

水域は東京府及埼玉縣の六ヶ村に跨り、狭山ヶ丘の山上滿々たる碧水を湛へた村山貯水池の一倍半の大湖水で村山貯水池と共に東洋に冠絶するものである。四時とりんりの装ひをこらした周囲の山々が、その姿を清澄な水面に投影して、水光遠く天に臨みて霞み、銀波澎湃として陽光に包まれる處、爽涼の氣自ら肺腑深く洗ひ清めてくれる。満水面積五〇萬坪(六・五七アール)周長一九九二、延長二六六三、幅員(最箇處)一軒五四、有効貯水量一七七〇萬立方米、(六億三千六百萬立方尺)工事費一、二三六萬圓、七ヶ年の歳月を要して昭和八年完成した。豊富な多摩川の水を取込んで殆んど無限に近い水を大東京市民に供給することが出来る。尚南方沿岸一三、〇〇〇平方メートル大公園あり、高さ約二〇米の大展望臺山口富士があり、山頂からは山口・村山兩貯水池を一眸の下に收められ、遠く富士・豆相・秩父連山の山濤重疊し、壯觀極まりない。附近に山口觀音、水天宮、中水川神社がある。

【鴨獵場】山口貯水池に隣接して約一萬坪の地を占め、東京市設の鴨獵場が新設され一般公開する事となつた。

法印權大僧都幸奠の創建にかゝり、後奈良帝、正親町帝の勅願所で、徳川時代には寺領御朱印十石を附せられ當時は百以上の末寺を有した名刹である。龜頂山密乗院と號す。池は寺の附近にあり清水滾々として碧潭を湛へ池畔の丘上には老松茂り實に涼味豊かな閑境で、東京府の風致地區に指定されてゐる名勝をなし、公園設備が行届いてゐる。池中には辨天祠があり、又附近には石神井城跡を初め、照日塚、殿塚等の古墳があり、また武蔵野電車經營の大プールなどがある。

村山貯水池

▲武蔵野電車村山貯水池池際驛から上堰堤迄一〇〇米池袋―村山貯水池池際驛間五九分(三二軒一)賃金片道六〇鐘。

▲西武電車村山貯水池池前驛から下堰堤迄三三〇米許り、高田馬場から片道五一鐘、所要四〇分(二六軒八分)

▲多摩湖電車(中央線國分寺驛から分岐)村山貯水池池際驛下車、下堰堤迄半軒、新宿から五五分、片道五四鐘。

北多摩郡大和村草窪地及清水地先(通稱村山)に造られた大東京の上水道の貯水池で、大正一五年三月、九年九ヶ月の日子と經費八百萬圓を投じ、自然の地形を利用して上下の二大池を設けたもので山口貯水池と共に東洋第一と云はれ、満水面の長さ三軒二、周圍一三軒九、満水面積四八萬坪(一五、八七〇アール)、上下合せて一、二三五萬立方メートル(四億四千萬立方尺あり、丁度丸ビル大の棟で四四杯半)の貯水量で、三百萬市民に三ヶ月間給水する事が出来ること云ふ。上堰堤の南端に上湖の水を下湖に落す口があり、間歇的に轟音物凄く上昇八丈の噴泉をなす様は實に壯觀である。池畔は山脈に關し

所澤飛行場

埼玉縣入間郡所澤町。

▲西武電車所澤驛から西北八八〇米。高田馬場―所澤間電車四七鐘。

▲武蔵野電車所澤驛から八八〇米、池袋―所澤電車五四分、片道四七鐘。

飛行場迄兩驛共自動車一臺五〇鐘。

明治四四年開設されたのが國最初の飛行場で、敷地一八、〇〇〇アールを有し、場内には飛行學校がある。日曜祭日以外には見學を許し、武蔵野電車でその手續をとつて呉れる。

豊島園

武蔵野電車豊島園驛下車。池袋から電車一四分、片道一四鐘。入園料大人三〇鐘、小人一五鐘。團體割引及回数券あり。池袋から往復入園料共大人五〇鐘(平日は四五鐘)小人半額。

武蔵野の大自然に練馬城址を取り入れた三三萬平方メートルの遊園地である。園内には古の練馬城の址を其儘取入れた日本式庭園及洋式花壇・温室・兒童遊戯場・テニスコート(平日一面一時間六〇鐘、一日五圓。祭日一面八〇鐘、一日七圓)・グラウンド・プール(大人小人共一入一〇鐘)・婦人プール・ウオーターシュー(お山の上から池へ舟で滑り下りるもので一回大人一〇鐘、子供五鐘)・貸ボート(一隻一時間四〇鐘、三〇分二五鐘)・子供馬場(小馬一回一〇鐘、三輪車一回一〇鐘)・釣堀(二時間三〇鐘)等があり其他貸室(一日二圓から三圓迄)・寫眞部・食堂・賣店などがある。

天覽山

▲武蔵野電車飯能驛から天覽山頂迄一軒四、同天覽山驛から七〇〇米。池袋―飯能間電車一時間一二分(四三軒八)片道八二鐘(三〇分毎に發車)

▲省線八高線東飯能驛から一軒半。

飯能町の西北、名栗川の清流に枕む松・杉・檜など鬱蒼と茂る丘陵で、山腹に十六羅漢の石像があるところからも

と羅漢山と云つたが、明治天皇が特別演習を窺覽遊ばされ
てから天覽山と改めたもので、頂上にその記念碑がある。
中腹の林間中には明治戊辰の戦役に振武軍の據つた能仁寺
がある。

〔飯能の旅館〕 東雲亭(飯能驛から約半軒、天覽山下電飯能七〇・一七〇、
一泊二圓半―四圓、洋式食堂あり)

トノノス山

前記天覽山の背後にあり山頂まで一軒餘、富士・箱根・
奥秩父から奥日光の連山を二眸に收むるパノラマ臺である。中腹は満目の櫻
樹で昔々木多林學博士があづま吉野と激賞せられた所である。

名栗鑛泉

埼玉縣入間郡名栗村下名栗。前記飯能驛から西北約一六
軒。下名栗市場で自動車を下車(所要四〇分、片道六五錢、一日二一回)名
栗川橋を渡つて湯基器に沿ふこと約二〇〇米で温泉場に着く。地は如何にも
山の湯の感じのする幽邃の地で、一、二泊の清遊地に適してゐる。泉質は強い
ラヂウム泉で、浴用加熱、神経性疾患及胃腸病に特効がある。

富岡温泉

前記飯能驛から約六軒三、直前までバスがある、四五分
一日二一回發、池袋から電車バス往復及晝食入浴付二圓。
此處は名栗川の支流、成木川のほとり、奥武蔵連峰の標山に抱かれた静かな
療養本位の温泉場で、泉質は淡乳色の肌ざわり滑らかなクロールトリウム
クロールカリウムを含む硫酸鐵泉で、創傷、打撲症、胃腸病等に特効がある。
〔旅館〕 河村屋、徳多屋、一泊一圓半から三圓位まで。

聖天院

(新義真言宗) 入間郡高麗村新堀。
武蔵野電車高麗驛の東北約二軒、約半軒手前の栗坪迄バスがある。一〇
分、一〇錢、一日二一回往復。
高麗の僧勝樂の開山で、景勝の地を占め、境内に高麗王若光の墓と傳ふるも
のがある。

高麗神社

前記聖天院の北約三〇〇米の丘陵の麓にあり、

である。東北には王子町の市街を瞰下し、西に富士、北に
筑波の山を仰いで眺望また勝れてゐる。もと瀧野川氏の城
址で、明治六年初めて公園地に指定されたのである。櫻樹
は享保年間八代將軍吉宗公が移植したもので、四月中旬花
時の賑は都下第一と云はれ、嘗ては老幼男女集ひ來り、花の
下に放歌亂舞の行はれた處であつたが、都市の發展は此處
にも侵入し、特に工場等が急増してからは著しくその風致
を損じたるは惜しむべきである。面積四五、三八一平方米三六

荒川堤の櫻

(指定の名勝) 足立區。
王子驛の東北五軒、王子電車小臺停留所から川べり迄半軒餘、小臺橋を
渡つて行く、電車賃王子―小臺間五錢、三の輪―小臺間九錢。又は同電車神
谷橋から野新田の渡を涉つて數百米で行く、王子―神谷橋間五錢、三の輪
から一三錢。池袋―神谷橋間王電バスで一五分、賃一三錢、六分毎に發。

荒川東岸の堤防、もとの江北村にある一帶の並木で江北
櫻とも云ふ。明治一九年の植樹で、樹數一、七〇〇株、七
〇餘種の櫻樹が堤上數軒に亘り、一重・八重の五色櫻は四
月中旬頃から旬日の間見事に咲き競うてゐる。

荒川は關東山脈中の三國山に源を發し秩父の盆地を経て關東平野に出で隅
田川となつて東京市を流れ東京灣内に注いでゐる。

あら川遊園

王子電車同所前停留所から北へ一〇〇米。電車賃王子から五錢。三の輪
から九錢、入園料(往復電車賃共)大人二五錢、小供一八錢。
園内に演藝場・運動具・動物園等の設けありまた飛瀑・プールなどを作り、家
族連れに清遊地に適す。

鬼子母神

(日蓮宗) 豊島區雑司ヶ谷町三ノ二九、法明寺内。
目白驛から東北へ七七〇米。大塚驛から王子電車で四、五分、賃五錢、(約

東京新市域及近郊遊覧案内(東武鐵道沿線)

バス栗坪停留所から徒歩八〇〇米。室町末期の建築で、高麗王若光の木像を祀
る。

子の權現

(天龍寺) 埼玉縣入間郡吾野村子の山。
武蔵野電車吾野驛から四軒四。池袋―吾野驛間電車一時間四〇分、片道一
圓九錢。電車・バス往復及晝食券付一圓六〇錢、同一泊二食付二圓。
根の權現は淳和天皇の天長九壬子歳子の日子の日に降誕され、延喜
十一年六月十三日當山を開創し給ひ、三條天皇の長和元壬子歳子の月・日・刻
に昇天したので「子の聖」と傳へ、日本一體にて腰の病の守り神として知られ
て居る。常に參詣者多く殊に四月、五月には講中にて賑はふ。
當山は海拔八百餘米、奥武蔵山岳美の粹にて吾野溪谷を脚下に美しく眺め、
秩父連峰を指呼の間に望む事が出来る。

高山不動

前記吾野驛から約五軒、途中二軒八の三社まで武蔵野電
車直營バスで二〇錢。池袋から食事附往復一圓五〇錢、同一泊二食付一圓
八〇錢。
高山は外秩父連峰中の秀峯で、山腹に古刹高山不動があり、紅葉狩、蕨狩及
キヤムプの適地とされ、山頂は眺望雄大である。登山容易。

稻荷山公園

武蔵野電車稻荷山驛から三〇〇米、池袋から電車一時
間、片道六〇錢。背後は一帶の松林、前面はつ、じの大公園で、その展望臺
に立てば眼下に入間川・天覽山・トノノス山から秩父・日光の連山を望んで展
望實に雄大である。

東北沿線

飛鳥山

王子區王子町。
▲東北本線王子驛下車、上野から省線電車で一五分、三等片道一〇錢。
▲山手線大塚驛から王子電車で一〇分、賃五錢。市内電車駒込橋から三錢。
此の地は王子電車の線路から直ちになだらかな傾斜をな
し、東北本線の線路に面する斷崖に終つてゐる芝生の山で
一面櫻樹を以て蔽はれ、所々に青松風樹を交へた景勝の地

とげぬき地蔵

(曹洞宗永平寺末寺) 豊島區巢鴨町二ノ二三、高岩寺内
大塚驛から王子電車で約五分、賃五錢、庚申塚停留所下車。
高岩寺は慶長年間の創立に係り本尊延命地蔵は俗に「と
げぬき地蔵」として知られてゐる。毎月四の日が縁日で參
詣者が多い。
附近には妙行寺内のお岩稻荷、新選組の統帥近藤勇の墓等がある。

大宮鐵道工場

埼玉縣北足立郡大宮町。
もと日本鐵道會社の工場であつたものを鐵道國有と共に省に移管されたも
ので、職工三千名を使役し、主として客貨車の製造修理が行はれてゐる。鐵道
工場としてはその規模の大なるもの一つで、大なる機關車も僅か十時間で
細部に分解され、夫を修理して再び組立てられるのに全部で五日間で出來、
一ヶ月に一五〇臺も修理されるのである。
毎週土曜日の午後一般の參觀を許してゐる。

東武鐵道沿線

堀切菖蒲園 葛飾區堀切町。
堀切停留所から五五〇米、バス片道五錢、往復八錢。
雷門驛―堀切間電車一〇分、片道一〇錢、約五分乃至一〇分毎に發車。
又は吾妻橋から隅田川汽船で鐘ヶ淵にきり(三〇分、片道五錢)夫から菖
歩半軒、花季には菖蒲園行の汽船が出る(三人以上の場合) 賃一五錢。

江戸開府以来の歴史を有し、花の種類二〇餘種を数へ、風致尙昔の面影を偲ばしむるものがある。

園は堀切園と菖蒲園の二園に分れ、入園料兩園にて三〇錢。

西新井の大師

足立區西新井町。

大師前驛から一〇〇米、雷門―大師前間電車二五分、片道二二錢。

五智山總持寺と號し、弘法大師の創建にかゝる眞言祕密の靈場で、川崎大師と併び稱され、厄除大師として參詣者が多い。境内廣く風致に富み半日の清遊に相應はしい佳境である。

粕壁牛島の藤

粕壁驛から一杆六、自動車一二分、乗合三〇錢(花時のみ)、貸切二圓。俵五〇錢。

雷門―粕壁間電車五〇分、片道六二錢(花期割引あり)。

綱り合ふてゐる幹の周りに三丈、それに毎年六尺に垂んとする花房を無数に付け、棚の廣さ二百餘坪に亘る壯觀は、實に日本一と云はれてゐる。

館林獨躰ケ岡・茂林寺

▲東武電車館林驛からつじが岡まで東二杆八、自動車四〇錢。雷門から電車急行一時間三三分、片道一圓一九錢(花期割引あり)。

▲同上茂林寺驛前から茂林寺迄東三三〇米。雷門から一時間三六分、片道一圓一五錢。

獨躰ケ岡は赤羽村花山にあり新田左中將から綱吉將軍藩主秋元侯に至る迄歴代培植せしと云ふ由緒の深いもので、城沿に瀕せる小丘一面の彩りは實に美觀である。城沼から舟で渡り茂林寺に廻るに丁度よい一日の行樂である。茂林寺(曹洞宗)は六郷村大字堀江の杉森の茂つた平地にあ

り、館林から三杆三。お伽噺に名高い文福茶釜を寺寶として傳へ、他の寶物と共に今本堂内に陳列公開してゐる。

▲館林驛から一〇〇米の處に淨土宗關東十八壇林の一、三百年前祐天上人の開山なる善導寺がある。

〔館林の旅館〕一柳亭(電館林一六八、一泊三圓半、四圓、五圓)、増の家、(一泊同上)、港屋(三圓一四圓半)、芳川(二圓一三圓)。

太田の金山と吞龍上人

太田驛から金山の麓迄一杆七、吞龍上人迄一杆、自動車乗合何れも片道一〇錢(電車毎)。雷門―太田間電車二時間半、片道一圓五四錢。

金山は新田義貞の城の址で山頂に公を祀る新田神社がある。其昔護良親王の令旨を奉じて義旗を擧げた當時の軍旗が今尙藏されてゐる。山頂は眺望絶佳にて利根渡良瀨の奔流を脚下に、遠くは關八州の平野を一時に收む。山腹に新田家累代の墓がある。吞龍上人は金山の麓、大光院にある關東十八壇林の隨一で、古來子育吞龍として著名である。

藪塚鑛泉

群馬縣新田郡藪塚本町。

▲藪塚驛から〇・八乃至一・三杆、俵二〇錢、自動車貸切五〇錢。

雷門―藪塚間電車約二時間半(太田乗換)、片道一圓七一錢。

▲東北本線久喜から藪塚まで九九錢(上野―久喜間片道七三錢、一時間半)。

湯の入、瀧の入、西長岡(同郡強戸村西長岡)の三つを總稱して藪塚鑛泉と總稱してゐる。八王子山の裾に位し、南の方開けて田圃に面した野趣に富た所である。

泉質はアルカリ性の硫黄泉で、浴用加熱、皮膚病、神経病・リウマチス・疥癬・胃病等に效がある。

〔旅館〕長生館(西長岡、電宿生二五四九、室敷八〇)、伏島館(電藪塚本町六番、室敷四〇)、今井館(電本町二一、室敷二〇)、室田館(電本町

龍巖寺、道灌屋敷などの曳杖地がある。泉質は無色透明の弱アルカリ泉で浴用加熱、リウマチス・痛風・神經衰弱・皮膚病・婦人病・重病後の恢復期に效があるといふ。

吉見の百穴

東上線武洲松山驛から東北二杆半。俵四〇錢。

池袋―松山間電車一時間片道一圓。

小高丘の側面(松山城址の崖壁)に二三七個の横穴が蟻集狀に穿たれてゐるもので、大きき何れも二米乃至三米四方、天井は主に穹窿型で高さ二米、上古の墓地であるといふ。明治二〇年頃の發見當時には人骨、玉器、鏡、小刀、金銀環、鍬等の金具品及土器など發見された。附近には松山城址、吉見觀音、岩窟ホテルなどがある。(岩窟ホテルとは「岩窟を掘つてゐる」がホテルになつたものと云ひ只ホテルの如くなつてゐるのみで宿舎ではない)

武蔵嵐山

埼玉縣比企郡菅谷村。

東上線菅谷驛から嵐山の中心地松月樓前迄自動車一〇分、乗合片道二〇錢

池袋―菅谷間電車一時間餘、片道一圓一四錢。季節には往復割引あり。

槻川の清流が太平山の突角を「ひ」字型にめぐつて鹽山の根をかみ更に大平山の裾を洗ひ、附近一帯の翠松、櫻楓の密林に和して天然の絶勝をなして居る所である。その山姿水態は恰も京の嵐山に似通ふ處から數年前本多靜六博士の命名したもので、昭和五年の夏東京朝日新聞紙上に「東日本新名物」として紹介せられてから一躍都人士の行樂境と化し、新緑に、櫻花に、釣魚に、舟遊に、紅葉狩に、四季を通じて郊外一日のピクニックに適してゐる。中心地景勝の所に割烹旅館松月樓がある、一泊三、四、五、七圓、晝食一圓以上。

附近には嵐山唯一の自由展望臺である大平山頂の眺めを初め、眺岩、きのこ山、ツムラス古墳、紅葉峽等の名所があり、また史蹟にも富んで居る。坂上田村麿が東征の途上此の鹽山に足をとめたと云はれ、その南東に當時の陣營の

二七、室三〇)、藪塚館(電本町一八、室二五)、福壽館(室二〇)、一泊一圓以上。

喜多院

▲東武鐵道東上線川越西町驛の東北八八〇米。自動車一〇分、乗合一〇錢、貸切八〇錢、俵四〇錢。池袋―川越西町間電車三六分、片道六一錢。

或は西武鐵道川越驛から東北約八八〇米、自動車一〇錢。高田馬場―川越間電車一時間一二分、片道六七錢。

千五百年前、淳和朝長七年に慈覺大師が勅詔により建立された關東隨一の名刹で、天臺宗山門派八個壇林の一である。後天海僧正之を再興し、今の堂宇は寛永年間江戸城内紅葉山の別殿を移したものである。境内四萬八千坪、老櫻古杉技を交へ幽邃を極む。寺號は星野山無量壽寺と號す南隣に天海僧正の創建、寛永年間の建築にかゝる東照宮がある。

新月ヶ瀬

(越生の梅林)

八高線越生驛から三杆、貸切自動車一圓。

東武線坂戸驛の西一四杆、季節中往復割引及び自動車の便がある。

越生と云ふも實は隣村梅園村の津久根堂山を中心として越邊川の流に沿ふ一帯の地で、梅樹多く近年新月ヶ瀬の名で呼ばれて居る。勿論本家の月ヶ瀬には及びもないが、東京附近の勝區として一遊に値する所である。梅の奈良漬梅酒の名物がある。

黒山鑛泉

埼玉縣入間郡梅園村黒山。前記越生驛から約九杆、自動車貸切二圓、夏季中乗合三〇錢。秩父連峯の翠巒が押しかぶさる様に迫り、越邊川の清流は舒して枕下に夢を洗ふ靜寂の境で旅館が一軒(黒山鑛泉館、一泊一圓半から)あり、附近には黒山三瀧の名ある雄瀧。雌瀧・天狗瀧があり、

地、將軍澤と刺止山がある、また將軍を慕ふ若い女性が將軍との別れを惜んだと云ふ不會ヶ原・不聞ヶ原・縁切橋などの傳説地がある。また源為義の第二子帯刀義賢が甥の悪源太義平に殺れたのも此處だと云ふ。大藏卿の館址には義賢の昔むした塔状の古碑がある。槻川と都幾川の合流點から數十里の下流槻川に沿ふてゆけば葛山重忠の城址もあり、南北朝時代に新田義宗の奮戦した笛吹峠の古戰場も附近に見える。

E 光

きぬ川温泉

浅草雷門から電車二時間半。片道二圓一三錢。季節により往復割引あり。本旅館第一五三頁参照。
浅草雷門から電車三時間(下今市乗換)鬼怒川温泉驛下車。片道二圓三八錢、季節により往復割引あり。

京成電車・城東電車・總武沿線

柴又帝釋天

(法華宗中山派) 葛飾區柴又町一丁目。

▲京成電車柴又停留所から一〇〇米。日暮里―柴又間電車一九分、一六分毎に發。片道二四錢(京成高砂にて乗換)常盤線金町驛から六錢。
押上―柴又電車一七、八分(一五分乃至二〇分毎)、片道一五錢。

寛永六年の草創で寺號を經榮山題經寺と云ふ。日蓮自刻の祈禱本尊除病延壽惡魔降伏の守護神帝釋天王を祀る。堂宇壯麗、世人の信仰篤く參詣者が常に絶えぬ。申の日及庚申の日を賽日とし又毎年四月六日から十日迄千部會を行ふ。

▲江戸川堤は帝釋帝の後園に續き國府臺の翠巒と相對し山と水の風致は關東平原唯一の勝區で内務省指定風地區の一つである。國府臺へは矢切の渡し栗市の渡しから行く。

龜戸天神

城東區龜戸町一丁目。

▲城東電車十間川向停留所から北へ三〇〇米。
▲市電錦糸町終點―十間川向間電車片道二錢。

祭神は菅原道眞、相殿に天穗日命を祀る。社殿は寛永三年の創建で、代々將軍家の尊信厚かりし聖廟である。社殿

多摩御陵・高雄山及其附近

多摩御陵 中央線淺川驛の東北に當る東京府南多摩郡横山村大字下長房字龍ヶ谷戸、武藏陵墓地々城の中央や、北寄りの標高二一八米の丘上に南面して大正天皇の永遠に神鎮まります御陵墓である。陵型は上圓下方型で兆域は二、五〇〇平方米、御陵の三方を繞る臺地には檜、櫟の疎林があり、丘陵からは雑木の群と土の香豊かな武藏野を一望に收むことが出来る。又附近は史蹟と名所に富み、御陵の西約三〇〇米の甘里御料林の邊は有名な古戰場として知られ(今から三六〇餘年前の永祿二年、武田信玄が城山城を攻めて戸取の砦を落す)南へかけて山續きには昔八王子城主北條氏照の城址あり(淺川驛の西北約四軒)龍ヶ谷戸の谷間を距てて帝室林野局林業試験場あり、遙か西南には紅葉の名所として又小學兒童の修學旅行の最適地として知られて居る高雄山などがある。

御陵參入時間(三)月一〇月 午前八時から午後五時迄
(一)月一二月 午前八時から午後四時迄

高尾山

海拔六〇二米、南に案内山、津久井山、北に小佛等の諸山を控へ巨樹鬱蒼と茂り、瀑あり溪あり幽谷の景趣に富み、見晴臺(藥王院から六〇〇米)に出づれば視界頓に潤けて雄大、關東平野パノラマの如く眼界に展開し四顧十三州に及ぶ。

山路ゆるやかにて婦女子も樂々と登る事が出来、黃塵の都を去ること僅か一時間半にして清澄な山の氣分にひたり一日ゆつくり樂しむことを得るので春夏秋を通じて修學旅

多摩御陵・高尾山及其附近

壯麗、太宰府に擬し、境内に池があり二個の太鼓橋を架してある。池畔には紫白の藤を植ゑ花房の長さ丈餘に及ぶものがあり、古來藤の名所として聞えてゐる。毎年一月初卯の日及一月二五日には鶯換の神事があり參詣者が頗る多い

國府臺

千葉縣市川市國分。

▲京成電車市川國府臺停留所の北二軒。押上―市川國府臺間電車片道一八錢。上野公園―市川國府臺間電車片道三〇錢。▲省線市川驛から西北三軒。御茶の水驛―市川驛間省線電車二三分(一四軒九)、賃二二錢。

兩國驛を發した電車が、大東京を過ぎて江戸川の鐵橋を渡り市川町に入り、車窓の左側に望む臺地がそれで、昔下總の國府のあつた所である。南は房總の山々を望み、脚下には江戸川の清流が緩やかに流れ、川を隔て、西方には一帯の葛飾の沃野が展開して大東京市に連り、遙かに秋父丹澤の連山をも望む事が出来る。眺望の閑き事と流水の清き事は近郊に稀に見る勝地である。且つ此處は有名な古戰場で、天文七年一〇月(紀元一五八八年)小弓御所足利義明が安房の將見義興と共に小田原の北條氏綱、氏康の軍を逐へ撃つて大敗し、また永祿七年正月(紀元一五二四年)安房の將見義興が北條氏康と戦つて敗れた所である。江戸時代總督寺が此處に移建されてその境内となり、江戸幕府時代には關東總鎮守として總督府内に備へた任免を掌り、盛大を極めた古刹であつたが、今は境内落葉の感があり、その一部に野砲兵の兵營があり、また附近に景園、古墳址、石堀、夜立石等の舊蹟及北方堤上には櫻の並木等があり、附近に下總國分寺址、堀ノ内貝塚がある。

中山法華經寺

千葉縣東葛飾郡中山町。

▲京成電車中山停留所から二〇〇米許。押上―中山間電車片道二四錢。上野公園―中山間電車片道三六錢。▲省線下總中山間約三〇分(一五軒七)、三等片道二五錢。
日蓮宗の大本山で、身延山久遠寺、池上木門寺と併び稱さる、名刹である。日蓮上人が中山の郷土富城播磨守の請により此地に願錫し、邸地に一字を營み、上人自刻の一尊四菩薩の像を安置し法華堂と名づけたのに始まる。境内廣く仁王門・祖師堂・法華堂・五重塔等の堂宇がある。五重塔は元和八年加賀の今特別保護建造物に編入されたものである。
▲附近(同上驛の東北五軒)大柏村山部落の西北細地には石器時代住居址があり、昭和二年東京帝大に依つて土器、石器等が發見せられて明かになつた遺蹟である。

行や子供連れの遊山地として喜ばれて居る。紅葉の見頃は一月中旬。

▲藥王院 高尾山頂にあり、天平一六年、聖武天皇の勅題を奉じて行基菩薩の創設せる名刹、有喜寺と稱し新義眞言宗で、飯綱權現を本尊とす。祠堂・木堂・仁王門・五重塔等伽藍宏壯、輪奐の美を極む。此處から約一軒に十三州見晴臺の勝地があり、また林道傳ひに大だるみに出て與瀬驛に下る道もある。

▲蛇瀧 神劍を懸せる青銅の蛇口から落下する十餘尺の瀧。高尾山驛へ一軒。▲琵琶瀧 ケールカール終點上の琵琶瀧道を案内川に沿うて下る。瀧畔に不動堂・狂人收容所等がある。

小佛峠

甲州街道中、笹子に次ぐ有名な難所で、淺川・與瀬間にあり上下八軒。絶頂は標高五二〇餘米、道を挟んで國を異にし、西南に富士が見え十二ヶ國を一目で見渡す事が出来る。淺川驛から峠迄七軒八、自動車は峠下迄通ず賃切二圓位。

▲(參考) (八王寺・淺川・高尾山麓の旅館)
▲八王寺の旅館 大東園(電七〇五)、徳利龜屋(電一〇四、室一一)(以上一泊三圓、四圓、五圓)、角喜(電五一一)、齋藤(電六二二)、角喜支店(電一三六、驛前)、玉屋(電一七九、驛前)、其他。宿泊料二圓乃至四圓。
▲淺川町 花屋本店(電話淺川三五、驛から約一軒、室一〇)、普通一泊二圓三圓、料理兼業)、岸木屋(電六一〇、驛前、室四、同上)、晝食六〇錢以上。
▲高尾山麓 橋木屋(電淺川六、室一二、料理兼業、高橋屋(電五九九、室一二、同上)、琵琶屋本店(電五五五、室九、同上)、何れも普通一泊は二圓乃至三圓。

美女谷瀧泉

神奈川縣津久井郡小原町底瀧。中央線與瀬驛から約三軒。自動車六分、乗合一五錢(千木良行定期一日五回以上、底瀧口下車徒歩約一軒、賃切六〇錢)。

地は小佛峠の西麓、美女谷の清流に臨む仙境で、古來此の溪谷には美人を産すと相模風土記に見え、照手姫の傳説多く、又名妓初代高尾も此地の産と傳へらる。
温泉はアルカリ性泉で、消化不良・呼吸器病・リウマチス・病後衰弱等に効がある。名物にはヤマメ・鮎・ヤマイモ等がある。
〔旅館〕 下原(室七、一泊一圓乃至二圓)。

多摩御陵參拜と高尾山遊覽日程案 (東京から日歸り)

地名	發着時刻	記事	備考
新宿驛	發前 七・四	淺川行電車	▲新宿―淺川間省線電車ヲ五七分(四二軒八)、三等六八錢。東京驛カラ淺川行省線電車三〇分乃至一時間毎ニ發車ス。所要一時間一二分。
淺川驛	着前 八・四	下車	▲淺川驛カラ多摩御陵迄近道一軒七、表參道二軒七。 △近道 驛前カラ林業所道ヲ二、三百米程行キ、同試驗所カラ少シ手前ノ道ヲ右ヘ折レテ御陵カラ三、四百米ノ表參道ニ合ス、徒歩一五分。 △表參道 甲州街道ヲ八王子ニ向ケ、表參道入口迄約一軒、バス一〇錢、列車毎、貸切五〇錢、夫カラ左ニ折レテ御陵總門マデ徒歩五〇分。又は淺川驛カラ電車ニテ表參道入口迄三分(六錢、八分毎)、同所カラ總門迄約一軒、徒歩一〇分ヲ要ス。
多摩御陵	參拜		
四谷新宿驛	發前八時頃	京王電車	▲四谷新宿―調布―府中―北野―御陵前間京王電車ヲ七四分、(前五〇五―後九時半マデ三〇分乃至四〇分毎ニ運轉) 八錢(四二軒八) 毎月二五日ニハ各驛カラ往復五割引ノ割引。
調布	御陵前驛	着前九時半	下車、參拜
清瀧驛	發	ケーブルカー	▲淺川驛カラ高尾山麓(清瀧驛)マデ二軒餘、徒歩約三〇分、自動車七分、乗合片道一〇錢、(前八・〇―後五・〇マデ二〇分乃至三〇分毎ニ發車)、貸切五人乘五〇錢。同上電車ニテ高尾橋迄七分(八分毎)賃六錢、ソレカラ清瀧驛迄徒歩三分。
高尾山驛	發着	徒歩	▲高尾山麓清瀧驛カラ八合目高尾山驛マデケーブルカー七分、賃金上リ三〇錢、下リ二五錢、往復五〇錢。高尾山驛カラ藥王院マデ徒歩八百米、殆平坦ニテ十分位。藥王院カラ大見晴マデ一軒一、徒歩二〇分。
藥王院	徒歩		
高尾橋畔	着後	自動車又ハ	▲歸路ハ蛇瀧、琵琶瀧等ニ廻ツテ山麓ノ高尾橋畔ニ出テ、此處カラ自動車又ハ電車ヲ淺川驛ヘ歸ル。 藥王院カラ琵琶瀧マデ七七〇米、二〇分、琵琶瀧―清瀧驛四四〇米、一三分。

旅行費用概算 三等

(イ) 三・三六
(ロ) 三・四六

内譯
新宿―淺川(往復)一・三六、淺川驛―高尾山麓(乗合自動車往復)〇・二〇、ケーブルカー(上リ片道)〇・三〇、晝食料其他一・五〇

内譯
四谷新宿―御陵前(往復)〇・六八、ケーブルカー(上リ片道)〇・三〇、御陵前―高尾橋(電車)〇・三〇、淺川―新宿(往復)〇・六八、晝食料其他一・五〇

相模川下り日程案 (東京から日歸り)

注意 舟は別仕立なるを以て少くとも 四日位前に與瀬驛長又は旅館を介し 豫約し置くを要す。五人乃至一五人位の團員を以てするを便とす。▲與瀬の旅館…角屋、丸井、井桁屋、小林亭、若松屋(晝食代五〇錢、宿泊料一圓半―二圓)。

地名	發着時刻	記事	備考
新宿驛	發前 八・三	長野行列車	▲新宿―與瀬間 一時間二三分(五二軒三)、三等片道八三錢。
與瀬驛	着前 九・五	徒歩	▲與瀬驛―發船場間約一軒、自動車乗合一五錢、貸切五〇錢。
勝瀬	着前 一〇・三〇	和舟	▲二瀬越又ハ築井橋カラ荒川又ハ小倉迄舟行約四時間、但シ水量ニ依リ一時間内外ノ遅速ヲ生ズ。貸切一艘中船一二圓大船一八圓。
相模川	着後二時頃	自動車	【相模川舟遊】 與瀬町ノ下カラ荒川ニ至ル間ハ兩岸奇岩怪石多ク激流深潭隨所ニ出現シ奇景ニ富ム。荒川カラ下流ハ緩流ニテ悠々トシテ追ラズ、春ハ綠ノ若葉ニ山驛點々スルアタリ夏ノ時ニハ赤花ノ橋ニ水ノゲレ等ニテ遊覧ニシテ一日ノ遊樂ニシテ可ク。
荒川	着後三・三五	自動車	
八王子驛	着後三・四	東京行	

相模川下り日程案

武州御嶽登山日程案
新宿驛 着後 四・六 歸宅

旅行費用概算 三 五・六三

武州御嶽登山日程案 (東京から日歸り)

地名	發着時刻	記事	備考
新宿驛	發前 七・一七	淺川行省線電車	新宿—立川間省線電車テ四〇分(二七料二分、一六分毎ニ運轉)三等四四錢。立川—御嶽驛間青梅電車テ五〇分(二七料二分、凡三五分毎ニ發、三等四八錢。 〔註〕武蔵野電車デ池袋カラ豊岡町迄一時間(三七料、實七〇錢)、夫カラ同社ノ連絡バスデ射山溪ニユク便ガアル、バス所要一時間一五分、五〇錢、約二六料、前五時半—後七時半迄三〇分又ハ一時間毎ニ一六回發、池袋カラ電車・バス連絡往復一圓四〇錢。御嶽發前六・一〇—後九・一〇迄
立川驛	着前 七・五五 發前 七・五五	青梅電車ニ乗換 御嶽行電車	▲御嶽驛カラ御嶽橋ヲ渡リ中野ヲ經テ瀧本(山麓)迄約二料二、徒歩三〇分、自動車六分、乗合一五錢(一日十數回定期又ハ不定期ニテ發車スル。不定期ハ乘客三人以上アル場合ニ發スル)(貸切二人迄五〇錢、三人以上七〇錢) 瀧本カラ山上迄ケイブルカー一八分(一料一〇五)三〇分毎ニ發、賃往復六〇錢、夫カラ神社迄徒歩七〇〇米 ▲御嶽山頂ニハ旅館ハ無イガ、古來神社ト密接ト關係ヲ持チ、多クノ講中ヲ宿泊セシムル御師ノ家ガ二〇餘軒アツテ(西須崎、林、鈴木、等)參詣人ニ宿泊ノ便ヲ與ヘテ居ル。一泊二圓位。
御嶽山	着前 八・〇	御嶽山麓迄 自動車アリ	▲御嶽神社カラ奥ノ院迄約二料、徒歩三〇分。 ▲御嶽神社カラ日向和田驛へ出ル道モアル。 神社(二時間)—三ツ澤(二〇分)—肝要(五〇分)—日影和田(二〇分)—日向和田驛。
御嶽驛	發後 五・二五	立川行電車	
立川驛	着後 六・〇五 發後 六・一〇	省線電車ニ乗換 東京行電車	
新宿驛	着後 六・四九	歸宅	

旅行費用概算

三 四・二四

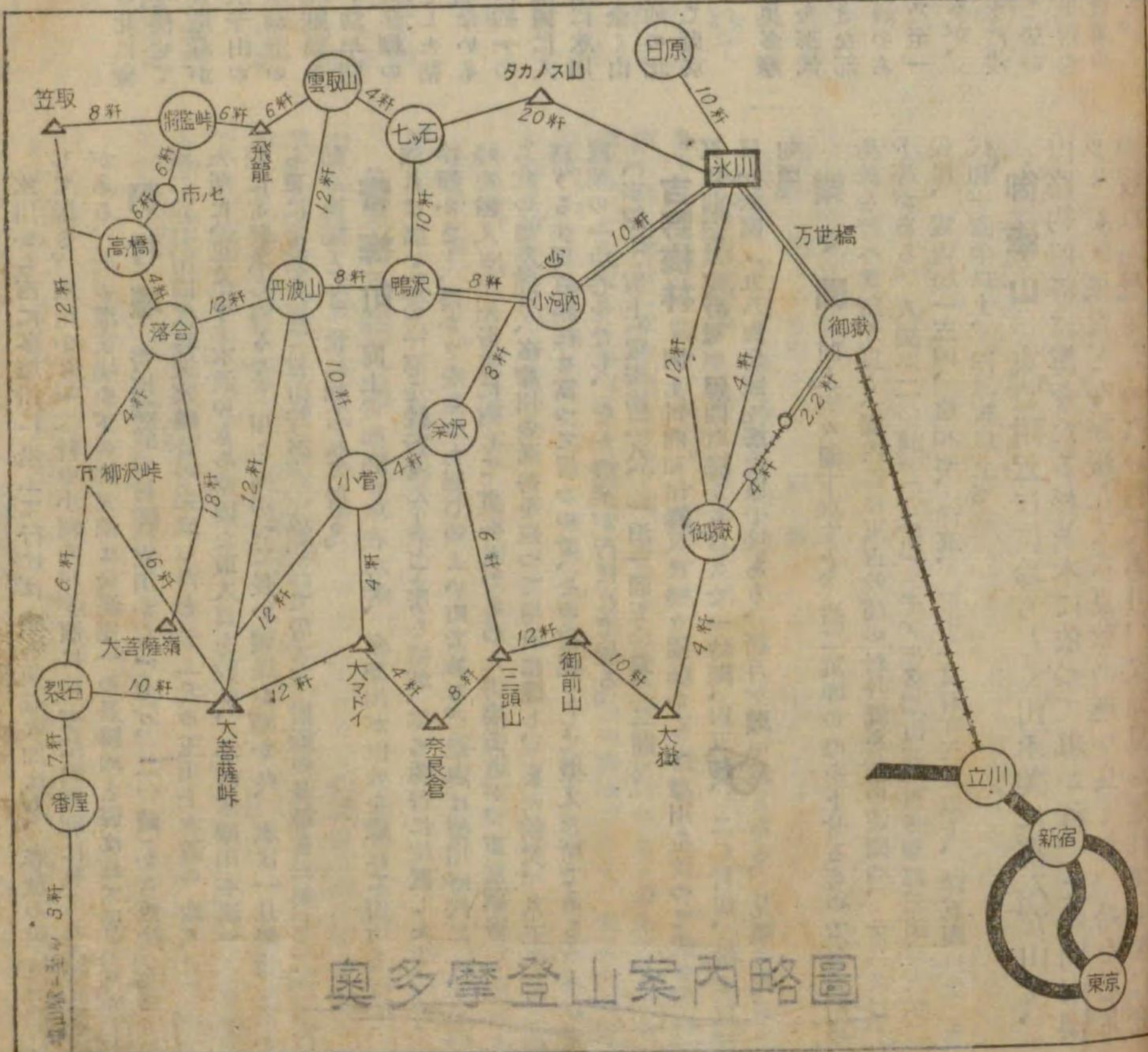
内譯 (新宿—御嶽往復) 一圓八四錢
自動車及ケイブル往復 九〇錢
食料其他 一圓五〇錢

シテ三圓宛ヲ計上ス

奥多摩ハイキング
日帰りコース

- (其一) 二俣尾驛—(四軒七) 高水山—(二軒八) 惣岳山—(三軒八) 寒山寺—(二軒四) 御嶽驛—立川・新宿方面
- (其二) 二俣尾驛—(四軒七) 高水山—(二軒八) 岩茸石山—(二軒六) 棒の嶺—(五〇分) 權次入峠分岐點—(六軒一) 大正橋—(五〇分) 御嶽驛—立川・新宿
- (其三) 御嶽驛—(三軒三) 大正橋—(三時間) 獅子口—(四軒一) 川乗山—(二軒八) 鳩の巢—(七軒五) 御嶽驛—立川・新宿
- (其四) 御嶽驛—(三軒三) 川乗山—(四軒一) 百尋瀧—(二軒八) 大澤—(四軒一) 氷川—(二軒一) 御嶽驛—立川・新宿

奥多摩ハイキングコース



地名	發着時刻	記事	備考
新宿驛	發前 六・三〇	松本行列車	▲新宿驛—鹽山驛間 二時間五八分(一〇六粒六)、三等一圓六一錢。
鹽山驛	發前 九・一六	自動車	▲鹽山驛—番屋間 八粒、自動車二五分、乗合上り五五錢、下り三五錢(列車毎、夏季ハ夜行列車ニモ接続ス、貸切四人乗二圓)
番屋	發前	徒歩	▲番屋—裂石(裂石ニ雲峯寺アリ)間約二粒、徒歩山道四〇分。
長兵衛小屋	發前	同	▲裂石—長兵衛小屋—唐松尾根—大菩薩嶺間約六粒五、三時間半。
大菩薩嶺	發前	同	▲雲峯寺カラ峠路、長兵衛小屋ヲ經テ唐松尾根ノ先戸ヲ登ルト雷岩トイフ巨岩ガアル。此處ハ眺望佳ク、小金澤ノ長峯ヲ隔テ、靈峯富士ハ全容ヲ現ハシ、西南甲府盆地ハ一望ニ展開サレ、南アルプスノ峻嶒ハケ岳、金峯山、甲武信岳ハ、西北ノ雲表ニ聳エ、北ニ重疊セル山谷ヲ隔テ、雲取山、牛王院山、古嶺山等ヲ望ムコトガ出來ル。雷岩カラ約四〇〇米ニシテ大菩薩嶺(三角點ニ、〇五六・九米)ニ至ル。三角點ハ針葉樹林ニ遮ラレテ何等ノ眺望モ得ラレナイ。嶺ノ下、姫ノ湯(湯)ノヒユツテ勝縁莊及長兵衛小屋東ノ明沼館ハ何ノ不自由モナク泊ル事ガ出來ル。一泊五〇錢、二食付一圓。
石丸峠	發前	同	▲大菩薩嶺—大菩薩峠間約一粒半。
鹽山驛	發後 五・四三	同	▲大菩薩峠—熊澤山—石丸峠—砥山—小田原橋(又ハ番屋)—鹽山驛間約一五粒。
新宿驛	發後 八・二七	新宿行列車	

旅行費用概算

三等 五・二二

内譯

〔新宿、鹽山間往復汽車賃ノ外自動車賃(以上備考欄参照)其他費用トシテ二圓計上ス

〔註〕 他ノ下山コースニ就テ

- 一、峠カラ東北ヘ下ルト約一三粒ア小菅村川久保ニ出、奥多摩溪谷ヘ通ズル。
- 二、峠カラ南ヘ石マラ峠ヲ越スト一ニ粒ア小金澤ヘ出、更ニ二〇粒ア猿橋驛ヘ出ル。
- 三、峠カラ大菩薩嶺南面ノ山腹ヲ西ヘカラミ約三粒テ砥山峠ノ小屋(峠ニハ山彦會建設ノ山小屋ガアリ、食料・寝具ヲ持參スレバ寢泊モ出來ル)ガアリ、ソコカラ砥山、源次郎山ヘ南走スル尾根ヲ約八粒行キ、日川谷ヘ下レバ嵯峨鹽鑛泉ニ出ラレル。嵯峨鹽カラ日川ノ谷沿ヒニ天目山ニ出テ初鹿野迄ハ約一〇粒テ、此ノ山路ハ旅人ノ心ヲ満足サセル。

大菩薩嶺

大菩薩嶺は初鹿野、鹽山兩驛の北方に聳えて居る二、〇五七米の山で、中里介山氏の「大菩薩峠」の名著に依り、近年著しく人口に膾炙せられて登山者が多く三ツ峠などと共ニ山岳の展望地として、優れた興味のある山の一つである。山頂の北側は奥多摩の水源の谷を隔て秩父連峯の雲取山、大洞山、牛王院山笠取山等と相對し、峯の北面の泉水谷、小室川谷などは奥多摩の上流となつて東京市上水道の水源の一部をなして居る。大菩薩嶺の頂は西北端が最高で三角點であるが、森林が密で眺望が出來ない。しかし東西に伸びてゐる嶺を東へ峯傳ひにゆけば、北側は森林で奥多摩の谷は眺め悪いが、雲取から秩父の連峯は間近かに眺められ、南面は展けて日川の谷へ掘合の尾根が見え、その先に笹子、三ツ峠などを隔て、富士が高く聳え、西南には赤石岳から鹽見岳、白峯三山など南アルプスの大觀は實に雄大である。

三角點から約八〇〇米東へ尾根傳ひにゆくと東端は妙見の峯でその南面へ下ると養の河原があり、尙七〇〇米程下ると大菩薩峠である。奥多摩の谷に沿ふて甲府へ通ずる青梅街道は大菩薩嶺の北から西の裾を迂廻して居るが、以前は大菩薩嶺はや、東南の山腹を越して往來したもので、所謂大菩薩峠はそれである。

大菩薩峠 日川源頭の雷岩から南東に向ひ妙見社跡(二、九八〇米いま菩薩堂あり)に至る間は所謂親不知と稱し往昔の大菩薩峠で、萩原と小菅の通路であつて物々交換の荷渡小屋があつたのであるが、風強く草木生えず(一名養の河原の名があり)冬期には往々凍死者を出す云ふので明治九年こゝより四〇〇米の低地點現今の大菩薩峠(一、八九七米)に移したのである。峠には小さな首欠地蔵が只一つ座つてゐる。

〔附近名所〕

大菩薩嶺

五九

雲峯寺

鹽山から峠への登路、裂石にあり、聖武天皇天平一七年行基菩薩の開山と傳へ、甲府の鬼門に當る處から代々國主の尊崇した靈刹である。

嵯峨鹽鑛泉

山梨縣東山梨郡奥野田村。中央線初鹿野驛から一二粒四、駄馬四圓。地は大菩薩峠の南麓に位し、森林に抱かれた山又山の境地で、附近には景德院、片手研、天目山等の名勝舊蹟があり、何れも鑛泉への途中にある泉質は炭酸泉で胃腸病に特效があり、神經痛、眼病等療養向の幽境である。

〔旅館〕

探屋(室二五、一泊一圓六〇錢、二圓、自炊一日六〇錢、八〇錢)。

〔登路〕

大菩薩への登路は凡そ左の四つあるがそのうち鹽山からの登路が最も距離が近く多数の登山者はこゝから登つて初鹿野又は奥多摩へのコースを選ぶ。

一、青梅鐵道終點御嶽驛から水川まで自動車に依り、水川から青梅街道を西へ奥多摩の溪谷美を賞しながら小菅村川久保を経て登る。御嶽驛から峠まで約四一粒、途中一泊を要するが奥多摩溪谷を兼ねての面白いコースである。

▲新宿—立川—御嶽驛間 電車一時間半、賃九二錢。

▲池袋—豐岡町—御嶽驛 電車及バス約二時間一五分、賃一圓二〇錢。

▲御嶽—水川間 自動車四〇分(二粒三)、乗合片道五〇錢、賃切一人乗二圓、三人以上三圓。

▲水川—鶴之温泉間 徒歩約一二粒、賃切自動車なら御嶽驛から出る。三圓乃至四圓。

▲鶴之温泉—小菅村池ノ尻 徒歩三時間、約一二粒。

▲池ノ尻—大菩薩峠間 徒歩約五時間、約二〇粒。

二、中央線猿橋驛から登る、徒歩約三二粒。此の登路は餘り一般的でない。

三、中央線初鹿野驛から日川の溪流にある嵯峨鹽鑛泉を経て登る、徒歩約二〇粒。

▲初鹿野—嵯峨鹽鑛泉間約一二粒四、▲嵯峨鹽—大菩薩嶺間約一粒。

四、中央線鹽山驛からのコースで左記日程案に示す。登路約一五粒。

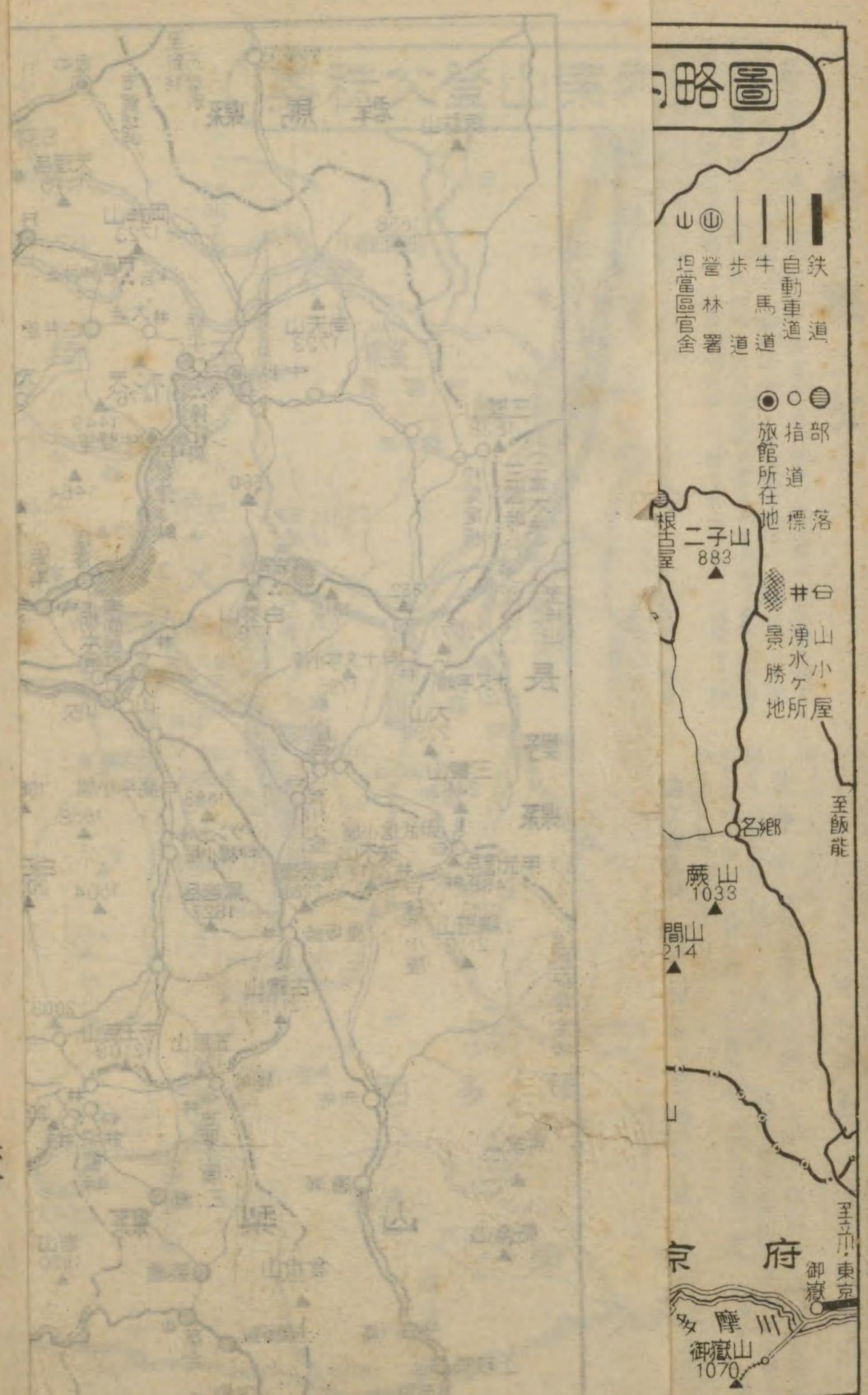
地名	發着時刻	記事	備考
上野驛	發前 七・二〇	水上行列車	▲上野―熊谷 一時間二〇分(六十一軒一分)、三等九七錢。
熊谷驛	着前 八・三〇	秩父鐵道二乗換	▲熊谷―長瀨(秩父鐵道三峯口行電車) 五十分(三十一軒一分)七五錢。
長瀨驛	發前 八・四二	三峯行(急行)電車	▲秩父迄一圓五錢、三峯口迄一圓三五錢。
池袋驛	着前 九・三三	下車遊覽	▲池袋―寄居 一時間三十分(東武鐵道東上線急行電車、三等)
寄居驛	發前 八・二七	東武電車	▲寄居―熊谷 一時間四分(秩父鐵道會社電車) (一、二軒一分) 賃三〇錢。
長瀨驛	着前 九・五八	秩父鐵道二乗換	▲長瀨驛カラ長瀨(約二〇米、寶登山神社) 半軒。
長瀨驛	發前 一〇・二二	秩父行電車	▲長瀨(長瀨) 長瀨驛ノ東カラ上長瀨驛ノ東ニ至ル荒川ノ峽流、延長約一軒ニ及ブ指
長瀨驛	着前 一〇・三三	下車遊覽	▲長瀨(長瀨) 長瀨驛ノ東カラ上長瀨驛ノ東ニ至ル荒川ノ峽流、延長約一軒ニ及ブ指
熊谷驛	發後 三・五七	熊谷行急行電車	▲熊谷(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
上野驛	着後 四・四七	乗上野行列車換	▲上野(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
寄居驛	發後 四・五七	東上線二乗換	▲寄居(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
池袋驛	着後 五・四七	歸宅	▲池袋(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗

旅行費用概算

(イ) 二等 七・五三
 (ロ) 三等 四・九三

内譯
 (イ) 上野―熊谷(往復) 二等 三圓八八錢 三等 一圓九四錢
 (ロ) 池袋―長瀨(往復) 二等 一圓五〇錢 三等 一圓二八錢
 (ハ) 寄居―熊谷(往復) 二等 二圓 三等 一圓三五錢
 (ニ) 池袋―寄居(往復) 二等 一圓八五錢 三等 一圓三五錢
 適宜計上ノコト

▲上野―熊谷 一時間二〇分(六十一軒一分)、三等九七錢。
 ▲熊谷―長瀨(秩父鐵道三峯口行電車) 五十分(三十一軒一分)七五錢。
 ▲秩父迄一圓五錢、三峯口迄一圓三五錢。
 ▲池袋―寄居 一時間三十分(東武鐵道東上線急行電車、三等)
 ▲寄居―熊谷 一時間四分(秩父鐵道會社電車) (一、二軒一分) 賃三〇錢。
 ▲長瀨驛カラ長瀨(約二〇米、寶登山神社) 半軒。
 ▲長瀨(長瀨) 長瀨驛ノ東カラ上長瀨驛ノ東ニ至ル荒川ノ峽流、延長約一軒ニ及ブ指
 ▲熊谷(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
 ▲上野(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
 ▲寄居(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗
 ▲池袋(寶登山) 長瀨驛カラ西ヘ約六〇〇米程(自動車通ズ、驛カラ山頂往復五人乗



奥秩父登山案内図



奥秩父

奥秩父なる呼稱は一般に用ひられて居る處であり、埼玉縣の北西の山地を稱するものやうであるが、その範圍は必ずしも明瞭ではない。實際一口に秩父の山と呼ばれてゐる中には、信州の山も含まれて居るのである。また此の奥秩父は、人口稠密な關東平野と甲府盆地に接して居るにも不拘、人烟極めて稀で、深遠な山地をなしてゐる。

本山地の最高峰は國師岳(二、五九一・八米)直南の奥千丈岳であつて、標高二、六一〇米に達する。そして此の高峯を中心にして西及び西北には朝日岳(二、五八一・一米)、金峯山(二、五九五米)、小川山(二、四一八・三米)等が聳え、その北東には甲武信岳(二、四七〇米)、三寶山(二、四八三・三米)等の高峯があり、其他秩父を包圍する多數の山嶺は縦横に分岐し或は高く或は低く起伏して八〇餘方軒の大山塊をなしてゐる。

秩父町 秩父盆地の中心で秩父絹織物の集散地として知られ、荒川はその西方を走つて居る。延喜式に載る秩父神社があり、古來大宮郷と呼ばれたが明治二二年大宮町と改められ、大正一五年再び秩父町と改稱された。毎週二回水、土曜日市が開かれ、非常に賑はう。人口二〇、三三七(昭和七・一〇調)、町には有名な秩父セメントの工場がある。

秩父神社 (國幣小社) 秩父驛の北約半軒、境内廣く老杉の森のうちにあり、思兼命、知知天彦命を祀る。例祭一二月三日、祭は古から關東第一と稱され、また當社の秩父神樂は有名なもので春季祭(四月二三日)、秋季祭(九月二三日)などに催される。

三峯神社 (縣社) 秩父線の終點三峯口驛(熊谷から電車で一時間三六分、賃一圓三五錢)から三峯山麓の大瀧村大輪まで約五軒、此間荒川の溪谷に沿つて、大血川の合流點附近の金藏落や、大達原隧道、不動ヶ淵の美溪等を貫つて自動車で行く、乗合往復五五錢。此處から登龍橋と呼ぶ丹塗の橋を渡つて山道約四軒で三峯神社に達する(上り二時間、下り一時間位、婦女子にも樂に登る事が出来る)。神社は伊弉諾伊弉册の二尊を祀り、往古日本武尊御東征の祠此處に假營を造營し二尊を奉祭してから今日に至れるものであると云ふ。社殿莊嚴、客殿は設備宏壯にて優に千人を宿泊せしむる事が出来る。一

泊(二圓半、食膳はすべて精進料理、食事に先立つて箸をつけた給仕が御神酒をすすめる。尙奥深く二軒餘、妙法岳(海拔一、三三二米)の山頂に奥宮がある。登り一時間位。

武甲山 秩父盆地の東南に聳え、海拔一、三三六米、全山石灰岩から成りて山容雄偉、山頂からは遠く富士、淺間、日光の諸山を望み、眺望頗る雄大である。登山には秩父驛から宇根を経て山頂迄五軒、徒歩二時間半。(長滞から秩父まで電車二〇分)。

橋立鐘乳洞 武甲山麓にあり秩父線浦山口驛から徒歩一〇分にて行く。洞は橋立觀音堂の奥ノ院と稱し、寺の後方、橋立川の清流を脚下にして白堊の石灰岩の巨大な絶壁下に開口して居る。入口から梯子を下れば一大室があり、それより下方に向へば牛馬ヶ岩屋と云ふのがある。大室から長い梯子で上れば第二房に入り、それから斜に登つて出口に達する。洞中には鐘乳石、石筍、石柱などがあり、白髯明神・惠比壽・大黒天・辨天の岩谷・無明窟・上り龍下り龍・千手觀音・十六善神・天の逆鱗・三世諸佛等々の奇觀がある。入洞料一〇錢

中津峽 三峯口驛から自動車で大輪を経て、落合に至り(バス三〇分片道五〇錢)夫から約一時間半、鞆平村漆屋に一泊(一圓半位)。翌日鞆平から約一時間半にて中津峽の關門、鹽澤に出で、尙一時間で中双里(中津峽谷、落合から一二軒)に至り(山中旅館一泊、一圓三〇錢位)、更に二時間にして(道路悪し)奥秩父最深の部落、中津川に一泊(幸島敬三宅一泊、一圓三〇錢位)して奥秩父の峽谷美の深さ、原生林の紅葉、兩岸にそり立つ岩壁の高さ、其下の岩を噴む水の清冽さ、そこに色々の名勝(霞岩、瑠璃ヶ淵、大滑小滑、小滑の瀧)を探勝するはまた興深き旅程である。入夫一日一圓半、案内人一日二圓。

三峯(妙法、白岩、雲取山)縦走 奥多摩溪への日程案

澄み渡つた空の下に渾然と立つ雄大な奥秩父の山々には白雲搖曳し、大洞の谷は益々深く山頂より谷底へと美しさの限りを盡す幽遠境である。針葉樹の原始林の中をゆく此の秩父縦走コースは麗はしくもまた冴ゆるのである。

第一日 上野驛發(汽車一時間半)熊谷(電車一時間半)三峯口驛(約五分、バス二)大輪(四軒餘、上り二時間)三峯神社。

第二日 三峯神社發(約二時間)妙法岳(標高一三三二軒あり)妙法岳から約三〇分下つて元の妙法口に戻り、その三峯神社から地蔵峠迄四軒半。地藏峠(地藏岳は三米。おきよ平及び黒岩頭即ち前白岩山を経て白岩小屋迄三軒半、一時間半。尚おきよ平へは三峯口驛からバスで一〇分の大連原から大日向太陽寺を経てゆく道)白岩小屋(約八軒)武州雲取小屋宿泊

雲取小屋は雲取山の西の鞍部にあり、水は小屋の直前の窪地にある。丸太造り六坪の小屋で、其隣りに九坪と十一坪の小屋が増建されて居る。秩父鐵道會社經路の營で、夜具毛布等はないが小使用料は無料である。また登山期には米及味噌汁は町の時價で登山者に供給して居る。收容人員は三つで六〇人。

第三日 雲取小屋發(約一軒餘)雲取頂上(山上は標高二、〇一七ツ石小屋迄約四軒、下り約二時間)七ツ石小屋(約九軒、二時間半)小河内温泉(約八軒、下り)鴨澤(約八軒、下り)鴨澤は青梅街道に當り、此處から鹽山を経て甲府へ出る事が出来る。又前以て類んで置けば此處までハイヤーを呼ぶ事が出来る。氷川から三人乗六圓。鴨澤の旅館は奥多摩館一軒、一泊一圓半以上。

第四日 鶴ノ温泉發(約一軒、徒歩下り二時間半)氷川(一二軒三〇分、乗合五〇)御岳驛(青梅電車四八分)立川(省線電車四〇分)新宿驛着。

外房めぐり遊覽日程案

注意 北條、館山、洲崎、布良附近一帯は要塞地帯につき寫眞其他撮影には當局の許可を要する。

Table with columns: 日程, 地, 名, 發着時刻, 記事, 備. It details the itinerary for the 'Outer Province' tour, including stops like Anri, Kōriyama, and Sagami.

外房めぐり(日程案)

雲取山から甲武信岳への所要時間

雲取山(約四軒)將監峠(約一軒餘)鷹峠(約五軒)雁坂峠(約八軒)破不小屋(約六軒)甲武信岳小屋。三峯口驛(自動車三〇分)落合(約七軒)栃本(約六軒)十文字小屋(約六軒)甲武信岳小屋。

兩神山 兩神山は海拔一、七二三米、秩父山塊の主脈を離れ、秩父盆地を前にして獨立する山峯で、他の連峰の如き深林や幽谷には恵まれて居らぬが、その形鋸齒さながらの石灰岩の奇峰に富み、且つ山頂からの眺望は濶く、また岩から岩へと瘦尾根傳ひは興味津津々として盡きず、近時一泊コースの適地として登山者が激増してゐる。其登山路は秩父線三峯口驛からするとものと中津峽谷の中双里からするのがある。

三峯口驛(小森經由約二二軒)日向大谷(日向大谷には兩神山から兩神山の絶頂剣峯まで約八軒)兩神山頂(約二時間)日向大谷(四時間半)三峯口驛。三峯口驛(バス三〇分)落合(約一軒)中双里(約二軒)白石山頂(約三六米)奥秩父連峯中でも、從來「迷ひ山」と稱されて居た程登山に困難であつた山であるが、本年六月秩父鐵道會社が秩父營林署の後援の下に左のコースによる登山路を切開き、登山が容易に出来る様になつた。

三峯神社々務所(大洞林道をゆくこと)大洞川と市の澤出合(白石山一、五五五米)の肩、白石山頂(約八軒)合計徒歩六時間、約一三軒。白石山頂から將監峠へ約三時間位。

備 (イ)兩國驛—安房北條間三時間二八分(一二軒七)三等普通賃一圓八七錢。(ロ)※東京灣汽船館山遊覽船(毎年七月・八月中運航ノ豫定)賃金一圓半。北條及館山附近ノ遊覽地:鏡ヶ浦、鷹ノ島、沖ノ島、館山城址、豊津公園等、(六七頁参照)「参考」

北條カラ更ニ安房ノ南海岸ノ眺望雄大ナ洲ノ崎ノ古社洲崎神社ニ詣テ、三原山ノ噴煙ヲ望ミ乍ラ平沙浦ヲ過キ、布良崎、白濱、乙濱、白間津、平磯等ノ海岸ヲ經テ千倉ニ出テ千倉鐵泉ニ一浴シテ歸ルモ亦實ニ興味ノアル旅行デアル。北條—西岬(洲崎)八軒、省營バス二三分、二四錢(一日六七回)西岬カラ洲ノ崎迄西約六軒。北條—富崎(一軒、省バス三五分、三三錢、(一日六回)北條—白濱(富崎經由)一九軒、省バス一時間、五七錢、(一日六回)北條—白濱(豊房線)一四軒、省バス四二分、四二錢(一日七回)白濱—千倉驛(一三軒、省バス三五分、三九錢(一日七回)安房北條—安房鴨川間 汽車五六分(三三軒五)兩國驛マデ三等二圓三一錢。鴨川ノ旅館 吉田屋(三圓)、相模屋(三圓)、六八頁参照。

安房鴨川驛	發前	八・〇四	勝浦廻り兩 國行列車
安房天津驛	發前	八・二二	下 乗合自動車
清澄山	發前		遊 乗合自動車
安房天津驛	發前	一〇・二四	勝浦方面 列車
安房小湊驛	着前	一〇・一九	乗合自動車 誕生寺へ
安房小湊驛	發後	二・三二	勝浦廻り 兩國橋行列車
兩國驛	着後	五・五三	歸宅

旅行費用概算	(イ)	三二	二六・九九
	(ロ)	三二	二六・二八
		等	九四

MEMO

○遊覽券—鐵道賃三等三圓五〇錢、二等七圓、自動車賃、天津一〇圓九角、小湊—復九角、宿泊券三圓、計二等六圓、三等五圓ヲ計上ス

○清澄山往復、小湊—誕生寺往復九角、宿泊券三圓、計二等六圓、三等五圓ヲ計上ス

○東京灣汽船一圓半、北條—鴨川—兩國驛汽車賃三等二圓三四錢、二等四圓六八錢及宿泊券三圓、自動車一圓一〇錢、畫食料其他トシテ概算二等六圓三錢、二等五圓ヲ計上ス

料其他概算二等六圓三錢、二等五圓ヲ計上ス

房總

千葉縣は安房・上總・下總の三國から成るを以て通常房總と稱せられて居る地は帝都の東北に當り南北に長く外洋に突出して所謂房總半島を成す處で、東南二方は大平洋に臨み西の一部は東京灣に面し他は江戸川を隔て、大東京市及埼玉縣に接し、北は大利根の本流によつて茨城縣と界して居る。東西凡そ九六軒、南北約一・二八軒、面積五、〇七八・八一平方軒を有し、二市一三郡、三四〇餘ヶ町村に分れ總人口一、四七〇、〇九九(昭和五年一〇月國調)を有して居る。地はまた三面環海の半島國たるのみならず其陸地に接續するの部分も江戸・利根の二大川縣界を劃して包流するので恰かも一つの島國の状態をなして居る。此の南部即ち安房及び上總半島は一般に丘陵勝で、第三紀の砂岩・頁岩等からなる所謂房總丘陵をなし多くの斷層地形を形成して居る。此の丘陵は北に緩斜して上に洪積層の砂、粘土を載せ廣く縣下を蔽ひ、諸川及び湖沼の沿岸並びに海岸地方は沖積平原がよく發達して地味肥え關東著名の米作地となつて居る。

房總地方はまた氣候溫和にて避暑及び避寒地としても東京市を控へて優良の地歩を占めて居る。即ち東京に比して夏涼しく、冬暖かな事は、房總の氣候の一般的特色である。

試みに房總半島の南端に近く良好な氣候の代表地とも云ふべき布良に於ては一年間の較差東京の二・二五度に對し一八・六度である、また嚴寒一月の平均氣温六・六度(東京は三・〇度)と東京の三月の平均氣温とが殆んど同一である。云ふ事は、此の附近一帯が如何に避寒に適するかを雄辯に物語るのである。されば布良や白濱附近に於て正月既に茶種の花を見るのも敢て異とするに足らぬのである。加ふるに夏季の東京に匹敵する高温度も、前述の如く島國の状態をなして居る處から海風陸風の齟らみ涼味と清澄な空氣の與へる快感とは到底兩者を同日に談ずる事が出来ぬ。

尙房總三國は關東地方の東南部に一の獨立地區を作し、人文史上比較的古くから展けたところで、千古の遺蹟を傳ふる舊蹟も多く、また清明の風光は到處天然の名勝をなし、日歸りから一泊等幾多の面白い遊覽コースが都人士に満足と與へ、殊に近年交通運輸の便日増しに發達して遊覽を安易ならしめて居る。

外房めぐり(千葉・木更津・青堀)

千葉市

總武本線兩國驛から汽車約五〇分(三六軒六)三等片道五八錢、市は東京灣の東南隅に臨み、中世千葉氏の盛大であつた當時居城を營んだ地で、戰國時代まで千葉氏歴代の城下町として發達し來つた所であつたが、徳川時代には頗る振はず、明治六年縣治の中心となり、次いで醫科大學、鐵道第一聯隊、氣球隊、歩兵學校等が設けられるに及んで市勢榮榮を加へ、いま人口五一、二三四(八年十月)を有して居る。舊城址猪鼻臺は大部分は醫科大學及師範學校の敷地になり、一部公園となつて居り、園内は老松、梅樹に富み、袖ヶ浦の風光を一時の裡に收め眺望開瞭である。(市内バス八錢)

旅館

加納屋(吾妻町、驛一軒、電三二)、室二八、牧野屋(市場町、電六七)、長崎屋(電三二)、羽田屋(長州町、電二七〇)、万葉(市場町、電五四)以上一泊二圓乃至四圓。

名所

▲千葉神社 驛の南半軒、▲千葉寺(眞義眞言宗)驛の東南約三軒、西方東京灣に臨める要津として發達した處で、徳川時代には股賑を極めたが今は落莫の感がある。しかし町は小横川を後背地としその經濟中心として稍活況を呈し、海苔の採取、蓮根、米の取引に於て知られ、また地方教育の中心となつて居り、八幡神社附近から船着場にかけては料亭など尙往時を物語るものがある。

木更津町

(千葉縣君津町)兩國から汽車一時間五〇分(七二軒一)西方東京灣に臨める要津として發達した處で、徳川時代には股賑を極めたが今は落莫の感がある。しかし町は小横川を後背地としその經濟中心として稍活況を呈し、海苔の採取、蓮根、米の取引に於て知られ、また地方教育の中心となつて居り、八幡神社附近から船着場にかけては料亭など尙往時を物語るものがある。

青堀鎮泉

千葉縣君津郡青堀町。房總線青堀驛から約一軒、驛前から旅館専用の自動車無料である。兩國驛・青堀間汽車二時間二〇分(八二軒八)、三等片道一圓二角。地は東京灣を抱く富津岬の北側にあり、三浦半島の觀音崎と相對して展望がよく、附近の人見妙見山は東京灣及富士展望臺とも云ふべき眺めを持ち、頂

外房めぐり(鹿野山・鋸山)

上には郷社人見神社がある。

鑛泉は湧出量多く、大ブールなどが造られ、天然ガスを利用して加熱して居る。泉質は靜養園はアルカリ性鹽類泉で沃度及プロムを含み皮膚病・婦人病胃腸病・打身等に効があり、喜樂園はラジウム泉で神經病・皮膚病・婦人病・リウマチス・胃腸病等に効がある。また海岸へは約四〇〇米許りで、夏は海水浴や沙千狩に適し、避暑・遊樂にもよい。〔特色〕行樂向。

鹿野山

▲房總線佐貫町駅から鹿野山頂迄一〇軒半、自動車三〇分、貸切(六人乗)往復四圓、片道二圓、乗合片道五〇錢往復一圓(前八時から後四時頃迄各下り列車毎に發)

▲房總線木更津駅から秋元村市宿迄一九軒、自動車で五〇分、乗合四六錢、(一日七回)貸切一臺四圓、夫から山頂迄急坂二軒七、徒歩一時間半。

▲久留里線久留里駅から山麓(秋元村市宿)迄一〇軒、乗合三五錢(一日四回)七から徒歩約二軒七。

▲木更津線久留里線間汽車約三時間(二軒六片道三六錢三等車のみ)。鹿野山は佐貫町の東方に聳える海拔三五二米の山で、山上には神野寺、白鳥神社があり、房總の諸山中最も眺望に富み、富士の眺めがよい。南方には(神野寺から徒歩一〇分位、白鳥神社の近く)九十九谷の奇景が瞰下せられる。

神野寺は山頂勝景の地にあり(眞言宗智山派)創建時代は詳でないが、客殿の前にある四脚門は永正年間の建築で、國寶に指定されて居る。本堂は五間五面重層入母屋造銅瓦本葺、朱塗の大堂宇で、江戸中期の建築にかゝり、木尊は約四米(一丈二尺)の薬師佛と軍荼利明王を安置し、仁王門は大正一二年の再建である。

之は凝灰岩の比較的軟かい部分に強い南風が砂を吹きつけて削磨されたもので、所謂風蝕洞窟である。洞中に羅漢の石象を安置してあるので羅漢窟と云つて居る。

保田(千葉縣安房郡保田町)名山鋸山を背景として左には浮島の青螺を望み、伊豆の大島が繪の様に眺められ、驛附近は夏海水浴に賑はひ、また保養地として北條を凌がんとして居る。

〔旅館〕松音樓(電二、室數二〇、一圓八〇、二圓二〇、三圓、五圓)、保榮館(電二九、室一七、一圓八〇、二圓二〇、三圓)、保田館(電一五、室五〇同上)、山海樓(電七八、室三三、同上)、川崎屋(電四〇、室五、一圓半)二圓半。鋸山には旅館なし。但し夏期中は山腹及山頂に茶店が出る。

高崎鑛泉

千葉縣安房郡岩井町。房總線岩井駅から約一軒二、自動車五分、乗合五錢、一時間毎、貸切七人乗五〇錢。

此處は南無谷・豐岡などと共に枇杷の産地として知られた所で、旅館は縣道に面して建てられ、階上からは東京灣・大山・箱根・富士等の展望がよく、夏期は海水浴に賑はふ。温泉は無色透明のアルカリ性鹽類泉で浴用加熱し、神經病・婦人病・リウマチス等に効がある。〔特色〕行樂向。

〔旅館〕湯木館(電岩井八、室一二、一泊一圓二〇錢、二圓、三圓、五圓)雷館(電一一、室八、同上)、米屋(電三九、室一五、同上)、品川屋(室六、一泊一圓三〇錢、四疊半夏季中八〇圓)。

〔附近名所〕▲富山 海拔三四〇米、温泉場から約三軒あり、頂上は二つに分れて眺望がよく、天宮命の遺跡と傳へられ、八大傳で有名な所である。

那古寺

(眞言宗) 房總線那古形驛の東約半軒、那古町にあり自動車一〇錢。寺是那古山の中腹に位し、鏡ヶ浦を望む景勝の地を占めて居る。

船形觀音

同上驛の西一軒、船形町の西端船形山の中腹絶壁に存する岩窟に架けられた舞臺作り朱塗の觀音堂で、鏡ヶ浦一帯から大島の眺望に富み殊に月夜的美景は實によい。寺は船形山普門院大福寺と稱し、眞義眞言宗に屬してゐる。驛からバス一〇錢貸切五〇錢、三〇分毎、それから徒歩一〇〇米(那古船形町の旅館)相川(電船形三二、驛二二〇米、室一四、②二圓半)

外房めぐり(保田・那古・北條)

山上に旅館大塚屋(室一五、一圓半)二圓半、丸七(室八、一泊二圓)がある。

新舞子海水浴場

佐貫町驛の西約一軒、自動車乗合一〇錢、六人乗貸切三〇錢。海岸新舞子濱は青松白砂長く連り、播磨の舞子濱に似通ふ景色があり、夏季海水浴の適地である。

〔旅館〕菊泉(電佐貫四〇、驛から二軒一、室數一九、一泊二圓五〇錢乃至六圓)、二見(電二三、驛一軒一、室一五、一泊二圓、二圓半、三圓)、二見樓(電二〇、驛一軒、室一九、ラジウム鑛泉、同上)

鋸山

▲房總線保田駅から鋸山麓まで一軒九、自動車乗合一〇錢、貸切五〇錢。山麓から山頂迄約二軒、日本寺迄は一軒餘上り四〇分、下り三〇分位を要す此の登山口は表道で登山容易。

▲房總線保田間二時間四七分(一〇八軒三)、三等片道一圓六三錢。

▲同上保田の一驛手前、濱金谷驛から登る所謂裏道もある、驛から約一時間を要す、峻坂。

▲房總線金谷間二時間四〇分(一〇四軒八)、三等片道一圓五八錢。

鋸山は海拔三二四米、浦賀水道の東岸に近く聳え、東京灣の門戸を扼し、山骨露出腰部から上は岐れて數峯となり其名の示す如く鋸の齒の様である。山の半腹南側には乾坤山日本寺があり、聖武天皇の勅願所で、行基菩薩創建と傳へ今其境内を公園とし風致頗る奇、又元享元年の古鐘がある。山の西端を明金岬と云ひ、巉岩海中に斗出して眺望によく、十州一覽臺の名がある。山の北側からは房州石と稱する凝灰岩の石材を切出す所がある。もとは可なり榮えて居たが今は栃木縣産の大谷石に押され、その全盛時代は過ぎ去つた有様である。その石材を切出した跡は極めて壯觀である。又日本寺から更に登った所に大小數多の岩窟がある。

館山北條町

千葉縣安房郡。

▲房總線安房北條驛間汽車約三時間四〇分(一二六軒七、一圓八七錢。毎年七、八月中に限り豐津島から保田及館山北條間に東京灣汽船の夏期臨時遊覽船が出る(菊丸、橘丸)。賃金館山迄片道一圓五〇錢、往復二圓五〇錢、保田迄片道一圓二〇錢、往復一圓。

北條町は西方鏡ヶ浦に臨み、背後に平野を帯び安房西岸第一の町で、昭和八年四月一八日その西南約四軒に連る舊稻葉氏一萬石の城下町である館山と合併して町名を館山北條町と改稱した。人口一八、四四六。

▲館山北條町の聚落は規則正しく海岸に並行して南北に連る四條の砂丘上に發達して居り、その第二列目は商業、第三列目は政治及商業の中心地として賑はつて居り、西南は汐入川を挟んで舊館山町に連つて居る。館山は商工業及港町として榮え、昭和五年海軍航空隊開隊せられて益々繁榮を示してゐる。

〔旅館〕木村屋(電館山二〇番、三七八番、驛から半軒、室一八、②三圓、普通一泊二圓二〇錢、三圓一五圓)、幸田館(電同五八、室一五、一泊同上)、紋屋(電同三〇九、驛から五〇米、室一四、②二圓半)、小松屋(電同七八、室一七)、鏡ヶ浦(電同二〇九、室一七)以上二圓二〇錢、三圓、四圓半、清風樓(電五七、室一〇、二圓、二圓半、四圓)、(以上團體一圓半以上)。

▲宿泊は夏期に限り一泊三食付一圓、其他の期間は二食付一圓、喫茶部・食堂・賣店等あり、入浴は夏期五錢、其他の期間は一〇錢。

▲海岸ホテル(電館山二四、驛から九四〇米、一圓八〇錢一四圓半)、松岡(電同五六、一軒八、一圓八〇錢一五圓)、新釜館(電一四八、驛から九六〇米、一圓八〇錢一四圓半)、田村屋(電三四一、三友館(電三三七)、旭屋(電三三五)以上一圓四圓半)。

〔附近名所〕▲海水浴場 海濱は驛から三百米許り、波靜かに清く海水浴の好適地である。▲鏡ヶ浦 右に大房岬、左に洲の崎が斗出し、鷹の島、沖の島が波間に浮んで風趣を添えてゐる。▲鷹の島 海岸から一軒餘、干潮時には徒歩で渡る事が出来る島であつたが埋立工事完工し、航空隊の敷地に編入されて一般人の遊覽が禁ぜられた。▲沖の島 更に沖合一軒三、面積八千餘坪、夏季遊覽モーターボートが出る。▲城山城址 里見氏の城蹟で、馬琴の八大傳を偲ぶ舊蹟である。

洲の崎

千葉縣安房郡西崎村洲崎。前記安房北條驛から西崎村字見物迄省營バスがゆく、所要二三分(八村)、賃二四錢、前七〇六から午後五・五〇まで六回發。それから約六村。地は房總半島の西端、即ち館山灣(鏡ヶ浦)の南に突出し海上凡そ三〇村を隔て、三浦三崎と相對してゐる。維新前此處に置かれた砲臺の跡及古社洲崎神社があり、眺望の雄大を以て聞えてゐる。縣社洲崎神社は御手洗山の中腹老杉の間にあり、天太玉命の妃、天比理比咩命を祀る。

安房神社

(官幣大社) 千葉縣安房郡神戶村大神宮。前記安房北條驛から白濱・千倉ゆき省營バスで三分(一〇村)、賃片道三〇錢、一日六回往復。

古來安房國一ノ宮として名高く、延喜式所載の名神大社で、安房開拓の神天太玉命を祀る。今の社殿は神明造りで、明治年間の建築である。例祭は八月一日で、毎年十一月二十六日から一〇日間に涉り神狩祭が行はれる。此祭事は祭神が悪獸を退治して國土を安らかにし給うた神恩を記念する爲に行はれる特殊神事で、古式を存するのて名高い。神社のある處は安房國の南端で、三面山を貫うて西の方面に沈んで居る。地勢概ね平坦で長汀曲浦數里に續き、洲崎と布良崎が左右に凸出して灣形をなし、灣内は水清く浪靜かに、平沙浦の名に呼ばれて居るが烈風の日は怒濤澎湃、飛砂面を撲つて眼を開くことも出来ぬ位で、又鬼ヶ浦とも云はれて居る。平沙浦からは豆相の諸峯、芙蓉の靈峯をも仰ぎ得一望廣漠、風景の美に富んでゐる。

南房州海岸

房州南海岸は直に太平洋の怒濤に洗はれて男性的風景美を現はして居る所が多く、布良・根本・白濱・乙濱等皆海水浴に適し、また七浦村白間津から千倉を中心として北は千蔵村日子までを俗に安房七浦と稱し、村民皆漁業に従事し、殊に秋刀魚漁に著はれて居る。安房北條及び千倉から省營バスがある。

〔旅館〕富崎館(布良)、丸屋(根本)、岩目館(室一六、一泊二圓半)、白濱館(室九、一泊同上)(以上安房郡白濱町)、岡田屋(乙濱)。

千倉鑛泉

千葉縣安房郡千倉町。兩國驛から房總線で約四時間(一三七村四)、三等片道二圓一錢。驛から温泉場迄約二村、省營バス九錢、賃切一圓五〇錢。

天津

外房屈指の良港で、漁船の出入に賑はひ、又附近の海水清く良海水浴場となつて居る。〔旅館〕蓬萊屋(電天津二九番、室數一五、③三圓、普通一泊一圓半、四圓)中屋(電同五一、室二三、③三圓、普通一泊同上)、神作樓(電同五八、室一二、同上)。

清澄山

安房天津驛から清澄寺まで約六村餘、山麓迄二村餘、夫から上り約四村中腹迄自動車通ず、乗合片道五〇錢、往復九〇錢(前七・四〇)後四・三〇まで一〇回)賃切片道三圓半往復六圓、自動車終點から清澄寺迄上り約一杆半、徒歩二〇分。徒歩なれば上り約二時間下り一時間半位。鴨川・清澄山・天津・誕生寺・小湊驛間賃切九圓半。兩國驛・勝浦・安房天津間汽車三時間二六分(一二四村七、三等片道一圓八四錢)。

清澄山は海拔三八三米、上總、安房を界する連峯中に屹立し、老杉古松鬱然と茂る美しい山である。自動車終點から山上の町を約半杆許り上れば寺域三萬四千數百坪と云ふ「清澄寺」の境内に入る。寺は千光山金剛寶院と號し眞義眞言宗に屬し約千二百年前不思議法師の開創になる房總二國の總鎮護寺で本尊は日本三虚空藏の一を安置されて居る天福年中の住持善良阿闍梨の時、沙彌日蓮一二歳にして入山し、境内旭森はその修業地として名高く、日蓮三二歳、法華成道の日、太平洋上に昇つた旭日に對して「南無妙法蓮華經」と立宗宣傳の第一聲を高唱した所と傳へられ、今

外房めぐり(清澄山・小湊・誕生寺)

千倉は鎌倉時代朝夷三郎義秀の食邑であつた所で、町名も近々迄磯町と云つてゐた。地は秋刀魚の産地として名高い漁港で、西北方に翠微を控へ、太平洋に面して長汀白砂に青松連り風光明媚である。夏期は好き海水浴場となり附近には朝夷天神、下立松原神社、怒戸の鼻御等の史跡地がある。鑛泉は食鹽性鹽類泉で暗褐色不透明、浴用加熱し、神經諸病、常習便秘、皮膚病、胃腸病等に效があると云ふ。〔特色〕行樂並に療養向。〔名物〕秋刀魚千倉木綿。

〔旅館〕鈴木屋(電千倉二八番、室一五、一泊一圓半、二圓、二圓半、三圓、五圓、料理兼業)、千倉温泉(電千倉九番、室一七、一泊同上)、川尻(電二一、室一四、同上)。

仁右衛門島

房總線大海驛から約半杆の所から渡船で(往復船賃案内料共二〇錢)約百米の海中にある小島で、一に波太島とも云ふ。島は周圍約一杆二東西半杆南北二〇〇米許りあり全島砂岩から成り、治承四年(約七五〇年前)源頼朝石橋山上に敗れて安房に逃れたとき、島主仁右衛門が匿まつたと傳へ、島内には種々の遺蹟がある、附近また波靜かで舟遊に好適の所である島に平野氏の居宅があり周圍の漁業の特權を有してゐる。

鴨川町

千葉縣安房郡。兩國驛から汽車勝浦經由三時間三五分(一三〇村二)、三等一圓九二錢。木更津經由四時間二〇分(一六〇村二)、三等二圓三二錢。保田町から自動車一時間半(三一杆二)、乗合一圓二〇錢(前六・二)後六・四〇まで七回、賃切八圓。

鴨川町は人口七、〇八一(昭和五・二〇)鵜外房第一の繁華地である。海上には辨天島、荒島、海鹿島、屏風島、鶉島、雀島等其他の小島が盆石の様に散在して風致を添へ、驛の北約一杆六(俵三五錢、自動車賃切八〇錢、乗合一〇錢、凡一時間毎に發車)の小松原には日蓮上人の法難に名高い(文永元年十一月一日の夕方、地頭東條景信が日蓮上人を要撃した爲、天津の城主工藤吉隆と鏡忍坊とが刀難に繋れた所)鏡忍寺がある。

清澄山の旅館

清澄館(室數七、一泊二圓一三圓)。清澄山から龜山村を経て久留里驛に出る道があり、沿道風景絶佳である。清澄山・龜山村折木澤間約一四杆、徒歩約四時間、龜山・久留里驛間一五杆五、自動車一時間、乗合七〇錢(一日七回、賃切三圓五〇錢)。

小湊町

千葉縣安房郡。兩國驛から勝浦經由汽車三時間二〇分(一二一杆三)、三等一圓八〇錢。北條經由四時間四〇分(二六九杆二)、三等一圓四一錢。小湊町は人口三、二八八(昭和五・一〇調)の一小漁港であるが日蓮上人誕生の地として有名である。日蓮は今から七百年前一漁夫の子(父を貫名重忠、母を龜菊と云ふ)として生れ、此の地に育つたのである。

誕生寺

(日蓮宗)安房小湊驛の東南約二村、自動車乗合一〇錢(毎列車)賃切五〇錢。寺は小湊町内浦灣及妙の浦に臨める小湊山の麓勝景の地にあり、元祿年間興津の城主佐久間兵庫守重貞が建立したものと云ひ、七堂伽藍具はり、寺内には日蓮一代の遺物が多く藏されて居る。寶物は毎年八月一日庫裏に陳列して一般に供覽して居る。三月一五・六・七の千部會誕生會には大いに賑はふ。

成田詣て

妙の浦 鯛の浦とも云ひ内浦灣の外、蓮華淵にある。誕生寺山門前から乗合舟で海上八百米。此處は東に大辨天島、小辨天島を見、西に伊貝島を望む。水深二五米の所で日蓮上人の殺生禁斷の遺旨が守られ、又大正一年三月天然記念物に指定され今尚依然として殺生禁斷の場所なので近海の鯛が皆此處に集つて居る。舷を叩き餌を投げれば海中から踊り上る數百の巨鯛は實に天下の奇觀である。往復三〇分位。

網ノ浦遊覧船(三〇人乗六艘あり)乗合一人二五錢(一日一回)五〇人以上の團體には一名一五錢位に割引す。貸切五人迄二圓、以上一人増毎に四〇錢増 ▲水族館 小湊から一軒、自動車乗合五錢(一日一回)、それから徒歩約二〇〇米。此處は農林省水産講習所小湊實驗所で、近海の珍魚を多數集めて一般に參觀せしめて居る。入場料一〇錢(前六時―後五時)

おせんころがし 誕生寺の東五軒餘、上總興津驛の西約三軒(自動車貸切一圓半)の大澤に至れば一〇〇米の斷崖は海に面して屹立し、中腹僅か

成田詣て日程案 (東京から日歸り)

Table with columns: 地名, 發着時刻, 記事, 備考. It details the itinerary from Tokyo to Narita, including train routes like 上野野驛, 成田野驛, and 成田不動, and provides specific departure times and transfer information.

Table with columns: 宗(イ)(ロ)(ハ), 吾靈堂, 成野野驛, 上野野驛, 成田野驛, 兩國野驛, 京成成田驛, 日暮里驛. It lists various stations and associated travel details such as departure times and transfer points.

Table titled '旅行費用概算' (Travel Expense Summary) showing costs for different travel classes: 一等 (66.70), 二等 (66.70), 三等 (34.40), and 内譯 (33.87).

香取・鹿島めぐり日程案 (遊覽券利用) (東京から二日)

Table titled '香取・鹿島めぐり日程案' (Itinerary for Misaki and Kamisaki). It includes columns for 日 (Day), 第 (Order), 地名 (Location), 發着時刻 (Departure Time), 記事 (Notes), and 備考 (Remarks). It details a two-day tour starting from Tokyo, visiting Misaki and Kamisaki, and returning to Tokyo.

香取・香島めぐり(日程案)

第 2 日	
潮 來	發前八時半頃 水郷汽船又ハ自動車
大船津	發前 自動車
鹿島神宮	着前 自動車
玉造町驛	着後 乗換
石岡驛	着後 乗換
上野驛	着後 歸宅

▲潮來—大船津間モーター船テ約五〇分、一六錢、約五湮(佐原カラ四〇錢)
陸路ニテ延方村經由鹿島神宮前迄約九杵、自動車二五分、乗合片道三五錢、(前六時カラ後六時四〇分迄一六回定期發)、貸切五人乗二圓、(往復三圓)。
▲大船津—鹿島神宮間 二杵、自動車乗合片道一五錢(頻繁ニ發) 貸切五人乗一圓。
▲鹿島神宮參拜(七六頁參照)。
▲鹿島神宮前—玉造町驛(鹿島參宮鐵道)間約三二杵、自動車一時間三五分、乗合九〇錢(列車ニ接續シテ運轉)。
▲玉造町驛—石岡間 鹿島參宮鐵道テ三七分(一五杵八)五〇錢(三等ノミ)。
▲石岡—上野間 一時間五七分(八二杵二)、三等一圓二九錢。

旅行費用概算

三二 等 等 一〇三・五八八

内譯

○遊覽券(右日程案ニ要スル乗物賃全部ノ二等六圓六八錢、三等四圓五八錢ト潮來泊料、③三圓、④食料其
他費用トシテ概算二等四圓、三等三圓ヲ計上ス

銚子・香取・鹿島廻り日程案

(遊覽券利用) (東京から三日)

1 第	日程	地名	發着時刻	記事	備考
兩國驛	發前 八・五〇	佐原 銚子 行 列車			▲兩國—成東—銚子間 二時間五九分(一一七杵二)、三等片道一圓七五錢。(佐原廻リハ二二四杵テアル) 電報三〇分乃至四〇分毎ニ發車
銚子驛	着前 二・四九	下車、遊覽			スル、賃片道一六錢往復二五錢。自動車二〇分、貸切片道一圓、往復二圓。乗合片道二〇錢往復二五錢(二〇分毎)。 ▲銚子・犬吠岬遊覽(七七、七八頁參照)。

第 2 日	
銚子	發前 九・三四 成田線經由兩國行 列車
笹川驛	發前 一〇・三四 下 乗合自動車
佐原	着前 一・四五 參 拜
香取神宮	發前 同時 モーター船
佐原	發後 四・三〇 宿 泊
潮來	着後 五・四〇

▲銚子—笹川—佐原間 汽車三時間一分(三八杵六)三等六一錢。「註」佐原ノ一驛手前ノ香取驛カラ香取神宮迄一杵三ノ步道ガアル。尙香取驛カラ六〇〇米ノ津ノ宮島居河岸ニハ水中ニ高サ約一・一米ノ大鳥居ガアリ、此處カラモ定期ノモーター船テ潮來、鹿島方面ニ行クコトガ出來ル。
▲佐原—潮來間遊覽船ニテ約一時間(賃三〇錢)(七一頁參照)。
▲潮來ノ旅館...潮來ホテル、福彌、あやめ館(七六頁參照)。
▲潮來—鹿島間 鹿島參宮鐵道ノバスニテ二五分、三五錢。
▲官幣大社鹿島神宮參拜(七六頁參照)。
▲鹿島—大船津間バス一五錢。
▲大船津—土浦間 水郷遊覽汽船會社急行便ニテ三時間半(二四杵)並等九五錢。
▲土浦霞ヶ浦汽船發着所カラ土浦驛へ三〇〇米。
▲土浦—上野間一時間三六分(六六杵)、三等一圓三錢。

旅行費用概算

三二 等 等 一四九・九九

内譯

○遊覽券(前記日程案ニ要スル乗物賃全部ニテ二等七圓九九錢、三等四圓九〇錢ト銚子潮來ノ泊料、③六圓、④食料其
他費用トシテ概算二等六圓、三等四圓ヲ計上ス

スギキヤウ

水郷と九十九里濱

成田から北へ進み、瀧谷の隆起した丘陵を過ぎると利根川の沿岸平野に出る。此の附近はその地形が漁獵と狩獵との兩様の生活に便利であつた處から、石器時代に於て既に大聚落地として發達した處で、郡縣附近に福田・推塚の兩貝塚があり、現に多量の土器・石器・骨角器・其の他の遺物を出してゐる。

【水郷】 水郷は利根川の河中に生じた砂洲の地で、其最も著しきものは南は利根の本流、西は横利根川、東北は北利根川、東は外浪逆浦(北浦の水が南端に於て北利根川と會するところ、方三十町許りの水面で、海潮の満つる時波が逆のぼる意味から名づけられたものと云ふ)にかこまれた新島の加藤洲であつて、周圍二五軒に及び中に與田浦沼を包んで居る。加藤洲はもと増水時には屢々浸水したが今は堤防及堰が設けられてその害を蒙らぬ様になつた。

佐原から汽船によるものは利根川の舊河道を通る。即ち横利根川を經、霞ヶ浦の東南隅を過ぎ、夕陽の美である牛堀を経て北利根川に入る。その間常に高き堤防と、その上に生ふる柳・ポプラの類を見るに過ぎないが、發動機船によるものは水郷の中央を横ぎり、その特異の風景を觀賞する事が出来る。先づ利根川を横ぎり、狭い開門を落つて水位の高い洲の中に入り、與田浦沼を通過する。此の間西北遙かに筑波の峯を望み、堀堀に入る稻田と畑地を左右に見晴し、堀堀に跨る高い橋の下を漕ぎ、磯山の部落を過ぎれば加藤洲十二橋の地に入り、船は發動機の運轉を中止して狭い堀堀を横によつて徐行する。兩岸は稍高く、その水際には眞菰・あやめ等が生育する。堀堀の近くには聚落があり、人家のある所必ず橋あり、その數一二を算へた處から「十二橋」の名があるが今は一橋を算へる。かくして開門に達して洲の外に出ると北利根川の汪洋たる流れに入り、對岸に潮來町の人家を見る。

十六島の名のあるのは十六の島といふ意味ではなく、舊河道の沿岸にある一六の聚落を云つたものである。またシマの原語は柵間で、湖沼の周圍の植出し、原野、山麓の切添、川荒の跡地を開拓した聚落を島と呼ぶのである。

【霞ヶ浦と北浦】 水郷の背景をなすものは霞ヶ浦と北浦とである。霞ヶ浦は關東地方の東部、茨城縣の南部にあるわが國第四の大湖で、周圍一五〇・四二軒、面積一七七・五方軒に達し、淡水湖としては第二位にある。海抜

吒迦(セイタカ)の二童子を始め二六童子、八大童子の銅像を安置し、境内には新勝寺の經營に係る圖書館・中學校・高等女學校・感化院・幼稚園があり、又、風致に富む公園もある。

宗吾靈堂 成田縣の西南約五軒三、印旛郡公津村靈方にある。自動車で二〇分、乗合一四錢、貸切一圓、電車の便もあり、驛から二五分、片道一四錢、不動前から二〇分、片道一九錢、何れも凡一五分毎に發、電車停留所から宗吾堂へ約百米、宗吾舊宅へ一軒三。別に京成電車の便もあるが稍離れて居る。義民木内宗吾とその妻子を祀る堂は五間五面入母屋造、銅板葺、大正一年の再建に係り、境内廣く參詣人が常に絶えない。木内宗吾は俗に佐倉宗吾と稱せられ、寛永承應の頃佐倉領主堀田正信は異政を恣にして領民の困窮一方ならざりしを公津村の名主木内宗吾が一身一族を犠牲にして時の將軍(徳川四代家綱公)に直訴し領主の覺醒を促し漸く領内十萬の生靈を救ふ事を得たのであつた。然し宗吾は領主の怨に觸れ承應二年八月二日今の靈廟の地、公津ヶ原に於て父子五人磔殺の刑に處せられた。宗吾は後に贈られた諡號で靈堂は其後義民宗吾の靈を祀つたもので、當時の刑場の遺址である。又、宗吾の義烈に感じた渡守甚兵衛が瀕命を犯して彼を渡したと云ふ甚兵衛渡しは堂の北二軒餘、電車停留所から三軒半(三二町)の所にある。

〔成田町の旅館〕 蓬萊閣ホテル(電成田一六五、不動尊前、室三五、收二五〇人、③三圓、普通一泊二圓乃至三圓半)、梅屋(電同三、驛から七百米、室三〇、收一一〇人)、大野屋(電同七、七百米、室二八、收一五〇人、③三圓)、若松本店(電同二、八百米、室二八、收一二〇)、佐野屋(電同六九、八百米、室二二、收九〇)、扇屋(電同二二、八百米、室二二、收六五)、竹田屋(電同二〇七、三百米、收四〇)(以上一泊二圓)。

三里塚牧場 千葉縣印旛郡遠山村三里塚(約一時間毎) 成田驛前から約八軒、自動車二五分、五人乗貸切一圓半、乗合片道二五錢。▲成田三里塚間成田鐵道で二一分(九軒)、賃二〇錢。三里塚驛を中心とする約四千町歩の地で、宮内省下總牧場として東洋第一の稱あるものである。

は僅かに二米、水深は最も深い所で七・六米ある、其處は三又の沖で高濱入、土浦入、古渡入の水の集中する所に當り、昔から沈鐘の傳説があり、天氣の悪い時には水底から鐘の音が聞えたと土地の人々が信じてゐる。湖の成因は臺地面の陥落して出來た所謂陥落湖で、今では湖底に新しい土砂が沈澱し、湖畔に沿つても田圃などが多く出來てゐる。湖中には鯉・鱒等が多く、淡水魚の自然の養殖地となり、附近水田への灌漑用水として又水路として汽船・帆船の往來に重要な役割を演じ、特に土浦町に近い阿見村には海軍の航空隊が設けられ、水上飛行の練習場にあつて居る。

北浦は茨城縣の東南部、霞ヶ浦の東、即ち牛島の如く突出してゐる行方郡を境として霞ヶ浦に隣りしてゐる細長い湖で、周圍七八・八五軒、面積四二・二方軒、深さ〇・五米、最深所で僅かに三・五米である。成因は霞ヶ浦と同じく陥没湖である。

霞ヶ浦・北浦の沿岸町村は五郡七町四三ヶ村の多きに達し、是等沿岸町村の住民の生活要素をなすものはその漁業である。即ち公魚の年額一八萬貫、白魚の同七萬貫、鱧の同四萬貫、鯉の同四萬貫、鰻の同六萬貫等でその産額合計七〇萬圓に達してゐる。

成田不動尊

千葉縣印旛郡成田町。省線成田驛から約八〇米、電車・バス(十分毎)共に五錢。千葉市から成田自動車で五〇錢、一回四、二〇哩。

成田不動尊は成田町の北部にあり眞言宗智山派に屬し、成田山神護新勝寺と號す。本尊不動明王は弘仁元年嵯峨天皇の勅願により玉體安穩國家鎮護の本尊として弘法大師一刀三體親ら彫刻開眼せられしものと傳へられ、護摩壇を設け毎日定時に五回護摩法を修める。日々參詣人絶えず正、五、九の三ヶ月及節分會の豆撒きには殊に多く、講中は殆ど全國に廣がり、毎年參詣者の總數百數十萬に達すると云ふ。本堂は安政年間の再建で、五間五面入母屋造、銅板葺で四扉の二十四孝、欄間の五百羅漢及鳥獸の彫刻等を彫装して結構を極めて居る。本堂の背後には神龜池(コウガシ)と稱す。

尙同牧場地内には、凡そ一〇軒の地域に亘り、一定の列を爲して埋蔵が掘出され其數約十萬本を數へ、殊に姫櫻は天下無比の名木であると云ふ。佐原は四月中旬頃、櫻の季節、新緑の候、秋の茸狩等、近郊ピクニックの好適地である。

佐原町

千葉縣香取郡。▲兩國驛から汽車二時間一〇分(九二軒)、三等片道一圓四一錢。▲上野驛から我孫子經由汽車二時間三五分(九三軒三)、三等一圓四四錢。成田から京成連絡自動車商會バスにて五〇錢。

佐原は利根川の河口として古くから知られたところである。今日は昔日の面影はないが、利根川沿ひの商業都市として、河口銚子市と共に中流に於ける中心河港として商業が活發であり、また釀酒業が盛んで北總第一の繁華地をなして居る。人口一七、五〇〇(昭九・一〇)、街は利根の大河に枕み、南に諏訪山公園の森を負ひ、街を貫いて小野川が流れ、それに支那風の石欄橋が架けられ水郷に一層の情趣を添へて居る。

佐原は香取一郡はもとより對岸の鹿島・行方・稻敷の所謂茨城三郡を含んだ八町二九ヶ村の交通は此處を中心として結ばれて居るので、水の町であると共に陸上の街道もみなここに集り、ここから發して居る。即ち新成田街道、舊成田街道、香取參宮街道、銚子街道等が放射してゐる。附近には景勝の地が多く、香取・鹿島に詣でる人や水郷探勝客などで賑はひまた本邦地理學の泰斗伊能忠敬翁の出身地として知られて居る。

〔佐原町の旅館〕 (電話は佐原局、距離は佐原驛から、收は收容人員數を示す) 金田(電六八、驛前、室三〇、收一五〇人)、木内(電五八、半軒餘、室四四、收二〇〇人、③三圓)、木内別館(電二六五、四四〇米、室五、收四〇人)、石橋(電三九、驛前、室一四、③三圓)、(以上普通一泊一圓八〇錢、四圓半)、深澤(電四一、八八〇米、室一八、收六五人)、平井(電四六、四五〇米、室二二、收七〇)、川岸屋(電七〇、室一〇)、其他木下、浮島、一力、等。

〔名所〕 ▲佐原公園 驛の南三百米の丘上にある。園内には日本最初の實測地圖を作つた伊能忠敬翁の銅像がある。▲津の宮 香取神宮の北一軒六、水邊

に三丈五尺の大鳥居がある。乗合自動車香取經由三五錢。▲神土山津の宮の西北半軒餘、古來大蛇が棲んで居ると云はれた丘でそれに長さ一・二米、周囲一四〇米、高さ七米に及ぶ主墳と十數個の陪墳とがある。

【伊能忠敬翁】翁の舊宅は驛の東南六百米、佐原町本橋元にある伊能三郎右衛門氏の家がそれである。忠敬は上總の人、養家伊能家を中興して五十餘歳に及びて江戸に出て高橋東園につき星曆の學を修め、寛政一二年幕命を受け、前後一八ヶ年間北海道、本州、九州を普く踏査實測して全國の地圖を完成した人である。其當時使用した量程車、象眼儀、方位盤等の測量器具を始め、其製圖に係る大小の測圖及日記叢書等約六百點が當時の儘の書齋に保存されて居る。

香取神宮 (官幣大社) 千葉縣香取郡香取町香取。

▲前記佐原驛から香取神宮まで三軒七、自動車にて一三分、乗合片道一五錢 (各列車に接續する外三〇分乃至四五分毎に出る)、貸切五人乗片道八〇錢。▲香取驛から香取神宮へ徒歩一軒餘、香取驛は津の宮にあり、此處から水郷行のモーター船に乗る事も出来る。

▲大神樂二二圓、小神樂一〇圓。寶物拜觀無料。

祭神は神代に於ける國土經營の神、經津主命を祀る。神武天皇御即位の一八年に神宮造營の事があつたと傳へられ現在の社殿は元祿一三年徳川綱吉の造營獻納した典型的なこけらぶき権現造である。社境は青山東南西南の三面を圍む五峯の山の中央、龜山の丘の一萬五千坪の地に鎮座され、天を磨する千年の神杉と神神とが駢立して居る。社背に「櫻の馬場」があり流鏑馬式を行ふ苑地で數百株の梅と櫻の中に香雲閣と云ふ宏壯な建物がある。其丘端の茶亭、寒香亭の屋上展望臺からは香取浦や白帆行く大利根のうねり、霞ヶ浦、筑波の双峯等が眺められる。例祭は四月一四日の軍神祭、五月五日の御田植祭 (早乙女、樂人などが行列を整へて齋田に至り田植をする神事) があり、又二月の節分祭、十一月三〇

日の大饗祭には何萬となき賽者が集る。

潮来町 茨城縣行方郡。

▲前記佐原町から水路約五軒、モーター船で約一時間、乗合三〇錢、貸切二圓。▲常磐線土浦から水路一九軒、水郷汽船急行便で二時間半、賃八五錢。

▲常磐線高濱驛から陸路自動車で一時間四七分、四〇軒二、乗合一圓二〇錢 (一日一六回)。

▲大船津 (鹿島) から水路約六軒、モーター船で五〇分、賃一六錢。

▲鹿島宮鐵道玉造町驛から二四軒三、自動車六五分、乗合八〇錢 (二〇人乗定期各列車に接續運轉)。

潮来は水郷の中心地で、昔から鹿島、息栖、香取の所謂三社詣での船客の足溜りとして榮え、水郷の地方を彩るあやめ踊の本場として知られた處で、今も尙多少其面影を止めて居る。四周水陸相連り、風光廣く展けて特異の情趣があり、殊に背後の稻荷山は水郷一帯を見下して風景がよい

【旅館】あやめ館 (電二七、室三五、③三圓)、福彌 (電潮来四三番、室數二〇、③三圓)、潮来ホテル (電同九、室一二、③三圓)、角菱旅館 (電一八番、室數一八、普通一泊料一圓半乃至五圓)。

▲前記佐原から水路約一〇軒、モーター船で一時間五〇分、賃四〇錢。

▲潮来から水路大船津まで約五軒、モーター船四〇分、一六錢。それから坂路約二軒、自動車乗合片道一五錢、往復二五錢 (頭繁に發車)、五人乗貸切片道七〇錢、往復一圓。陸路延方經由約九軒、自動車二五分、乗合片道三五錢、往復六〇錢 (五人乗前六・〇〇、後六・四〇、迄一日一六回)、五人乗貸切二圓、往復三圓。

▲常磐線高濱驛から四八軒三、自動車二時間餘、乗合一圓三〇錢 (一日六回)。

▲鹿島一銚田間約三〇軒、自動車一時間、乗合七五錢 (一〇回) 五人乗貸切五圓。

▲松岸線小見川驛から利根川を挟んで五軒の對岸にあり、渡船にて二〇分、賃一〇錢、前六時から二時間毎に出るが多数の場合は臨時船が出る。

▲神代は利根川の左岸にあり、鹿島神宮の攝社で、香取・鹿島兩神の東方經略の時、先導の役を承つた久那斗の神を祀つた神社である。

▲兩國驛から總武本線で約三時間 (一七軒二)、三等片道一圓七五錢。

▲同上成田線經由で約三時間二〇分 (一三〇軒六)、三等片道一圓九二錢。

▲土浦・佐原方面に東京通運汽船會社の船便がある、佐原まで六〇錢、四時間、土浦まで一圓四七錢、九時間半。

▲銚子は利根河口の南岸に位し、太平洋上に突出して三面環海の小半島をなす帝國極東の岬角の地を占め、河口と漁港を兼ねて居る。銚子は昭和八年二月一日紀元の佳節を卜して本銚子・銚子町・西銚子町豊浦村を併せて大銚子市となつた。人口四三、五四六 (昭七・一〇)、港は港口に岩礁多く、大船の出入碇泊に不便であるが、東海岸の要港として榮え、年額三〇〇萬圓の漁業産額があり、又、一ヶ年二五萬石、約五五〇萬圓を出す醬油の産地としても有名であり、鯉節製造などの工業も盛である。(ヤマサ又はヒゲタへ豫め見學の日時、人員等を申込み親切に案内して呉れる)

▲銚子は古には安是港と呼ばれて居たところ、徳川時代には奥州と江戸との中継ぎ港、東海第一の海港であり、漁港であつた。即ち奥州の諸藩から江戸へ送る廻米は必ず此の港に廻船し、銚子から江戸川を溯り、また松前・仙臺南部の海産物等も此處を中継港とされて居たのであつた。

【名所】▲飯沼觀音 (銚子觀音) 驛の東一軒六、自動車乗合五錢、頭繁に發車) 賃切五〇錢。銚子第一の伽藍で阪東二七番の札所になつて居る。木尊十一面觀音は聖武天皇の神龜元年に海中から出現したものと云ひ、地方の人々の參詣する者が多い。▲銚子川口 驛の東四軒一、自動車一五分、乗合一〇錢、賃切八〇錢。淺間丘の小丘があり銚子の市街と川口の眺望に第一の所。

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲銚子市

▲鹿島町の旅館) がんげ(室八)、吉見屋(室四)、小堀(室五)、吉野屋。

▲息栖神社 (縣社) 茨城縣鹿島郡息栖村。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲銚田から鹿島宮鐵道で常磐線石岡驛へ五〇分、賃六八錢、二六軒九。

▲銚田から大洗迄二二軒七、自動車五〇分、乗合四五錢、九回、賃切四圓。

▲銚子からモーターボートで利根川對岸の波崎に行き(五分、賃五錢) 夫から鹿島迄乗合自動車がある、所要約七〇分、三〇軒、料金一圓二〇錢。

(相互發前六時から凡一時間半毎)、貸切五人乗六圓半。

▲常磐線土浦から水郷汽船急行便で三時間一〇分(二四軒) 賃九五錢 (一日五回)。

▲神樂奉奏料五圓、八圓、一〇圓、三〇圓。

▲鹿島神宮は香取の祭神と共に我國武神の始祖である武甕槌の神を祀る。社の創立は神武天皇即位の元年と傳へられ香取神宮と同時代なるべく、香取は「下總國の一ノ宮」で鹿島は「常陸國の一ノ宮」として東國の名祠である。現在

の社殿は樓門は寛永一四年水戸黃門の奉納せるもの、本殿幣殿、拜殿は元和五年徳川秀忠の再建、奥殿は慶長一〇年徳川家康が關ヶ原戰捷記念に建てたもので、何れも特別保護建造物に指定されて居る。

社域四〇町歩、國有林四〇町歩合せて八〇町歩の大森林が神宮を繞り、美しい林相は神さびた宮居の神嚴を示して居る。本宮から東に四百米許り行くと奥宮、其處から坂を二百米ばかり下ると「御手洗池」がある。池は七間に八間の池で水中に鳥居と柵とが建ち、清冽玉の様な水が湧いて居る。水深は乳位の深さであるが餘りの清さの爲對岸の方が頗る淺く見え、御手洗の水は大人でも乳きり小人でも乳きりと云はれ鹿島七不思議の一つに數へられて居る。引返して奥宮背後の道を百米程行けば十字路の奥に「要石」と稱するものがある地上に露出して居る部分は徑二一(七寸)、中央に窪みがある、此の地下に鉦が居て昔時關東地方に地震が頻々とあつたので、鹿島の諸神が談合の上、石棒で大魚の頭部を串したものであると云ふ面白い傳説があり、周圍に木柵がめぐらされて居る。

▲鹿島町の旅館) がんげ(室八)、吉見屋(室四)、小堀(室五)、吉野屋。

▲息栖神社 (縣社) 茨城縣鹿島郡息栖村。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

▲鹿島神宮から南約一二軒、神宮前から自動車の便がある。

水郷と九十九里濱 (銚子・九十九里濱)

銚子磯巡り 利根河口、黒生、海鹿島、君ヶ濱、犬吠岬、西明濱、外若、犬若等銚子の海岸は勝地が多く、その風光を巡遊するを銚子磯巡りと云ふ。全行程約一六軒。銚子磯から四月から十月迄遊覧バスが出る。賃クーポン五〇銭。

▲無線電信局 驛の東四軒の夫婦ヶ鼻臺上に在り、明治四一年五月一五日開業本邦最初のラヂオ局で、アンテナの高さ約七〇米、七キロワット、五百サークル交流、通信距離晝間五百哩、夜間二千四百哩に及ぶ。▲君ヶ濱、海鹿島(アシカジマ) 銚子磯道海鹿島驛から約半軒、銚子磯から四軒八、自動車貸切一圓、乗合往復二五銭(一日一七回)。松嶺と白砂の渚に瀟々の聲が優しく響く絶好の海水浴場である。▲犬吠岬燈臺 銚子磯から六軒一、自動車二〇分、乗合片道二〇銭往復二五銭(一日一七回)貸切一圓。犬吠岬から徒歩約一〇分、君ヶ濱から林を抜けて、徒歩三〇分位。岬端五〇米の丘上にあり、明治五年英人グリーン氏に依つて起工され、同七年一月一五日から點火され、一五秒毎に九〇萬燭光に擴大された光力は暗夜の海上三七軒に及び、霧の夜は三〇秒毎に五秒宛の警笛の響が附近一八軒の海上に及ぶと云ふ。毎日午前十時及午後二時の二回參觀が出来ぬ。▲銚子磯道の終端外川驛から左へ行けば豊岩、弘法水のある長崎の鼻があり、又右へ一軒半の所には奇蹟犬岩が犬若の鼻先に浮び、附近は絶好の海水浴場となつて居る。愛宕丘は犬若から徒歩二〇分、銚子磯廻りの好展望臺である。銚子磯から犬若・屏風浦迄六軒半、貸切一圓、乗合往復二五銭(一日一七回)。

〔旅館〕 大新(銚子市ロノ一、二、驛から半軒、電銚子三四・二四九、室三三、三三圓、普通一泊三圓、四圓、五圓)、仙松閣(銚子市海鹿島、電一六、室八、三三圓、川安(銚子市ロノ七七、四三〇米、電二二・四五三、室二二、二圓、三圓、四圓、三圓)、銚子館(五〇米、電六七、室二七、二圓、三圓、四圓)、高安(半軒、電四七、室一五、一圓半、二圓、三圓)、吉野屋(一軒餘、電一七四、一圓半、三圓)。

〔犬吠方面の旅館〕 曉鷄館(海上郡高神村、犬吠驛から半軒、電銚子三六、室四四、三三圓、普通一泊二圓半、三圓、四圓、團體二圓)、犬吠館(同六〇〇米、電同三七七、室二三)、御風館(同八〇〇米、室九)、以上普通一泊二圓、三圓。

水戸と大洗遊覽日程案 (東京から二日)

日 程	地 名	發着時刻	記 事	備 考
第 1 日	上野驛	發前 九・〇五	青森行列車	▲上野―水戸間二時間三九分(一一七軒五)、三等一圓七五銭。 水戸市内乗合自動車一區五銭(全六區)、自動車一時間三圓。 水戸遊覽順路 驛―第一公園(借樂園)―藤田東湖墓―商品陳列所―第二公園(城跡)―驛。
	水戸驛	着前 二・四四	下車、遊覽	▲水戸―大洗一四軒六、水濱電車及定期自動車ノ便ガアル。
	水戸	發後	水濱電車又ハ大水戸自動車	▲水濱電車―前六時頃カラ後一時迄過約二〇分毎ニ運轉、水戸驛前カラ大洗迄四分、賃三九銭。
	大洗	着後	遊覽、宿泊	▲本橋自動車―前七時カラ後七時マデニ二往復、片道乗合四〇銭、貸切五人乗三圓大洗(八三頁参照)。大洗ホテル(三三圓)。
第 2 日	大洗	發前	自動車	▲大洗カラ湊迄自動車一〇銭、平磯迄二〇銭。
	那珂湊	發前	自動車	▲湊カラ平磯迄湊鐵道テ五分、七銭、阿字ヶ浦迄同一二分、一六銭。
	阿字ヶ浦	着後	湊鐵道勝田行	▲酒列磯前神社・阿字ヶ浦(八三頁参照)。
	阿字ヶ浦	發後	乗換	▲阿字ヶ浦―勝田間 湊鐵道テ三三分(一四軒三)、三等三八銭
	勝田	發後	上野行列車	▲勝田―上野間二時間五五分(一二三軒三)、三等一圓八三銭。
	水戸驛	着後	歸宅	
	上野驛	着後	歸宅	

旅行費用概算

三等 一六・四五

内譯 ○遊覽券―乗物賃二等七圓四五銭、三等四圓一四銭ト旅館券一泊三圓。○食事料其他費用トシテ概算二等六圓、三等四圓ヲ計上ス

水戸と大洗遊覽(日程案)

九十九里濱

千葉縣の東海岸で、犬吠岬の西に連る屏風浦の西端、即ち飯岡町の東に隣る行部岬から、長者町東南の突角大東岬まで凡そ五四軒に亘る砂濱で、九十九里とは六町一里の計算で云ひならされた處と云ふ。濱は約四〇軒の圓弧に當る弓状をなし、中央部には美事な砂丘が發達してその幅員八軒にも及ぶ處があるが海岸は何等の出入・島嶼・岬角がなく、海は遠淺となつて居る。海水は親潮と黒潮の相うつ處で、魚族の食餌としてのプラクトンが多量に浮游してゐるので鱈・鯨・秋刀魚・鱈・鰯等の魚が多く蟻集する處から、此地の聚落民はその地形を利用して昔から地曳網が行はれ、九十九里の大漁は廣く世に知られた處である。南方一の宮の海岸は夏季海水浴に賑はふ。

一の宮

千葉縣長生郡一の宮町。
兩國縣から二時間一〇分(七九軒九、三等一圓二五銭。
一の宮は加納氏一萬三千石の舊城下で、上總國の一の宮である玉前神社のある處から此の町名が起つたもので、街は一の門前聚落として發達したものである。

玉前神社

一の宮町にあり同上驛から西南約四〇〇米にある。祭神は玉依姫命を祀り、延喜式記載の名神大社で、古來上總國一の宮として名高く九月一三日に行はれる例祭には神輿鉤ヶ岬へ渡御あり、古式に依る特殊神事などが行はれ大いに賑はふ。今の社殿は江戸中期に建築された樓現造りである。
一の宮海水浴場 上總一の宮縣の東北二軒、一宮川を舟で下つて行く人が多し。料金九銭。此の附近は別荘地として知られて居る。

大東岬

房總線太東驛の東南約四軒、九十九里濱の南につくる所で、此の附近は特種海濱植物群落をなして居るので知られ、天然紀念物として保護されて居る。

成東鑛泉

千葉縣山武郡成東町。
總武本線成東驛から西南約七七〇米、自動車一〇銭。
兩國縣から成東驛まで約二時間(七三軒六)、三等一圓一六銭。

水戸及其の附近

水戸市

上野から常磐線急行列車で二時間一三分 三等一圓七五錢。市は茨城縣の中部に位し、北に那珂川を控へ、南に千波湖を湛へてゐる。街は臺地尖端の形勝を利用して構へられ、城郭を中心として發達した城市で臺地上にある部分を上市、千波湖の東方低地を占むる部分を下市と稱して居る。關東平野の東北に於ける最も主要な中心都をなし、また茨城縣治の中心をなして居るので商業盛んであるが最近の發達は案外遅々たるものがある。市中最も賑ふは上市の南町・泉町である。

今人口五〇、六四八(昭和六・一〇調)を有し、名物には梅に因んだものが多い。

此地は室町時代に江戸氏が據つた處で、のち佐竹氏を経て江戸時代に徳川頼房が封ぜられ、徳川御三家の一、水戸中納言三六萬石の所謂副將軍として子孫相繼ぎ明治維新に及んだ。

〔主なる旅館〕 芝田屋本店(南町四七六番地、驛から一軒、電車泉町廣小路前、電水戸三三・八一〇、室二九、一泊二圓、三圓、四圓、五圓)、芝田屋支店(柵町三二、水戸驛前、電同四四・一二二五、室二四、二圓一四圓)、鈴木屋(柵町二五、驛前、電同二四、室一四、一泊二圓、三圓、四圓、五圓)、太平館(驛前、電同八四五、室四二、一泊二圓、三圓、四圓、五圓)、等。

〔遊覽順路〕 驛—第一公園(借樂園)—藤田東湖墓—弘道館公園—第二公園(城址)—徒歩にて水戸驛歸着。以上貸切自動車にて二時間位、料金二圓、電車、バス利用三時間半位。

〔交通機關〕 ▲電車 水戸驛前—濱田間 凡七分毎に運轉し、市内五區に分れ、一區四錢の制。▲乗合自動車 兵營前—水戸驛前—細谷間 約一〇分毎に運轉し、市内六區に分れ一區五錢宛。▲貸切自動車 半日一五圓。

〔名所〕 ▲水戸城址 驛の北約半軒、上市の東部をなす丘陵で要害をなし東西一軒半、南北五〇〇米、自然の谿谷を利用した空濠によつて三部に別れて居る。東部は本丸、中央は二の丸、西部は三の丸で現在水戸中學校、師範學校、圖書館及武徳殿等の所在地である。本丸は俗に佐竹城と呼ばれ江戸時代以前の築造である。二の丸は江戸時代に築かれ、城の主要部をなした所で、明治四年火災に罹り現在は南方崖際に天守閣を遺存し、三の丸には弘道館があり、舊大手門の建物が残つて居る。城はもと常陸大掾の城地で、其後江戸氏及佐竹氏の居城となり次いで徳川氏の有に歸し、慶長一四年徳川家康の第一子頼房を居らしめ徳川御三家の一として子孫相繼ぎ明治に至つた。▲弘道館公園 驛の北六〇〇米、舊城三の丸にあり、又第二公園と云ふ。園内には舊弘道館、鹿島神社、八卦堂、弘道館の碑、要石の碑、孔子廟等があり、又園内の梅樹數十株は昔ながらの清香を放つて居る。▲弘道館は縣廳の背面に當り、正面は舊水戸城の大手櫓に面して居る。水戸の藩學で、天保一二年徳川齊昭が其祖義公の遺志を繼いで、藩中の子弟に文學を講じ、武術の教練を施した所で、木館、文館、武館醫學館などあつたが、明治元年戊辰役に火災に罹り、正門、木館及本館に屬する至善堂、賄所を焼失して他を焼失した。庭内には弘子廟、鹿島神社、弘道館の碑、鑿鐘、種梅記碑などがあり、その間に多くの梅樹があつて風致を添へて居る。弘道館とその庭園は史蹟地として指定されて居る。

▲借樂園 驛の西北二軒七、電車公園口迄六錢、夫から徒歩半軒。自動車一臺五〇錢、乗合一〇錢。第一公園とも云ひ、日本三公園の一つに數へられて居る名園で、南に千波湖を瞰下し、園内梅林廣く花時大いに賑ふ。園内西南部勝景の地に結構甚古雅なる「好文亭」がある。天保年間常磐公園と共に藩主齊昭が創建し、文人墨客を集めて詩歌を吟詠し清遊を試みたり所で、其樓上を樂器樓と云ひ、近く櫻川と相對して千波湖を瞰下し、遙に加波や茨城の翠峯を仰ぎ、大空を眺むる可なり。▲常磐園 驛の南約半軒、電車一圓、室一、一泊同上、小林樓(電同二、室二七、一泊同上)、魚來庵(電同二、室二一、一泊同上)、小松樓(電同五、室一六、一泊同上)、いけす(電同二一五、室一九、一泊同上)等。

〔大洗の旅館〕 大洗ホテル(電同二八・三〇、室三八、一泊普通二圓一四圓、③三圓)、榎本樓(電同三五、室一六、一泊同上)、金波樓(電同二、室二七、一泊同上)、魚來庵(電同二、室二一、一泊同上)、小松樓(電同五、室一六、一泊同上)、いけす(電同二一五、室一九、一泊同上)等。

〔大洗磯前神社〕 茨城縣東茨城郡磯前町。前記水濱電車により大洗停留所下車。大洗海濱丘上の勝景の地にあり、文徳天皇の齊衡年間に創祀され大延喜式所載の名神大社で、國土經營の神である。大己貴命及少彥名命を祀る。江戸時代には水戸藩主累代の崇敬厚く、今の社殿は江戸時代末期の再建である。▲常陸明治記念館 磯前町大洗東光臺にあり、明治天皇及大正天皇の御東遊御宸筆其他調度品等を陳列して一般の觀覽に供して居る。

〔磯前の旅館〕 (茨城縣那珂郡) 惠比壽(電那珂河湊三七・三〇九、室三四、①一泊三圓、水港館(電四一、室一五)、高安樓(電二八、室一三)以上料理兼業、普通一泊二圓一四圓、松屋館(電二六四、一圓一圓)松屋(電一三二、一泊一圓二〇錢)泊二圓一四圓、松屋館(電二六四、一圓一圓)松屋(電一三二、一泊一圓二〇錢)。

〔酒列磯前神社〕 (國幣中社) 茨城縣那珂郡磯前町。前記磯前町から東北約六〇〇米。平磯町の北、磯崎の海濱勝景の地にあり、文徳天皇の齊衡年間に創建され祭神は大洗様と同神の大己貴命及少彥名命を祀る。今の社殿は江戸時代の再建である。水戸藩主の崇敬厚かつた神社で毎年舊三月七日に執行される競馬祭は、俗にやんさまちと稱し、徳川光圀が武藝奨励の爲始めたものと云ひ、村松から磯崎に至る海濱にて催され大いに賑はふ。例祭一〇月一五日。

〔平磯の旅館〕 平野屋(電平磯一七、室五四)、平磯館(電六、室四五)以上料理兼業、中元樓(電六三、室三四)、萬年屋(電三一、室二一・一七)、肴屋(電四、室一五)、米屋(電五二、室二二)以上普通一泊一圓半—三圓、晝五〇錢—一圓半。

〔阿字ヶ浦〕 淺鐵道の終端、阿字ヶ浦驛附近一帯の海濱、白砂青松の長汀は、古來常陸の磯廻りとして知られ、洋々たる太平洋を控へて常陸舞子の絶勝磯崎の奇觀、天女ヶ濱の白砂青松、鹽橋場、比觀亭の舊跡、淨明寺の菩提寺、出雲式及前方後圓式の古墳等幾多の名勝史蹟や、優美な景趣に接すること

「水戸を離れて東へ三里、浪の花咲く大洗」の磯節の本場として名高く、磯濱、湊、平磯等附近の磯濱廻りや海水浴場として絶好の行樂地である。地は前に洋々たる鹿島灘を控へ、海濱一帯青松白砂に相對して美しく、後には丘陵を負ふて「松が見えますほのぼのと」の實景を見せて居る。磯前神社の社頭から眺めた日の出の光景は此地の名物で天下の美觀である。

▲大洗電車 前六時頃から後二時過迄約二二分毎に運轉、水戸驛前から大洗迄四五分、賃片道三九錢。
▲大洗自動車 前七時から後七時まで二二往復、乗合四〇錢、貸切三圓。

▲常磐線水戸驛から一四軒六、電車及自動車の便がある。
▲大洗電車 前六時頃から後二時過迄約二二分毎に運轉、水戸驛前から大洗迄四五分、賃片道三九錢。

▲大洗自動車 前七時から後七時まで二二往復、乗合四〇錢、貸切三圓。

湘南地方

横濱市

東京から省線電車で二九分(二八分八)、三等四二分。市は帝都の南に位して東京灣に臨み、帝都の關門をなし關東平野の後地を控へ、東方海波を距て、遙か兩米の前地と對する我國第一の貿易市場である。安政六年の開港以來急激に發展して我國有数の都市となり、貿易額も共に増し實に本邦の貿易額の約半數は本港により行はれ、昭和七年中に於ける輸出額五億八十九萬圓(其主なるものは生絲の五億七千萬圓を筆頭に蟹籠詰・羽二重・縮緬・富士絹・精糖・小麦粉・ボンジー・厨絲・玩具・百合根・電燈球等)輸入額四億五千六百萬圓(砂糖・小麦・原油及重油・米及穀・大豆・石油・煙草・生ゴム・牛脂・牛皮等)に及ぶ盛況を呈して居る。港域は本牧の十二天鼻と鶴見川口とに限り、内に防波堤を築き、岸壁・棧橋・倉庫・船渠の設備よく整ひ、鐵道も東海道線横濱驛を始め京濱・湘南・東京横濱等の電車が有り、海陸共に交通の要衝に當つて居る。大正一二年の震災は全市を破壊し去つたが其後銳意復興に努め、昭和二年には隣接町村を合併して擴張を行つたので一三三平方軒八七一の大横濱市を實現し、今人口六八二、六〇〇(昭和七、一〇調)を有し、全國第六位の大都市である。(居留外人四、五五八人)。

市は安政六年六月二日(紀元二五一九年七月一日)通商條約(神奈川條約)により五市場と定められた當時には、戸數僅かに八〇戸の邊鄙な一漁村であつたが、兩來交易の殷盛に伴ひ内外人の來住するもの多く、遂に今日の盛況を見るに至つた。明治二二年四月初めて市制が施され、同三二年第一回擴張、同四年四月第二回擴張を行ひ、更に昭和二年三月擴張九ヶ町村(鶴見・程ヶ谷・城

【市内の主なる交通機關】▲市電七線均一である。▲乗合自動車横濱驛前から杉田、三ツ瀧、日野、弘明寺、本牧、保土ヶ谷(以上一〇錢)、梅ノ木厚木(七〇錢)及品川(東京、賃五〇錢)等の間に運轉されてゐる。▲貸切自動車市内一時間三圓、二時間五圓、半日一〇圓、一日一八圓。

【名所】▲野毛山公園 横濱驛から二軒、市電野毛坂下車一〇〇米。震災後富豪龜善と野澤屋の庭園を改築して公園としたもので、市街と港を一目に鳥瞰した爽快な展望と林泉幽邃の趣とを備へた所である。▲掃部山公園 同軒半、バス野見橋下車一〇〇米。幕末外交の衝に當り、横濱開港に努めた井伊直弼の銅像があり、櫻の名所となつてゐる。▲伊勢山大神宮 野毛町伊勢山の丘上にある神社で、全市の氏神である。▲伊勢佐木町 同上約三軒、バス伊勢佐木町下車。所謂濱の銀座で、野澤屋・相模屋・松屋・越前屋等の百貨店、喜樂座・オデオン座其他シネマ、劇場等があり所謂伊勢ブライに賑はつてゐる。▲弘明寺觀音 同上約一〇軒、弘明寺町の丘上にある市電弘明寺下車三〇〇米及湘南電車便がある。聖武帝の御宇、行基菩薩の開基と云はれる古刹で本尊十一面觀音立像は國寶となつて居る。▲根岸競馬場 同上約八軒、市電山本町停留所の南七、八百米の地にあり、競馬當日には櫻木町驛から直通バスが出る、一〇錢。日本レース俱樂部に屬してゐる。▲木牧海水浴場 同上約一〇軒、バス木牧又は小湊下車半軒。「名物」龜せせんべい、龜ノ子せんべい、海苔。

【娛樂場】▲劇場 横濱歌舞伎座。▲映畫 オデオン座、横濱常設館。▲朝日座・喜樂座・有樂館・レビユー及實演 敷島館・花月。▲ダンスホール 金港(羽衣町下車)、カルトン(尾上町、市電尾上町下車)、大平洋、フアーレス(以上山下町にありバス本牧行にて山下町下車)、メトロポリタン(常盤町、市電尾上町下車)。

杉田の梅林 横濱驛の南方約二軒三、横濱驛前から市内電車で杉田迄約四〇分、自動車三〇分、乗合片道一〇錢、貸切二圓半。湘南電車杉田驛から南へ三〇〇米餘、横濱杉田間一八分、二五錢。杉田は海に面し、觀音崎、實津の兩岬左右に突出し東に鹿野山を望む。妙法寺背後の丘上或は村外れの青砥山(市電終點から三〇米、青砥藤綱の墓及邸址がある)から望めば一村皆白雲世界。附近妙法寺(市電終點から二〇〇米)の境内には關東隨一の稱ある名木珠蔭梅、照水梅、翁梅、斜翁梅、曉雲梅等の名

糖・大綱・日下・旭・屏風浦・大岡川・西谷)を合併し五區制を施行し、工業も盛で(紡績・造船・電氣器具・製油等)重要建物(縣廳・横濱正金銀行・税關・生絲検査場・各國領事館・貿易協會・ホテルニューグランド等)も多い。

【旅館】 ホテル・ニューグランド (中區山下町一〇、バス山下町下車一〇〇米、電本局四六三六四六三九、六一四二、純洋式にて室數九八室代一入室四圓一七圓、同バス附八圓一三圓、二人室七圓一〇圓、同バス附一〇圓一八圓、食料朝一圓半、晝二圓、夕三圓)、バンド・ホテル(中區新山下町一ノ一、バス山下橋停留所際、電本局四八三二、四八三三、室數四四、室代三圓一五圓、バス付七七八圓、二人室五圓一六圓、バス付八圓一九圓、食料朝七〇錢、晝一圓、夕一圓三〇錢)、アラブ・ホテル(中區山手二、電本局三六一六、室一六、一人室食料付六圓一八圓、二人室同一〇圓一六圓、特別室同一二圓一三圓)、いとや(中區相生町四ノ六五、櫻木町驛から八〇〇米、市電尾上町、馬車道りから三〇〇米、電話長者町一四二七・三二七二、室數一八、普通一泊三圓半以上、③三圓半、大野屋支店(中區大田町六ノ八〇、櫻木町驛から四〇〇米、市電馬車道りから三〇〇米、電本局五七五八、室一五、③三圓) 松坂屋(中區海岸通五ノ二五、櫻木町驛から一軒、市電本町から二〇〇米、電本局二九一・三六九三、室二二、一泊三圓半以上、③三圓)、セクター・ホテル(山下町、電本局三二四六、洋室一〇、一人室バスなし二圓半、三圓、二人室同四圓半一六圓、食料朝八〇錢、晝一圓二〇錢、夕一圓六〇錢)、萬屋(中區住吉町四ノ四四、市電尾上町から二〇〇米、電長者町五〇七・一五二五、室二三、一泊二圓半、三圓、三圓半)、大勢屋(中區本町六ノ五〇市電本町から三〇〇米、電本局九五三二二八一三、室一九一泊三、四、五圓)、角屋(中區辨天通、市電本町から二〇〇米、電本局三六〇・二一九一、室二二、一泊三圓以上)。

【廻遊順路】 横濱驛―掃部山―野毛山―伊勢崎町―弘明寺―杉田梅林―金澤八景―本牧三溪園―八聖殿―山下公園―棧橋―横濱驛又は櫻木町驛。

木がある。見頃は二月中旬。寺背の丘を越えれば約六軒で金澤八景に出る。【ハイキングコース】 杉田驛―峯の條寺(圓海山護念寺)―水取澤―追分山海園―能見堂跡―金澤文庫驛。以上徒歩二時間餘。

【金澤八景】 ▲横濱から相南電車で二七分、片道三五錢、一八軒七。▲横濱市電終點杉田から約九軒七、自動車一五分、乗合片道二〇錢、貸切は横濱驛から四圓。▲湘南電車逗子驛から四圓、七分。

地は鎌倉時代に設けられた「金澤文庫」の史蹟地として名高く又、金澤八景、能見堂の勝地があつたが今は昔の面影はない。【金澤八景】 洲崎晴嵐、瀬戸秋月、小泉夜雨、乙艦歸帆、稱名晚鐘、平瀨落雁、内川暮雪、野島夕照が所謂それで、渡來の明僧心越禪師が能見堂附近の勝景を眺め、想を故國西湖の瀟湘八景に馳せて選定したものと云ふ。▲九覽亭……六浦莊街道と田浦横須賀街道の岐れ路から一寸坂を上つた右手の海岸、金龍院の地内にある。入場料三錢。海上の眺望よく金澤八景の一覽臺を爲してゐる。▲稱名寺……久良岐郡金澤町。九覽亭から約一軒半、逗子から來る乗合自動車終點金澤町字町屋で二又道を左へ數百米入る(右は横濱街道)海岸近く、後に丘陵を負ふた勝景の地にある。金澤山彌勒院と稱し文永六年(紀元一二六九年)北條氏の一族金澤實時の本願によりその子顯時が海上上人を開山とし、龜山天皇の時數願寺となつたもので、奈良西大寺の未寺である。今史蹟地に指定され彌勒菩薩像、十一面觀音立像、釋迦如來立像等の國寶を藏してゐる。▲金澤文庫……もと稱名寺にあつたもので同じく實時の創立である。其の當時は三字の文庫が並立し書籍や文化の最高保有所であつた。元弘三年北條氏滅亡後衰頹甚しく、藏書亦多く散佚した。現今の文庫は昭和五年八月北條氏邸址であつた稱名寺境内に縣が御大典事業として大橋新太郎の寄附等に依り立てたもので階上には稱名寺傳來の佛像・佛畫・什器を陳列、階下には佛書を初め和漢の珍籍を藏し一般に公開して居る。朝九時から四時又は八時から五時迄、入場料一〇錢。

【遊覽コース】 金澤文庫驛―稱名寺―金澤園―野島―枇杷島辨天―瀬戸明神―九覽亭―權現山遊園地―金澤八景驛。以上約三時間乃至五時間。【金澤町の旅館】……東屋(電金澤二四、金澤八景驛から一〇〇米)、千代木樓(觀雲旅館で辨天社附近にある、電同二〇、驛一〇〇米)、金澤園(電同六三、柴海岸にあり金澤文庫驛から七〇〇米)、一泊三圓一五圓、浮月(電同五八、柴室制にて一人一室二圓、二人一室三圓、同上驛から六〇〇米)。

鎌倉江の島遊覽

鎌倉江の島遊覽日程案 (遊覽券利用東京から日歸り)

注意 鎌倉から三浦半島にかけては要塞地帯に編入されて居るが、左に記載中の遊覽地は殆んど特に撮影、模寫、錄取禁止制限解除區域となつてゐる。然し一應注意するを要す。

地名	發着時刻	記	事	備	考
東京驛	發前 七・五三		横須賀行電車	東京—北鎌倉間電車四分(四八杆八分) 三等片道七七錢(鎌倉迄同八〇錢) 「註」東京—横須賀間ノ電車ハ東京發午前五時一二分カラ午後一時五二分迄、横須賀發午前五時五分カラ午後一時三〇分迄一五分乃至四五分毎ニ運轉ス。(八年九月現在)	
北鎌倉驛	着前 八・四三		下車遊覽	鎌倉・江ノ島遊覽：北鎌倉驛下車—圓覺寺—建長寺—鶴ヶ岡八幡宮—源頼朝墓—鎌倉宮—大塔宮御墓—鎌倉驛前(電車)—長谷—長谷觀音—大佛—權五郎祠—星月夜—長谷(電車)—極樂寺—稻村ヶ崎—七里ヶ濱—片瀬(徒歩)—龍口寺—江ノ島—江ノ島驛(電車)—藤澤(汽車)—歸宅(又ハ以上ノ反對)	
江ノ島驛	發 午後		藤澤行電車	参考 一、省線ト江ノ島電車連帶ノ便利ナ廻遊券ヲ東京ノ主要驛及横濱、櫻木町テ發賣シテ居ル。通用三日間、但シ割引ハナイ。	
藤澤驛	發後 五・五六		東京行列車	二、片瀬江ノ島驛カラ新宿驛マテ小田原急行電車ノ便ガアル。所要一時間二五分(六〇杆)、賃片道九六錢。凡一時間毎ニ發。	
東京驛	着後 六・三〇		歸宅	▲藤澤—東京間汽車一時間(五一杆)、三等八二錢。	

旅行費用概算

二等

六・一八

内譯

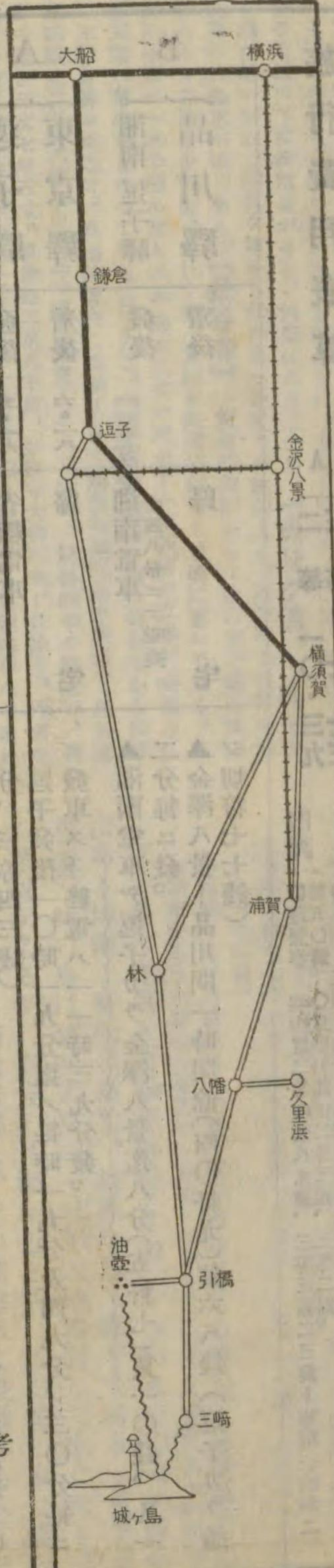
クーパー式遊覽券 二等三圓一八錢 三等一圓七二錢
中食料其他概算 " 三 圓 " 二 圓

鎌倉・江之島の交通機關

▲貸切自動車 一時間三圓の制、一日二五圓、町内五〇錢均一。名所廻り半廻三圓、全部廻り四圓。
▲名所遊覽乗合自動車(案内人附) 鎌倉驛—建長寺—八幡宮—頼朝ノ墓—鎌倉宮—日蓮社説法—鎌倉歸着、所要一時間、賃六〇錢。以上ノ外觀音、大佛、鎌倉驛又ハ長谷廻遊ハ一時間半、賃八〇錢。或ハ右ノ外大佛坂、鎌倉山、江ノ島口、大船驛又ハ鎌倉驛着二時間、賃一〇〇錢。▲江ノ島電車 鎌倉驛前—長谷—稻村ヶ崎—七里ヶ濱—江ノ島(片瀬)—龍沼—藤澤間(以上六區)凡一〇分毎ニ運轉、片瀬迄二八分、片瀬—藤澤間一〇分、賃金一區五錢全線三〇錢。

三浦半島めぐり日程案

(A案 東京から二日の旅程) 注意 三浦半島一帯は要塞地帯につき寫眞其他撮影には要塞司令部の許可を要する。



地名	發着時刻	記	事	備	考
東京驛	發後 一・三		横須賀行電車	▲東京—横須賀間電車一時間八分(六二杆四)、三等片道九九錢	
横須賀驛	着後 二・三〇		下車	▲横須賀—三崎(浦賀經由)二四杆。 横須賀—浦賀(八杆四)自動車四〇分、乗合二五錢(五分—二〇分毎)、貸切一圓半。 浦賀—八幡(二杆餘)自動車一〇分、乗合一〇錢、三〇分毎。 八幡—久里濱(約一杆)徒歩一〇分、バス一〇錢。	
品川驛	發前 八時頃		湘南電車	▲品川驛カラ京濱及湘南電車テ黄金町—金澤八景—横須賀—浦賀間一時間三五分(五五杆五)、賃金一圓三錢。 品川カラ浦賀行及横濱黄金町行交五二二分毎ニ發車スル。	
浦賀驛	着前		下乗自動車	品川カラ金澤八景迄一時間一二分、六八錢、横須賀中央迄一時間二五分、八八錢	
浦賀驛	發後		三崎行乗合自動車	品川—浦賀—久里濱—三崎—油壺—逗子—品川 廻遊券二圓二〇錢(但シ季節的ニ發賣) 「註」横濱驛カラ横濱乗合及横須賀自動車連絡バス料金三八錢、杉田乗換八分乃至一〇分毎。	

三浦半島めぐり(日程案)

三崎町	發後	(A案行程ハ) 三崎二宿泊
三崎町	發	自動車又ハ モーターボート
引橋	發	自動車

▲浦賀驛カラ久里濱へ東南四軒、(湘南電鐵會社ノバスニテ一〇錢)
浦賀驛カラ三崎迄一六軒(野比・下浦經由)バス六〇錢、約四五分、(三〇分毎)、
貸切四圓(久里濱記念碑前經由)
▲三崎ノ旅館 三崎館(遊覽券指定一泊二食付二圓二〇錢)
城ヶ島、油壺灣遊覽(九五頁参照)

A案第2日、B案第1日

葉山町	發	省線電車	宅
逗子町	着	歸	宅
東京驛	發後 五・二九	歸	宅
品川驛	發後 六・一八	歸	宅
品川驛	着後	歸	宅

▲引橋—秋谷—葉山—逗子間約二二軒、自動車五〇分、乗合八
〇錢(前六時頃カラ午後六時頃迄三〇分毎ニ發)
三崎町—引橋—逗子驛間二四軒、自動車一時間、乗合片道九〇錢(三〇分毎)、
貸切五人乗五圓五〇錢往復八圓
▲逗子—東京間電車一時間(五四軒九)三等八六錢(横濱迄三〇
分、三等四三錢)
▲逗子發後一〇時一九分迄ハ毎時一九分及四九分ノ三〇分毎ニ
發車ス。終電ハ一一時三九分發。
▲湘南電車テ逗子カラ金澤八景迄八分(五軒七)賃一〇錢、凡一
二分毎ニ發。
▲金澤八景—品川間一時間餘(四〇軒九)賃六八錢(逗子カラ通
シ切符七七錢)

旅行費用概算

B	A	B	A
三三	三三	一一	一〇
等	等	等	等
七	七	七	七
三	三	三	三
九	九	九	九

内譯 ○遊覽券 乗物賃 二等四圓八九錢、三等三圓二三錢ト旅館一泊料二
圓五〇錢 ○食料 其他二等三圓、三等二圓 ○但季節ニヨリ發賣ニ
付注意 ○食料 其他費用トシテ概算ニ圓ヲ計上ス

東北二軒、二階堂王山の麓にある。明治二年の創建で、大塔宮護良親王を祀
る官幣中社である。本殿の後の山麓にある石窟は、護良親王が建武元年一月
から翌二年七月迄居し給ふた所と傳へられ、本社東方二〇〇米、理知光山の
嶺の老松の下に御墳墓がある。例祭は八月二〇日。【由比ヶ濱】 鎌倉驛か
ら南西約一軒四、稻村ヶ崎から江の島へかけての眺望よく、海邊淺で波靜な湘
南第一の海水浴場である。【長谷寺】 電車停留所から二〇〇米。境内は山
腹にあつて長谷の市街、由比ヶ濱、葉山の海濱等が見え景趣に富んで居る。本
堂には楠の一木で刻んだと云ふ御丈二丈六尺の十一面觀音の立像が安置され
坂東第四番札所となつて居る(淨土宗)。【鎌倉大佛】 長谷停留所から四四
〇米鎌倉驛の西二軒。高德院境内に露座する金銅製阿彌陀如來座像で、相好圓
滿端嚴、我が國大佛中の逸品で現に國寶となつて居る。建長四年の鑄造で、佛
身の高さ三丈七尺五寸、重量約二萬五千貫、奈良の大佛に次ぐ巨像で、作者を
大工丹治友と云ふ。應安二年九月大風の爲に堂宇顛倒し、明應四年八月由比
ヶ濱の海水激奔して再び佛殿を破壊し、その後露天の儘今日に至つて居る。

【妙本寺】 比企ヶ谷にあり鎌倉驛から東へ約半軒許り。寺は比企能員の邸
址で日蓮宗三本三長の一たる小本山をなしてゐる。境内にある「法輪の海
棠」は樹齡一三〇年以上を経たもので日蓮六尺、高さ三丈許り、四月中旬
頃花開き東邦第一の名木と云はれてゐる。【權五郎社】 長谷停留所附近。
鎌倉權五郎平景政を祀る。景政は後三年の役に一六歳にして義家の東征に武
勇の名を輝かした人である。【星月夜の井】 同上停留所から一〇〇米許
り、極樂寺切通しの下にある鎌倉十井の一つである。【極樂寺】 電車停留
所前、鎌倉驛から西南二軒餘、正元元年北條重時の建立にかゝる眞言律宗で、
本尊の釋迦像は國寶に指定されて居る。境内には樹齡約六百年を経た櫻樹の
古木があり、一樹に一重及八重の花が咲くので知られてゐる。【稻村ヶ崎】
電車停留所から二〇〇米。元弘三年五月二日新田義貞兵を擧げ鎌倉を攻む
るに當り金の太刀を海に投じて退潮を祈つたと云ふ。南朝史實の一場面を演じ
た所である。【七里ヶ濱】 稻村ヶ崎と腰越を結ぶ白砂、長汀で、古六一
里に敷へて斯く名づけたと云ふ。風光佳。

江之島

鎌倉江の島遊覽

▲鎌倉から七軒四、自動車二三分、二〇錢、同じく電車にて二八分、二
〇錢(一區五錢)。
▲大船驛から日本自動車會社の専用道路により江之島口(片瀬)迄一五分
(六軒六)、二〇錢、一五分乃至三〇分毎ニ發。
▲藤澤驛から四軒四、江之島電車で片瀬迄一〇分、一〇錢、一〇分乃至二
〇分毎ニ發。
同自動車で一〇分乗合一〇錢(前六・四〇—後一〇時迄四〇回發)貸切一圓
▲新宿から小田原急行電車で一時間一〇分(六〇軒)、九六錢凡一時間毎。
江の島は電車・自動車終點(片瀬)から約九〇〇米の海中
にある周圍三軒餘の島で、棧橋を以て通じて居る(渡橋料往
復二錢)。此の島は欽明天皇の一三年大地震動して生じたと云
ふ傳説があるが、對岸の片瀬附近と共に第三紀の末に淺海
の海蝕臺地から漸次隆起し、その際海水に侵蝕せられて陸
地と斷たものであると云ふ。殊に大正一二年關東大地震の
際には俄然一〇米の隆起をなし、附近に第二の海蝕臺地が
海面上に露出してゐる。
〔江の島の旅館〕 ▲岩本樓(電片瀬九・二九、室數三七、普通一泊二圓半
三圓、四圓、一〇圓、團體一圓半以上。茶代不要。③三圓) ▲金龜樓(江之島ホ
テル、電同) ▲四七、室數三三、普通一泊二圓半、三、四、五、六、七
圓、團體一圓半以上、茶代不要。④二圓半) ▲さぬきや(電同) ▲室數二四、
一泊二、三、四、五、七圓、團體一圓半以上) ▲惠日壽屋(電同) ▲室數三
一、一泊二圓乃至七圓、團體一圓半以上) ▲二見館(電同) ▲室數二四、
一泊二圓乃至五圓、團體一圓半)。
▲江の島神社 島の頂上にあり邊津宮、中津宮、奥津宮の三社がある。壽永元
年源賴朝の本願により文覺上人が辨才天を勧請したところ、鎌倉幕府の崇
敬厚く嚴島、竹生島と共に日本三辨才天となつて居る。元は金龜山與願寺と稱
する梵刹であつたが明治初年神社となつたもので、七月一四日の例祭は神輿
渡御があつて頗る賑ふ。奥津宮の先、島の南岸相模灘怒濤の寄せる所を難兒ヶ
淵と稱し、豆相から遠く富士への眺望絶佳な所がある。

三浦半島めぐり (横須賀・浦賀)

島内最奥の名勝「龍窟」の大洞窟に機橋を以て通じて居る。▲龍窟 電車江之島停留所から二軒六。塊状の凝灰岩中に北西に走る断層に沿ひ海水に侵されて出来たもので、深さ四〇間許り、入口の大きき方一丈位ある。洞口から百歩許り入つた處で断層は二筋になり、更に進むと五〇歩許りで一〇度程の角度で交差する断層の爲に洞は二つに分れ、兩方とも四〇歩許りで行き詰り、其處に邊津・中津・奥津の三祭神が併せ祀つてある。

龍口寺 電車停留所前、片瀬の丘上江の島の對岸にある。此の地は日蓮上人龍の口法難の遺蹟——即ち文應年間「立正安國論」を書いて執權北條時頼に送り、更に文永八年幕府社寺司に對し「禪宗、淨土宗などの禁制を強請した爲、幕府の怒を買ひ、同年九月二日夜斬罪に處せられた所である。寺は弘安の頃門弟等が協力して堂宇を建立したもので、日蓮宗四箇本山の一、今の堂宇は明治年間の再建である。

江の島附近海水浴場 江の島を前景とした鶴沼・片瀬・腰越等は遠淺の静かな海で江の島鎌倉の名所めぐりと相俟て海水浴の好適地である。[鶴沼の旅館]……東屋(電鶴沼九、二四室、宿泊料四圓、四圓半及五圓以上、電車本館沼停留所から二〇〇米)

遊行寺 (藤澤山清淨光寺) 神奈川県高座郡藤澤町。東海道本線藤澤驛の東一軒一、自動車乗合一〇錢、一五分毎發。時宗の總本山遊行念佛の根本道場で、正中二年遊行四代吞海上人の開山で、時の領主保野五郎景平が施主となつて建立し、古來朝廷の御歸依も厚かつた。大正一二年の震災に堂宇多く倒潰し、復興中である。寺寶多く、境内に小栗判官照天姫の墓及應永二二年二三年に亘り上杉氏憲、足利基氏に戦つた兩軍の死者供養のために建てた敵味方の碑がある。

横須賀市 市は慶應元年横須賀製鐵所の設置と共に興つた都市で、製鐵所は其後海軍工廠となり、明治一七年には鎮守府が設けられ重要な軍港となつたもので、今人口一〇、三〇一(昭和五・一〇調)、三浦半島隨一の繁華地である。[旅館] 横須賀館(電六二〇)、新井屋(電二二九、室一七)、一國屋(電一

間に下車約半丁)。人口二〇、一三五(昭和五、一〇調) [旅館] 佐竹(電浦賀五九)、鈴木屋(同一九)二圓一三圓半。久里濱 神奈川県三浦郡久里濱村大字。交通機關は前記日程案備考参照のこと。此處の海濱は、嘉永六年六月九日幕吏とペルリ提督が會見擬議した所、今海濱に高さ三丈の紀念碑が建つて居る。

[旅館] 海濱館(電浦賀一五六)、久里濱館(同七六)、二圓一四圓。三崎町 神奈川県三浦郡。交通機關は前記九〇頁日程案の項参照。人口一二、二四三(昭和五・一〇調)を有する漁業地、(一)年の取引高五百萬圓以上)半島の南端に當り氣候溫和にて暑、避寒の好適地として喜ばれて居る。

[旅館] 三崎館(電三崎一七、室一四、一泊二圓五〇錢)、岬陽館(電同一、室一五、一泊二圓)、三崎町小網代、電三崎六二、和室四、洋室二、一泊二圓一四圓。[名所] ▲城ヶ島 郵便局傍から渡船で行く。三崎港の前面、南半軒餘の所に横はり、自然の防波堤を爲して居る周圍四軒、東西一軒餘、南北二〇〇米許りの小島で、岩礁亂れ立つ岬角に燈臺があり眺望よく又、城ヶ島は海水浴に好適である。▲櫻の御所跡 町の中央の丘陵北條山にあり、建久五年頼朝は茲に山莊を造り城ヶ島一帯の島壘を買したと云ふ。今の曹洞宗本瑞寺の寺内が其の遺跡である。▲桃の御所 見桃寺にあり。▲椿の御所 大椿寺に遺跡が残つて居る。▲油壺灣 三崎町から引橋まで三軒三、乗合自動車二〇錢(返子行三〇分毎)、返子驛から引橋まで約二軒、乗合七〇錢、五〇分(三〇分毎)引橋から油壺まで約四軒、徒歩四〇分、貸切返子から五圓五〇錢。油壺は山水美に富む風光絶佳の地で、附近に新井城址及三崎臨海實驗所がある。

▲三崎臨海實驗所は油壺灣と小網代灣の間に突出した岬頭にあり、東京帝國大學理學部附屬の實驗所で、その水族館及標本室は四月から十一月迄の間一般の觀覽に供して居る。觀覽料一〇錢。此の地は戦國の頃三浦氏の居城、即ち

三浦半島めぐり (久里濱・三崎町・大楠山・葉山・返子)

一五〇、室二五、山城屋(電八一四)、龜屋(電九三八)三、四、五圓。

[名所] ▲軍港見學 豫め横須賀鎮守府觀覽部宛に書面又は口頭で見學希望の旨申出るを要す。見學時間は毎日午前九時から午後四時迄。其順序は海軍工廠、軍艦内部、追濱飛行場等指導に従つて見學す。所要約一日。觀覽料一切無料。▲三笠見物 驛から一軒三の海軍機關學校内に在り、自動車乗合一圓、町港月料理店角迄五分、一人一〇錢。觀覽券は正門前で發賣す、大人一〇錢小人五錢。入場時限四月から十月末迄八時一五分一三時、十一月から三月末迄九時一五分一三時。軍艦三笠は明治三三年一月英國グイツカーズ社にて建造され、同三七、八年戦役には我聯合艦隊の旗艦として日本海々戦に活躍し、白露戦争講和成立後佐世保にて火薬の自然爆發により膠座、大正一〇年華府會議により膠艦となれるものである。今は武装を解除して船體だけがコンクリート臺上に据え付けられ、艦内に海戦記念品及海軍參考品など陳列して居る。艦の長さ四百呎、幅七呎六呎二吋、吃水二七呎二吋、排水量一五、三六二噸、速力一八哩五。▲塚山公園 驛の西方約二軒餘、徒歩四〇分。丘陵に史蹟指定地の安針塚(ウキリアム・アダムス及其妻馬込氏の墓所)がある。▲諏訪公園 驛から一軒六、自動車乗合一五圓、自動車を併走し眺望がよい。▲衣笠城址 驛の南方約五軒、自動車乗合一三圓、三〇分、電車毎。林經由三崎行道路の右丘上にあリ、城は平安末期に三浦氏の築いたもので、治承四年畠山重忠などに攻められ城主三浦義明が戦死した所である。今公園となる。▲走水神社 横須賀驛から約八軒、自動車四〇分乗合二五錢。湘南電車馬場海岸驛から二軒五、バス一〇錢、約四〇分。日本武尊及び妃弟橘媛命を祀る。▲觀音崎燈臺 走水神社境内、明治二年正月から點燈されたと云ふ本邦最古の燈臺で對岸房總の連山を一帯帯水の間に望み東京灣口を扼して居る要衝の地に當る。此處から發傳ひに西へ約四軒行けば浦賀町に出

浦賀町 嘉永六年六月三日米使ペルリ提督が軍艦四隻を率ゐて堂々此の灘頭に投錨して我邦開國の文化史上に一新紀元を畫した第一の史蹟地で、江戸時代には番所を置き、江戸方面に往來する船舶を檢閲し、幕末には奉行が置かれ、江戸に出入する船舶の監視と海上警備に當てられた番所跡は街の南方變岩山下にあり、その南側に奉行屋敷跡がある(久里濱ゆきバスの途中川

新井城址で、六百年後の今日内外の疊垣、本丸、二の丸、庭園等の址が見られ、その本丸址と稱する所には實驗所の寄宿舎がある。[船賃] ▲三崎一城ヶ島片道二錢(日ノ出から夜十時頃迄客ある毎に出る) ▲三崎から城ヶ島廻りモーター船乗合五〇錢、約四〇分(夏季中ノミ) ▲三崎一城ヶ島一油壺廻り乗合八〇錢、往復一圓(夏季中)貸切(十數人乗)七圓位、所要約一時間(荒井崎に上れば約二時間かゝる)。

大楠山 秋谷から頂上迄二軒二。海拔約八百尺位、半島隨一の高山で四邊の眺望がよい。秋谷から葉山を経て返子に至る間は海岸傳ひにて風光實に明媚である。秋返子驛間一〇軒四、自動車三〇分、乗合三五錢、前六時一後六・五迄三〇分、貸切二圓。

大楠山から湯の澤温泉(木古庭(温泉から九百米))一驛迄四軒、バス一圓、約一時間(湘南電鐵逸見驛間約六軒、徒歩一時間半、湯ノ澤温泉一泊一圓半)。

葉山 返子驛から五軒九、自動車一五分、乗合二〇錢、五・五二一後八〇〇一五分毎、以後一・三九迄三〇分毎に發、貸切一圓二〇錢。此地は先帝御登壇の地で、御用邸を始め奉り貴紳の別邸多く、長汀白砂淨き渚からは鯨島、刺島、菜島、江ノ島等が繪の様に見え近くに恩賜公園、森戸明神がある人口九、一六六(昭和五・一〇調)

[葉山の旅館] 健屋(電葉山一五、室二六、一泊六圓一九圓、返子驛へ三軒七、長者園(電一色二〇、室一五、一泊三、四、五、六圓、返子驛へ六軒五)、日影(電葉山一四、驛から二軒、室一七、一泊三圓一六圓)。

返子 鎌倉の由比ヶ濱、片瀬、鶴沼などと共に東京から日歸りの出來る海水浴場として知られ、鐵道局經營の「海の家」がある。(入場料大人二〇錢)驛から海岸迄八〇〇米。附近には蘆花氏の小説「不如歸」の所謂浪子不動平維盛の子六代御前の墓がある。

[附近名所] ▲神武寺 返子驛から約三軒半、湘南電車神武寺驛から南一軒三、天台宗に屬し老杉森々たる坂路を上ること半軒で本堂に達す。▲十州峰神武寺の背後神嶽の頂上で其の眺望の佳なること十州一覽の名に背かぬ。

〔旅館〕 なぎさホテル(宇新宿、驛一軒二、電通子二六〇・二六七、洋室一八
一人室三圓半一六圓、二人室七圓半一八圓、バス付一人室六圓一八圓、二人室
九圓半一〇圓半、食事料朝一品料理、晝一圓半、夕二圓。和室四アリ)、養
神亭(電通子三、一泊三圓乃至五圓、室三〇)、驛から一軒半の海岸にある)、櫻
花亭(電同三二八、驛から一軒七、室九、一泊三、四、五圓)

〔鷹取山ハイキング〕 湘南電鐵神武寺驛(一軒三)―神武寺―奥の院
―(一軒)親不知―鷹取山(山中各所に案内標あり)―見晴臺―追濱遊園地―(以
上一軒九四) 追濱驛(湘南電鐵)。或は此の反對コース。約三軒三徒歩約二時
間半。

鷹取山は山姿妙義に似て奇峯突峻、奥淺間の眺望雄大である。

大山(阿夫利神社) (縣社) 神奈川縣中郡・愛甲郡。

▲東海道線平塚驛から伊勢原町迄一〇軒五、自動車三〇分、乗合四五錢、
貸切二圓半。東京―平塚驛汽車一時間余(六三軒八)、三等片道一圓。

▲新宿驛―伊勢原驛間小田急で一時間、片道九八錢。
伊勢原町から大山町迄五軒六、自動車二〇分、乗合三五錢。

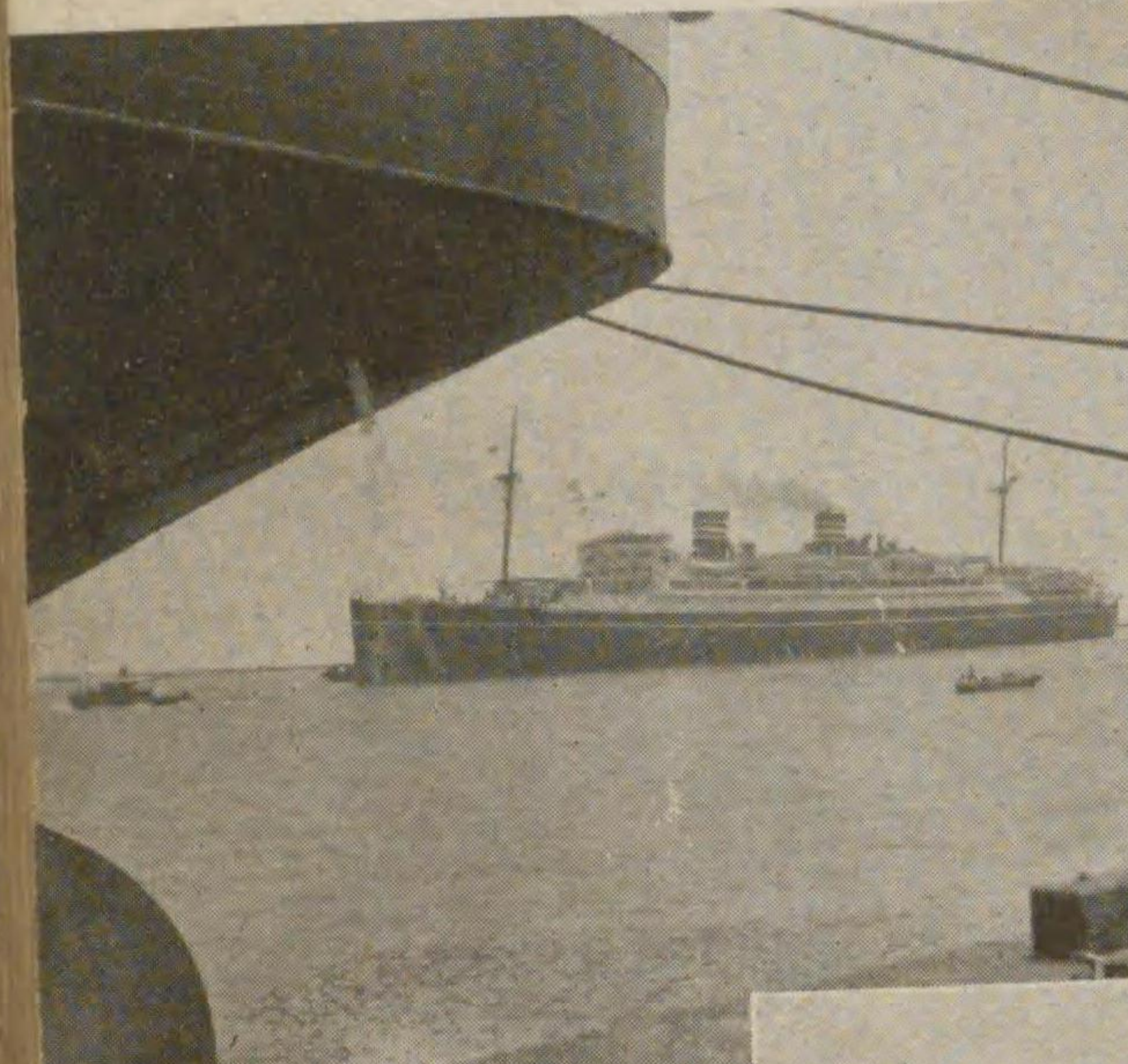
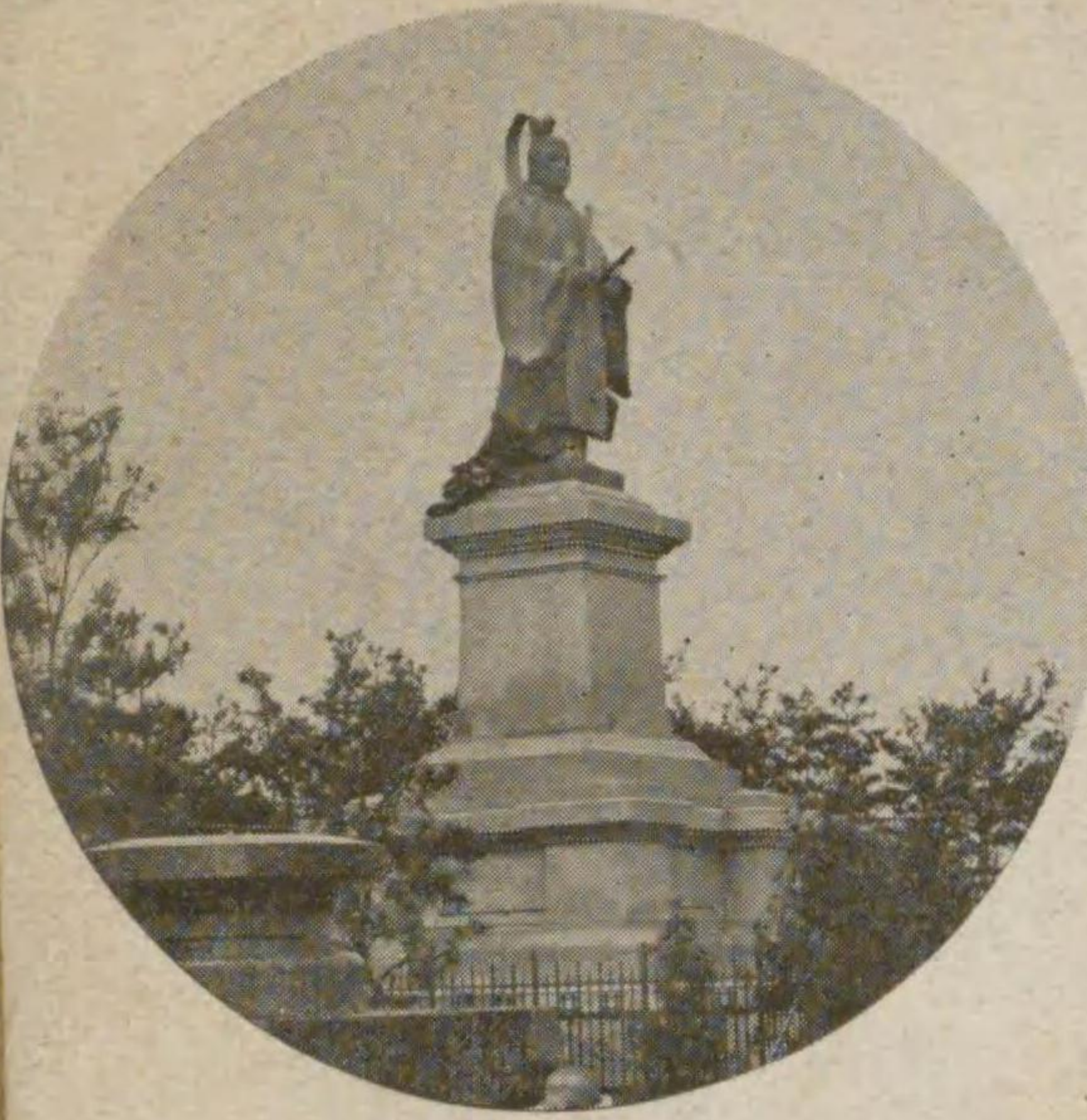
▲乗合自動車終點から追分社迄徒歩二軒二、三〇分。
▲追分社傍から下社迄ケーブルカーで約七分(〇・八軒)、賃上り三五錢下
り三〇錢、往復六〇錢、二〇分毎。

下社終點から本坂と稱する急坂を約二軒、二時間許り上ると本社がある。

大山は(海拔一二五三米)、雨降山とも云ひ中郡、愛甲郡
の二郡に跨り西北は丹澤山に連つて同山脈中の一雄峰を爲
して居る。頂上に大山祇神を祀る阿夫利神社があり、春季
祭(四月一五日から同二四日迄)及夏季祭(七月二七日か
ら八月一七日迄)には白衣の信者踵を接して登拜する。

山頂の眺望實に雄大で晴天には江の島から東京灣・丹澤・
秩父連峰などが見える。

〔大山町の旅館〕：大山ホテル(電大山七、一泊二圓一四圓・晝五〇錢―
一圓)、伊豆屋(電同三、二圓一三圓半)、魚屋、平野屋、歌舞屋。



と濱横
倉 鎌



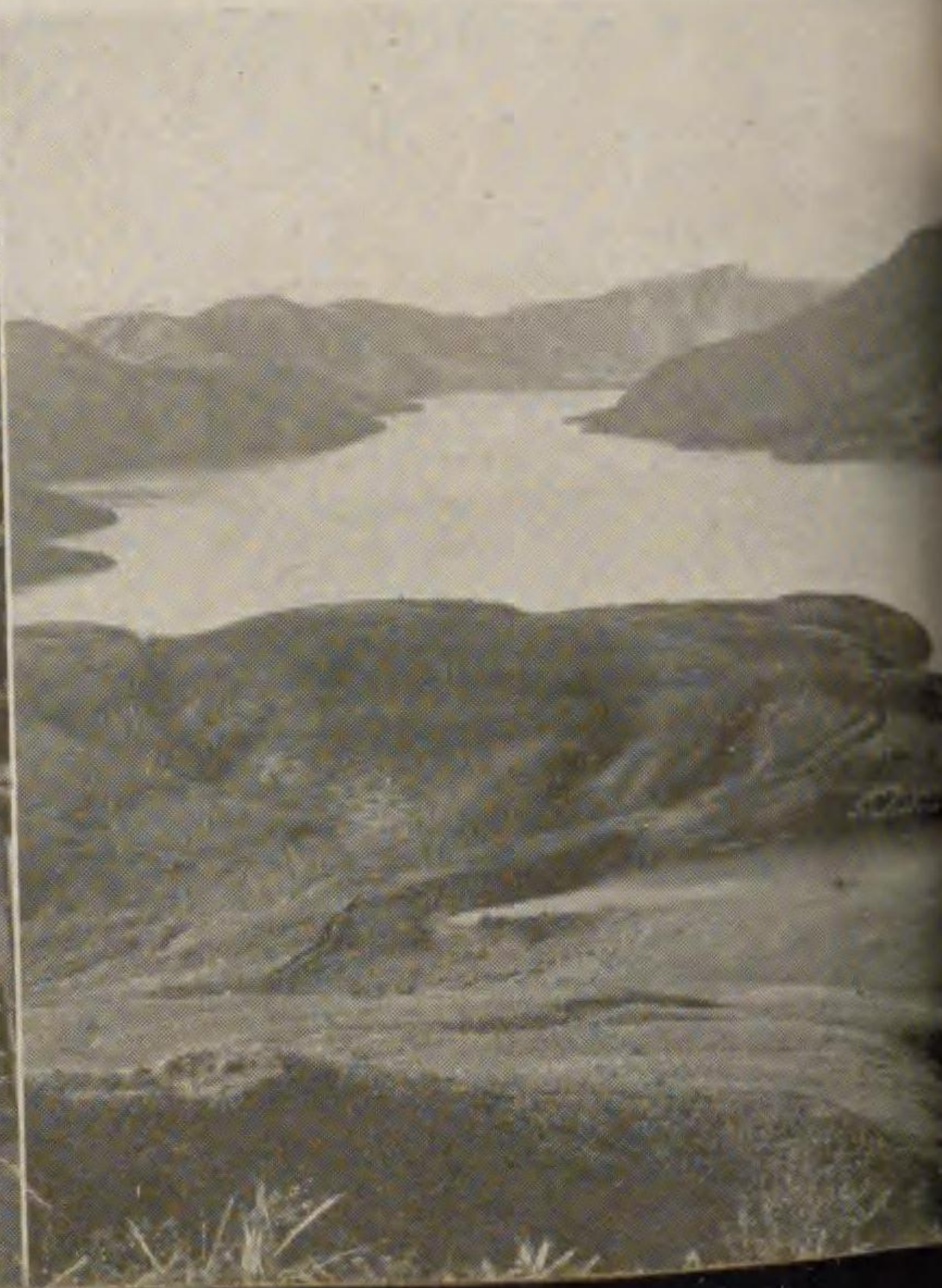
右上、淡雪の長谷大佛
左上、横濱掃部山の井伊大老銅
像
中、横濱港
下、七里ヶ濱より見たる江ノ
島と富士山

〔旅のメモ〕

根 箱

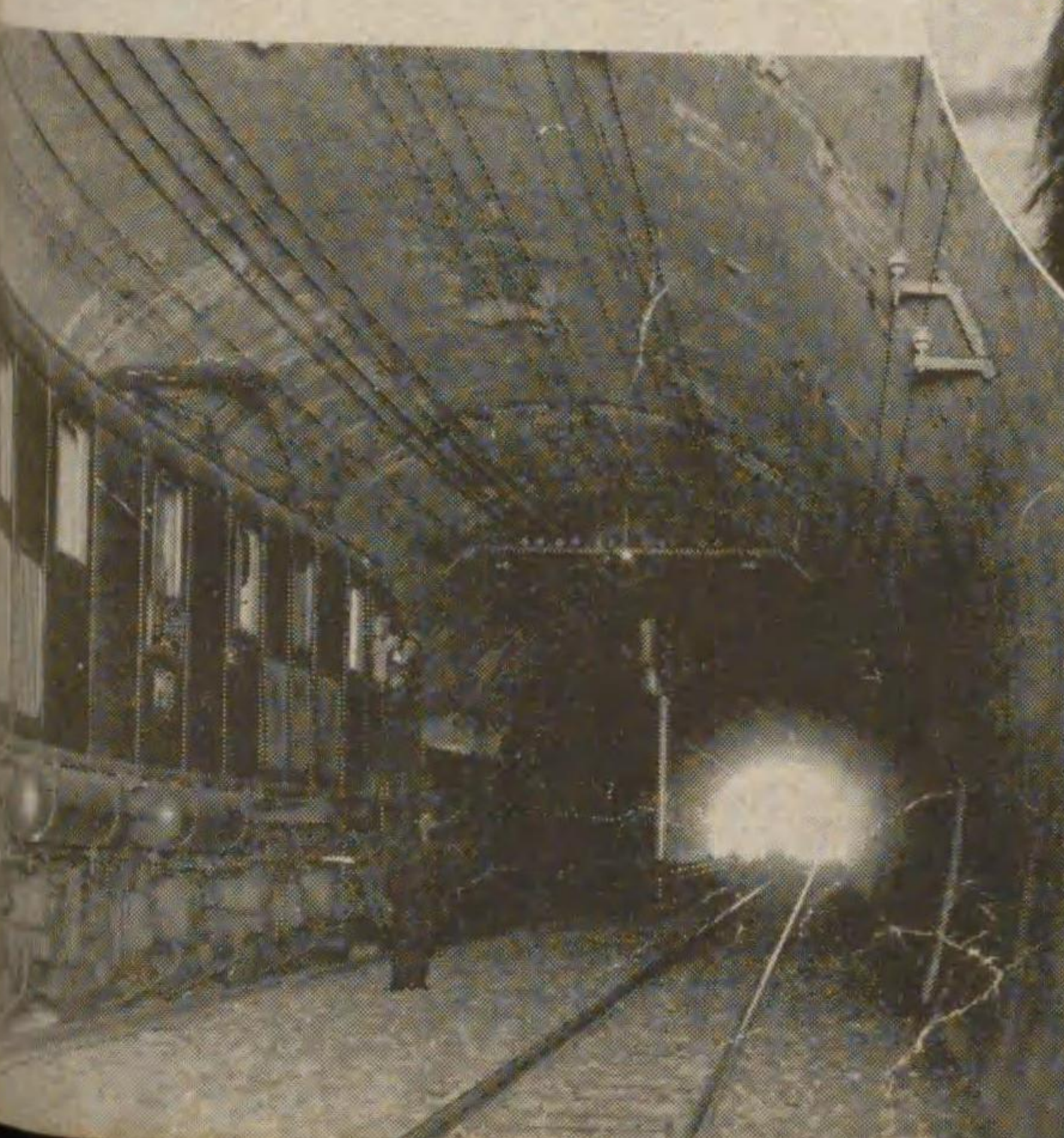
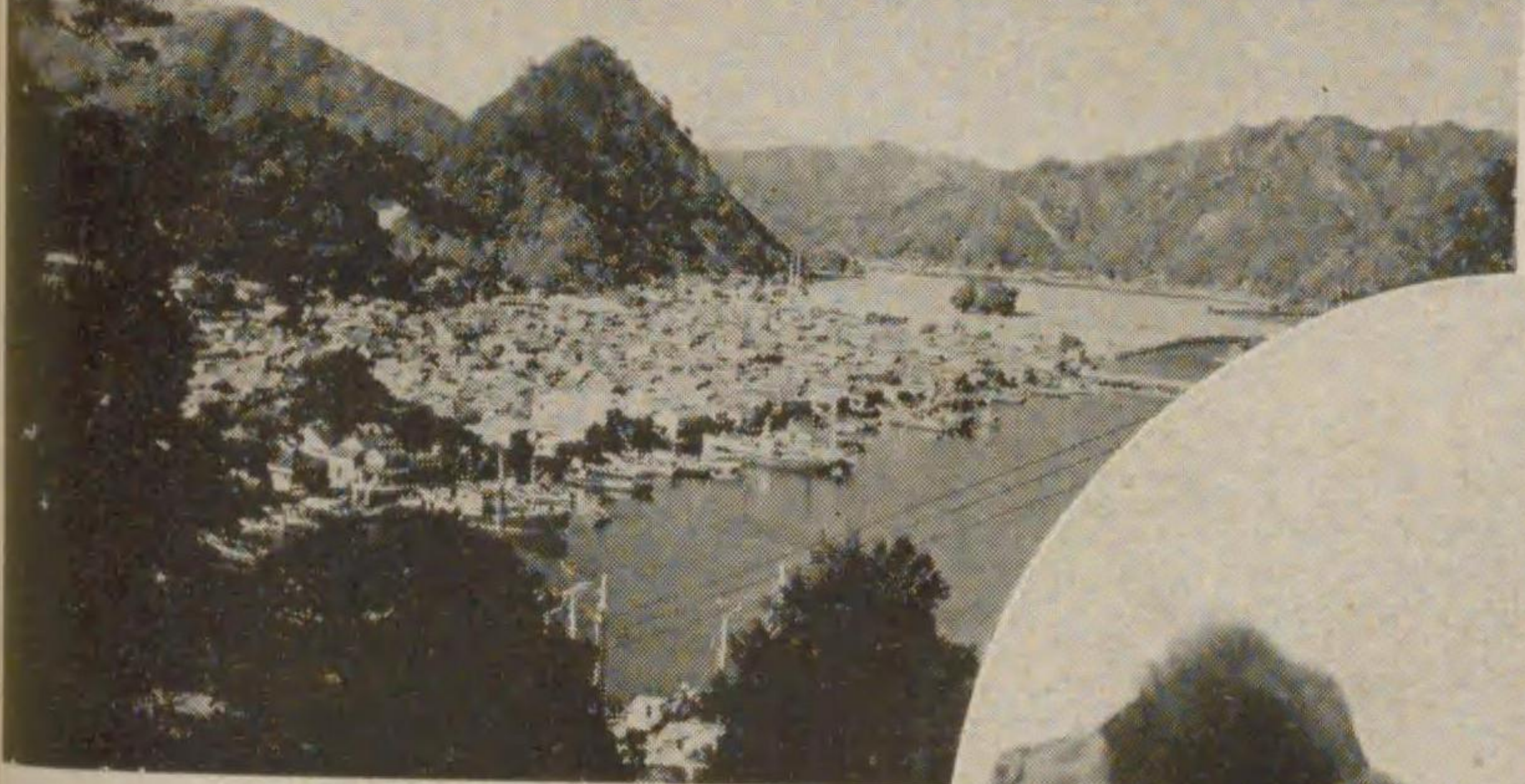
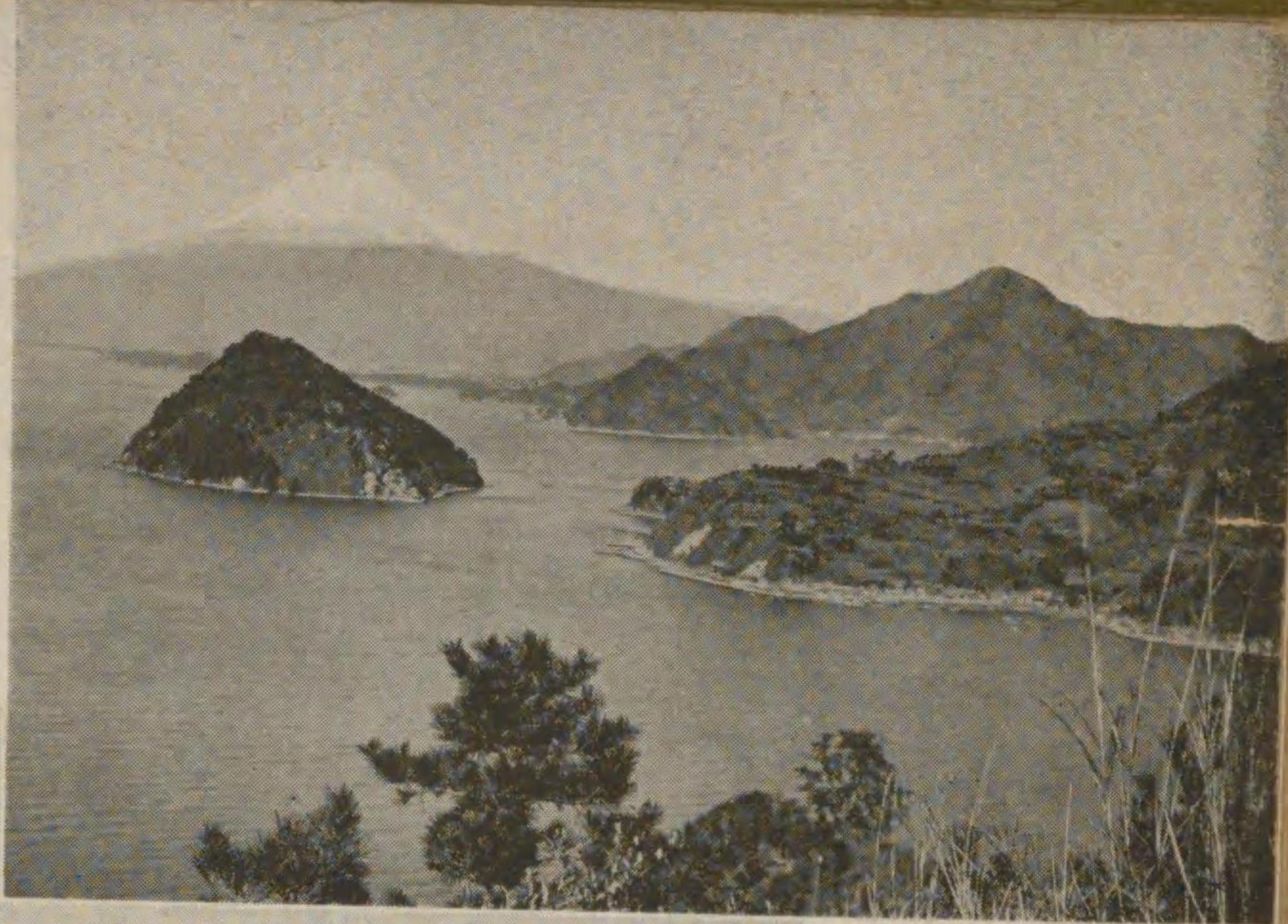


上右、仙石ゴルフ場
 上左、蘆ノ湯温泉場
 下右、舊街道杉並木
 下中、蘆ノ湖全景
 下左、關所跡



伊豆半島と大島

上、三津海岸の富士、中、下田港、大島の内、大島のあるこ



箱根

箱根山は二重式火山の範型で、今やその活動は殆んど終熄してゐるが外輪山、裾野、陥没火山、火口丘、火口原、火口湖、火口瀬、爆発火口、噴氣孔、温泉など悉く備はり之に加ふる白妙の富士はその半姿を右方に現はし、左方には天城の連峯が重疊して背景を添へ宛然一つの大自然畫を見るの感がある。

箱根はその山水美と温泉の設備と相俟つて東京附近第一の温泉郷として知られ、何時行つてもそれ／＼の面白味がある。特に春の櫻と秋の紅葉がよい。櫻は湯本・宮ノ下・強羅・小涌谷がよく、紅葉は蘆の湯附近から蘆の湖畔及裏箱根の邊が佳く、一〇月下旬から一ヶ月末にかけて最も美觀を呈する。また山藤の花の梢に纏絡するもよければ五月、六月頃の躑躅も更に美しく、或は新緑の萌える匂ひもまた一段とよい。夏は登山、舟遊の樂みがあり、冬も避寒温泉の一に數へられてゐる。

【箱根火山】箱根は伊豆半島の附近に噴出した大火山で、相模國足柄下郡と、伊豆田方郡とに跨り、往時鐵道のまだ開けない以前にあつては東海道筋の難關、所謂箱根八里の嶮で、徳川幕府は此の地形を利用して關所を設け、往き來の人を監視して居た事は周く人の知る處である。

箱根火山は富士火山系に屬する一個の獨立火山で、その噴出の年代は地質時代の新生代第四紀の頭で、伊豆中央の天城山と略同時代で有と云ふ。其當時は富士山の様な圓錐形の高いコニデーをなしてゐたのであるが、餘り多くの火山灰と燧岩とを噴出したため、地底の地壓が減り、地下燧岩の收縮と相俟つて火山の中心部は自己の重みで下に陥落し、中央に大きな陥落火口が出来たのである。即ち金時山(一、二一三米二)・明神岳(一、二六六米)・明星岳(九二四米)・

箱

根 (遊覽日程案)

淺間山(八〇二米)・櫻葉山(八三七米)・葎掛山(一、〇〇四米)・山伏峠(一、〇三四米)・三國山(一、一〇二米)・長尾山(九〇三米)・丸根(一、一五四米)・乙女峠(一、〇〇〇米)・長尾山(一、一四四米)等、南北一三軒、東西約六軒の卵形環状に連れた外輪山はその大カルデラの火口壁である。この外輪山の最高點は金時山で最低所は「のぞき臺」の七三三米で平均高距は一千米内外である。その後火山の活動力は再び復活期に入りカルデラ内に神山(一、四三八米)の西北に臺ヶ岳(一、〇五四米)と小塚山、東南外輪山の上を跨つて上二子(一、〇九一米)・下二子(一、〇六四米)を、また神山の東南の肩に掛つて駒ヶ岳(一、三二六米)を噴出したのである。神山は丁度カルデラの中心部に屹立し箱根火山の最高峰をなしてゐる。その後更に神山の腹に大地獄(大涌谷)・早雲地獄、小地獄(小涌谷)、湯の花瀧、硫黄山の五つの爆裂谷を生じ、中でも大地獄の爆裂火口は最もその大なるもので、神山の北側の大部分を飛散せしめ一大陥所を生じてゐる。火口内には今尙所々に水蒸氣が硫氣(亞硫酸ガス)と少許の硫化水素ガスと共に濃々として白煙を立て、ゐる。

大カルデラの出来た時、今の外輪山で圍まれた火口内には一ぱいに水が溜つて大きな火口湖が出来たものと云はれ、今はその西南部に水を湛へて置いた湖となり、北の仙石原、東北の宮城の原はもと湖底に存したものであるといふ。火口原の水は外輪山の一部を破つて火口瀬をなし、その北にあるものを早川、南にあるを須雲川と稱し、この二流は湯本で相合し小田原の南で相模灘に注いでゐる。

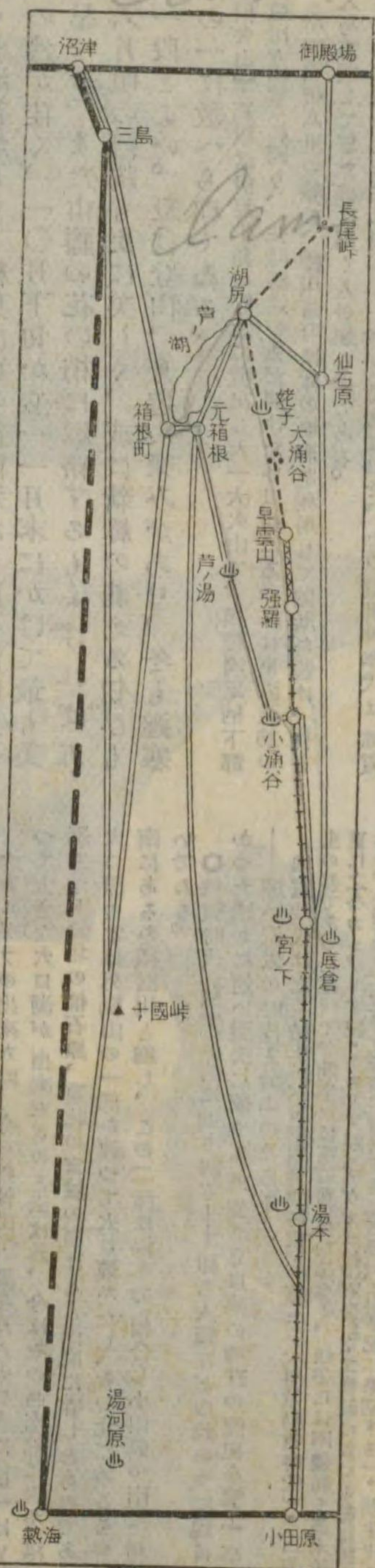
○地質時代 地質學的に辿り得る——即ち人類などの此の世に現はれて居なかつた遙かに遠い過去に溯つて地殼成立以來の地球の歴史を窺ふ事が出来る。遠い過去の時代と云ふのである。

地質時代は之を始生代(單細胞動物時代)・原生代(原始動物時代)・古生代(三葉虫の盛であつた時代、前半には葉石類・魚類等多く、後半には兩棲類や鱗木等が多く、更に之をカンブリア紀・シルリア紀・デヴォン紀・石炭紀・二疊紀の五つの紀に細別す)・中生代(爬虫類が全盛を極めた時代、更に三疊紀・白堊紀に略別する)・新生代(爬虫類が衰滅して哺乳類が之に代つて發達した時代、更に第三紀・第四紀に細別する)に分類して居る。

之等の各時代の年數の算出は種々の手續によつて計算されて居るが、その計算は(まじ)で、最近の地質時代である第四紀は或人は十九萬年前と云ひ、他の或學者は百萬年前或は百五十萬年前と云ひ、確かな年數を知る事は目下の處不可能と云はれる。此の第四紀に至つて人類が發達し今日の人類時代を生じた。

箱根遊覽日程案

箱根の山は天下の嶮と誦はれ、東海道筋の最難所といはれたのは未だ鐵道の開けぬ以前の事、今日では登山電車あり、ケーブルカーあり、また主要な道路には皆優秀なバスが定期に走つて居るので、箱根に入るには小田原からは勿論、御殿場から長尾峠を越しても、三島沼津方面から行つても樂に入る事が出来、日歸りの遊覽地として種々の面白いコースを作る事が出来る。殊に最近(七年八月開通)熱海から箱根迄十國峠越しの自動車用道路が開通したので、箱根から熱海へ或は熱海から箱根への面白い週末旅行が出来る様になつた。



第一案(日歸り)

東京(汽車)―小田原(自動車)―箱根町(遊覽船)―湖尻(徒歩)―早雲山(ケーブルカー)―強羅(電車)―小田原(汽車)―東京。又は都合で以上の反對に廻つても順路がよい。

地名	發着時刻	記事	備考
東京驛	發前 八・一〇	沼津行準急行列車	▲東京―小田原間準急デ一時間一七分(普通列車ハ一時間四〇分ヲ要スル)(八三斤九)三等普通片道一圓三一錢。 「註」東京發前七・一五ノ熱海行、同前七・四五ノ大坂行、同八・二〇ノ小田原行又ハ同九・一〇日曜祭日ニ限り運轉ノ熱海行準急デ出發スルモヨイ。
小田原驛	着前 九・二七 發前 九・三〇	乗換 箱根町行バス	▲小田原―小涌谷―蘆ノ湯―元箱根間自動車デ一時間二〇分(約二五斤四)乗合一圓五五錢、貸切一〇圓。 「註」箱根町へハ箱根カラ五・一〇分、元箱根カラ五・二〇分、蘆ノ湯カラ五・三〇分、小涌谷カラ五・四〇分、小田原カラ五・五〇分。
小涌谷	着前 一〇・一〇		

地名	發着時刻	記事	備考
元箱根	着前 一〇・五〇	下車遊覽	一〇分、乗合料金一圓一〇錢、貸切八圓。 「註」小田原―小涌谷間ヲ電車ニヨル時ハ(此ノ間一時間六分、賃七〇錢)元箱根着前一二・二七トナル。小涌谷驛―元箱根間自動車三五分、乗合七五錢、貸切五圓。
箱根町	發後 二・一〇	蘆ノ湖遊船	▲箱根神社參拜(一一頁參照)、箱根關所址見學(一一頁參照)。 ▲元箱根カラ箱根町マデ一料六、自動車五分、乗合一〇錢、蘆ノ湖畔杉並木ノ絶景ノ間ヲ行ク。途中ニ箱根離宮・箱根關所址ガアル。
湖尻	着後 二・三〇 發後 二・三〇	徒下歩船	▲箱根町―箱根ホテルニテ晝食(簡易食堂モアル、一一二頁參照)。 ▲箱根町―湖尻間定期船デ三〇分、約五斤、普通賃五五錢。 「註」船ハ元箱根ヲ毎時丁度ニ出テ箱根町ニ寄ツテ行クノデアル。船賃ハ元箱根カラモ同ジ、但シ元箱根―箱根町間は一〇錢(一一〇頁參照)。
姥子温泉	着後 四・〇〇 發後 四・〇〇	徒歩	▲湖尻―姥子温泉―閻魔臺間上リ二斤八、徒歩一時間半位ヲ要スル。 ▲閻魔臺カラ大涌谷へ一〇〇米許リ下リ(一一〇頁參照)。
大涌谷	着後 四・五〇 發後 四・五〇	ケーブルカー	▲大涌谷―早雲山間下リ約二斤、徒歩三〇分位。 ▲早雲山―強羅間ケーブルカーで九分(一料二)、賃金下リ一五錢、上リ二五錢。
早雲山	着後 四・五九	一浴・夕食	▲強羅(一〇九頁參照)。
強羅	發後 六・五三	電車	▲強羅―小田原間電車デ一時間一四分(一五斤七)、賃金八〇錢、 「註」湯本ニテ電車乗換ヲ要ス。
小田原驛	着後 八・〇七 發後 八・一八	乗換 東京行列車(日曜ニ限り運轉)	「註」小田原發後八・二六ノ上記列車ハ日曜ニ限り運轉サレル準急ニ付其他ノ日ハハ・美發ノ列車又ハ八時發ノ列車ニ乗車ノコト。東京行ノ終列車ハ九・一五(東京着二・三〇)、但シ小田原急行電車ハ二・一五(新宿着〇・七セデアル)。
東京驛	着後 九・四五	歸宅	

旅行費用概算

二等 一〇圓九六錢
三等 七圓六〇錢

内譯 遊覽券(前記日程案ニ要スル乗物賃全部) 費食・夕食・其他雜費

二等 七圓四六 三等 五圓一〇
三・五〇

第2案(日歸り)

東京(汽車)―小田原(自動車)―箱根町(渡船)―湖尻(自動車)―宮ノ下・小田原(汽車)―東京。

地名	發着時刻	記	事	備
東京驛	發前 八・二〇	沼津行準急		
小田原	發前 九・三〇	自動車		
箱根町	發後 二・一〇	渡船		
湖尻	着後 二・四〇	下船		
湖尻	發後 二・四〇	自動車		▲湖尻―仙石原 自動車テ約二五分、六軒餘、乗合五〇錢貸切湖尻―宮ノ下 間六圓。
仙石原	發後 三・〇五	〃		▲仙石原―宮ノ下 自動車で二〇分、約七軒二、乗合四〇錢。
宮ノ下	着後 三・三三	〃		▲宮ノ下ニテ休憩(一〇六頁参照)
小田原驛	發後 五・〇〇	自動車		▲宮ノ下―小田原 自動車ニテ四〇分、一三軒八、乗合七〇錢。
小田原驛	發後 五・四〇	準急		▲湖尻―仙石原―宮ノ下―小田原 自動車貸切一〇圓。
東京驛	着後 六・四三	歸宅		(註) 宮ノ下ニテ下車シナケレバ小田原發後四・三〇ノ準急ニ乗車スル事ガ出來ル、(東京着 五・四五)

旅行費用概算

二等 一八・一五
三等 一八・一八

内譯 遊覽券(前記日程案ニ要ス乗物賃全部ニテ) 二等 八圓〇五 三等 五圓六八
食料其他雜費 " 三・五〇 " 二・五〇

(注意) 上記ノ準急列車ハ毎日運轉サレテ居ル。

第3案(日歸り)

東京(汽車)―小田原(自動車)―箱根町(渡船)―湖尻(自動車)―仙石原・長尾峠・御殿場(汽車)―東京。

地名	發着時刻	記	事	備
東京驛	發前 八・一〇	沼津行準急		
小田原	發前 九・三〇	自動車		
箱根町	發後 二・一〇	渡船		
湖尻	發後 二・四〇	〃		
仙石原	發後 三・〇二	〃		
長尾峠	發後 三・四二	〃		
御殿場驛	發後 四・三〇	同		
御殿場驛	發後 五・四一	下車乗換		
國府津	發後 六・三〇	國府津行列車		
東京驛	着後 八・一〇	東京行列車		

旅行費用概算

二等 一八・一五
三等 一八・一八

内譯 遊覽券(前記日程案ニ要ス乗物賃全部ニテ) 二等 八圓七四 三等 六圓〇四
食料其他雜費 " 三・〇〇 " 二・〇〇

第4案(週末一泊旅行)

十國峠越え熱海・箱根遊覽

日程	地名	發着時刻	記	事	備
第1日	東京驛	發後 三・一〇	米原行列車		▲東京―熱海 一時間五四分(一〇四軒六)、三等普通片道一圓五八錢。
	熱海驛	着後 五・〇四	宿泊		▲熱海驛カラ温泉場へ約半軒(下リ坂道)自動車乗合一〇錢(列車毎)
					▲熱海温泉(一一三頁参照)。

箱

根 (遊覽日程案)

1011

第 2 日		第 1 日	
熱海町	東京驛	東京驛	東京驛
發前 八・二〇	着前 九・〇〇	發後 三・一〇	發後 四・三〇
定期自動車 箱根行	下遊覽・晝食 遊覽車	米原行列車 下	米原行列車 下

▲熱海町—熱海峠—十國峠—箱根町—箱根町間 自動車テ約五分、二一軒八、乗合元箱根迄一圓(二〇人乗バス熱海驛前發前八、〇六—後五・一五迄一日二回發、九年十二月一日現在)沿道十國峠カラ秀峯富士及ビ駿河灘ノ眺望ガヨイ

▲箱根關所址(一一一頁參照)。箱根神社(一一一頁參照)。

▲箱根町—元箱根間一軒六、自動車五分、一〇錢。

▲元箱根—湖尻間 芦ノ湖上約七軒、遊覽船テ四〇分、賃五五錢(一一一頁參照)。

▲湖尻—姥子溫泉—大涌谷—早雲山驛間 四軒九、徒歩二時間 余ヲ要スル(一一〇頁參照)。

▲大涌谷(一〇九頁參照)。

▲早雲山—強羅間、ケーブルカーテ九分(一軒二)賃下リ一五錢

▲強羅—湯本—小田原間 電車一時間二〇分(途中湯本ニテ乗換ヲ要ス)賃八〇錢、

▲小田原—東京 一時間一八分(八三軒九)三等普通一圓三一錢

▲東京—小田原 一時間二〇分(八三軒九)、三等一圓三一錢。

▲小田原カラ電車又ハ自動車ニテ湯本・宮ノ下・塔ノ澤・底倉 強羅等任意ノ溫泉場ニテ一泊(一〇五頁乃至一一〇頁參照)。

第 2 日		第 1 日	
溫泉場	東京驛	東京驛	東京驛
發前 九・〇五	着前 九・〇〇	發後 三・一〇	發後 四・三〇
電車 ケーブルカー	下遊覽・晝食 遊覽車	米原行列車 下	米原行列車 下

▲強羅—早雲山間、ケーブルカーテ九分(一軒二)賃金上リ並等 二五錢、特等五〇錢。

▲早雲山驛—大涌谷 徒歩上リ二軒、約一時間ヲ要ス。

▲大涌谷カラ頂上マデ一〇〇米上リ、ソレカラ姥子溫泉ヲ經テ 湖尻迄下リ二軒八、徒歩四〇分乃至一時間位ヲ要スル。

▲湖尻—箱根町—元箱根間 箱根遊船定期船テ芦ノ湖上約四分、賃五五錢。(一一〇頁參照)

▲箱根神社參詣(一一一頁參照)。

▲箱根關所址、考古館見學。

▲元箱根—箱根町間 一軒六、自動車五分、乗合一〇錢、徒歩 一五分。

▲元箱根—箱根町—十國峠—熱海間 自動車ガ一時間、賃金乗合一圓。沿道十國峠カラノ眺望ガヨイ。

▲熱海町(一一三頁參照)。

▲熱海—東京 一時間四五分、三等普通一圓五八錢。

「註」熱海發後(〇準念)、七・五〇(日曜準念)ガアル。東京行終列車ハ九・五發。

旅行費用概算

内譯 遊覽券(前記經路ニ要スル乗物賃全部ニテ) 食事料其他雜費 箱根又ハ熱海一泊料

箱 根 (遊覽日程案)

二等	一八・〇一	三等	一〇・九三
二等	八・〇一	三等	四・九三
二等	五・〇〇	三等	三・〇〇
二等	五・〇〇	三等	三・〇〇

1011

箱根 (遊覽日程案)

一〇四

第5案 (日歸り) 東京(汽車)―小田原(電車)―強羅(ケーブルカー)―早雲山(徒歩)―湖尻(遊覽船)―箱根町(自動車)―沼津(汽車)―東京。又はその反對ルート。遊覽券東京から三等(乗物全部)五圓九六錢。
 ▲箱根町―三島町―沼津 二七糎三、自動車一時間二〇分、乗合一圓八〇錢。
 ▲沼津―東京 準急二時間一二分(一二六糎二)、三等片道普通貨一圓八七錢。
第6案 (日歸り) 新宿(小田急電車)―小田原(登山電車)―強羅(徒歩)―湖尻(渡船)―箱根町(乗合自動車)―小涌谷(電車)―小田原(小田急)―新宿。回遊賃割引四圓二〇錢(但季節により割引額に相違がある)
 ▲新宿―小田原 急行電車で二時間二分(八二糎八)普通貨片道一圓三六錢。凡そ三〇分毎に發

第7案 (日歸り) 神山・駒ヶ岳縦走
 東京(汽車)―小田原―小涌谷(以上前記参照)―(バス二五分、賃六〇錢)―新甘酒茶屋(徒歩二糎)―駒ヶ岳頂上(徒歩一糎四)―神山頂上(徒歩一糎五)―大涌谷(徒歩二糎二)―早雲山―小田原―東京(前記参照)
 神山及び駒ヶ岳は何れも四千米以上の高山ではあるが、三千尺の地點迄はバスで行く事が出来、山道も割合に良く、大して酷い坂もないので婦女子にも容易であり、芦の湖を上から大觀しながら尾根傳ひに縦走する此のコースは又眼先が變つた面白い経路である。登山口は新甘酒茶屋のほか芦の湯及び小涌谷にもあるが、前者が一番樂である。

M	E	M	O
箱根	湯本	塔ノ澤	大涌谷
...

箱根温泉

箱根温泉は湯本、塔ノ澤、宮ノ下、底倉、堂ヶ島、木賀、蘆の湯を昔から箱根七湯と云つて居たが、時の移ると共に都人士の遊覽地となり保養地となるに従つて温泉場の數も増し、今では以上の外に強羅、小涌谷、婁子、仙石、湯ノ花澤の五湯を加へて箱根十二湯を數へてゐる。温泉の分布状態は、最も多いのは早川火口瀨に沿ふた處で、湯本、塔ノ澤、宮ノ下、堂ヶ島、底倉、木賀の六温泉があり、次は中央火山の四周にあるもので、早雲地獄の硫氣孔から引いたものは強羅温泉となり、また大地獄の硫氣孔から引いた小涌谷、湯ノ花澤石下湯、仙石元湯、徳石の四温泉となり、小地獄から引いた小涌谷、湯ノ花澤にも温泉があり此等は明治になつてから新興した温泉場である。中央火山系には蘆の湯、婁子温泉があり共に古くから知られてゐる。泉質は前記早川の火口瀨に從ふて涌出する六温泉は皆鹽類泉が若くは之に準ずべき單純泉で、成分も共によく類似して居るが、中央火山の周圍に涌出する温泉は婁子の鹽類泉を除く外皆硫黄泉又は酸性泉で、火山活動の時期と温泉の位置と泉質の間に面白い關係が現はれてゐる。

湯本温泉

神奈川県足柄下郡湯本町湯本。
 [交通] 小田原驛の西南約七糎二、省線小田原驛前から電車・自動車の便がある。
 ▲電車 約三〇分、賃金並等二四錢、驛から温泉場迄西へ約三〇〇米。
 ▲自動車 約一五分、乗合三〇錢、貸切一圓五〇錢。

地は箱根山麓の東麓、早川、須雲川の新舊火口瀨の落合ふ所にあり、翠巒湯坂山の麓を繞る早川の清流に臨んでゐる。海拔一〇四米。此處から湯坂山、淺間山、鷹巢山、蘆の湯を経て箱根町へ出る峻峻な湯坂路は鎌倉時代の箱根道で、湯本の入口一糎程手前の三枚橋から元箱根迄一一糎餘ある。

箱根の温泉 (宮ノ下)

〔泉質・效能〕 温泉は湯坂山の南麓凝灰岩の山脈に沿つて涌出し、温度七一度、無色透明の單純泉で腦神経系統諸病・婦人病・リウマチス・胃腸病・皮膚病等に效がある。

〔特色〕 行樂向。

〔溫泉旅館〕 福住(電箱根湯本二・三八、室三〇、普通一泊四、五、六圓、茶代不要、⑤五圓)、湯本館(電同二・一〇、室二二、一泊三、四、五圓)、住吉(電同六、室一六、普通一泊二圓一五圓、③三圓半)、大和(電同四、室一三、普通一泊同上、③三圓)、和泉(電同五、室一三、普通一泊同上、③三圓)、彌榮館(電同六、室一四)、古川(電同五、六)、萬壽福(電同二・四)、以上普通一泊二、三、四、五圓。
 [附近名所] 附近には早雲寺、正眼寺、玉簾の瀧、初花の瀧などがあり、小田原征伐の時豊臣秀吉が陣を構へた石垣山へも此處から登られる。▲早雲寺臨濟宗大徳寺派に屬し、電車驛の西南約半糎の湯本町にある。大永元年に北條氏綱が父早雲の遺命により創建したもので、境内に早雲以下五代の墓がある。▲石垣山 熱海線の早川驛の眞上に聳えて居る圓い山で、天正一八年豊臣秀吉が小田原の北條氏を攻めた時、山の上へ一夜城を造つて小田原勢を驚かした所で、今其跡と云ふのが残つて居る。〔名物〕 湯本細工。

塔ノ澤温泉

神奈川県足柄下郡湯本町塔ノ澤。
 [交通] 前記湯本温泉の西約半糎、自動車乗合五錢。
 ▲電車 約三二分、賃金並等三一錢、塔の澤驛から温泉場迄約半糎餘の坂を下る。
 ▲自動車 約一八分、賃金乗合三五錢、貸切一圓八〇錢。

地は海拔一二九米、塔ノ峯の南麓にあたり、早川の清流が迂廻してS字形にめぐる處に橋を架け、道を開いて浴樓が軒を列ね山影水聲相調和して一勝區を爲してゐる。明の朱舜水が水戸光圀公に從つて此の地に遊んだ時、支那の驪

一〇五

山の温泉に勝ると歎賞したので、玉の緒橋と相対する翠巒を勝驪山と云つたが、大正一二年の大震災のため崩壊して可なりその風景美を殺された。

〔泉質・效能〕 温泉は勝驪山と湯坂山の麓、凝灰岩を貫く岩脈の間から涌出し、温度五一度、泉質及效能は前記湯本と同じである。〔特色〕 行樂向。

〔温泉旅館〕 環翠樓(電湯本三・五〇・七五番、室數四〇)、普通一泊四、五、六圓、④六圓、福住樓(電同四・七三番、室五六、普通一泊同上) ④六圓、一の湯(電同八・四三番、室四三、普通一泊同上、④五圓、新玉の湯(電同五番、室二二、普通一泊三、四、五、六圓、④五圓、與喜屋(電四七、室一一、普通一泊二、三、④四圓)、春乃家(電同二〇五、室一一、一泊同上)。

〔附近名所〕 ▲塔ノ峯を約二軒登ると淨土宗の阿彌陀寺があり、開祖龍雲唐の岩窟がある。「箱根靈驗覺仇討」にある初花が夫勝五郎の覺車を牽き、病氣平癒を祈つた寺であると云ふ。塔ノ峯は海拔五六五米あり、塔ノ瀨千歳橋の傍から約一時間を要する。

宮ノ下温泉

神奈川県足柄下郡温泉村宮ノ下。

〔交通〕 前記塔ノ瀨から西北六軒。自動車二〇分、乗合三五錢、貸切二圓半、電車二〇分、三二錢。

一、小田原駅から約一三軒八、電車及び自動車の便がある。

▲電車 一時間一〇分、賃金並等六二錢、電車宮ノ下駅から温泉場迄約三〇〇米程下る。

▲自動車 三五分、乗合七〇錢、貸切四圓。

二、御殿場線御殿場駅から約二八軒二、自動車の便がある。乗合一圓九〇錢、貸切一圓、所要一時間半。

三、東海道線沼津駅から約四〇軒二、自動車の便がある(箱根町經由)、乗合二圓七五錢、貸切一五圓、所要二時間二五分。

地は早川が外輪山を突破してゐる最初の地點で、海拔四

底倉温泉

神奈川県足柄下郡温泉村底倉。

〔交通〕 前記宮ノ下温泉の西に隣り八千代橋を隔て、相對して、交通機關は宮の下と同じである。

地は海拔三五四米、蛇骨川の涯畔にあり山の傾斜面にあるので眺望がよい。蛇骨川の畔は天正小田原の役に秀吉が將卒の創傷を治せしめたと云ふ石風呂が今葛屋の高山園内に新田義則の記念碑と共に残つてゐる。

〔泉質・效能〕 温泉は溪崖の集塊岩の岩罅から涌出し、無色清澄の微弱な鹽味を具へた弱鹽類泉で微弱アルカリ性反應を呈す。温度六四度乃至七五度、神經諸病・胃病・婦人病・リウマチス等に效がある。〔特色〕 行樂向。

〔温泉旅館〕 葛屋(電宮ノ下六・五四・六七・一三七、室四一、普通一泊三、四、五、六圓、茶代廢止、④五圓、家族風呂二、料理兼業)、仙石屋(電宮ノ下二二・二〇九、室一六、普通一泊二、三、四圓)。

堂ヶ島温泉

神奈川県足柄下郡温泉村堂ヶ島。

〔交通〕 前記宮の下から東へ急坂を下ること約半軒。交通機關は宮ノ下と同じである。

地は海拔二三九米、早川の溪流に枕み恰も谷の底のやうな所で、箱根諸温泉中幽邃第一の境である。附近には溪水の懸つて瀧をなすもの多く、葉蔭の瀧、調の瀧、不動の瀧、三日月の瀧、白糸の瀧などがある。白糸の瀧に通ずる路傍に夢窓國師閑居の跡がある。國師は足利初期の名僧で、鎌倉建長寺を去り此地に草堂を營み幽棲したのである。また早川を隔て、松ヶ岡遊園地もあり、明星ヶ嶽頂上には登ること二軒で達する。〔特色〕 行樂向。

一七米、早川の水より高きこと一一〇米の淺間山北麓の臺地にあつて、川を隔て、明神、明星の峯嶺東北方に長く連り、鷹ノ巢山の連峯西南から東に走つて湯坂山に續くとこる、その据合の間から相模灣の寸碧が見渡される。地はまた箱根の温泉の中央、交通の要路に當つてゐるので、その繁華な事は箱根隨一で、此處に宮ノ下御用邸がある。

御用邸を隔て、すぐその西に續いて底倉温泉があり、八千代橋を以て通じてゐる。その八千代橋下百米の深谷を穿つてゐるのは蛇骨川と云ひ、蘆の湯附近の阿字池に源を發し外輪山と中央火山との間を流れてゐる据合谷で、此處は既に大カルデラの内に入つてゐるのである。大昔に温泉の珪酸分が沈澱して出來た珪華の一種である箱根名物の一「蛇骨石」が此の川から出る。

〔泉質・效能〕 温泉は淺間山麓熔岩の下なる集塊岩から涌出する弱鹽類泉で、無色清澄、微弱な鹹味を有し、温度五二度乃至五七度、太閤湯・三ヶ月湯・熊ノ湯・明治ノ湯等があり、胃腸病・婦人病・リウマチス・腦神經系統諸病等に效がある。〔特色〕 行樂向。

〔旅館〕 富士屋ホテル(純洋式、電宮ノ下二・三九・五九・七九番、室數一二〇、一泊料二食付一人室九圓以上、二人室二〇圓以上、同三食付一人室二九圓一七圓、二人室二五圓一二七圓、風呂付一人室一九圓一二二圓、二人室二九圓一三三圓、特別室一人室二五圓、二人室三五圓、食料朝二圓、晝三圓、夕三圓半、外に手輕なグリル食堂がある。④九圓)。

▲奈良屋(電同四・三三・六三・七七・一四七番、室五三、普通一泊四、五、六圓、④六圓)。

〔附近名所〕 ▲淺間山は宮ノ下背後に聳え、百米程登つた處に熊野神社があり、更に約一軒で頂上に達し、相模灣の蒼波、身籠の翠巒、大島の青嶽も眼裏に入り、朝晩の霞雲に麗しくあつてゐる。

〔泉質・效能〕 温泉は單純泉で、無色透明、微かに鹹味を有し、中性反應を呈する。温度五四度、腦病、胃腸病、婦人病・神經諸病・リウマチス等に效がある。

〔温泉旅館〕 大和屋(電宮ノ下一番、室二三、普通一泊二、三、四、五圓、④四圓)、對星館(電同四六・二〇三番、室二五、普通一泊三、四、五、六圓、④五圓)。

▲東海道線御殿場駅から二七軒、乗合一圓八〇錢、貸切一〇圓五〇錢、所要一時間一五分。

〔泉質・效能〕 温泉は無色透明の弱鹽類泉で、温度三八度乃至四五度、腦病・皮膚病・胃病・神經諸病・リウマチス等に效がある。

〔旅館〕 宮内(電宮ノ下一六、室一一、一泊二圓一五圓、④三圓)。

▲小田原から元湯迄約二軒、自動車の便がある。乗合一圓一〇錢(宮ノ下乗換)、貸切六圓半。また宮ノ下迄は前記電車の便もある。宮の下からは西北六軒八、自動車二五分、乗合四〇錢、貸切二圓半。

▲東海道線御殿場駅から元湯迄約二三軒、宮ノ下行定期自動車の便がある。乗合一圓五〇錢、所要一時間、貸切八圓半。

〔註〕前記一、二とも宮ノ下御殿場定期自動車で仙石停留所より約半軒東南(宮ノ下寄り)で降り、街道から約四〇〇米許り西へ入る。
 ▲早雲山ケーブルカー終點から下湯へ約一軒三、上湯へ約二軒、何れも徒歩にて下る。上湯から下湯へ約七〇〇米、下湯から元湯へ約四軒。

箱根最奥の温泉で、仙石元湯、仙石上湯、仙石下湯、俵石の四ヶ所に分れてゐる。元湯は臺ヶ岳の東麓で、北面から西方へかけて廣々と仙石原が展げ、背後には近く臺ヶ岳小塚山が立つて居る。此地は海拔約六八〇米の高原で、好箇の避暑地であり、仙石原住宅地などが出来て居る。俵石は元湯の東北數百米を距て、早川の溪流を挾んでその左岸の臺地上にある。上湯及び下湯は臺ヶ岳の東麓斜面にあり別境をなして居る。上湯は海拔約八八〇米、下湯は約七一〇米の位置にあり、附近一帯は鬱蒼として大森林で蔽はれ、夏は佛法僧の聲を聞くと云ふ幽邃境である。
 温泉は何れも大湧谷から曳いたものであるが泉量は頗る豊富である。

〔泉質・效能〕 無色透明の酸性鹽類泉で、温度六五度、皮膚病・婦人病・花柳病・神経諸病等に效がある。
 〔温泉旅館〕 ▲俵石―俵石閣(電宮ノ下七〇、室一五、普通一泊四、五、六圓) ●六圓、▲元湯―仙郷樓(電宮ノ下七一、室五五、普通一泊二、三、四、五、六圓) ●四圓半、▲下湯―萬岳樓(電宮ノ下六八、室四五、一泊二、三、四圓) ●上湯―冠峰樓(室二三、一泊同上)。
 〔附近名所〕 仙石原は太古蘆の湖が半月狀の大湖水であつた頃の湖底で、今も標式的の水蝕丘がはつきりと認められ、地質研究上頗る興味のある所であると云はれて居る。その他坂田金時誕生傳説地、富士見の名稱乙女峠があり、その麓にはゴルフ場がある。

リウマチス等に效がある。

〔温泉旅館〕 三河屋(電宮ノ下五・七五・一一五、室數八)、遊覽券指定一泊六圓、普通一泊、四、五、六圓)。
 蘆ノ湯温泉 神奈川縣足柄下郡蘆ノ湯村。

〔交通〕 前記小湧谷温泉と同じ交通経路にある。小湧谷温泉から南へ約四軒八、自動車一五分、乗合四〇錢。
 ▲小田原から約二軒七、自動車乗合一圓三〇錢、貸切七圓半、所要一時間五分。宮ノ下から約七軒九、自動車三〇分、乗合六〇錢、貸切四圓。
 ▲沼津から約三軒三、自動車約二時間、乗合二圓一五錢、貸切一圓。
 ▲元箱根から三軒四、自動車一五分、乗合二五錢、貸切四圓。
 地は海拔八七九米、箱根最高の温泉場で、辨天山、寶藏山、二子山等に圍繞せられ、盛夏尙涼氣に迫るの幽境である。北方一帯の草原は池尻と云ひ、曾て湖水の末端であつたが、今はその一隅に阿字ヶ池を残し蛇骨川の源をなしてゐる。

〔泉質・效能〕 温泉は清澄無比な硫黄泉で、温度四五度皮膚病に特效があり、リウマチス・花柳病・婦人病等にも效がある。

〔温泉旅館〕 松坂屋(電宮ノ下七・八、鶴鳴館とも云ふ、和室七五、洋室三、普通一泊同上、④五圓)、紀伊國屋(電同三・一七六、室七〇、普通一泊二、三、四、五圓、④四圓)。
 〔附近名所〕 附近には新羅三郎の館、多田滿仲の墓、二五菩薩、六道地藏、曾我兄弟の供養塔、虎御前の塔、精進池、養池などがあり、二子山、駒ヶ岳、神山等の中央火口丘にも登られる。
 ▲湯ノ花温泉は神山登山路、穂無平の邊から七、八百米登つた、丁度駒ヶ岳の東麓にある。海拔一、二、三、四、五圓、製達人達の住居が一所あるのみで、湯の花を製造する小舎が一、二戸とその製造人達の住居が一所あるのみである。然し湧出量は極めて豊富である。泉質は明礬含有硫化水素泉で温度五三

箱根 (大湧谷・姥子・蘆ノ湖)

小湧谷温泉 神奈川縣足柄下郡温泉村小湧谷。

〔交通〕 小田原・宮ノ下から蘆ノ湯・箱根町を経て沼津に出る通路に當つて居り、小田原から電車及自動車、沼津から自動車の便がある。
 ▲小田原から約一七軒二、自動車乗合九〇錢、貸切五圓、要四五分。電車一時間、賃七〇錢、電車から温泉場へ近道五五〇米、新道約一軒三、乗合一〇錢。
 ▲沼津から約三六軒八、自動車乗合一圓五五錢、貸切一三圓半、所要約二時間。

三、蘆の湖畔元箱根から約八軒、乗合六五錢、所要三〇分。貸切五圓。
 地は海拔五七六米、神山の支峰蓬萊山山麓の斜面地で、北條氏の城址鷹の巢山及浅間山を直ちに眼前に控へ、眼下に見下す早川の深溪を隔てて明星、明神の翠色と語る箱根温泉中最も眺望美の勝れた處である。此地はまた櫻の名所、附近の斜面地一帯及國道附近に多く、一目千本の眺めなどがあり、また五、六月頃の蓬萊山、蓬萊園にかけては各種のツ、シ多く、浅間山、鷹の巢山の山腹には楓樹が多く、温泉場から二〇〇米程下手の蛇骨川上流に千條の瀧があり、また附近の箱根山には昔新羅三郎義光が奥州下向の砌、豊原時秋に笙の秘曲を授けたといふ有名な笛塚がある。千條瀧の所から鷹ノ巢山へは登路約一軒、それから山上の平地を歩いて湯坂道を下りて湯本温泉に出る六軒の道は早川、須雲の兩溪を歐下し乍ら一步毎に景觀を新にする好箇の遊覽道路である。

〔泉質・效能〕 温泉は今から三〇年程前小地獄の噴氣孔から熱氣を引いたもので、無色透明の酸性收斂綠礬泉で、温度八二度、貧血症・胃病・神経諸病・皮膚病・婦人病、度、殆ど無色透明で、リウマチス、神経痛、花柳病、皮膚病、婦人病等に效があると云ふ。
 ▲二子山……蘆の湯の南に鑿え、西北にあるを上二子山又は表二子山と云ひ、東南にあるを下二子山、或は裏二子山と呼んでゐる。山上には約四〇〇米直徑の火口がある、その中に圓頂丘が登って殆ど火口全體を埋めてゐる。標高一、〇九一。

強羅温泉 神奈川縣足柄下郡宮城野村強羅。

箱根登山電車終點所在地で、小田原から電車の便がある。
 小田原強羅間電車一時間一分、賃片道八〇錢、自動車は貸切がゆく。宮ノ下から一圓半、小田原から五圓。
 地は海拔七八八米、早雲山東北麓の傾斜地に位し、遙か早川の溪谷を俯瞰し、明神、明星の二峰に相對して眺めがよい。驛の近くに箱根登山鐵道會社經營の遊園地があり、その周圍は別荘地として、漸次發展して居る。

〔泉質・效能〕 温泉は約二軒の大湧谷から曳いたもので、酸性鹽類泉で、温度六六度、腺病・痛風・リウマチス・婦人病・花柳病等に效がある。

〔温泉旅館〕 觀光館(電宮ノ下三二・一六〇番、一泊四圓均一、茶代廢止、④四圓)、一福(電同三三・一四四、室一〇、④四圓)、倉田(電同四〇、室一二、普通一泊三、四、五圓、茶代廢止、④四圓)、紅葉館(電一七一番、室二五、普通一泊三、四、五、六圓)、小高庵(電五〇、室一五、一泊三、四、五圓)、吉濱(電同三三、室一〇、一泊二、三、四、五圓、茶代廢止、一泊二、三、四圓)、翠光館(電一六三、室七、一泊二、三、四圓)。
 〔附近名所〕 ▲強羅公園……和洋二様の遊園地で音楽堂、動物舎、水泳場、兒童遊戯場、簡易食堂及大浴場(入浴料一人一〇錢貸切湯五人迄一圓)等の設備がある。

大湧谷 ケーブルカー終點「早雲山」驛から西南約二軒、徒歩一時間位

箱根町は蘆ノ湖の東南岸。(海拔七二五米)にあり往時の東海道五十三次中の有名な宿場で、元和四年頃開けた所である。今は昔日の繁榮を見る事は出来ないが避暑に又紅葉狩に客を迎へて居る。

〔旅館〕箱根ホテル(電箱根三番、和室一八、二食付一泊三圓乃至八圓。洋室一七、三食付八圓乃至一六圓。晝食A二圓半、B二圓、C一圓半、ランチ一圓、遊覽券指定一泊四圓)、古谷(電同二七番、一泊二圓一四圓)

元箱根

〔交通〕前記箱根町と同一である。

▲沼津から約二八六、自動車一時間二五分、乗合一圓九〇錢、貸切九圓
▲小田原から約二五九、自動車一時間二五分、乗合一圓五五錢、貸切一〇圓

▲熱海から約二三九、自動車一時間、乗合一圓、貸切一〇圓。箱根町から東北約一六六、自動車五分、乗合一〇錢。

元箱根は舊東海道の一村落で、蘆の湖に臨み、権現の森の突出と、塔ヶ島半島によつて抱かれ、水面靜かに白扇の如き美峰富士はその影を宿して實に得がたい風致を見せ倒さ富士を賞するところである。

〔旅館〕橋本屋(電箱根八番、③三圓)、松坂屋(電同二番、③三圓)、武藏屋(電二、②二圓半)、金波樓(電一四)、以上普通一泊二、三、四、五圓。

十國峠 熱海驛から熱海峠(海拔六一四米五六)まで約六六、そこで大場道と岐れて右に約一杆餘で達する。熱海驛から自動車三五分、乗合六〇錢(箱根町行定期乗合)。

小徑がある。

箱根舊道

湯本の五一六百米手前の三枚橋で左に折れ、須雲川に沿ふて登り元箱根に至る約一杆の間は所謂箱根八里中の最難關とされ、此處を上下した人々がいろ／＼と悲喜劇を演じた處である。箱根八里とは小田原の宿から三島の宿迄を云つたもので、一日の行程とされた處であるが、今は自動車を通じ、小田原から元箱根迄一時間、それから三島迄一時間一〇分、合計僅か二時間餘で達する。途中に早雲寺があり、湯本茶屋、須雲川、畑宿等の部落を過ぎて裏三子山の麓にゆけば甘酒茶屋がある。神崎與五郎東下りの時呑んだ、とか云ふ茶碗の古物を見せて呉れる。

石橋山古戰場

東海道線早川驛の南二杆、乗合自動車一五錢。同根府川驛の北一杆、早川村石橋にある。

治承四年源頼朝が大庭景親の兵と戦つて敗戦した處で、頼朝の部下佐奈田興一義忠が敵の先陣保野五郎景久と格闘し戦死した「ねぢり畑」と稱する處がある、その北に接し興一を祀つた「佐奈田神社」がある(街道に面した石段坂を二〇〇米許り上る)

小田原

神奈川県足柄下郡小田原町。東京驛から豫急で一時間二〇分(八三杆九)、三等一圓三一錢。此處はむかし、「箱根關」の西麓の宿場三島に對して東麓の重要宿場として榮えた處であるが、大正大震災後、名物「虎屋の八棟造」をはじめ、古い昔の佛は大抵消え失せて、市街は綺麗になつてゐる。

〔名所〕▲小田原城址 小田原驛の南四三〇米。城は明應四年北條早雲が此處に據つて箱根の險を扼し、以て關東に覇を唱へた處であつたが、天正一八年豊臣秀吉に攻められて落城し、江戸時代には大久保氏の居城となり明治維新に及んだものである。大正一二年の大震災の折、壁壘の大部分崩壊し、今、本丸高天守臺、二の丸及び内外濠の址が残存してゐるが、内城の一部は宮内省の用地となり、外濠の東南部は女學校、小學校の敷地となつてゐる。

▲報徳二宮神社 小田原驛の南約八六〇米、バス(一〇錢)及電車の便がある停留所から一五〇米。小田原城址の南端、勝景の地にあり、二宮尊徳翁を祀る縣社で、明治二七年創建の明神造りである。

▲二宮尊徳翁舊跡 酒匂川の右岸、櫻井村栢山にあり、小田原驛から約六杆

八月、日金山から鞍掛山に連る尾根傳ひの兩側に自動車専用道路(熱海峠―箱根時間約九杆六)が出来たので、優秀なバスの中から秀峯富士を仰ぎ、左手には三津や靜浦の海濱を繪の如く眺めながら箱根へドライブする事が出来る様になつた。

〔熱海・箱根間自動車〕(駿豆鐵道株式會社自動車部 電話：箱根營業所一七番、熱海營業所七四六番)

▲熱海驛前發前八・〇六から後五・一五迄二回、其他夏季及休日には臨時が數回出る。

▲熱海峠迄三〇分、五〇錢、十國峠迄三五分、六〇錢、池之平迄四〇分、八〇錢、箱根峠迄五〇分、一圓、箱根町迄五五分、一圓、元箱根迄一時間(二三杆四)一圓。

▲元箱根發前八時から後五時迄一二回、其他夏季休日には臨時數回出る。

▲箱根町迄五分、一〇錢、箱根峠迄一〇分、二〇錢、池の平迄二〇分、四〇錢、十國峠迄二五分、六〇錢、熱海峠迄三〇分、七〇錢、熱海驛迄一時間、一圓。

▲専用道路通過料(熱海峠―箱根時間) 乗用車五人迄八〇錢、一五人迄一圓五〇錢、一六人以上二圓五〇錢。

●箱根遊覽自動車(熱海發―蘆の湖一週―熱海着) 一人二圓五〇錢、熱海發朝九時、歸着後四時。

乙女峠

仙石原から約二杆七、麓の姥ヶ茶屋から電光形に約二杆程で達する。その斜面は所謂火口内壁であるので頗る急峻で、往々にして四〇度の勾配をなし「山路二八丁」など、稱されてゐる。標高一、〇〇〇米の峠からは、御殿場や駿河驛等から見た富士よりも更に雄大・端麗な「乙女峠の富士」が全盛装をこらして双眸に入るのである。

此處から御殿場驛へは下り約一〇杆の徒歩である。

長尾峠

箱根宮ノ下から御殿場へ通ずる要路で、日々定期バスが通つてゐる。峠は約一〇〇間のトンネルで越えて居り、眺望は略乙女峠と同じで、此處に展望閣が設けられてゐる。標高九〇三米。宮の下から約二八杆、御殿場驛から約一四杆、また約四杆で湖尻に下りる山徑がある。

金時山 傳説にある坂田金時の薙鬚の山で、標高一、二一三米、仙石原から鞍掛山から頂上まで約三杆八。

八、自動車賃切一圓半、小田原電車栢山驛の北四〇〇米(小田原―栢山八分、一二錢)又は大雄山鐵道の栢原驛から東約一杆六の地點にある。翁の生家は、でに桑園に變じてしまつたが一基の小祠がその所在を明かにしてゐる。また翁が少年時代學んだと云ふ善樂寺はその北約一〇〇米の所にあり、翁の遺品を所蔵して居ると云ふ。翁は通稱金次郎と云ひ、世に報徳先生また報徳翁と云ふ。天明七年七月、利右衛門を父として栢山村に生れ、安政三年一〇月二〇日歿す。歳七一。野今市の如來寺に葬る。

〔名物〕梅干、鹽辛、蒲鉾、外郎、箱根細工。

〔旅館〕藤館(驛から一杆四、電一一、室一一、一泊三圓、五圓、料理兼業)、清友館(驛二五〇米、電八七四、室二四、一泊一圓半―三圓) 小伊勢屋(驛八八〇米、電一一〇、室一七、一泊一圓半―三圓)、山本館(驛七七〇米、電二六八)。

松濤園(酒匂にあり、國府津から小田原行の自動車で松濤園前下車、一〇分間、賃二〇錢。電話國府津九番、一泊三、四、五、六圓)。

大雄山最上寺

(小田原道了薩埵(曹洞宗) 神奈川県足柄上郡南足柄村。▲小田原驛から關本を経て山麓飯澤迄約一〇杆四、定期乗合にて三五分賃片道四〇錢往復七〇錢(一日二〇回)、賃切頂上迄五圓、又は小田原驛から關本迄大雄山鐵道の便がある、所要二二分(九杆四)、賃金片道二八錢。

▲御殿場線松田驛又は小田原電車新松田驛から飯澤迄約七杆、自動車二五分、乗合片道三五錢、往復六五錢(一四人乗及五人乗一日二〇回發) 賃切五人乗片道三圓、往復五圓。

▲山麓飯澤から山頂本堂迄を「山路二八丁」と稱し、登山二丁目石造鳥居形の惣門、三丁目に仁王門があり、一七丁目の天狗坂は眺望最も勝れてゐる。

寺は箱根外輪山の一峰明神岳(一一六五米七)の東北側標高三二九米の中腹にあり、應永元年了菴慧明禪師(相州禮谷の人)の開基である。その當時は大綱一二派、報恩七派の門葉實に四千餘刹に達したが、現在でも曹洞宗一萬四千ヶ寺

の1/4を占め、宗内に於ては永平寺・總持寺兩大本山に次いでゐる。以前は堂塔十有餘棟、老杉の間に輪奐の美を誇つて居たのであるが、關東大震災の折大半を烏有に歸し、目下開山堂・本堂・御眞殿・書院・表門等復興改築中である。

當山第五世春屋禪師の「本木を截るは頸を截るべく、枝を截るは手足を截るべく」と戒めた伐木禁制の掟が履行せられて満山杉・檜・松・榎・樺・椴等の巨木蒼鬱として茂り、その境域山林實に一一、〇〇〇アール(一一〇餘町歩)に達してゐる。

毎月二七・八日を祭日とし、殊に一・五・九月の二七・八日は大祭を執行し徹夜參詣する者が多い。

湯河原温泉

神奈川県足柄下郡湯河原町。

▲湯河原驛から西へ上り三軒二、自動車で一五分、乗合二〇錢(列車毎)、五人乗貸切一圓二〇錢。

▲小田原から二四軒一、富士箱根自動車で一時間二〇分、定期一日四往復運轉、料金乗合八〇錢。

▲湯河原温泉―湯河原驛―伊豆山―熱海間一二軒九、富士箱根自動車で四〇分、定期一日二十數回運轉、料金乗合四五錢。

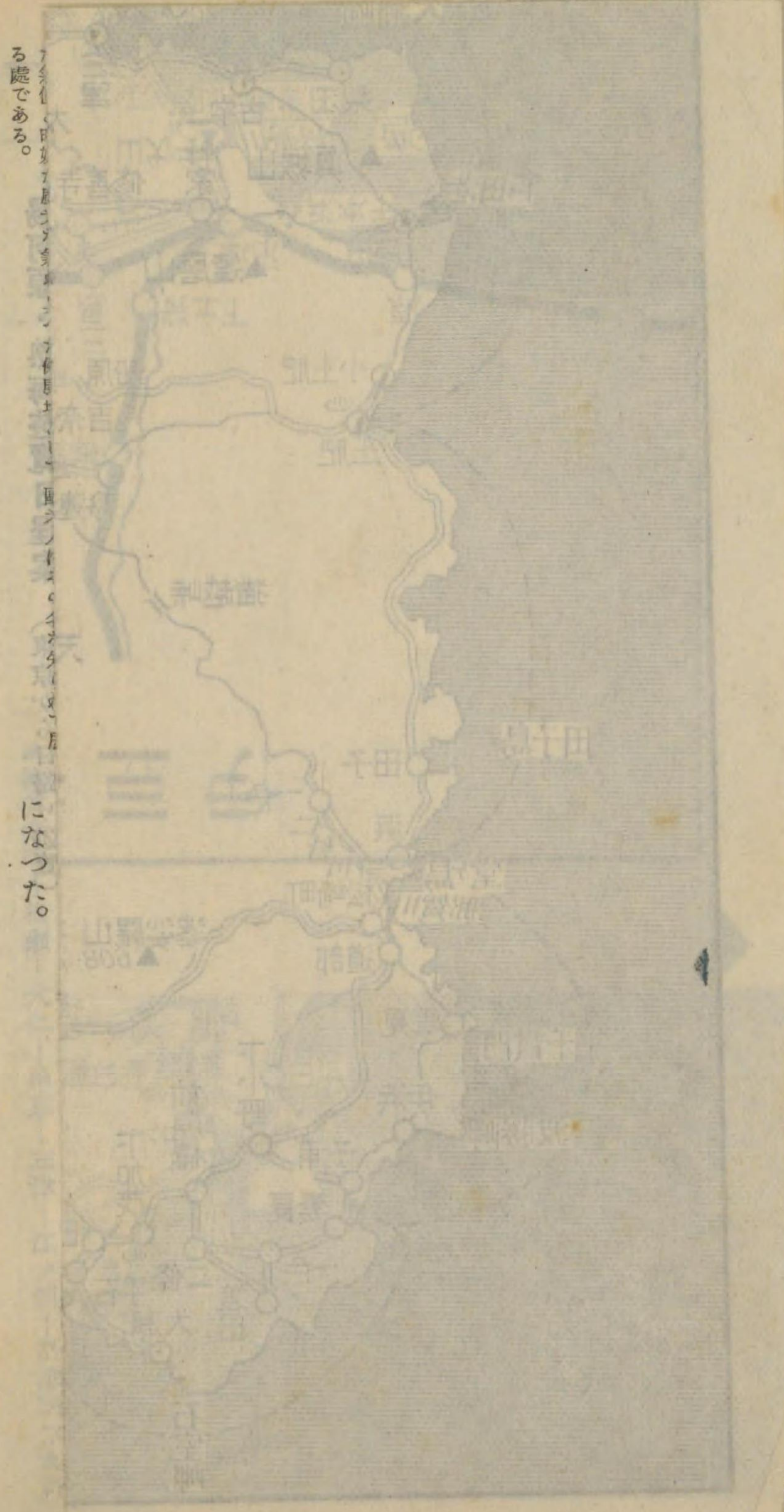
地は南西北の三面は箱根山、日金山等の連疊重疊して藤木川に臨み東南の一方が展けて相模灘を望んでゐる閑靜な温泉場である。此の温泉は一口に湯河原と云つて居るが藤木川が神奈川縣と靜岡縣の境をなすので、其左岸が湯河原右岸を泉と云つて居る。尙ほ湯河原は旅館專業であるが、泉には碎けた遊興氣分がある。

〔泉質・效能〕 温泉は輝綠岩の罅隙から涌出する無色透明の弱鹽類泉で、溫度四九度乃至八八度、傷創に特效があり、リウマチス・痔・胃腸病・呼吸器病・婦人病等にも効果がある。〔特色〕 行樂並に療養向。

〔旅館〕 天野屋本館(電湯河原一〇・二〇・五〇、④四圓、室數四〇、普通一泊四圓一六圓)、天野屋新館(電二一・三一・三一、室八〇、普通一泊五圓一八圓)、中西(電同五・五二・一一九、室二五、④四圓、普通一泊四圓一七圓)、富士屋(電同九・五五・一〇九、④四圓、普通一泊四圓一六圓)、伊藤屋(電四・七六、室二四、④四圓、普通一泊三圓半一七圓)、敷島別館(電同三・二三、室二〇、④三圓、普通一泊三圓一五圓)、上野屋(電二、室三三、④三圓、普通一泊三圓一五圓)、伊豆屋(電一二、室三〇、④三圓、普通一泊二圓半一五圓)、遠州屋(電同七、室三三、④三圓、普通三圓一五圓)、高杉(④三圓半)、藤田屋(電同八、室二〇、④四圓)、箱根屋(電一一、室四〇、④三圓)、梅ノ湯(電一四、室一一、湯河原ホテル(電一五七、和室二一、洋室七、一泊三圓一五圓、洋室代五圓)、青嶺莊(電一一八、室二四、四圓一五圓)、相模屋(電四七、室二〇、二圓半一四圓)、東屋(電七四、室一一、一圓二〇錢一三圓)、湯河原會館(電七三、室一九、三圓一六圓)(以上何れも貸切湯の設備がある)等。

〔附近名所〕 土肥の大杉(頼朝が石橋山の敗戦で隠れたと云ふ) 城願寺、五段瀧(高さ十丈、五段に流下す)、不動瀧(高さ五〇丈餘、保善院(大蘇鐵あり)、十國峠(峠を越え山路二〇軒で箱根蘆の湖畔に出る)。湯河原公園、隠居梅園等。

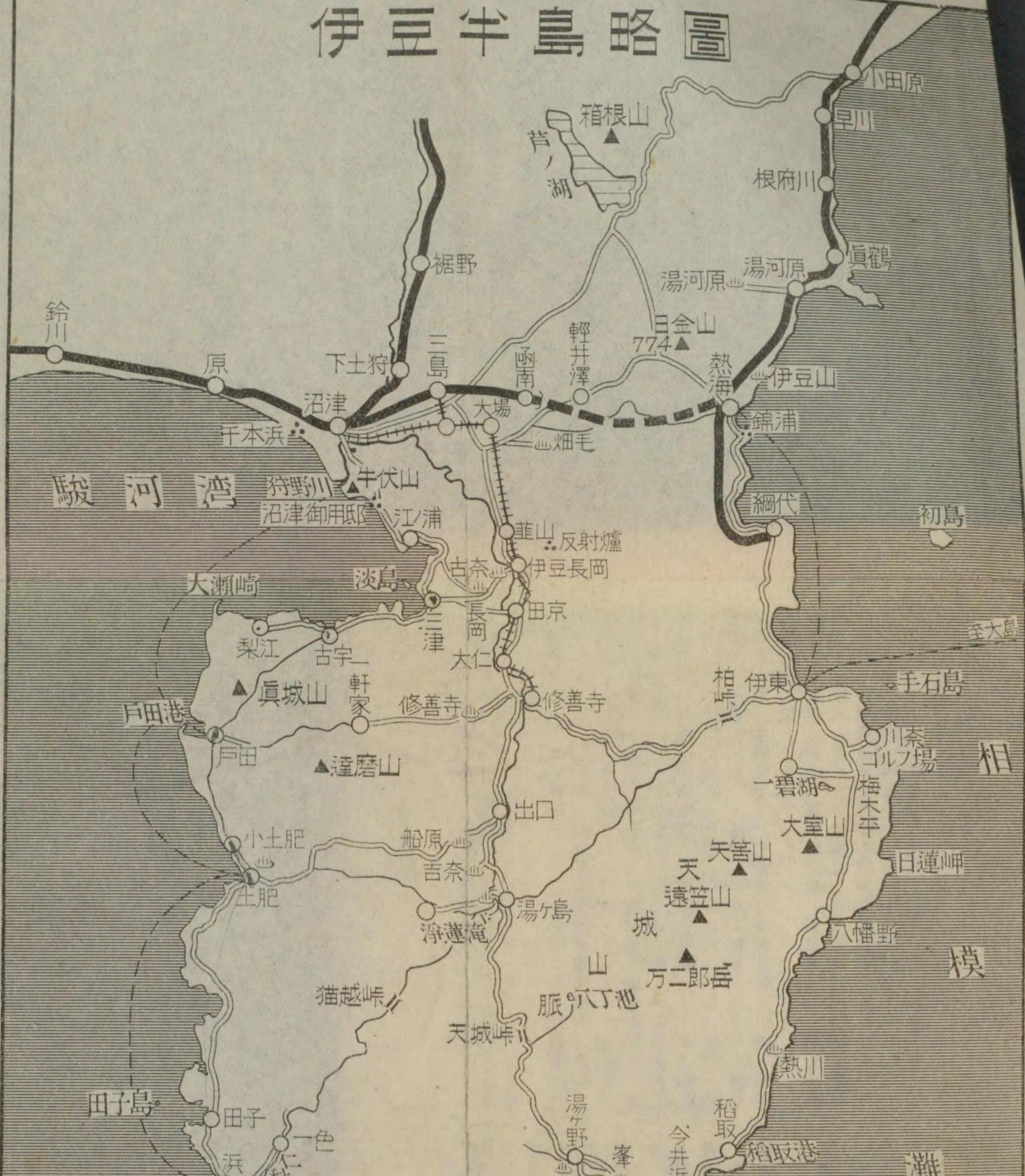
〔名物〕 樟木細工、笹飴、山葵漬、蜜柑。



る處である。

になつた。

伊豆半島略圖



湯河原

の14を占め、宗内に於ては永平寺・總持寺兩大本山に次いでゐる。以前は堂塔十有餘棟、老杉の間に輪奐の美を誇つて居たのであるが、關東大震災の折大半を烏有に歸し、目下開山堂・本堂・御眞殿・書院・表門等復興改築中である。

當山第五世春屋禪師の「本木を截るは頭を截るべく、枝を截るは手足を截るべく」と戒めた伐木禁制の掟が履行せられて満山杉・檜・松・楓・樺・檜等の巨木蒼鬱として茂り、その境域山林實に一一、〇〇〇アール(二〇餘町歩)に達してゐる。

毎月二七・八日を祭日とし、殊に一・五・九月の二七・八日は大祭を執行し徹夜參詣する者が多い。

湯河原温泉

神奈川県足柄下郡湯河原町。

▲湯河原から西へ上り三軒二、自動車で一五分、乗合二〇錢(列車毎)、五人乗貸切一圓二〇錢。
 ▲小田原から二四軒一、富士箱根自動車で一時間二〇分、定期一日四往復運轉、料金乗合八〇錢。
 ▲湯河原温泉―湯河原―伊豆山―熱海間一三軒九、富士箱根自動車で四〇分、定期一日二十數回運轉、料金乗合四五錢。

地は南西北の三面は箱根山、日金山等の連巒重疊して藤木川に臨み東南の一方が展けて相模灘を望んでゐる閑靜な温泉場である。此の温泉は一口に湯河原と云つて居るが藤木川が神奈川縣と靜岡縣の境をなすので、其左岸が湯河原右岸を泉と云つて居る。尙ほ湯河原は旅館專業であるが、泉には碎けた遊興氣分がある。

明りが 〇、 普、 一、 二、 三、 四、 五、 六、 七、 八、 九、 十、 十一、 十二、 十三、 十四、 十五、 十六、 十七、 十八、 十九、 二十、 二十一、 二十二、 二十三、 二十四、 二十五、 二十六、 二十七、 二十八、 二十九、 三十、 三十一、 三十二、 三十三、 三十四、 三十五、 三十六、 三十七、 三十八、 三十九、 四十、 四十一、 四十二、 四十三、 四十四、 四十五、 四十六、 四十七、 四十八、 四十九、 五十、 五十一、 五十二、 五十三、 五十四、 五十五、 五十六、 五十七、 五十八、 五十九、 六十、 六十一、 六十二、 六十三、 六十四、 六十五、 六十六、 六十七、 六十八、 六十九、 七十、 七十一、 七十二、 七十三、 七十四、 七十五、 七十六、 七十七、 七十八、 七十九、 八十、 八十一、 八十二、 八十三、 八十四、 八十五、 八十六、 八十七、 八十八、 八十九、 九十、 九十一、 九十二、 九十三、 九十四、 九十五、 九十六、 九十七、 九十八、 九十九、 一百。

の14を占め、宗内に於ては永平寺・總持寺兩大本山に次いでゐる。以前は堂塔十有餘棟、老杉の間に輪奐の美を誇つて居たのであるが、關東大震災の折大半を烏有に歸し、目下開山堂・本堂・御眞殿・書院・表門等復興改築中である。

當山第五世春屋禪師の「本木を截るは頸を截るべく、枝を截るは手足を截るべく」と戒めた伐木禁制の掟が履行せられて満山杉・檜・松・椴・樺・榎等の巨木蒼鬱として茂り、その境域山林實に一一、〇〇〇アール(一一〇餘町歩)に達してゐる。

毎月二七・八日を祭日とし、殊に一・五・九月の二七・八日は大祭を執行し徹夜參詣する者が多い。

湯河原温泉

神奈川県足柄下郡湯河原町。

▲湯河原驛から西へ上り三軒二、自動車で二五分、乗合二〇錢(列車毎)、五人乗切一圓二〇錢。

▲小田原から二四軒一、富士箱根自動車で一時間二〇分、定期一日四往復運轉、料金乗合八〇錢。

▲湯河原温泉―湯河原驛―伊豆山―熱海間一二軒九、富士箱根自動車で四〇分、定期一日二十數回運轉、料金乗合四五錢。

地は南西北の三面は箱根山、日金山等の連疊重疊して藤木川に臨み東南の一方は展げて相模灘を望んでゐる閑靜な温泉場である。此の温泉は一口に湯河原と云つて居るが藤木川が神奈川県と静岡縣の境をなすので、其左岸が湯河原右岸を泉と云つて居る。尙ほ湯河原は旅館專業であるが、泉には碎けた遊興氣分がある。

〔泉質・效能〕 温泉は輝綠岩の罅隙から涌出する無色透明の弱鹽類泉で、溫度四九度乃至八八度、傷創に特效があり、リウマチス・痔・胃腸病・呼吸器病・婦人病等にも効果がある。〔特色〕 行樂並に療養向。

〔旅館〕 天野屋本館(電湯河原一〇・二〇・五〇、④四圓、室數四〇、普通一泊四圓一六圓)、天野屋新館(電二一・三一・三一、室八〇、普通一泊五圓一八圓)、中西(電同五・五二・一一九、室二五、④四圓、普通一泊四圓一七圓)、富士屋(電同九・五五・一〇九、④四圓、普通一泊四圓一六圓)、伊藤屋(電四・七六、室二四、④四圓、普通一泊三圓半一七圓)、敷島別館(電同三・二三、室二〇、④三圓、普通一泊三圓一五圓)、上野屋(電二、室三三、④三圓、普通一泊三圓一五圓)、伊豆屋(電二、室三〇、④三圓、普通一泊二圓半一五圓)、遠州屋(電同七、室三三、④三圓、普通三圓一五圓)、清香園(電同三・二・六七、室二五、④三圓、普通三圓一五圓)、高杉(④三圓半)、藤田屋(電同八、室二〇、④四圓)、箱根屋(電一、室四〇、④三圓)、梅ノ湯(電一四、室一一、湯河原ホテル(電一五七、和室二一、洋室七、一泊三圓一五圓、洋室代五圓)、青嶺莊(電一一八、室二四、四圓一五圓)、相模屋(電四七、室二〇、二圓半一四圓)、東屋(電七四、室一一、一圓二〇錢一三圓)、湯河原會館(電七三、室一九、三圓一六圓)(以上何れも貸切湯の設備がある)等。

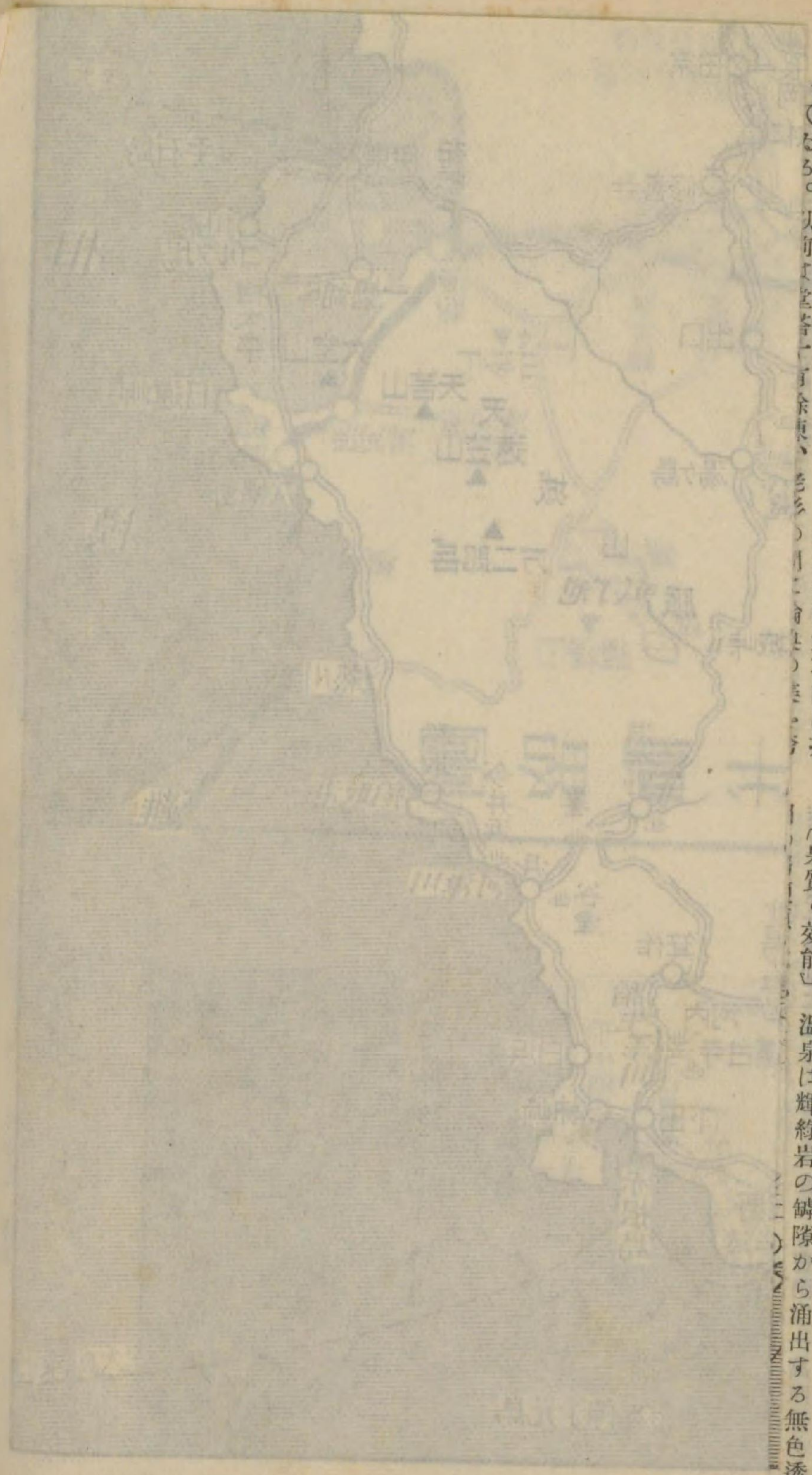
〔附近名所〕 土肥の大杉(頼朝が石橋山の敗戦で隠れたと云ふ城願寺、五段瀧(高さ十丈、五段に流下)、不動瀧(高さ五〇丈餘、保善院(大蘇鐵あり)、十國峠(峠を越え山路二〇軒で箱根蘆の湖畔に出る)。湯河原公園、隠居梅園等。

〔名物〕 榊木細工、笹簞、山葵漬、蜜柑。



の14を占め、宗内に於ては永平寺・總持寺兩大本山に次
でゐる。又河原を管する全境、多岐に亘る。

〔泉質・效能〕 温泉は輝緑岩の罅隙から涌出する無色透



伊豆半島

伊豆半島は、相模・駿河兩國の間、即ち小田原から沼津
に向つて引いた一線から南に舌状をなして太平洋中に突出
し、相模灣と駿河灣とを分つて居る一大半島で、面積凡そ
一、六一五方軒、東西約二九軒（七里二丁）、南北約五六軒
（二四里餘）、初島・神子元島・大島・利島・新島・神津島・
三宅島・御倉島・八丈島等の所謂伊豆七島を有し、人口二
四〇、八四三（昭五・一〇）を擁して居る。本地は行政上静岡
縣の一部をなし田方・賀茂の二郡に區分せられ、伊豆七島
は東京府に屬して居る。

伊豆はその位置が恰も日本群島の中部に當り、殊に太平
洋岸の一大突起をなして地形上特殊の地位にあるので割合
に古くから開け、幾多の史蹟を留めて居り、また近代に於
ける日本と西洋文明の接觸は、半島の南端なる下田の港に
その緒を開き、明治外交史上に第一頁を飾るの榮譽を得て
居るのである。加之、半島内には到る處に温泉涌出し、氣
候温暖、海岸は風光明媚にて「日本リヴィエラ」（註參照）の
稱さへあり、また半島一周の自動車路も最近殆んど全通し
て遊覽地としても保養地としても本邦罕に見るの優越地歩
を占めて居る。

〔註〕リヴィエラとはフランスのニースからイタリーのスペチヤに至る海岸
の狭地帯で、北にアルプスの峻峯を帯び、南は地中海のゼノア灣に臨み、温暖
な氣候と明媚な風光を兼ね具へた健康地として歐米人にその名を知られて居
る處である。

伊豆半島

伊豆遊覽日程案

伊豆半島はその中央に蟠居する天城の大火山を境として
地形上南北の二部に分たれ、交通系統に大なる相違がある
のである。北伊豆はまた口伊豆、南伊豆は奥伊豆とも呼ば
れて居る。

口伊豆は沿岸の狭地帯を除く外、殆んど狩野川の流域に
當る廣い耕地を控へて居るので、人口も稠密であり、農業
も亦盛んである。交通機關また發達して便利よく、殊に最
近熱海峠から箱根峠に至る十國峠の自動車専用道路が開通
してからは僅か一時間足らずで天下の名勝箱根と伊豆の兩
者を結ぶ事となつた。

奥伊豆は山岳重疊して狩野川の如き河流がなく、僅かに
數條の小流を持つのみであり、之等の水系も多くは斷層谷
の特徴を備へて直線のコースを取つて居る上に谷間は幅狭
く、灌漑の便ある平地に乏しいので、陸上交通の便を缺き
口伊豆方面との自動車路は只天城越えの下田街道があるの
みであつた。然し近年は道路次第に改修され、各河筋は殆
んど自動車の運轉を見ない所はないと云つてもよく、また
海岸を一周する路線も着々改修せられて居り、昭和八年夏
には伊東―熱川間をつなぐ東海岸線の自動車道路完成し、
熱海から下田迄東海岸に沿ふてドライブする事が出来る様
になつた。

湯河原・熱海遊覽日程案 (東京から日帰り遊覽)

地名	發着時刻	摘要	備考
(往き) 東京驛	發前 八・一〇	沼津行準急行	▲東京―湯河原一時間三五分(九九料一)、三等普通片道一圓五一錢 (註) 毎土曜日二限り新宿驛發後二時ノ週末温泉列車(湯河原着三・五〇熱海着三・五七、往復運賃特別割引)及東京驛發後二・一〇、湯河原着後三・四四、熱海着後三・五一ノ準急行列車ガ運轉サレルカラ週末一泊旅行ノ場合ニハ此ノ列車ニ乗車サレルガヨイ。
湯河原驛	着前 九・四五 發前 九・五〇	下 乗合自動車	▲湯河原驛カラ湯河原温泉場ヘ西上リ三料二、自動車一五分、乗合二〇錢(列車毎)五人乗貸切一圓二〇錢。
湯河原温泉	着前 一〇・〇五 發後 一・〇〇	遊覽、晝食 乗合自動車	▲湯河原温泉(一四頁参照)。
伊豆山	發後 一・四三	同	▲湯河原温泉カラ伊豆山經由熱海ヘ自動車乗合ニテ所要五〇分、乗合四五錢。
熱海	着後 一・五五	遊覽	▲東京―熱海一時間四五分(一〇四料六)、三等普通片道一圓五八錢 熱海驛カラ熱海温泉場ヘ牛軒餘(下り道)自動車乗合一〇錢(列車毎)貸切五〇錢。 ▲熱海温泉(一二三頁参照)。

(歸り) 熱海驛 發後 四・〇〇 湯河原驛 發後 四・〇七 東京驛 着後 五・四五
(此ノ列車ハ毎日曜日及祭日ニ限リ運轉サレル準急行列車デアアル)
(平日ニハ熱海發後五・〇〇東京着後六・四二ノ準急行列車ガアル)

旅行費用概算

(イ)東京―湯河原往復(汽車・自動車往復費ノ外(以上備考欄参照)旅館費) 二等 八・四四 三等 四・四二
(ロ)東京―熱海往復(同右) 二等 八・五二 三等 四・三六

(ハ)東京―湯河原―熱海廻遊(▲鐵道、東京―湯河原、熱海―東京間▲自動車、湯河原驛―湯河原温泉―熱海町―熱海町食料其他トシテ三圓宛ヲ計上ス) 二等 九圓九三錢 三等 六圓八四錢

(註) 週末一泊旅行ノ場合ハ下記宿泊料追加ノコト。湯河原甲旅館四圓、乙旅館三圓、二圓半、二圓ノ三種、熱海甲旅館五圓、四圓、三圓半ノ三種、乙旅館二圓半(以上ツリリスト・ビュロー發賣旅館券一泊二食付料金)

口伊豆温泉めぐり日程案 (遊覽券利用) (東京から週末二日の旅)

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京驛	發後 二・一〇	熱海行土曜日準急	▲東京―熱海間準急行列車ニテ一時間四一分(一〇四料六)三等普通片道一圓五八錢。 一註 毎週土曜日新宿發後二時、品川發二・二五熱海着三・五七、三島四・一五沼津着四・二二ノ週末温泉列車ガアル。料金ハ特別割引ニテ歸リノ列車ハ自由。週末以外ノ日ニ乗車ノ場合ハ東京驛發後三・一〇ノ米原行進行ガヨイ、熱海着後五・〇四
	熱海驛	着後 三・五二 發後 三・五五	下 東海バス	▲熱海―伊東間二五料二、自動車一時間乗合普通片道八〇錢、列車毎ニ大型バス運轉ス(省線主要驛ト連帶切符發賣ス)貸切一臺四圓半。
	伊東町	着後 四・五五	宿泊	「註」熱海―網代間汽車(八料七) 東京―網代間三等一圓七〇錢。網代―伊東間バス五〇錢。
	伊東町	發前 九・一〇	修善寺温泉行東海バス	▲伊東―修善寺町間二七料七、自動車一時間二〇分、乗合普通片道一圓二五錢(前六・〇〇頃カラ後六時一〇迄一日一四回發、貸切一臺五圓五〇錢)。
第2日	修善寺町	着前 二・一〇	一浴、晝食	▲修善寺町―横瀬―大仁―田京―三津―江ノ浦―沼津間二九料

日 2	
修善寺町	發後 二・四〇
三津	發後 三・一八
沼津驛	着後 四・〇〇 發後 四・三〇
東京驛	着後 六・四二
東京行準急列車	歸宅

五、自動車一時二〇分、乗合一圓（前六・四〇カラ後七・四〇迄一日一四回發、但三津カラ沼津行ハ一七回アル）

三津濱（一三八頁參照）、江ノ浦（一三八頁參照）。

▲沼津—東京間 汽車二時間一二分（一二六頁參照）、三等普通一圓八七錢。

〔參考〕

沼津カラ富士箱根自動車又ハ東海自動車定期乗合デ三島町、山中經由箱根町ニ出テ箱根ニ遊ビ、小田原カラ歸ルモヨイ。沼津驛カラ元箱根迄二九斤三、所要一時間二〇分、乗合一圓六〇錢（箱根ハ九八—一三三頁參照）。

旅行費用概算

三二 等 二一五・〇三三

内譯 遊覽券（前記經路ニ要スル乗物賃全部及伊東一泊料 三圓半ヲ含ム）二等一圓一三錢、三等九圓〇三錢 食料其他雜費トシテ概算三圓宛ヲ計上ス

奧伊豆温泉めぐり日程案 其一（遊覽券利用東京から三日）

日 1 第	
湯ヶ島	着後 七・〇五
修善寺驛	發後 六・一五 着後 六・〇五
三島驛	發後 五・二七 着後 五・二四
東京驛	發後 三・一〇
米原行列車	乗換
駿豆電車	下湯ヶ島行バス
宿泊	

▲東京—三島間二時間一四分（一二〇斤七分）、三等一圓七九錢

▲三島—修善寺驛間駿豆鐵道電車テ三八分（一九斤八）賃五六錢（並等車ノミ）。

▲修善寺驛カラ湯ヶ島温泉へ約一二斤九、東海バスデ五〇分、賃片道六〇錢、一日一九回、貸切二圓八〇錢。

〔註〕三島—横瀬（乗換）湯ヶ島間東海バス一時間半、賃一圓三〇錢（二四回）湯ヶ島温泉（一三一頁參照）旅館落合樓（三三圓）

考

日 2 第	
湯ヶ島	發前 八・〇〇
湯ヶ野	發前 九・〇五
峯温泉	發前 九・二〇
谷津温泉	着前 九・二五
濱橋	發前 九・四五
下田	着前 一〇・三五
大野	發後 一〇・三五
日野	發後 一〇・五〇
下田町	着後 四・三五
下田行バス	濱橋行バス
乘換	下田行バス
下車遊覽	下田行バス
東海バス	下田行バス
晝食	下田行バス
宿泊	

▲湯ヶ島—湯ヶ野温泉—峰—谷津—濱橋間約三〇斤、バス一時二五分、一圓五五錢。

▲峯温泉（一三二頁參照）、谷津温泉（一三三頁參照）。

▲濱橋—白濱—下田町間一六斤八、バス五〇分、七五錢、一日一四回。

▲下田—日野—手石—下流—大瀬間一五斤九、バス四五分、六五錢、一日七回定期。

▲大瀬—長津呂間二斤四（近クバス開通ノ豫定）長津呂—石廊岬間二斤餘、徒歩一時間半。

▲石廊岬（三三頁參照）、此附近ハ海岸美ノ絶勝ナナス所デアル。

〔註〕大瀬發下田行終發ハ六時三五分（下田着七時四五分）。

下賀茂温泉ニテ一泊セラル、モヨイ。自動車路分岐地日野カラ下賀茂へ約二斤三。

下田（一三五頁參照）旅館平野屋（三三圓）、ヒユツテ黒船（二圓半）又ハ蓮臺寺温泉（一三四頁參照）等ニテ一泊。

日 3 第	
下田港	發正午
大島	着後 二・〇〇 發後 三・〇〇
東京灣汽船	歸宅
靈岸島	着後 九・〇〇

午前中下田町見物（一三五頁參照）。

柿崎玉泉寺（ハリスガ滞在セシ日本最初ノ米國領事館）—辨天島（吉田松陰ガ米艦ニ投セントシテ身ヲ潜メタ史蹟）—寶福寺（ハリスノ侍妾唐人お吉ノ墓アリ）—了仙寺（日米條約ノ締結地、武山閣アリ）—城山公園（鶴島城跡）—循環道路（下田灣風光佳）—正午下田港出帆—午後九時東京歸着。

▲下田—大島—東京間 東京灣汽船テ九時間半（一五八斤）。

（新造船ヲチバナ丸及丸丸毎日常交五二就航）、賃金片道二圓半、往復四圓半（下田—大島間一圓、大島—東京間二圓。特別室使用料三圓以上）。

旅行費用概算

三二 等 二九〇・一七四

内譯 遊覽券（鐵道、自動車、宿泊、汽船等全部ニテ）二等一圓七三錢、三等一圓四一四錢 食料其他概算 五

奧伊豆溫泉巡り日程案 其二 (遊覽券利用東京から三日)

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京 靈岸島	發後 一〇〇〇	東京汽船大島・ 下田航路 船中一泊	東京市電越前堀停留所カラ東京灣汽船發着所靈岸島へ約一〇〇米
第2日	大島 下田港 下田町 日野 大瀨 日野 大瀨 日野 下賀茂	發前 五〇〇 着前 七〇〇 發後 一三三〇 發後 一三五五 着後 一五一一 發後 一五三〇 着後 一五〇〇 發後 一四四〇 着後 一四一七	下船、朝食 遊覽 大瀨バス行 乗換 下車、遊覽 下田行バス 乗換 前原橋行バス 宿泊	<p>▲東京灣汽船大島・下田航路。 葵丸(八年六月就航ノ新造船テ排水一、五〇〇噸、速力一五哩、特別室、洋室八、家族室日本間四、ソノ他浴室、社交室、ダンスホール、娛樂室等ガアル) 菊丸(七五七噸、定員三六四名)たちばな丸(十年六月就航豫定) 毎日交互ニ運航下田迄六時間(一五八籽)賃金片道二圓五〇錢、往復四圓五〇錢(並等ノミ。食費ヲ含マズ。二人室其他ノ特別室アリ、一人三圓、一室貸切五圓以上)。</p> <p>▲下田町見物(二三七頁參照)。 午前七時下田港着―ヒユツテ・クロフネ(朝食)―枯崎玉泉寺―辨天島―寶福寺―了仙寺―城山公園―循環道路―ヒユツテ・クロフネ(晝食)―午後自動車ニテ下田―手石―小稻―下流―大瀨(此ノ附近ノ海岸美ハ天下ノ絶勝)―長津呂―下賀茂温泉一泊。</p> <p>▲下田―日野―大瀨間一五籽九、東海バス四五分、賃六五錢、一日七回運轉。貸切二圓。 (註) 大瀨ハ乗合自動車ノ終點ニテ石廊岬迄二籽餘、徒歩往復一時間半ヲ要スル</p> <p>▲賽掛島(二三七頁參照) 手石カラ小稻・下流ヲ經テ大瀨ニ至ル間ハ海岸美ノ絶景ヲナス所デアル。</p> <p>▲大瀨―日野間 六籽七、バス二〇分 (日野ニテ下賀茂方面行ハ乗換ヲ要スル) 日野―下賀茂間 約二籽三、バス七分、大瀨カラ三五錢。</p> <p>▲下加茂温泉(一三四頁參照)。</p>
第3日	下賀茂 松崎町 堂ヶ島 同 土肥 ¹ 同 船原 修善寺驛 三島驛 東京驛	發前 七三三 着前 八五五 發前 一〇二〇 着前 一〇三七 發前 一一〇七 着前 一二四七 發後 一三〇四 着後 一四三三 發後 一五〇一 着後 一五二七 發後 一五五七 着後 一六三三 着後 一七〇一	松崎行バス 乗換 修善寺行バス 下車 遊覽 土肥行バス 下車、晝食 修善寺行バス 三島行電車 乗換 東京行列車 歸宅	<p>▲下賀茂―松崎間 約二四籽九、東海バス約一時間半、賃一圓三〇錢(一日四回)。</p> <p>▲松崎―仁科村堂ヶ島間 四籽三、バス一五分、賃二五錢、(一日九回)。</p> <p>▲堂ヶ島―土肥間二四籽八、東海バス一時間、賃一圓、(一日九回)。</p> <p>▲土肥温泉(一三〇頁參照)。</p> <p>▲土肥―船原間 二二籽四、バス一時間、賃八〇錢。(一日八回)</p> <p>▲船原温泉(一三〇頁參照)。</p> <p>▲船原温泉―修善寺驛間 一一籽一、バス三分、賃五五錢。(一日八回)</p> <p>▲修善寺温泉(一二九頁參照)。</p> <p>▲修善寺―三島間 駿豆電車テ三九分(一九籽八)並等五六錢。</p> <p>▲三島―東京間 約三時間(二〇籽七)三等一圓七九錢。 〔註〕 船原又ハ修善寺温泉ニ泊、第四日修善寺カラ伊東、熱海方面又ハ三津、靜浦方面ニ廻遊サル、モヨイ。</p>

旅行費用概算

内 譯

三等 一七・二五

遊覽券(▲汽船―靈岸島―下田間▲自動車―下田―大瀨―下賀茂―松崎―土肥―修善寺) 汽車―修善寺―東京▲宿泊―下賀茂一泊二圓五〇錢
食事料其他雜費トシテ概算

一・二五
六・〇〇

奥伊豆温泉めぐり日程案 其三

(遊覽券利用東京から二日)

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京驛	發前 八・二〇	沼津行準急列車	<p>▲東京―熱海間 準急列車で一時間四五分(一〇四軒六)、三等一圓五八錢。</p> <p>▲熱海―伊東間 二五軒二、自動車一時間、バス八〇錢。</p> <p>▲伊東温泉(一二五頁参照)。</p> <p>▲伊東―八幡野―赤澤―熱川口間 約二七軒四、バス一時間 賃一圓(一日十四回)</p> <p>途中三川奈ゴルフ場(一二六頁)、一碧湖(一二六頁参照)ガアル</p> <p>熱川温泉(一二六頁参照)。</p> <p>▲熱川口―濱橋―白濱―下田間約三三軒二、バス一時間三五分 賃一圓三五錢(一日十四回)</p> <p>▲下田町遊覽(一三五頁参照)。</p> <p>▲下田―蓮臺寺温泉間 約三軒五、バス一五錢、賃切八〇錢。</p> <p>蓮臺寺温泉(一三四頁参照)。</p> <p>クーパー指定旅館 會津館、掛塚屋、石橋。</p> <p>▲蓮臺寺温泉カラ下田―修善寺街道ノ中ノ瀬迄約半軒。</p> <p>▲中ノ瀬―湯ヶ島温泉間 約四〇軒六、バス一時間五〇分、賃一圓九〇錢、賃切八圓九〇錢。</p>
	熱海驛	着前 九・五二	下 東海バス	
	伊東町	發前 二・二五	晝 食	
	同	發後 一・二〇	下田行バス	
	熱川口	發後 二・三三		
	今井濱	發後 三・〇二		
	下田町	着後 三・五五	下車、遊覽	
	下田町	發後 五・三〇	東海バス	
	蓮臺寺温泉	着後 五・四五	宿 泊	
	蓮臺寺温泉	發前 九・四八	修善寺行乗合	
第2日	湯ヶ島	着前 二・三〇	下車、晝食	<p>湯ヶ島温泉(一三一頁参照)。</p> <p>▲湯ヶ島―修善寺驛間 約一二軒九、バス四〇分、賃六〇錢、賃切二圓八〇錢。</p> <p>「註」 蓮臺寺温泉發前八・二五ノ定期バスニヨリ修善寺温泉前一・〇〇着、晝食ノチ三津、江ノ浦ヲドライブシテ沼津驛ニ出テ歸ラル、モヨイ。</p> <p>▲修善寺驛―三島驛間 駿豆電車テ三七分(一九軒八)、五六錢</p> <p>▲三島―東京間 二時間四〇分(一二〇軒七)、三等一圓七九錢</p>
	同	發後 二・三〇	修善寺行バス	
	修善寺驛	着後 三・〇〇	下車、乗換	
	三島驛	發後 三・〇五	駿豆電車	
東京驛	着後 六・三〇	歸 宅		

旅行費用概算

内 譯 (〇〇遊覽券+乗物賃全部ニテ二等一圓六八錢三等八圓六五錢ト蓮臺寺一泊二圓五〇錢)

二等 一九・一八 圓

三等 一六・一五 圓

伊豆の諸温泉

伊豆の語源は「湯出づ」であると云はれ、従つて温泉の多いことを語つて居る。即ち天城山を中心にして四方到る處に湯が湧いて居る。西から北に亘つては湯ヶ島・吉奈・蟻峨澤・船原・土肥・修善寺等の温泉があり、東から南にかけては伊東・熱川・片瀬・谷津・峯・湯ヶ野・横川・河内・蓮臺寺・下賀茂などがあり、また九口伊豆方面には熱海・畑毛・古奈・長岡等の諸温泉がある。

熱海温泉

- ▲東海道本線熱海驛から一軒乃至二軒餘(下り坂)、バス一〇錢(列車毎)賃切五〇錢。
- ▲元箱根町から十國峠經由二二軒、駿豆鐵道自動車で一時間、定期一日一回運轉、料金乗合一圓。
- ▲海路東京灣汽船で大島から伊東經由一日一回運轉、賃一圓五〇錢、二時

伊豆の諸温泉(熱海)

間五〇分、波浮から一圓八〇錢、三時間一〇分。就航船紅梅丸(二二七噸)(十年三月一日改正)

地は伊豆半島の東北隅、海拔七七四米を有する日金山の東南麓、相模灘に面する緩かな傾斜地にあり、三面翠山を繞らし、東南方は洋々たる相模灣を控へ、海を隔て、房總の山々は水天髣髴の間にあり、海上一二軒の彼方には初島の青螺横ばり左に伊豆山、眞鶴ヶ崎、右に魚見崎を控へて伊豆大島の噴煙をも指呼の間に眺むる絶勝の地である。地は又極寒四〇度を下らず、盛夏七八度(華氏)を超えず温泉浴と、海水浴を兼ねらるゝ避暑又避寒の好適地で、年の暮から梅の花開くと云ふ所である。人口一三、一二一(昭和五、一〇調)

熱海温泉の由來は頗る古く、仁賢天皇の四年、海中に熱泉湧出して魚介の爛

伊豆の諸温泉(熱海)

死せるを發見したが、天平勝實元年に至り、萬卷上人がその湯脈を尋ねてこれを山腹に湧出せしめたと云ふ。また日本武尊東夷征伐の初、此地で入浴せられたとも傳へて居る。徳川時代には此の湯は將軍家の御用御波湯で家康や家光なども此の熱海温泉に入浴した。この湯が近年まで間歇泉として著名なものであつたが、大正一二年の關東大震災を最後として、今はその實を失つたが五〇餘湯を數ふる各泉は何れも高温で湧出量亦豊富である。

〔泉質・效能〕 大湯及蒸氣水は無色透明の鹽類泉で温度九八度乃至一〇八度、目の湯は臭氣なく強い鹹味があり温度六二度、リウマチス・胃腸病・婦人病・神經諸病等に效がある。〔特色〕 行樂向。

〔温泉旅館〕 熱海ホテル(電七三・一三四、室數和室三七、一泊八圓、洋室風呂無二人室二五、室代一〇圓、同風呂付一二、室代一二圓、特別室日本室一、室代二〇圓、同洋室一、三五圓。食料朝一圓半、晝二圓、夕二圓半、②七圓) 萬平ホテル(電四三三、洋室二九、室代四圓一八圓、和室五、三食付六圓以上、④和式六圓洋式八圓) 金城館(電二八、室九、②五圓)、一ノ湯支店(電三〇三、室、④四圓)、古屋(電一六、室三二、④四圓)、玉久(電二〇、室三四、④四圓)、露木(電九、室三〇、④四圓)、大黒屋(電七〇、室三〇、④四圓)、新角(電五〇、室三六、④四圓)、熱海園(電四二三、室九、⑤五圓)、青木館(電四〇、室三〇、④四圓)、水口園(電二〇八、室三二、④四圓)、鱗屋(電五四、室二六、④四圓)、鈴木(電三、室二〇、③三圓半)、新玉(電三二、室四五、③三圓半)、玉の井(電一五八、室三四、④四圓)、眞誠館(電七四、室二二、②二圓半)、福島屋(電一〇五、室一五、②二圓半)、小松(電二五九、室九、③三圓半)、米倉(電七七、室二二、②二圓半)、大月館(電一〇、室一五、②二圓半)、萬屋別館(電三六六、室二〇、②二圓半)、大潮館(電六、室一三、②二圓半)、稻元別館(電七六、室一七、②二圓半)、常盤館(電

七六、室一七、②二圓半)、常盤館(電

伊豆山温泉

靜岡縣田方郡熱海町伊豆山。

熱海驛の東北約一杆九、自動車乗合一〇(貸切七)圓。地は小田原街道から急勾配の道を一〇〇米程下つた波打際の懸崖を開いて、僅かばかりの平地を作つた所にある。前面には相模灣の碧波を控へ、背には連山掩ひ迫る海岸の温泉場で、熱海と同じく風光絶佳の境である。

〔泉質・效能〕 無色透明の鹽類泉で温度五二度。リウマチス・中風症・婦人病・ヒステリー・胃腸等に效がある。〔特色〕 行樂向。

〔温泉旅館〕 相模屋(電熱海三三、室四六、千人風呂あり、一泊四圓乃至七圓、④四圓)、偕樂園(電同二二七、室二七、③三圓半)、中田屋(電同三一、室二〇、③三圓)、伊豆屋(電同二二六、室一五、③三圓)、古屋(電同二五七、室一五、③三圓)、(以上普通一泊二圓乃至五圓)。

〔附近名所〕 伊豆山神社 温泉場の近く、七五〇餘級の石段を上つた伊豆山の中腹、相模灣に面せる景勝の地にある。伊豆山権現又は走湯山権現とも稱し、火車須比命外二神を祀る國幣小社で、源頼朝・徳川家康など武家尊崇の明神で、社殿は關東震災後改築された。社背の森林は古から古々井の森又は子懸の森と呼ばれ杜鵑の名所とされて居る。千早ふる伊豆の御山の玉椿八代萬代もいろはかはらじ(鎌倉右大臣)、▲般若院 伊豆山神社の正南約半杆。寺には室町時代の優秀な刀法を示す國寶伊豆山権現像を藏して居る。

伊東温泉

靜岡縣田方郡伊東町。

▲東海道本線熱海驛から二五杆二、バスで一時間一〇分、貫片道八〇錢(省線と連帶する)一日二四回運轉。貸切一疊四圓五〇錢。

伊豆の諸温泉(伊豆山・伊東)

二二四

四一八、室二四、②二圓半)、其他數十軒。

温泉の家(▲入浴料——海岸側五錢、舊河原湯側三錢、階上休憩茶菓附二五錢。▲間代——一日貸切四疊半二圓、六疊二圓半、一二疊三圓半、一八疊五圓。▲營業時間——四月から九月まで前六時一後一時、一〇月から三月迄前八時一後一時)。

〔名産〕 青取ボンズ、椿油、楠細工、雁皮紙布織、白菊はたき、湯の花。

〔附近名所〕 ▲大湯 海岸から三〇〇米、もと間歇泉なれど關東大震災後はその實を失つた。▲温泉寺 ▲梅園 町から一杆半、梅樹數千株ありて年の中に清香を放つ。▲來宮神社 ▲金色夜叉の碑、▲錦浦 伊東街道魚見崎の南凡一杆半の海岸を云ふ、奇巖怪巖に富む、熱海から遊覽船貸切一〇人乗往復五圓。▲初島 周圍約四杆、長さ一杆半、中六、七百米の小島で現在人家四二餘戸あり、家族的の極めて温雅な共産地として名高い。熱海から一〇人乗モーター船往復一〇圓、片道所要五〇分。▲日金山(一名十國峠とも云ふ、熱海から箱根の自動車で約八杆許り。所要三五分、料金片道六〇錢。自動車道から峠の頂迄約半杆、登り約一〇分位。峠は海拔七七四米、一望開闊、前には富士を眺め相模駿河の二灣を俯瞰して天下無比の壯觀である。

丹那トンネル

熱海驛の西南一杆半、熱海梅林の下、海拔六九米の地點に東口があつて、一直線に玄岳火山の大カルデラの一部である瀧地山(六一八米)の下を貫き、丹那盆地(二二一)米)の下一五〇米の地點を過ぎ三島町の東南六杆八なる函南村大竹の海拔六九米(熱海口と同高)に西口を有するもので、延長實に七八〇七米、長きに於て昭和六年九月開通の清水隧道(單線式)の九七〇二米に亞ぐる廣軌式復線隧道で、世界大隧道の第九位に列して居るものである。これに依つて舊東海道線に比して長きに於て國府津—沼津間の距離一杆六の短縮となり、線路の最高海拔四五四米から七八八五二、最急勾配千分の二五から千分の一〇に減じ、列車の運轉時間は約一時間短縮し機關車の牽引力を二倍半乃至三倍に増大せんとする大改良工事中の最大隧道である。その工事は大正七年四月東西同時に始められ、大正一五年貫通の豫定であつたが湧水夥しくまた一部崩壞、土砂噴出等の事故があつて、大いに遅延し、遂に六六名の難傷者を拂つて不斷の努力に更に一層へびへびを付けて了る。

▲伊豆鐵道修善寺驛から約二四杆六、一時間一〇分、バス片道一圓一五錢一日一四回運轉。貸切一疊五圓。

▲海路東京灣汽船で熱海から二回大島間毎日一回の船便がある。熱海から五〇分、六〇錢、元村から二時間、一圓二〇錢、紅梅丸(二二七噸)就航。

伊東は地名の示す如く伊豆半島の東、松川の河口に近く開いて居る略三角形の沖積地に位し、北・西・南の三面に箱根・天城等の支脈を負ひ、只東の一面だけが海に開いて海上一二杆の初島や、宇佐美の大崎、伊豆山、眞鶴崎の繪の様な黛影を望み、晴天の日には三浦半島の翠黛をも眺むることが出来る。冬暖く夏涼しく湧泉の豊富な事、東の別府とも云はれて居る。町は湯川・松原・政須美・新井・岡・鎌田等の大字に別れ東西六杆餘、南北七杆三、人口一六、四三三(昭和五・一〇調)を有してゐる。

温泉湧出區は政須美・松原・岡・鎌田・湯川の五區に分れ掘鑿によつて温泉が得られるので、近年別荘を建てるものも多く、現在突掘温泉は七五〇個所餘を有し、天然湧出温泉としては出來湧・太吉丸の湯・和田の湯・猪戸元湯の四つがある。湧出量最大一時間五萬立、普通二、四〇〇立。

〔泉質・效能〕 泉質は何れも相類似し、無色透明、稍硫酸水素の臭ひがあり、含有成分は伊豆山温泉に似て居るが海岸近くは多く鹽類泉、やゝ離れた所は單純泉である。温度四三度乃至四九度。胃腸病・神經痛・婦人病・外傷・リウマチス・創傷等に效がある。〔特色〕 行樂並に療養向。

〔旅館〕 暖香園(電一八、室二二、一泊③三圓半)、山藤(遊帆樓、

電二・八七、室二八、一泊(三圓半)、伊東館(電一七、室三二、一泊三圓)、刀屋(電一三〇、室一〇、三圓半)、東京館(電三三・二〇三、和室二〇、洋室一、三圓半)、大阪屋(電二・五五三、室二八、三圓半) 豊泉閣村上(電一五九、室二四、三圓)、榊屋(電七、室一六、三圓) 猪戸館(電一七・四一、和室三七、洋室二、三圓)、松林館(電四五・二七、三圓半)、松川館(電一〇七、室二九、三圓半)、大東館(電二〇七、室三三、三圓半)、辰太(電一五、室一五、三圓半)、東龍館(電一五八、室二五、三圓)、松喜(電四〇七・四三八、室二四)、白雲閣(電四、和室二七、洋室三)、大和館(電一〇八、室二二)、東海館(室一四)、河原別荘(電三〇五)、山喜(電五一八)、山海樓(電一六七) 其他。

〔名物〕 椿油、ふのり、温泉菓子類、雁皮紙織、木地細具。

此の地附近は鎌倉時代を背景とした史實に富んだ所である。即ち其昔伊東家次以来祐親まで伊東氏の領地であつたので、その遺蹟が多い。蛭ヶ小島に流住で居たが祐親は安元から治承の初年にかけて伊東郷の北、小御所と呼ぶ所に反して頼朝と親み、毎夜日暮の森で日の暮る、を待ちわび、暮れると松川を渡つて普無の森に逢ふ瀬を樂しんだと云ふ。そして八重姫は一子千鶴丸を産んだが父は甚しく怒つて武士を遣はして千鶴丸を奪つて之を殺したのである。その憤と恨があつた爲、後年頼朝志を得て鎌倉の將軍の座に上つた時祐親は壽永元年二月一五日に、三浦義澄の鎌倉の屋敷で詰腹を切らされ、敢なき最期を遂げたのであつた。

〔附近名所〕 伊東はその土地が熱海と通つて平衍で、なほ發展の餘地があるのと、温泉湧出量が豊富であるのと、海水浴も便利であるのとで、近年頗る繁榮を加へ、都人士の來り遊ぶものが多くなつた。

▲稚兒ヶ淵 松川の上流、八代田堰附近にあり、祐親が千鶴丸を沈めた所と云ふ。▲普無神社 普無の社にあり頼朝八重姫の故事に因んで尻摘祭と云ふ奇風がある。毎年一月一〇日夜、一切點燈を禁じて無言の中に行はれ、神前の神酒を頂くにも只尻を振んで合圖をして土舞を廻し、多くの参詣者も亦一

皮膚病・創傷・胃腸病等に效がある。〔特色〕 療養向。
〔旅館〕 土屋(三圓)、福島屋(三圓)、玉翠館(三圓)、何れも内湯あり、普通一泊一圓半乃至二圓半。

畑毛温泉

静岡県田方郡函南村畑毛。

▲東海道線函南駅から九軒三、バス一五分、賃三〇錢、賃切八〇錢。東京―函南二時間半(一四軒五)、三等一圓七錢。

▲熱海町から輕井澤峠經由約二〇軒餘、自動車一時間二〇分、賃切五圓。地は狩野川の流域に開けた田方平野の東方、曠漠たる田圃を控へ北方に富士の麗姿を仰いで居る。

温泉は弱鹽類で稍温く、新舊二ヶ所ある。温度三八度乃至四五度(別に上り湯を沸して居る)、内服には胃腸カタル浴用には皮膚病・花柳病・リウマチス・痔疾・ヒステリー・火傷・切傷・子宮病に效がある。

〔温泉旅館〕 榮屋(電大場二四、室二〇、三圓一五圓、賃切湯アリ) 富士見館(電同四、室二二、一泊一圓半一三圓)、中花亭(電七、室八、同上)、鈴木館(電一五、室一一、一圓半一三圓)、琴景舎高橋旅館(電二〇、室一二、同上)。

〔附近名所〕 柏谷の横穴、北條時宗の墓、鸚鵡石、國清寺、等。

▲柏谷の横穴 大場驛の東二軒二、畑毛温泉から約半軒の函南村柏谷部落の東南部にある。丘陵にある上代の墳墓址で、横穴が五、六〇あり百穴の如き状態を呈して居る。

古奈温泉

静岡県田方郡伊豆長岡町。

▲駿豆鐵道伊豆長岡駅から西八八〇米、自動車五分、乗合六錢、(長岡温泉・三津方面行定期一日三〇數回發) 賃切一七錢七〇錢。

▲沼津から駿豆鐵道會社のバスで約五〇分、賃六七錢(一日一四回)、賃切五圓。

點の灯さへ無い夜陰の中で五に行違ふ人の警部を掴るのである。その爲八方に金切聲が聞かれる。▲佛現寺 日蓮流詣の時三ヶ年の苦難を嘗めた草庵の址で、只今寺實として天狗の詫状と稱する字體不明の古文書がある。▲松月院 桃源山の中腹にあり眺望がよい。▲日暮の社 頼朝が八重姫を待つたと云ふ所▲淨の池 玫瑰美の湯の池で、温度華氏七九度の温泉が池底から湧出する内にさき、じんなら等が盛に活躍して居る。天然記念物指定となる。▲潮吹岩 伊東町の東端なる潮吹崎にある、徳利状の岩窟に海水が押しつたとき、洞内の空気が壓縮されてポンプの如く十數米の高さに海水を噴出するもので、滿潮時には壯觀を呈する。近年潮吹岩に續く松林中に東京鐵道局經營の「磯の家」が建設され、簡易に休憩及宿泊することが出来る。

川奈ゴルフ場

川奈區にあり伊東から九軒八、バス三〇分、賃片道四五錢、一日三回(日曜は五回)。大倉男の經營する東洋一と誇るもので、廣さ五千アール、一八ホール、大島コース及富士コースの二つある。

一碧湖

小室村吉田區の西南二軒の山中、伊東から八軒五の所にあり伊東からバス片道四〇錢。湖は天城火山の側火口湖で東西二つの湖水が互に連つて圓形をなし、碧潭には恰も盆石の如く五十六の連島を浮べ、碧潭一幅の南畫の如き山水美を見せて居る。湖周約四軒餘、日本百景の一に數へられてゐる。

熱川温泉

静岡県賀茂郡城東村奈良木。

▲熱海駅から伊東、川奈、八幡野經由約五二軒六、バス約二時間、賃一圓八〇錢、一日一三回(下田行) 賃切五圓。伊東から約二七軒四、バス一時間、賃一圓。

▲下田町から白濱、稻取を経て熱川口迄約三三軒二、バス一時間三〇分 賃一圓三五錢、一日一三回。

地は天城山の東南麓、稻取と八幡野の間にある山あひの湖川と云ふ小さな川の河口、波打際にある。前には相模灣の澎湃を控へ、大島の噴煙を間近に見後には天城の翠巒を頂ふた極めて閑靜な温泉場である。北西には山體が通り、相模灣を渡る海氣は冬暖く避暑地として良い所である。

〔泉質・效能〕 無色透明の鹽類性硫酸泉で、温度四九度

地は古奈山の麓、鬱蒼たる小丘を負ひ、前に田圃を控へて閑雅の地であり、長岡温泉とは小山を隔て、相對して居る。

駿豆鐵道沿線の温泉としては畑毛・古奈・長岡の三温泉であるが、最も古いのは古奈温泉である。文治元年(紀元一八四五年) 源頼朝が此の地に來て土豪石橋氏の邸(本陣)に陣し、入浴したと傳へられ、鎌倉時代には戰場往來の勇士が來浴して兵馬の疲を癒したのでその頃は大いに繁榮を極めたものであると云ふ。その後湧出量が減り、一時忘れられたものとして大正一二年頃からまた噴出し初めたので新温泉の計畫が立てられ、また千人風呂と稱する温泉プールを設けるなど急激な發展振を見せて居る。古奈に隣つて小坂路、澗之上の二温泉があり、總稱して古奈温泉と呼んで居る。

〔泉質・效能〕 無色透明の單純泉で温度五五度、創傷・濕疹・神經諸病・婦人病・腺病・皮膚病等に效があり、舊本陣にある古來の湯は特に皮膚病に效があると云はれて居る。〔特色〕 行樂並に療養。

〔温泉旅館〕 白石館(電長岡二九、七八、室二八、三圓)、舊本陣(電同二三、室二五、三圓)、井川館(電同四五、室二〇、三圓半)、東屋(電一四、三圓半)、安田屋(電同五八、室一〇、三圓)、住吉館(電同六八、室一一)、松城館(電同七二、室八)、なかや、笹屋、倉屋、山形屋、ふびす屋、米山館、みるく館、葛屋等。

(以上普通一泊一圓半一四圓)。

〔名物土産品〕 柿、椎茸、蜜柑、木工品、竹細工。

〔附近名所〕 ▲龜山城址 伊豆長岡驛の東北一軒、龜山中學校背後の丘陵がそれで、北條早雲が始めて堀越御所政知の子茶々丸を殺して擲つた處で、今尚